男女共同参画に関する市民意識調査報告書

～2022（令和4）年調査～

（公財）松山市男女共同参画推進財団・松山市

はじめに

私たちのまち松山は、「人が集い笑顔広がる幸せ実感都市まつやま」を将来都市像として、子どもからお年寄りまで、一人でも多くの人が「笑顔」になり、「幸せ」を実感できるまちづくりに取り組んでいます。その中で、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現をめざして、(公財)松山市男女共同参画推進財団は、松山市男女共同参画推進条例および男女共同参画基本計画のもと、松山市男女共同参画推進センター・コムズを拠点に様々な事業を行っています。

前回調査が行われた平成27年は、９月に国連で「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」が採択され、17 の目標の１つ、目標５に「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられ、国においても、「第５次男女共同参画推進基本計画（令和２年 12 月)」の中で、あらゆる分野において、男女共同参画、女性活躍を常に確保し施策に反映することが、ＳＤＧｓの実現に不可欠であるとし、ジェンダー平等及びジェンダー主流化の取り組みを進めるとしています。

このような中、固定的性別役割分担意識や男女の平等感について、松山市民の方々の意識はどのように変わってきたのでしょうか。また、市民の意識の変化に伴い、実際の行動面にも何か変化は表れているのでしょうか。

そこで、当財団では、令和４年２月に、松山市民 3,000 人を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を松山市とともに行いました。今回の調査では、男性の育児休業取得の促進や、性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）など新たな設問を設け、調査結果を総合的に分析、検討し、このたび報告書を発行する運びとなりました。

松山市においては、この結果を第４次松山市男女共同参画基本計画策定の参考資料とし、当財団においては、ジェンダー平等やダイバーシティ（多様性）の課題を踏まえ、今後の事業の方向性を検討していくこととしています。

本報告書が、関係者に幅広く活用され、男女共同参画社会の推進のために有効活用されますことを願っております。

本調査に回答を寄せてくださった市民の皆様、質問項目から報告書まで支援くださった委員の皆様に心からお礼申し上げます。

令和５年３月

(公財)松山市男女共同参画推進財団

目　　次

第１部　調査の概要

１　調査の背景・目的 …… 1
２　調査の設計 …… 3
３　調査票の回収結果 …… 3
４　検討・分析委員 …… 4
５　執筆者 …… 4

第２部　調査の結果と分析・考察

第１章　男女共同参画に関わる意識と実態

１　男女共同参画に関わる意識 …… 5
(1) 固定的な性別役割分担意識に関わる考え方 …… 5
1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい」という考え方について …… 5
2) 「地域のリーダーは男性の方が向いている」という考え方について …… 9
(2) ワーク・ライフ・バランスに配慮した考え方
「仕事を持っている場合、仕事を家庭生活よりも最優先した方がよい」という考え方について …… 11
(3) 選択的夫婦別姓に関わる考え方
「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」という考え方について …… 15
(4) 男女共同参画の進捗状況に対する評価
「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について …… 18
２　男女の平等感について …… 21
３　性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）等の経験 …… 27
４　性差による制約等の経験 …… 29
５　言葉の認知度 …… 35
６　小括 …… 41
(1) 結果の要約 …… 41
(2) 考察 …… 43

第２章　女性の継続就業・方針決定過程への女性の参画拡大

１　昇進について …… 45
(1) 勤務形態について …… 45
(2) 昇進への意欲について …… 46
(3) 昇進の条件 …… 48
(4) 昇進したくない理由 …… 51
２　女性の管理職が増えることについて …… 57
(1) 女性の管理職が増えることの必要性 …… 57
(2) 女性の管理職が増えるために必要なこと …… 58
３　小括 …… 61
(1) 結果の要約 …… 61
(2) 考察 …… 61

第３章　ワーク・ライフ・バランス

１　生活時間 …… 62
(1) 行動の種類別の生活時間の様子 …… 62
(2) 一日当たりの平均的な時間の使い方 …… 66
(3) 前回（平成 27 年）調査結果との比較 …… 69
(4) 性別間の行動時間の差 …… 70
２　一日の時間バランス …… 72
(1) 全体の状況・前回との比較 …… 72
(2) 職業別、婚姻状態別 …… 74
３　地域活動 …… 76
(1) 全体の状況・前々回（平成 19 年）との比較 …… 76
(2) 地域とつながる要因 …… 77
(3) 参加している地域活動 …… 78
４　職場、行政、家庭での取り組み …… 80
５　育児休業の取得 …… 84
６　小括 …… 87
(1) 結果の要約 …… 87
(2) 考察 …… 89

第４章　人権・それを侵害する暴力

１　ハラスメントについて …… 90
(1) セクシュアル・ハラスメント …… 90
(2) マタニティ・ハラスメント …… 93
(3) ストーカー行為 …… 95
２　配偶者・交際相手に対する暴力について …… 97
(1) 回答者の属性 …… 97
(2) ＤＶを受けた体験 …… 98
(3) ＤＶの被害内容 …… 99
(4) 被害に関する相談 …… 100
(5) 相談しなかった理由 …… 101
３　小括 …… 102
(1) 結果の要約 …… 102
(2) 考察 …… 102

第５章　新型コロナウイルス感染症がもたらした影響

１　生活の変容 …… 103
(1) 家庭での過ごし方 …… 104
(2) 就業時間・収入・支出 …… 106
(3) 人との関わり …… 109
２　不安・悩み …… 112

第６章　松山市男女共同参画推進センター・コムズについて

１　認知度と利用度 …… 115
２　受講したい講座について …… 116
３　地域活動への参画推進に向けて …… 121
４　相談事業について …… 123

第３部　資料

１　回答者について
(1) 回答者の性別 …… 125
(2) 回答者の年代 …… 125
(3) 回答者の世帯 …… 126
(4) 結婚・交際の経験について …… 128
(5) 子どもの有無 …… 129
２　本調査の質問及び集計結果 …… 131
３　参考資料（自由記述から抜粋） …… 156
４　参考文献 …… 159

第１部

調査の概要

１　調査の背景・目的

本調査は、松山市が平成３年から継続的に行ってきた男女共同参画に関する市民意識調査の６回目にあたるものである。前回実施の平成 27 年 11 月から７年を経ている。

平成 27 年は、８月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（「女性活躍推進法」）が可決・成立、また 12 月に国の「第４次男女共同参画基本計画」が閣議決定された年であった。我が国で「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律」（「男女雇用機会均等法」）が公布されてから 30 年が経過していた。その後同法は数度の大改正がなされ、また育児・介護休業制度の導入、ＤＶ防止救済施策、男女共同参画に関する意識啓発など、女性の就労や人権の尊重、社会参画を支援・促進する取り組みが進められてきたのだが、しかしその一方で、固定的な性別役割分業やそれを前提とした雇用施策、雇用慣行は根強くあり、男女共同参画社会の実質的な実現にはまだ遠い状況にあった。

その後今日までの期間は、我が国において、上述した「女性活躍推進法」の定めにより事業主に義務づけられた課題分析・行動計画策定・情報公表のプロセスのもと、女性が活躍できる就業環境の実現に向けた基盤整備が推進されてきた期間ということができる。急速に進む少子高齢社会化も背景として平成 30 年に施行された「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」（「働き方改革関連法」）による諸施策も合わせて、男性を主たる労働者として設計された従来型の雇用・就業環境から、「女性をはじめとする多様な労働者が活躍できる」社会に変革することを課題として取り組んできたのである。仕事と家庭の両立支援策としては、「育児・介護休業法」も改正を重ね、特に低迷が続いていた男性の育児休業取得率については「2025 年までに 30％」を政府目標（令和２年閣議決定）に設定した上でその達成に向けた施策が講じられてきた。また政治分野では、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（「候補者男女均等法」）が平成 30 年に公布・施行されている。

この間の社会の変容を見ると、女性の就業率・就業者数とも大幅に増加し、管理的職業従事者に占める女性の割合も上昇傾向にある。しかしそれでも、令和３（2021）年のジェンダーギャップ指数において日本の順位が 156 カ国中 120 位、分野別の順位では「政治」分野が 147 位、「経済」分野も 117 位であるように、我が国が長年課題としてきた性別による格差・不均等はまだ大幅に改善するには至っていない。男性の育児休業の取得も、令和３年の取得率が 13.97%と近年急速な広がりを見せているものの、政府が目標として掲げた水準にはまだ遠く、取得日数や回数なども限られたものが多い実状にある。

今回行った調査では、こうした状況を背景として、令和４年２月現在の松山市民の男女

共同参画に関する意識と実態を検証・分析し、全国の動向との比較も踏まえて、何がどのように変わり、変わらなかったか、その現状と課題をさぐった。過去の調査結果と比較できるよう、共通の質問項目をできるだけ多く用いているが、「候補者男女均等法」「ＳＤＧｓ」「性的マイノリティ」「育児休業」など今日の政策・施策の焦点となっている項目・用語などについて新たに質問を加えている。また、「変わらない」理由、すなわち変革を妨げている要因を探るために、「昇進したいと思わない」、「育児休業を取りたいと思わない」、「誰にも相談しなかった」などの回答については、その理由についても尋ね、考察を行った。自由記述についてはテキストマイニングを取り入れ、意見を定量化・可視化して傾向や特徴をつかみ、数値的な要約だけでは見えにくい意見の散らばり、少数だが多様な視点を捉えることを試みている。

今回のアンケート調査は、ちょうど「新型コロナウイルス感染症」が人々の生活や行動様式に大きな影響を及ぼしていたさなかに行われた。「第５次男女共同参画基本計画（令和２年 12 月）」でも言及されたように、コロナ禍がもたらす影響も性別によって異なり、それは社会の現状と深く関連している。そのような視点に立ち、今回の調査では、コロナ禍による生活の変化や不安に関する質問項目を加え、本報告書でも一章を充てた。

前回調査時との比較の上で見落とすことができないのは、現在、全ての人がその違いを超えて平等に尊重され、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きることのできる「多様性」尊重社会への潮流が明確に起きていることである。性別や家族についての考え方や価値観も急速に変容し、多様化が進んでいる。今回の調査ではそうした変容を背景として、性別や家族等に関するフェイス項目の改訂、質問項目の追加などを行っている。ただし今回の調査結果を分析・考察する上では、男女という性別カテゴリーを用いて、認識、意見、行動等の傾向を比較・考察した。性別は男女の二分ではないことが前提ではあるが、われわれの社会の仕組みや生活、文化などには従来も現在も男／女の二分法が深く組み込まれており、特に男性を中心として設計されてきた制度や慣行は、引き続き問題であり続けているからである。

一方、自由回答として得られたさまざまな記述の中には、多様化が進む社会の中で人々が抱く様々な思いや直面する課題が垣間見えるところがあり、アンケートの内容や質問文についての意見も戴いた。男女共同参画社会推進をテーマとする本調査も、こうした多様化の潮流を視野に入れながら、項目構成や質問方法などについて引き続きの工夫が求められよう。今回の調査が、市民生活の現状や課題を把握する手がかりとなり、また今後のさらなる調査や施策の立案・推進に資するものとなれば幸いである。

２　調査の設計

(1)　母集団　　松山市在住の 20 歳から 79 歳までの男女

(2)　標本数　　3,000 人（男女各 1,500 人）

(3)　抽出法　　住民基本台帳より無作為抽出法によって抽出

(4)　実施時期　　令和４年２月

(5)　調査方法　　郵送による質問票の送付、回収

(6)　調査項目
- さまざまな考え方について
- 言葉の認知度
- 地域活動について
- 時間の使い方について
- 新型コロナウイルスと生活について
- 昇進について
- ハラスメントについて
- 配偶者・交際相手に対する暴力について
- あらゆる分野における男女の平等感について
- 子育てと仕事の両立について
- 困りごとや悩みについて
- 「松山市男女共同参画推進センター・コムズ」について
- 回答者について

３　調査票の回収結果

(1)　調査標本数　　3,000 人（男女各 1,500 人）

(2)　有効標本回収数　　1,353 人
（女性 734 人、男性 565 人、答えたくない 20 人、性別不明 34 人）

(3)　有効回収率　　45.1％
（女性 54.2％、男性 41.8％、答えたくない 1.5％、性別不明 2.5％）

４　検討・分析委員

委員長	善本　裕子	松山東雲女子大学 人文科学部 心理こども学科　教授
委　員	甲斐　朋香	松山大学 法学部 法学科　准教授
	藤田　昌子	愛媛大学 教育学部　教授
	吉武　理大	松山大学 人文学部　准教授
	井藤　留美	(公財)松山市男女共同参画推進財団　副理事長

５　執 筆 者

委員長	善本　裕子	第３章　ワーク・ライフ・バランス
		第５章　新型コロナウイルス感染症がもたらした影響
委　員	甲斐　朋香	第２章　女性の継続就業・方針決定過程への女性の参画拡大
		第４章　人権・それを侵害する暴力
委　員	藤田　昌子	第１章　男女共同参画に関する意識と実態

第２部

調査の結果と分析・考察

第１章　男女共同参画に関わる意識と実態

１　男女共同参画に関わる意識

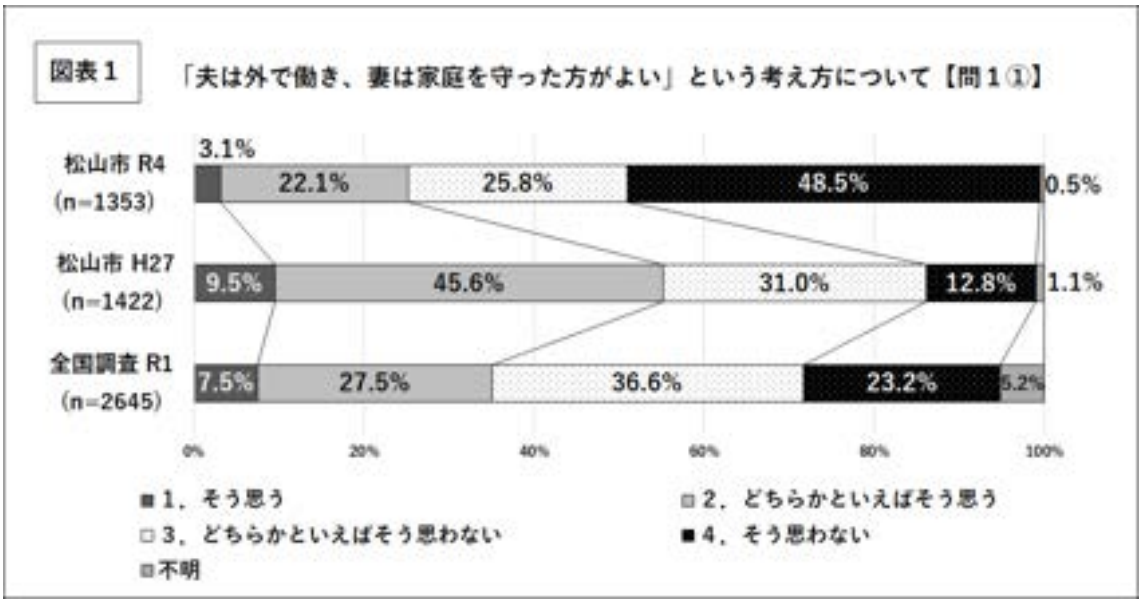
(1) 固定的な性別役割分担意識に関わる考え方

1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい」という考え方について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、『そう思う』とする人の割合が 25.2%（「そう思う」3.1%＋「どちらかといえばそう思う」22.1%)、『そう思わない』とする人の割合が 74.3%（「どちらかといえばそう思わない」25.8%＋「そう思わない」48.5%）であり、家庭における固定的な性別役割分担意識に肯定的な人より、否定的な人の方が多い（図表１）。

前回（平成 27 年）の調査結果と比較すると、選択肢が異なるので単純には比較できないが（以下、同じ)、『そう思う』とする人の割合が、55.1%から 25.2%へと約 30 ポイント減少している。家庭における固定的な性別役割分担意識が薄れ、男女共同参画意識が高くなってきていることがうかがえる。

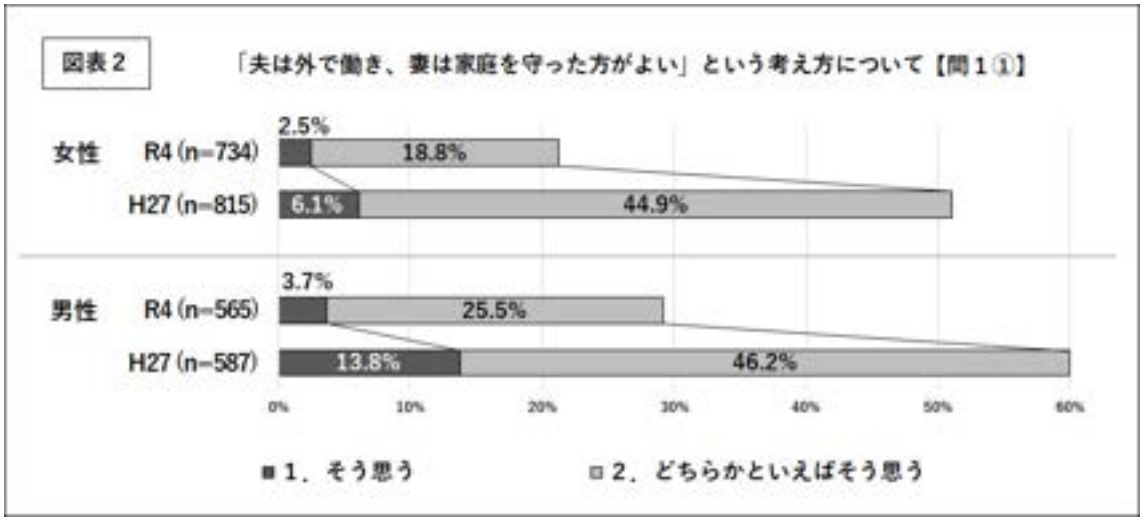
また、内閣府の全国調査と比較してみると、調査年や選択肢が異なるので単純には比較できないが（以下、同じ)、『そう思う』とする人の割合が、全国調査では 35.0%に対し、松山市では 25.2%と全国調査より約 10 ポイント低く、松山市の方が男女共同参画意識が高い傾向にあることがわかる。



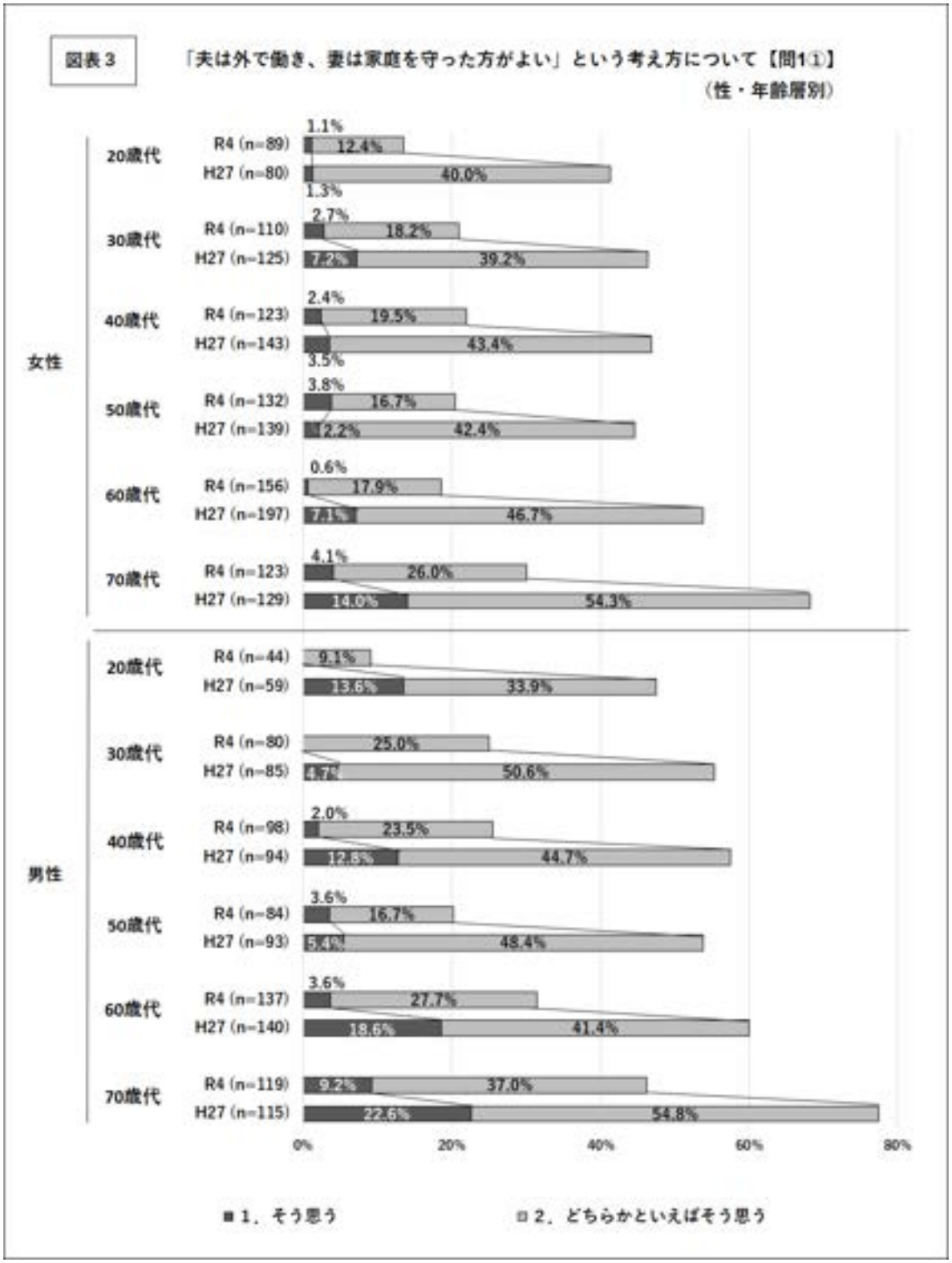
平成 27 年男女共同参画に関する市民意識調査（松山市）における設問
「あなたは、次にあげる考え方についてどう思いますか。『夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい』」に対する回答（n=1422）
（選択肢　1. 賛成　2. どちらかといえば賛成　3. どちらかといえば反対　4. 反対　を、上記グラフでは
それぞれ1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わないとして掲載）

全国調査 R1：令和元年度男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）
「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、あなたはどうお考えですか」に対する回答（n=2645）
（選択肢　1. 賛成　2. どちらかといえば賛成　3. どちらかといえば反対　4. 反対　　不明　を、上記グラフではそれぞれ
1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　　わからない　として掲載）

男女別に前回の調査結果と比較すると、固定的な性別役割分担意識について『そう思う』と肯定する人の割合が、女性も男性も約 30 ポイント減少しており、男女ともに家庭における固定的な性別役割分担意識が薄れていることがうかがえる（図表２）。

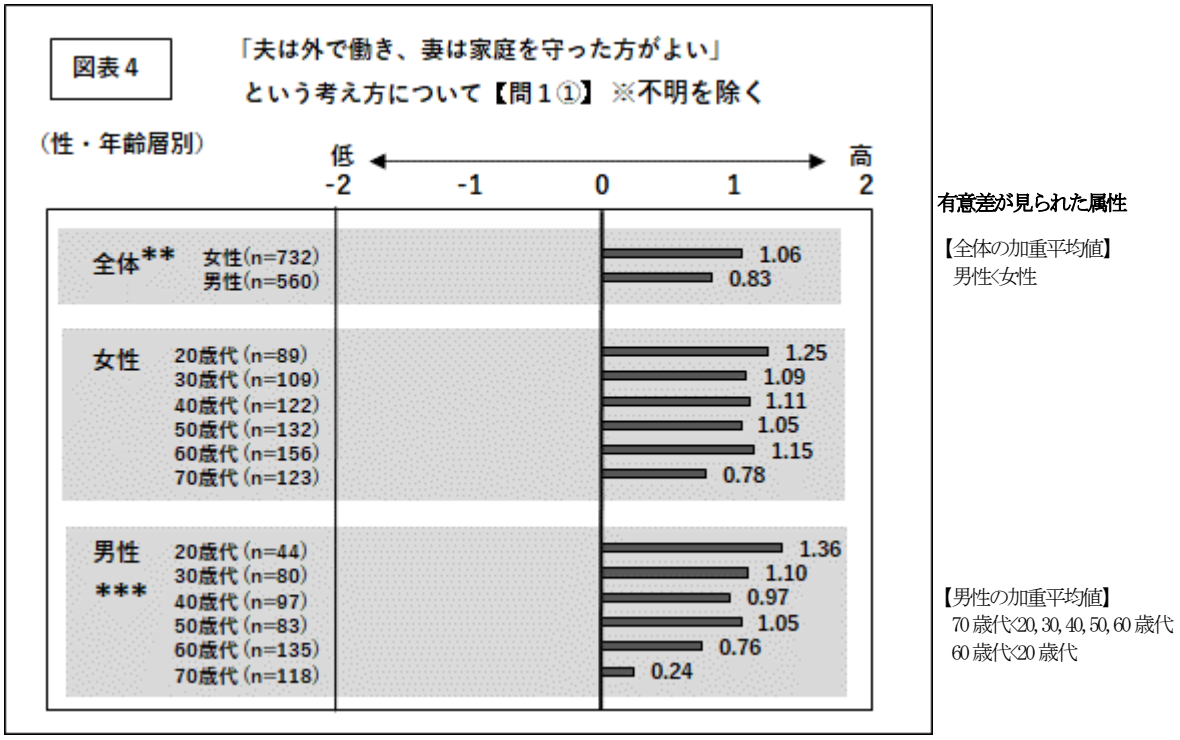


年齢層別に前回の調査結果と比較すると、家庭内における固定的な性別役割分担意識について『そう思う』と肯定する人の割合が、男女ともにどの年齢層においても低下している。特に、女性は 60 歳代、70 歳代、男性は 20 歳代～50 歳代、70 歳代の減少幅が大きく（30 ポイント以上）、意識が変化している様子がうかがえる（図表３）。



加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女別では家庭における固定的な性別役割分担意識に対して、女性の方が男性より、有意に平均値が高くなっている。このことから、女性の方が家庭における固定的な性別役割分担意識に否定的で、男女共同参画意識が有意に高いといえる（図表４）。

性・年齢層別では、女性は年齢層による有意差はないが、男性には有意差が見られる。男性 60・70 歳代では固定的な性別役割分担意識に肯定的な意向が他の年齢層と比べて高く、男女共同参画意識が有意に低い世代であるといえる。



- 平均値の比較については、２群の比較ではｔ検定、３群以上の比較では一元配置分散分析を実施
- 統計的な有意差が見られた箇所にはアスタリスクを表記（***0.1％水準、**１％水準、＊５％水準）
- 統計的に有意差が見られた属性の表記

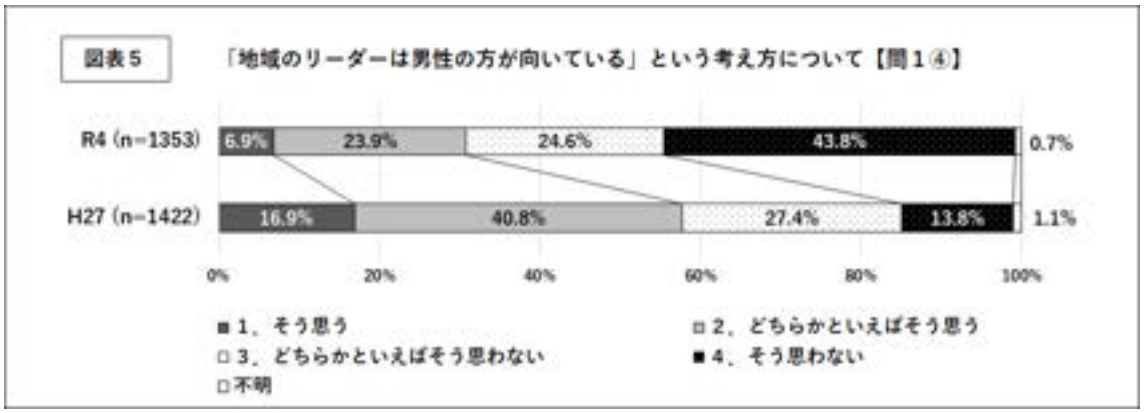
（例）図表４の場合
全体では、女性の方が男性より男女共同参画意識が高い
男性は、
20 歳代の方が 70 歳代よりも男女共同参画意識が高い、30 歳代の方が 70 歳代よりも男女共同参画意識が高い、
40 歳代の方が 70 歳代よりも男女共同参画意識が高い、50 歳代の方が 70 歳代よりも男女共同参画意識が高い、
60 歳代の方が 70 歳代よりも男女共同参画意識が高い、20 歳代の方が 60 歳代よりも男女共同参画意識が高い
ことを意味しています。

※ 加重平均値とは、本項目では「そう思う」に－２点、「どちらかといえばそう思う」に－１点、「どちらかといえばそう思わない」に＋１点、「そう思わない」に＋２点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、－２点に近いほど男女共同参画意識が低く、＋２点に近いほど男女共同参画意識が高いことを示す指標である。例えば、図表４の女性(732 人)の回答は「そう思う」18 人、「どちらかといえばそう思う」138 人、「どちらかといえばそう思わない」199 人、「そう思わない」377 人であった（p.131 参照）。加重平均値は、－２×18(人)－１×138(人)＋１×199(人)＋２×377(人)＝799　799÷732(人)＝1.06（小数点第３位を四捨五入）のように計算して、算出している。

2）「地域のリーダーは男性の方が向いている」という考え方について

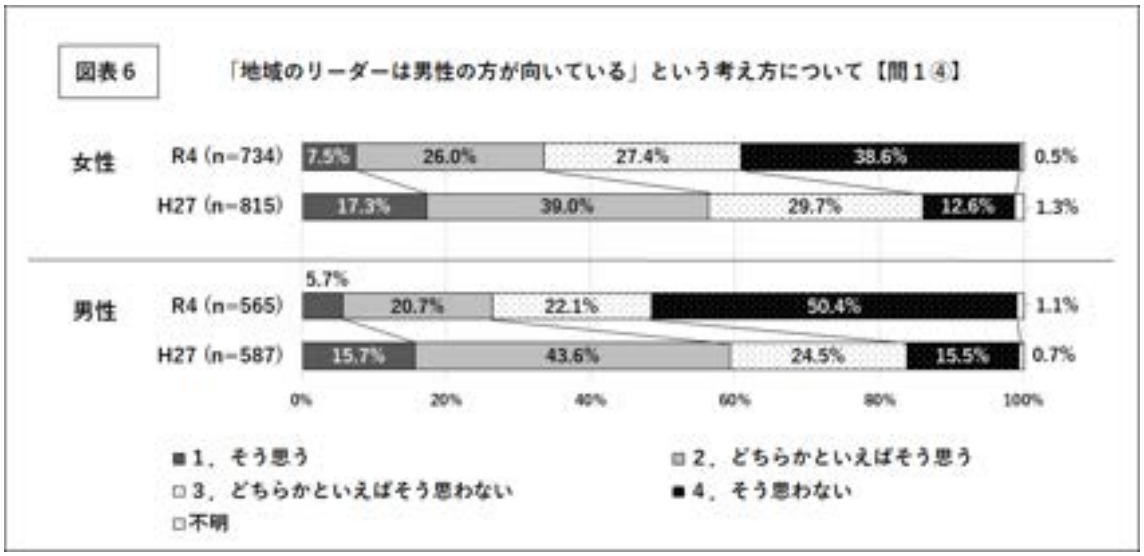
「地域のリーダーは男性の方が向いている」という考え方について、どう思うか聞いたところ、『そう思う』とする人の割合が 30.8%（「そう思う」6.9%＋「どちらかといえばそう思う」23.9%）、『そう思わない』とする人の割合が 68.4%（「どちらかといえばそう思わない」24.6%＋「そう思わない」43.8%）であり、地域における固定的な性別役割分担意識に肯定的な人より、否定的な人の方が多い（図表５）。

前回の調査結果と比較すると、『そう思う』とする人の割合が57.7%から30.8%へと約27ポイント減少している。地域における固定的な性別役割分担意識が薄れ、男女共同参画意識が高くなってきていることがうかがえる。

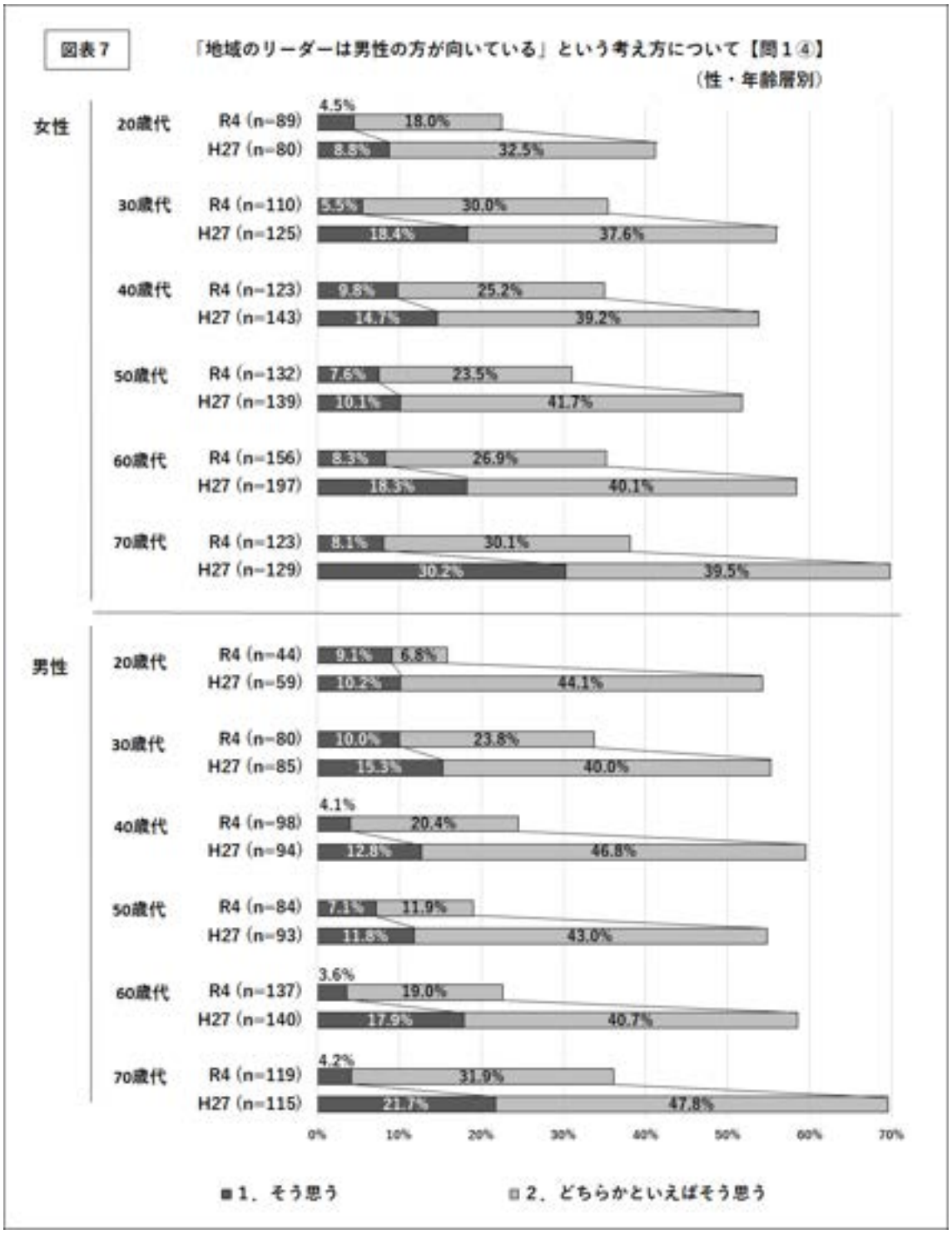


平成 27 年男女共同参画に関する市民意識調査（松山市）における設問
「あなたは次にあげる考え方についてどう思いますか。『地域のリーダーは、男性の方が向いている』」に対する回答(n=1422)
（選択肢　1.賛成　2.どちらかといえば賛成　3.どちらかといえば反対　4.反対　を、上記グラフでは
それぞれ1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　として掲載）

男女別に前回の調査結果と比較すると、地域おける固定的な性別役割分担意識について『そう思う』と肯定する人の割合が、女性は約 23 ポイント、男性は約 33 ポイント減少しており、男女ともに地域における固定的な性別役割分担意識が薄れていることがうかがえる（図表６）。

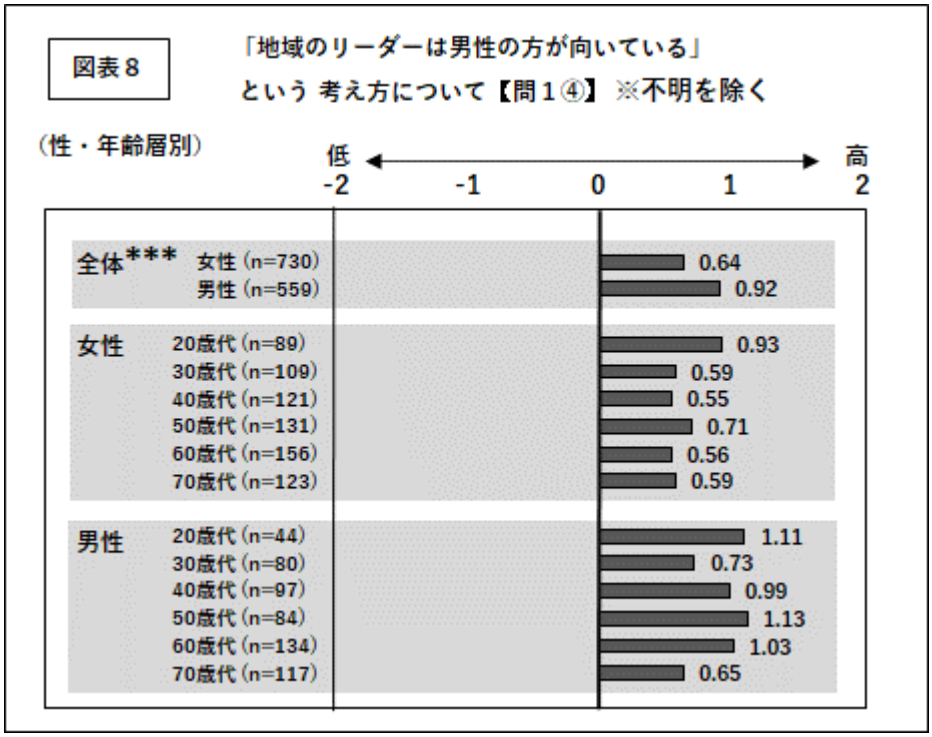


年齢層別に前回の調査結果と比較すると、地域における固定的な性別役割分担意識について『そう思う』と肯定する人の割合が、どの年齢層においても減少している。女性は 70 歳代、男性は 20 歳代、40 歳代～70 歳代の減少幅が特に大きく、地域における固定的な性別役割分担意識が薄れていることがうかがえる（図表７）。



加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女別では、地域における固定的な性別役割分担意識に対して、男性の方が女性より、有意に平均値が高くなっている。このことから、男性の方が地域における固定的な性別役割分担意識に否定的で、男女共同参画意識が有意に高いといえる（図表８）。

性・年齢層別では、男女ともに年齢層による有意差は見られず、地域における男女共同参画意識には差はないといえる。



有意差が見られた属性

【全体の加重平均値】
女性<男性

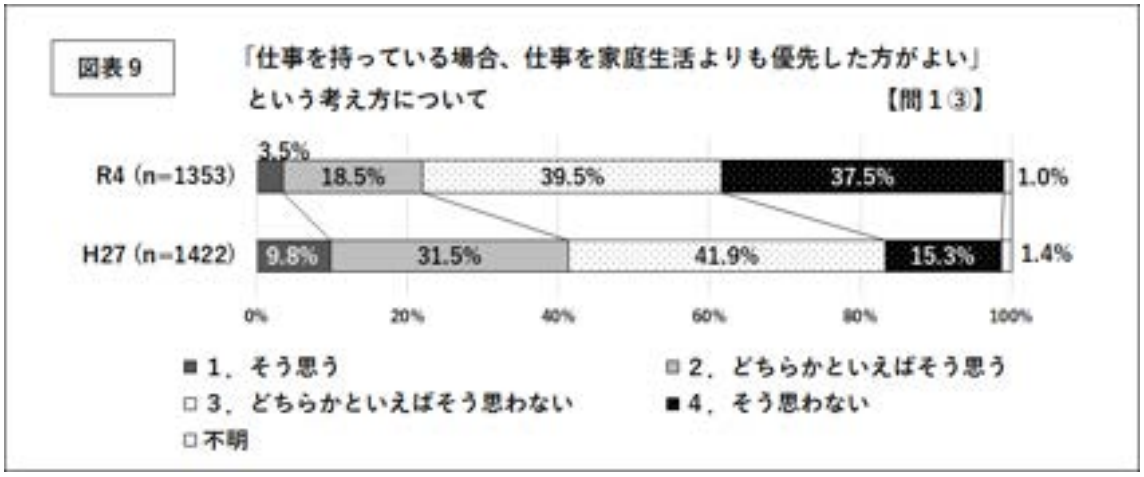
(2) ワーク・ライフ・バランスに配慮した考え方

「仕事を持っている場合、仕事を家庭生活よりも最優先した方がよい」という考え方について

「仕事を持っている場合、仕事を家庭生活よりも最優先した方がよい」という考え方について、どう思うか聞いたところ、『そう思う』とする人の割合が 22.0%（「そう思う」3.5%＋「どちらかといえばそう思う」18.5%）、『そう思わない』とする人の割合が 77.0%（「どちらかといえばそう思わない」39.5%＋「そう思わない」37.5%）であり、仕事を家庭生活よりも優先するという考え方は肯定的な人より、否定的な人の方が多い（図表９）。

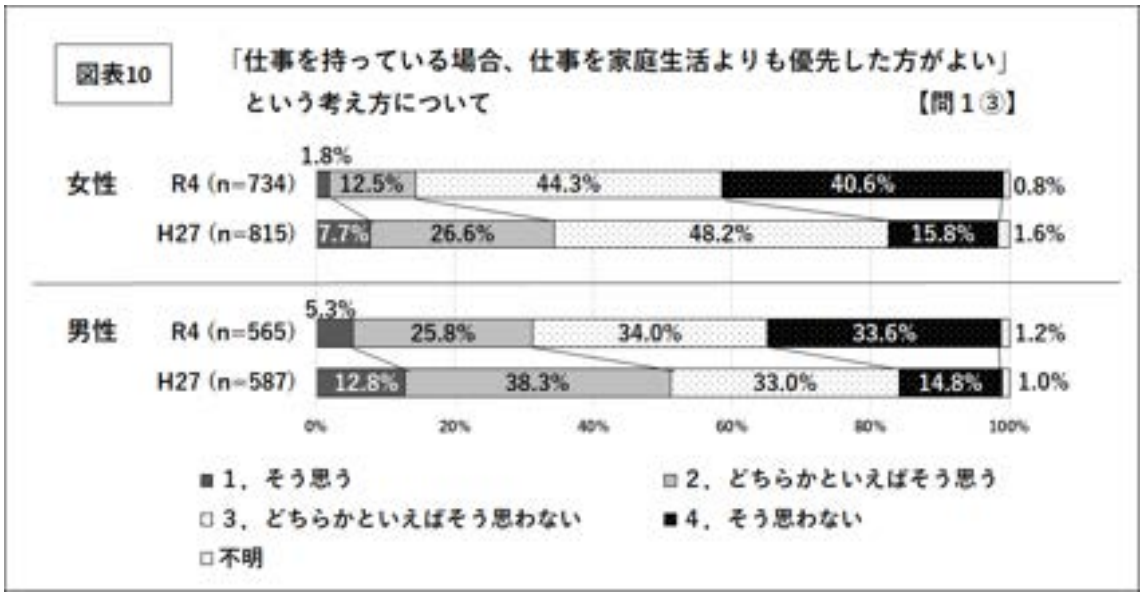
前回の調査結果と比較すると、『そう思う』とする人の割合が 41.3%から 22.0%へと約 20 ポイント減少している。仕事を家庭生活よりも優先するという仕事中心の生活の考え方が薄れ、ワーク・ライフ・バランスに配慮した生活への変化が見られ、男女共同参画意識が高くなってきていることがうかがえる。

※ 加重平均値については、p.8 を参照。

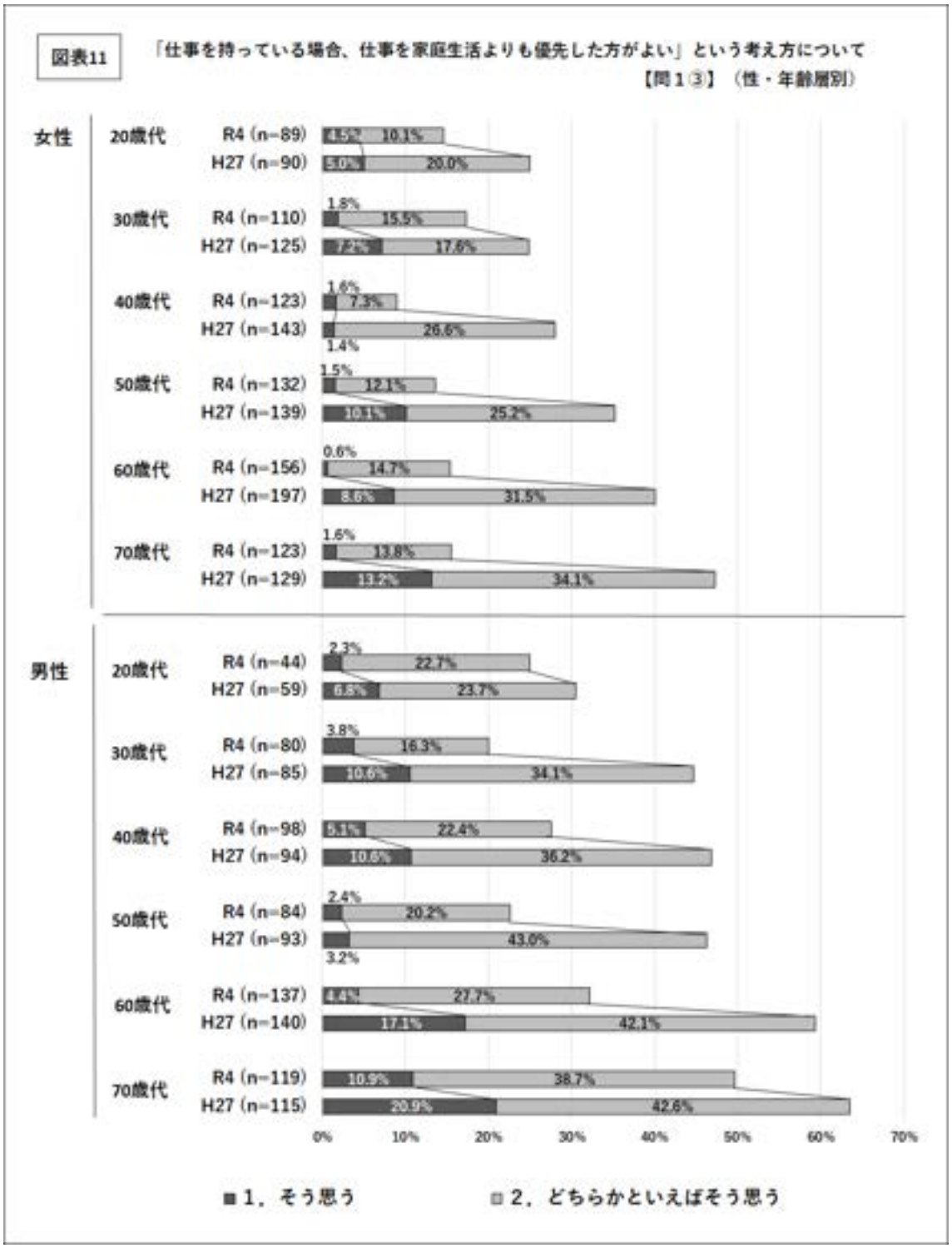


平成 27 年男女共同参画に関する市民意識調査（松山市）における設問
「あなたは次にあげる考え方についてどう思いますか。『仕事を持っている場合、仕事を家庭生活や地域活動よりも最優先した方がよい』」に対する回答(n=1422)
（選択肢　1.賛成　2.どちらかといえば賛成　3.どちらかといえば反対　4.反対　を、上記グラフでは
それぞれ1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　として掲載）

男女別に前回の調査結果と比較すると、仕事を家庭生活よりも優先するという考え方は『そう思う』と肯定する人の割合が、女性も男性も約 20 ポイント減少しており、仕事を家庭生活よりも優先するという考え方が薄れている傾向にある。男女ともに仕事中心の生活から、ワーク・ライフ・バランスに配慮した生活へ考え方が変化している様子がうかがえる（図表 10）。

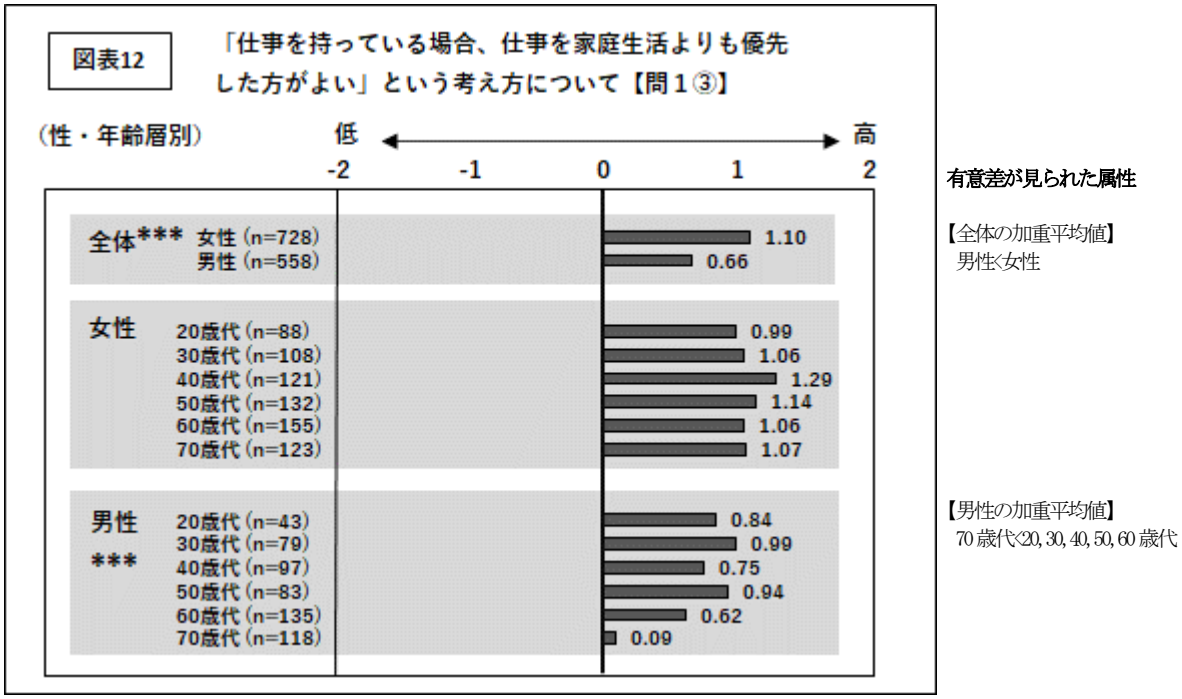


年齢層別に前回の調査結果と比較すると、仕事を家庭生活よりも優先するという考え方は『そう思う』と肯定する人の割合が、どの年齢層においても低下している。女性は 70 歳代の減少幅が特に大きく、仕事中心の生活を肯定する意識が薄れていることがうかがえる（図表 11）。



加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女別では、男性の方が女性より、有意に平均値が低くなっている。このことから、男性の方が仕事を家庭生活よりも優先した方がよいと考えており、ワーク・ライフ・バランスに配慮した生活の視点からは、男性の方が女性より男女共同参画意識が有意に低いといえる。

性・年齢層別では、女性は年齢層による有意差はないが、男性には有意差が見られる。男性 70 歳代では仕事中心の生活の意向が他の年齢層と比べて高く、男女共同参画意識が有意に低い世代であるといえる（図表 12）。



※ 加重平均値については、p. 8 を参照。

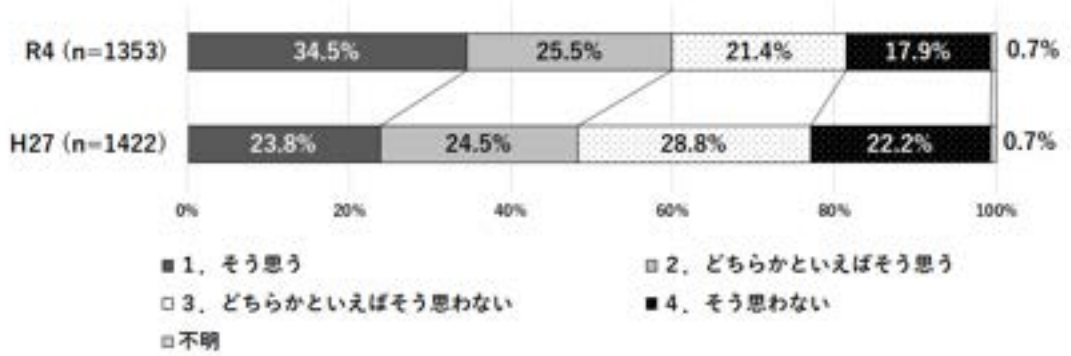
(3) 選択的夫婦別姓に関わる考え方

「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」という考え方について

「希望する夫婦は別々の姓を名乗っても構わない」という考え方について、どう思うか聞いたところ、『そう思う』とする人の割合が 60.0%（「そう思う」34.5%＋「どちらかといえばそう思う」25.5%）、『そう思わない』とする人の割合が 39.3%（「どちらかといえばそう思わない」21.4%＋「そう思わない」17.9%）であり、選択的夫婦別姓に対して否定的な人より肯定的な人の方が多い（図表 13）。

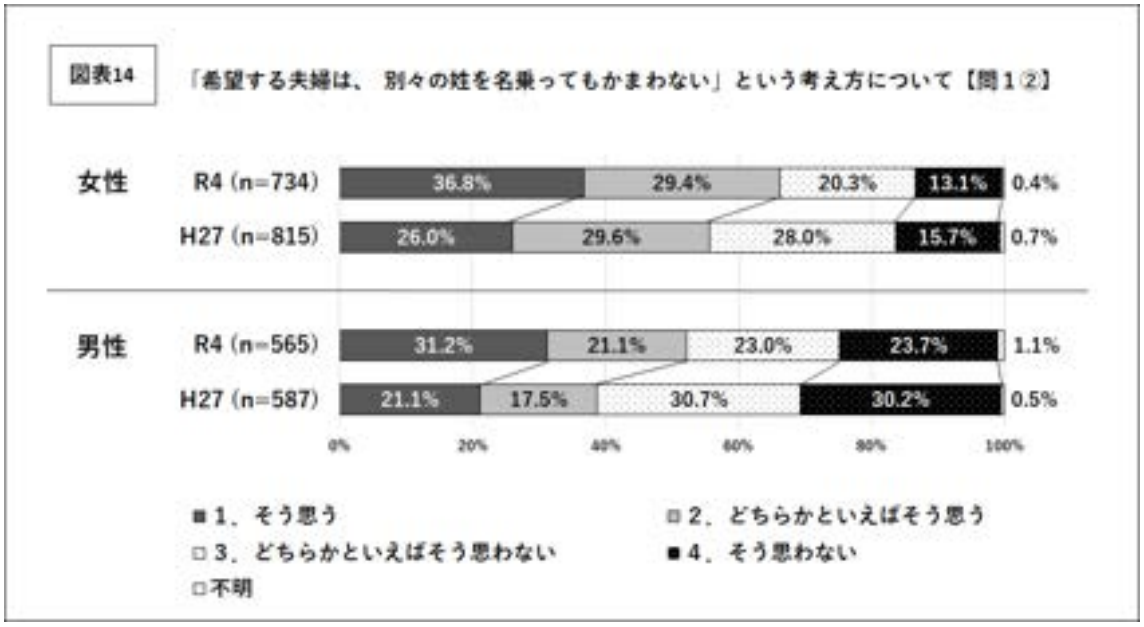
前回調査では、選択的夫婦別姓に『反対』（「反対」+「どちらかといえば反対」）が 51.0%と半数を超えており、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）を上回っていた。前回の調査結果と比較すると、今回調査では、『そう思う』の肯定的な人の割合が 48.3%から 60.0%と約 12 ポイント増え、選択的夫婦別姓への肯定的意見が増え、男女共同参画意識が少しずつ高まっている様子がうかがえる（図表 13）。

図表13　「希望する夫婦は、別々の姓を名乗ってもかまわない」という考え方について【問1②】

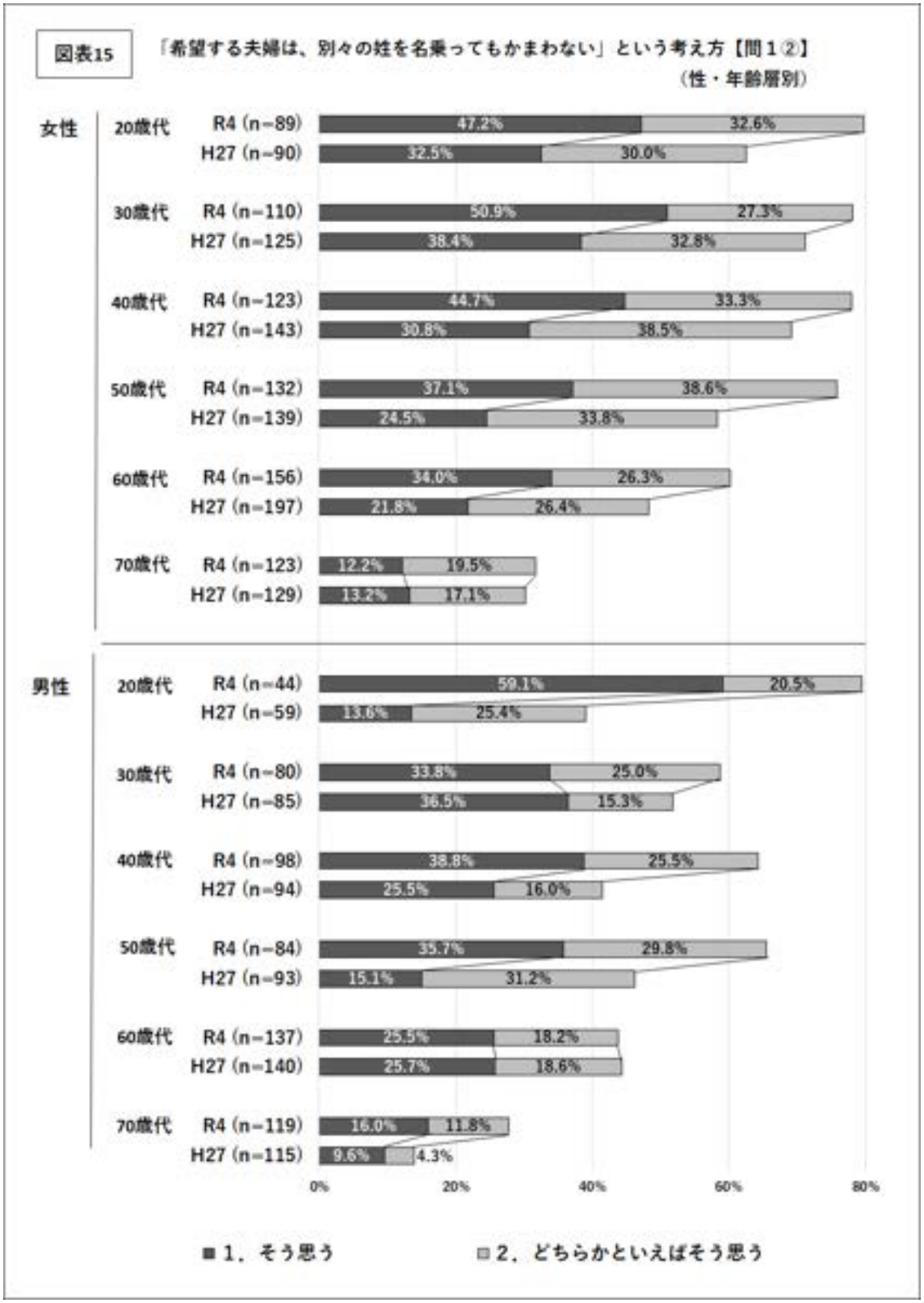


平成 27 年男女共同参画に関する市民意識調査（松山市）における設問
「あなたは次にあげる考え方についてどう思いますか。『希望する夫婦は、別々の姓を名乗ってもかまわない』」に対する回答(n=1422)
（選択肢　1.賛成　2.どちらかといえば賛成　3.どちらかといえば反対　4.反対　を、上記グラフでは
それぞれ1. そう思う　2. どちらかといえばそう思う　3. どちらかといえばそう思わない　4. そう思わない　として掲載）

男女別に前回の調査結果と比較すると、選択的夫婦別姓について『そう思う』と肯定する人の割合が、男女ともに約 10 ポイント増加しており、選択的夫婦別姓への肯定感が少しずつ高まっているようである（図表 14)。

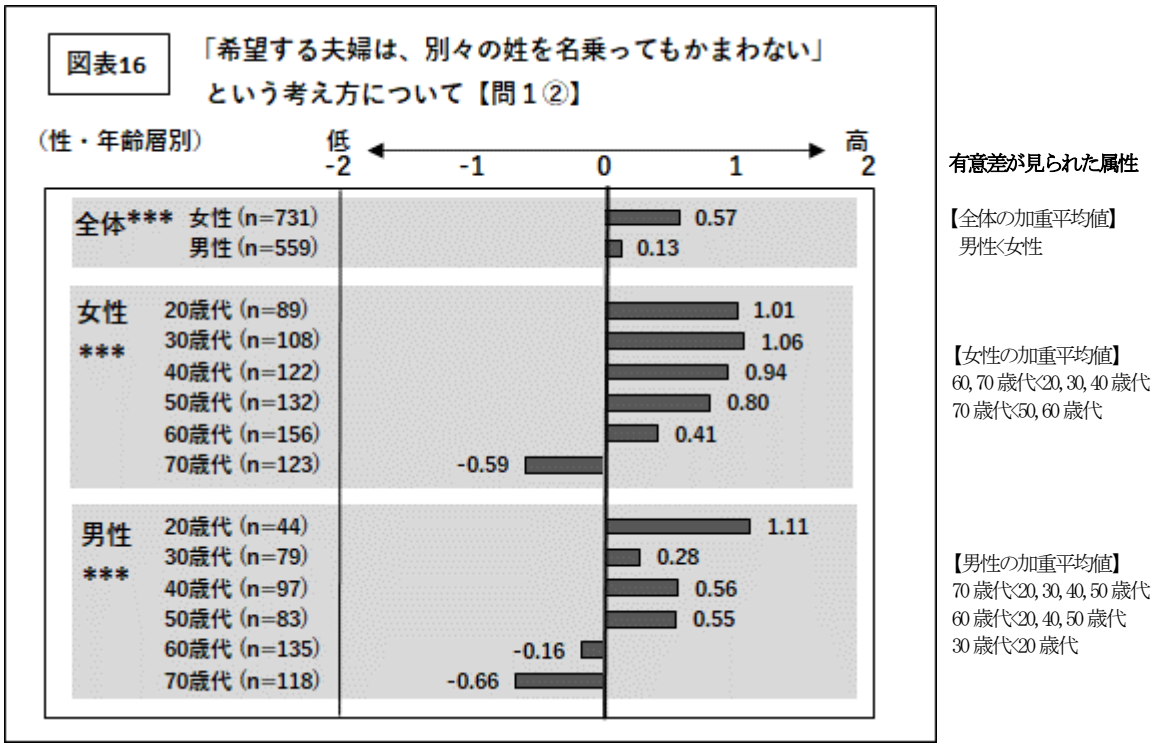


年齢層別に前回の調査結果と比較すると、選択的夫婦別姓について『そう思う』と肯定する人の割合が、男性 60 歳代を除き、いずれの年齢層においても上昇している。特に、男性は 20 歳代の増加幅が大きく、選択的夫婦別姓に理解を示している様子がうかがえる（図表 15)。



加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女別では、選択的夫婦別姓に対して、女性の方が男性のより、有意に平均値が高くなっている。このことから、女性の方が選択的夫婦別姓制度に肯定的で、男女共同参画意識が有意に高いといえる（図表 16）。

性・年齢層別では、男女ともに有意差が見られる。男女ともに 60・70 歳代で選択的夫婦別姓に否定的であり、男女共同参画意識が低いといえる。

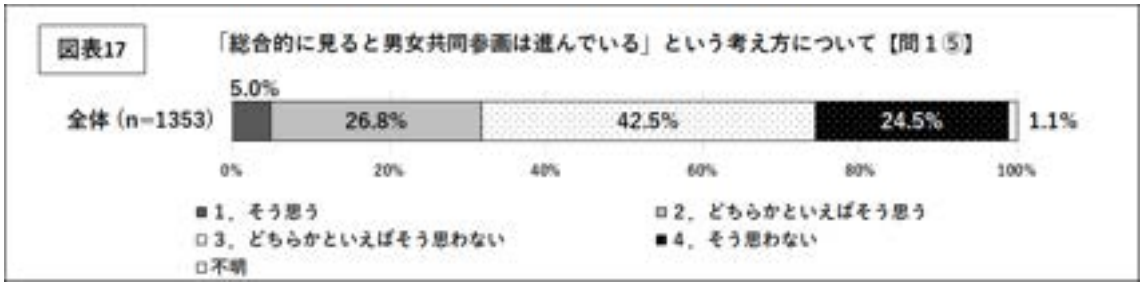


(4) 男女共同参画の進捗状況に対する評価

「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について

「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について、どう思うか聞いたところ、『そう思う』とする人の割合が 31.8%（「そう思う」5.0%＋「どちらかといえばそう思う」26.8%）であるのに対し、『そう思わない』とする人の割合が 67.0%（「どちらかといえばそう思わない」42.5%＋「そう思わない」24.5%）であり、総合的に見ると男女共同参画は進んでいないと捉えている人の方が多い多いことがわかる（図表 17）。

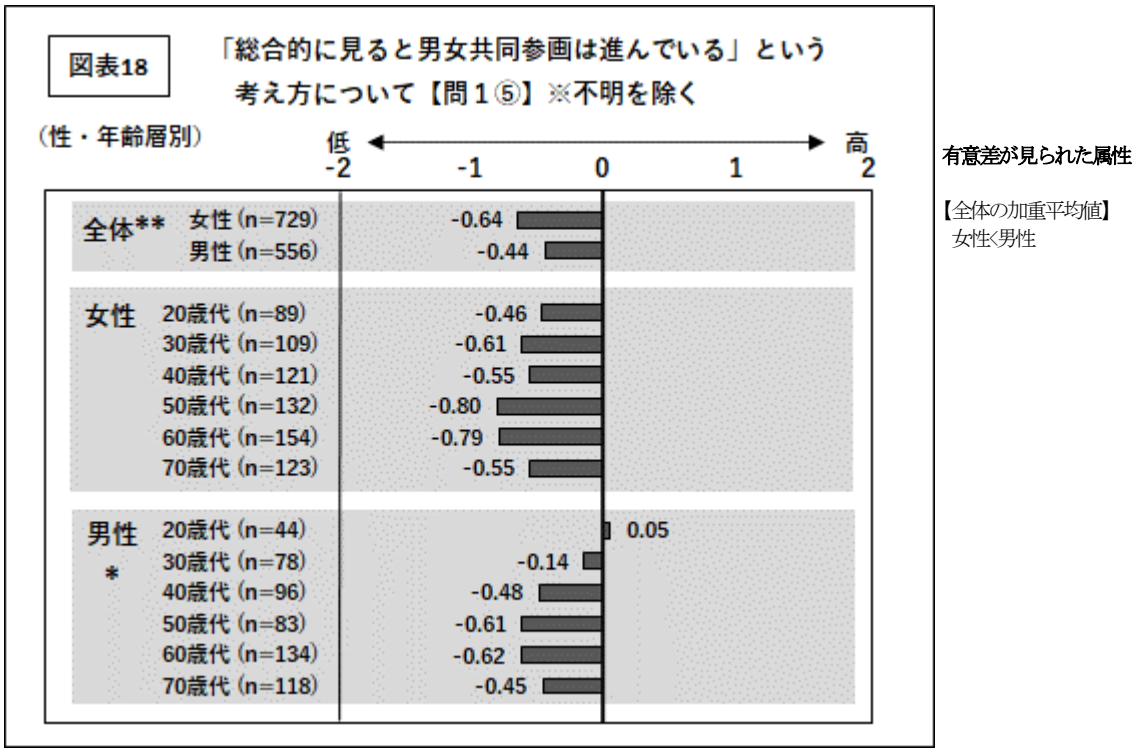
※ 加重平均値とは、本項目では「そう思わない」に－２点、「どちらかといえばそう思わない」に－１点、「どちらかといえばそう思う」に＋１点、「そう思う」に＋２点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、－２点に近いほど男女共同参画意識が低く、＋２点に近いほど男女共同参画意識が高いことを示す指標である。



加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女共同参画の進捗状況に関する評価は、男性 20 歳代を除き、いずれもマイナスで非常に低い（図表 18）。

男女別では、男性の方が女性より、有意に平均値が高くなっている。このことから、男性の方が女性より、総合的に見て男女共同参画が進んでいると評価していることがわかる。女性の方が、社会のあらゆる分野において、不平等意識が高いことが影響していることが推察される。

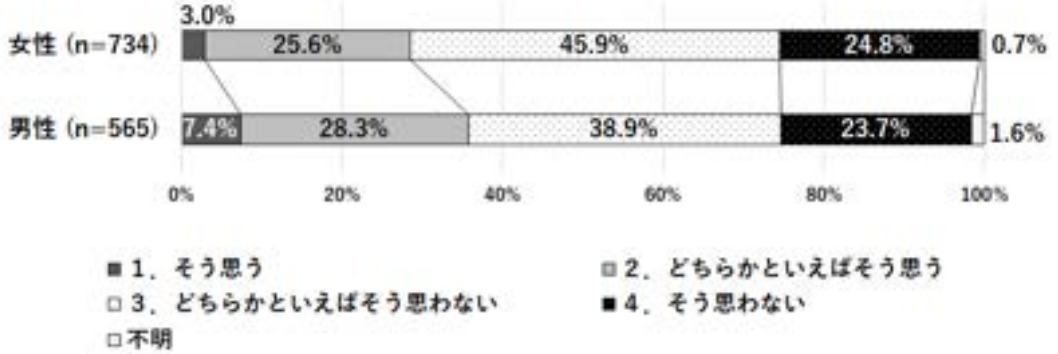
性・年齢層別では、男性のみ有意差が見られる。



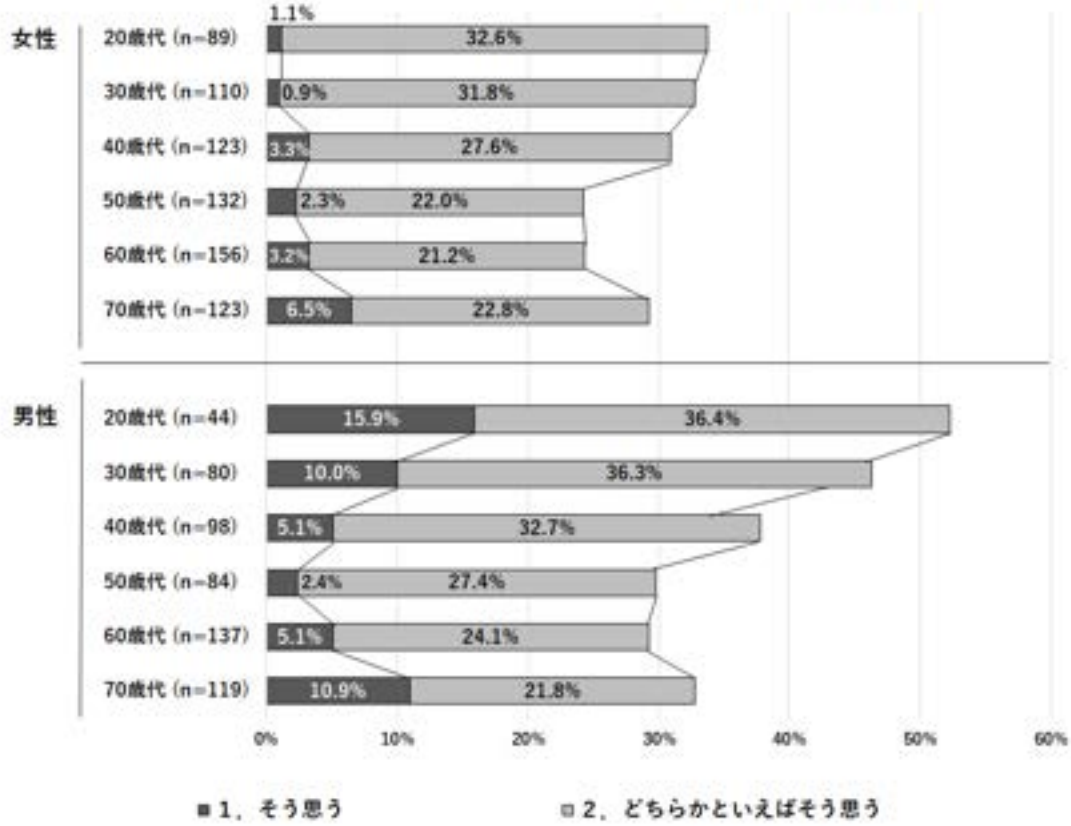
※ 加重平均値とは、本項目では「そう思わない」に－２点、「どちらかといえばそう思わない」に－１点、「どちらかといえばそう思う」に＋１点、「そう思う」に＋２点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、－２点に近いほど男女共同参画の進捗状況に対する評価が低く、＋２点に近いほど評価が高いことを示す指標である。

それぞれの属性別の回答割合は、図表 19、20 のとおりである。

図表19　次にあげる考え方について、あなたはどう思いますか。
「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について【問１⑤】



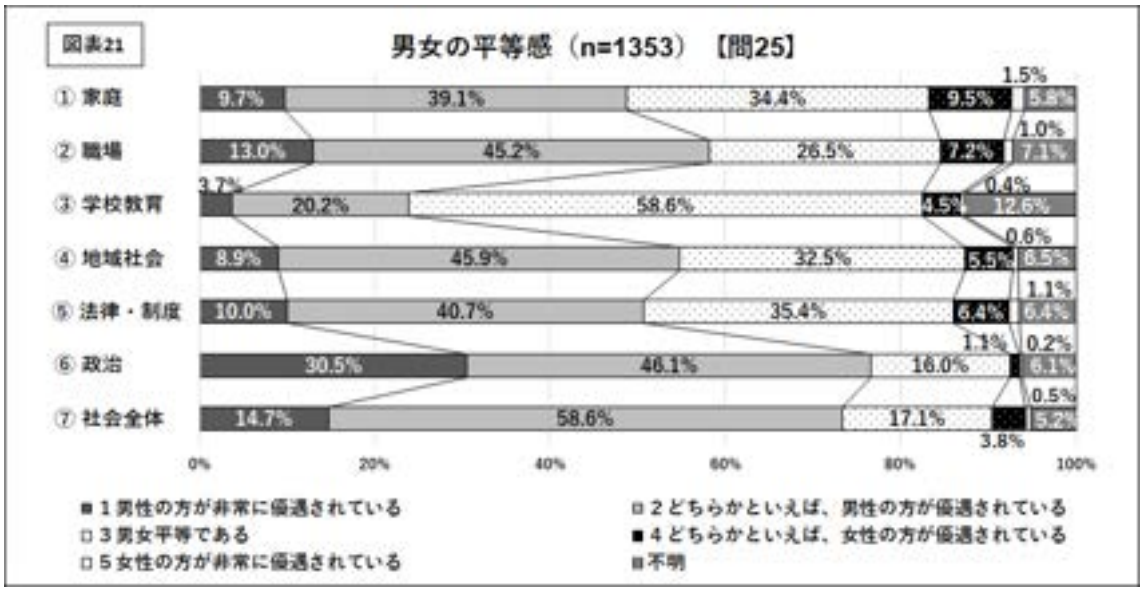
図表20　「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について
【問１⑤】（性・年齢層別）



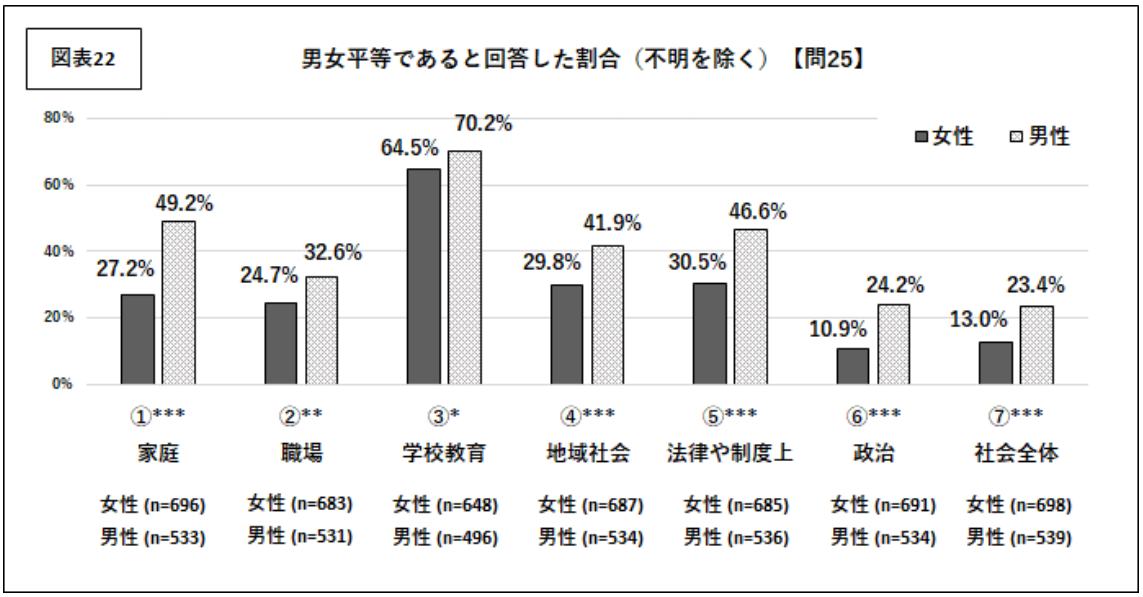
２　男女の平等感について

「次にあげる分野で男性、女性、どちらが優遇されていると思いますか。」と聞いたところ、全ての分野において、『男性の方が優遇されている』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が『女性の方が優遇されている』（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）を上回っている。『男性の方が優遇されている』という割合が高い順に、「⑥政治の場で」（76.6％）、「⑦社会全体で」（73.3％）、「②職場の中で」（58.2％）、「④地域社会で」（54.8％）、「⑤法律や制度上で」（50.7％）、「①家庭の中で」（48.8％）、「③学校教育の場で」（23.9％）となっている（図表 21）。

「男女平等である」割合が高い項目としては、「③学校教育の場で」（58.6％）、「⑤法律や制度の上で」（35.4％）、「①家庭の中で」（34.4％）などがあげられる。



「男女平等である」と回答した人の割合を男女別に比較すると、いずれの分野においても有意差が見られ、男性の方が平等であると認識していることがわかる。また、割合の男女差が「①家庭の中で」「⑤法律や制度の上で」において特に大きく、性別により捉え方に差が見られる（図表 22）。

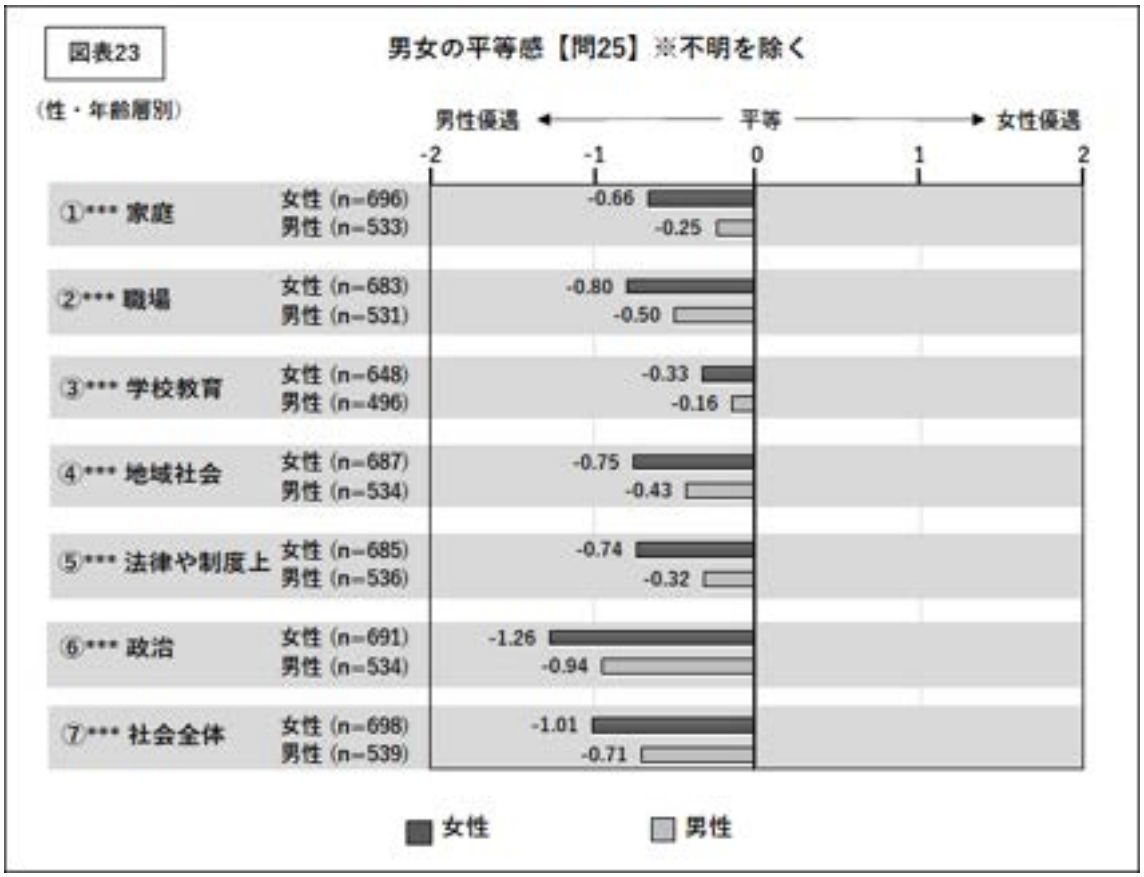


有意差が見られた属性　①～⑦　女性<男性

加重平均値※による属性別傾向を見ると、いずれの分野においてもマイナスの値を示し、男性の方が優遇されていると捉えていることがわかる（図表 23）。

男女別では、いずれの分野においても有意差が見られ、女性の方が男性より、男性の方が優遇されていると思っており、不平等感を抱いていることがわかる。

性・年齢層別では、女性は「⑥政治の場で」以外の分野で、男性は全ての分野で、年齢層による有意差が見られ、男女ともに年齢が高い層の方が、男性の方が優遇されていると考えていることがわかる（図表 24、25）。

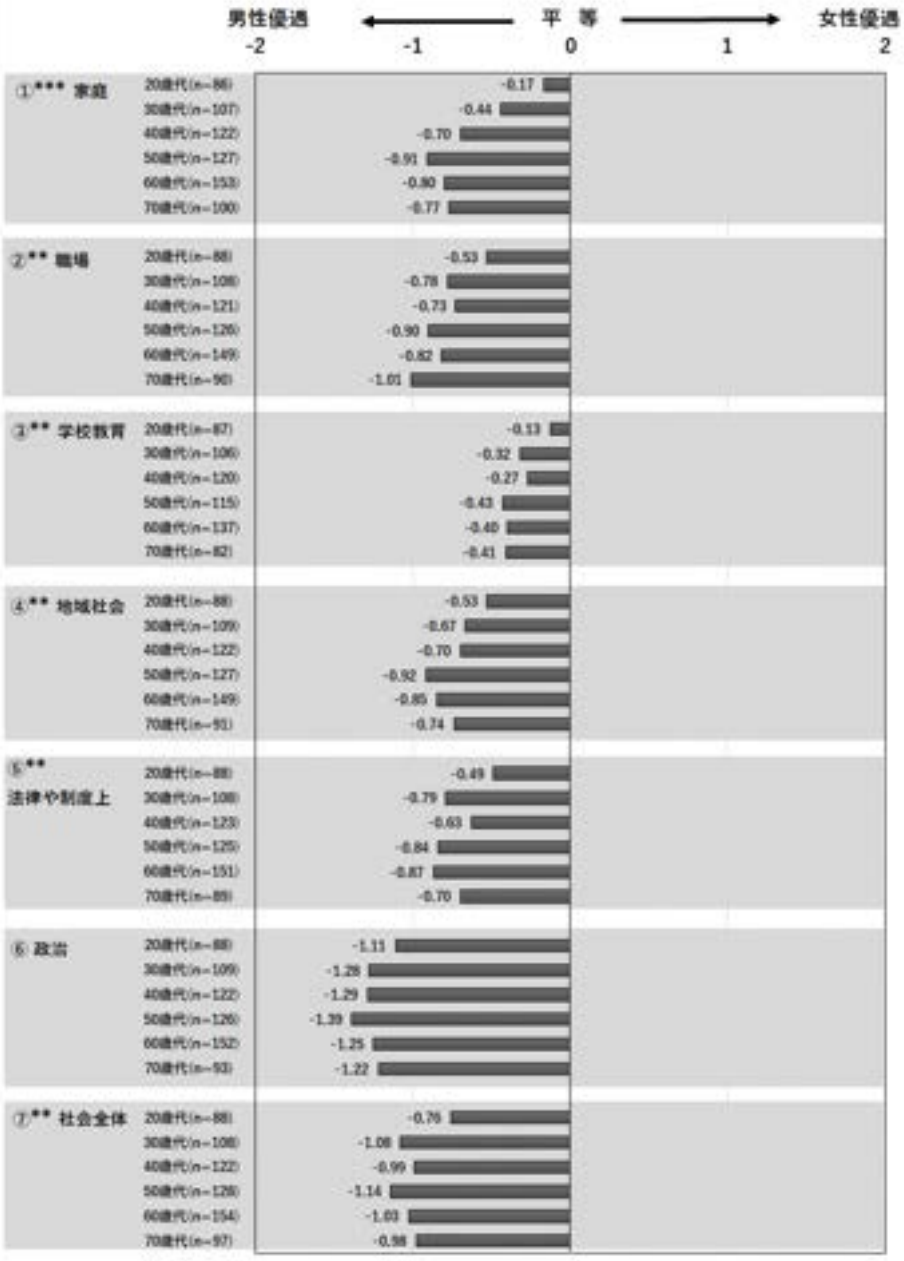


有意差が見られた属性　①～⑦　女性<男性

※加重平均値とは、本項目では「男性の方が非常に優遇されている」に－２点、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」に－１点、「男女平等である」に０点、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」に＋１点、「女性の方が非常に優遇されている」に＋２点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、－２点に近いほど男性優遇、＋２点に近いほど女性優遇、０点に近いほど男女平等を示す指標である。また、この数値はあくまでも属性による違いを比較するために数値化した統計上の指標であり、プラス、マイナスにより男女の序列を示したものではない。

図表24

男女の平等感【問25】※不明を除く（性・年齢層別）（女性）



有意差が見られた属性

40,50,60,70歳代<20歳代
50,60歳代<30歳代
40歳代<20歳代

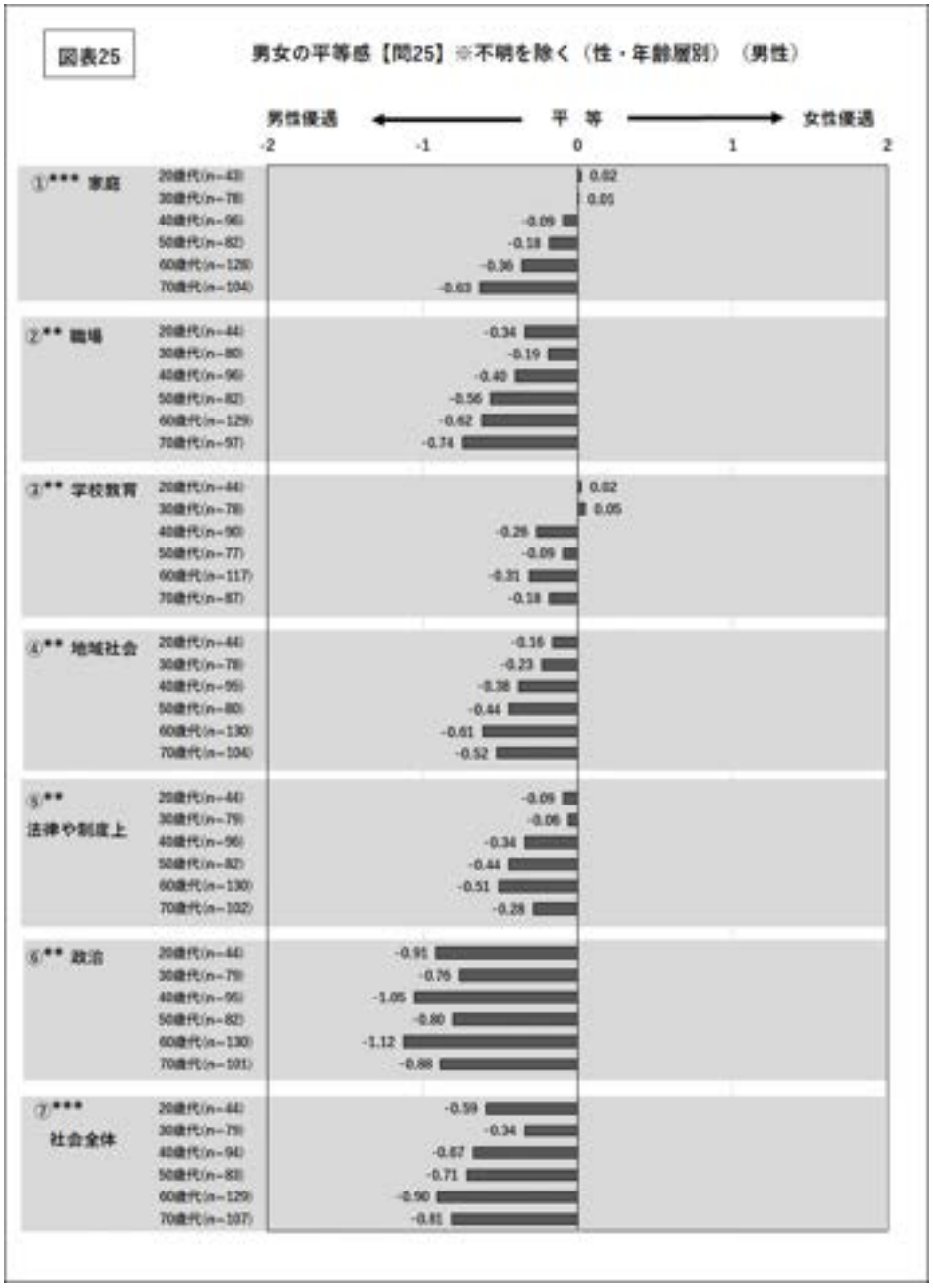
50,70歳代<20歳代

50,60,70歳代<20歳代

50,60歳代<20歳代

50,60歳代<20歳代

30,50,60歳代<20歳代



有意差が見られた属性

70歳代<20, 40, 50歳代
60, 70歳代<30歳代

60, 70歳代<30歳代

60歳代<20歳代
40, 60歳代<30歳代

60, 70歳代<20歳代
60歳代<30歳代

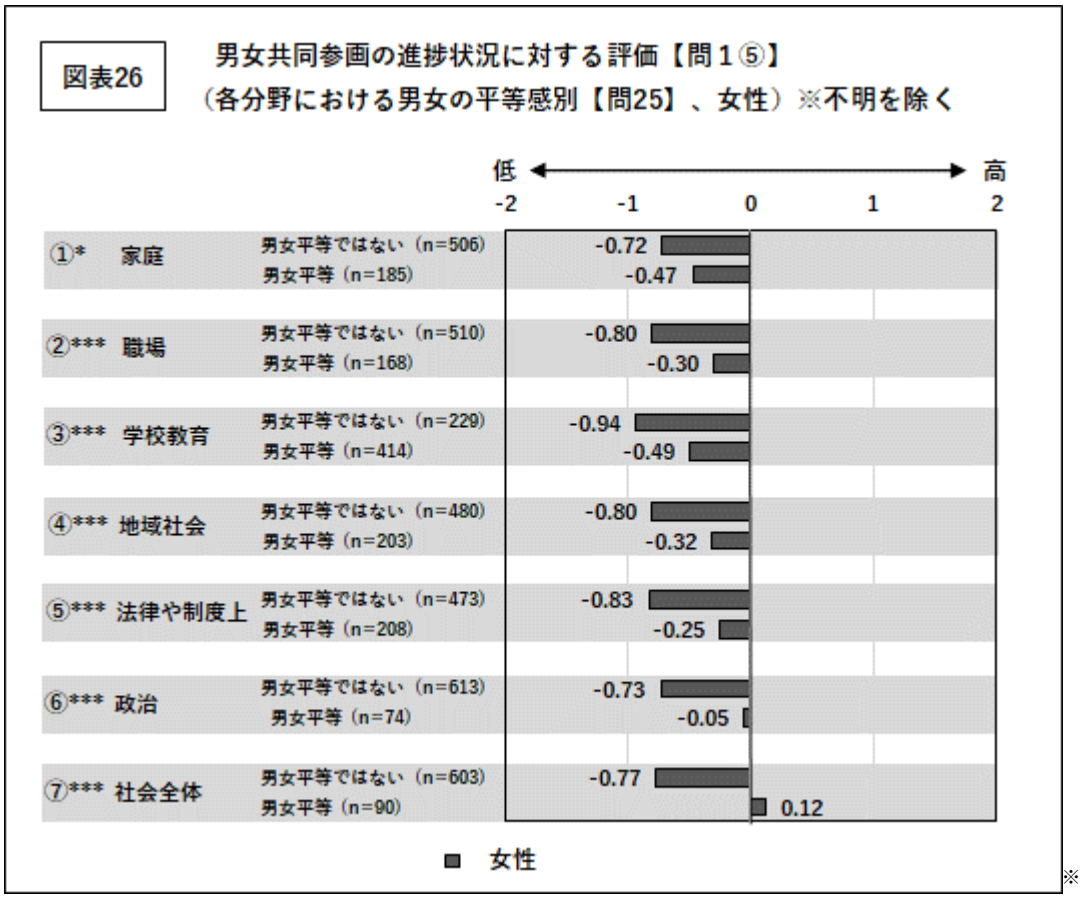
60歳代<20, 30歳代

60歳代<30歳代

60, 70歳代<30歳代

各分野における男女の平等感が、総合的な男女共同参画の進捗状況に対する評価に影響しているかをみたところ、女性は、いずれの分野においても「男女平等ではない（男性の方が優遇されている、あるいは女性の方が優遇されている）」と考えている人の方が、「男女平等である」と考えている人より、評価が有意に低く、総合的に見て男女共同参画が進んでいないと捉えている。このことから、女性は、全ての分野で男女不平等感が、男女共同参画の進捗状況に対する低い評価につながっていることがわかる（図表 26）。

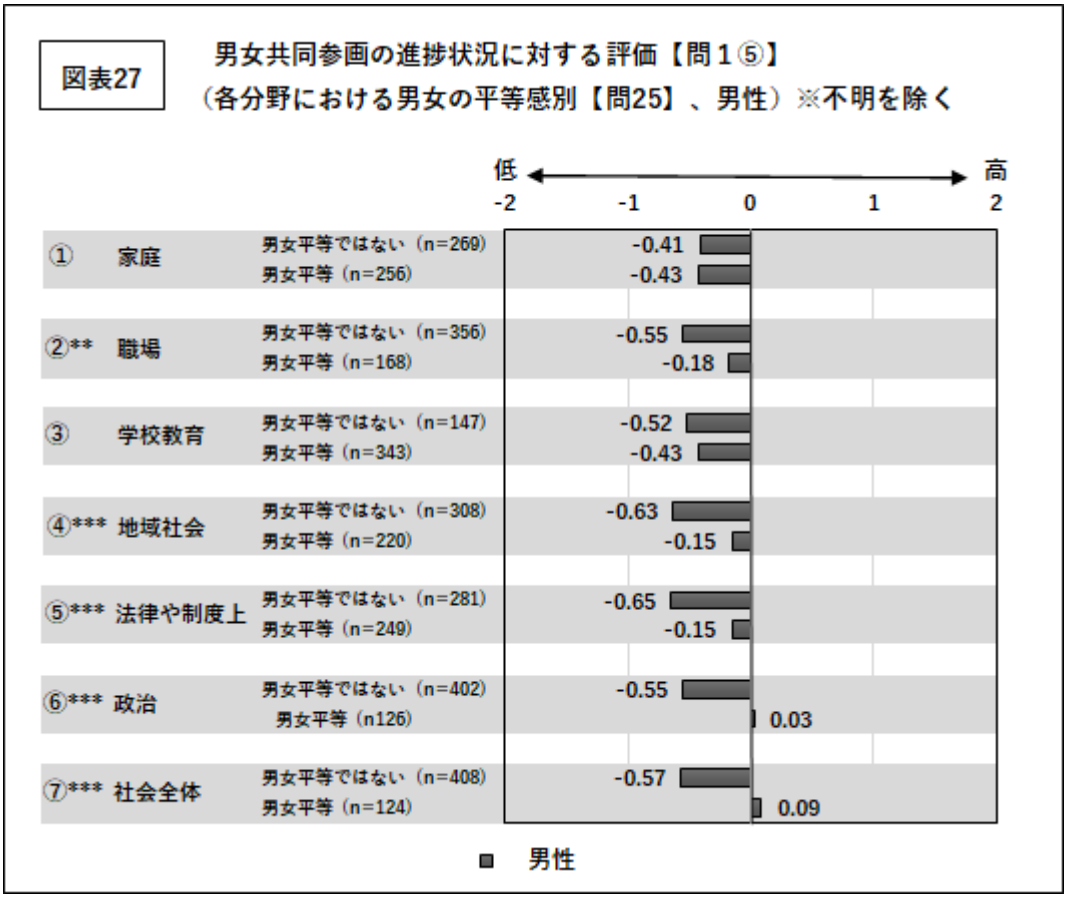
一方、男性は、「家庭の中で」「学校教育の場で」有意差はなく、これら以外の分野においては有意差が見られた。男性は、「家庭の中で」「学校教育の場で」男女平等と思っているかどうかで、男女共同参画の進捗状況に対する評価に差がなく、「職場の中で」「地域社会で」「法律や制度上で」「政治の場で」「社会全体で」の男女不平等感は、評価に影響していることがわかる（図表 27）。



※

有意差が見られた属性　①～⑦　男女平等ではないと考えている人<男女平等と考えている人

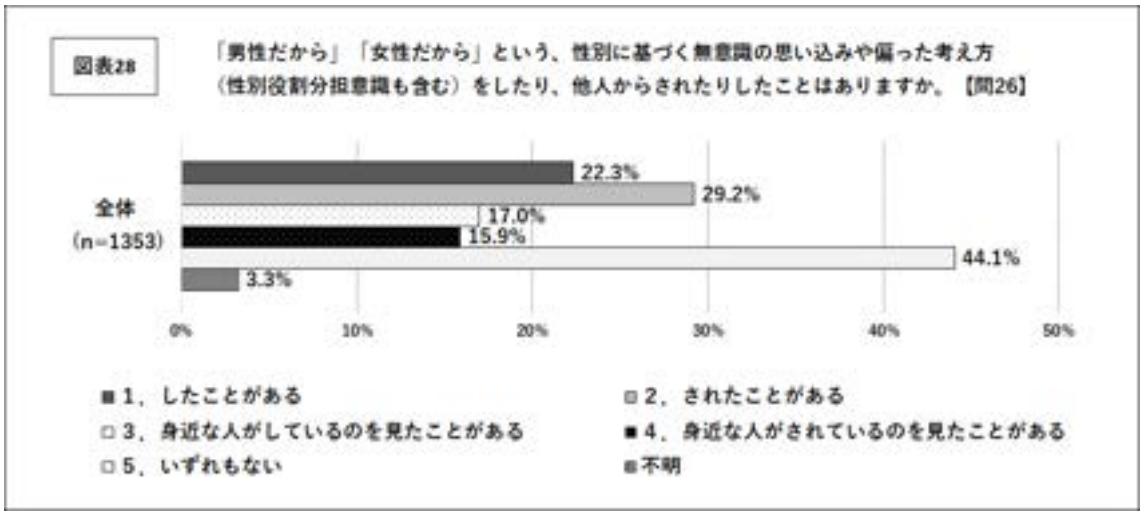
※ 加重平均値については、p. 8 を参照。



有意差が見られた属性　②・④～⑦　男女平等ではないと考えている人<男女平等と考えている人

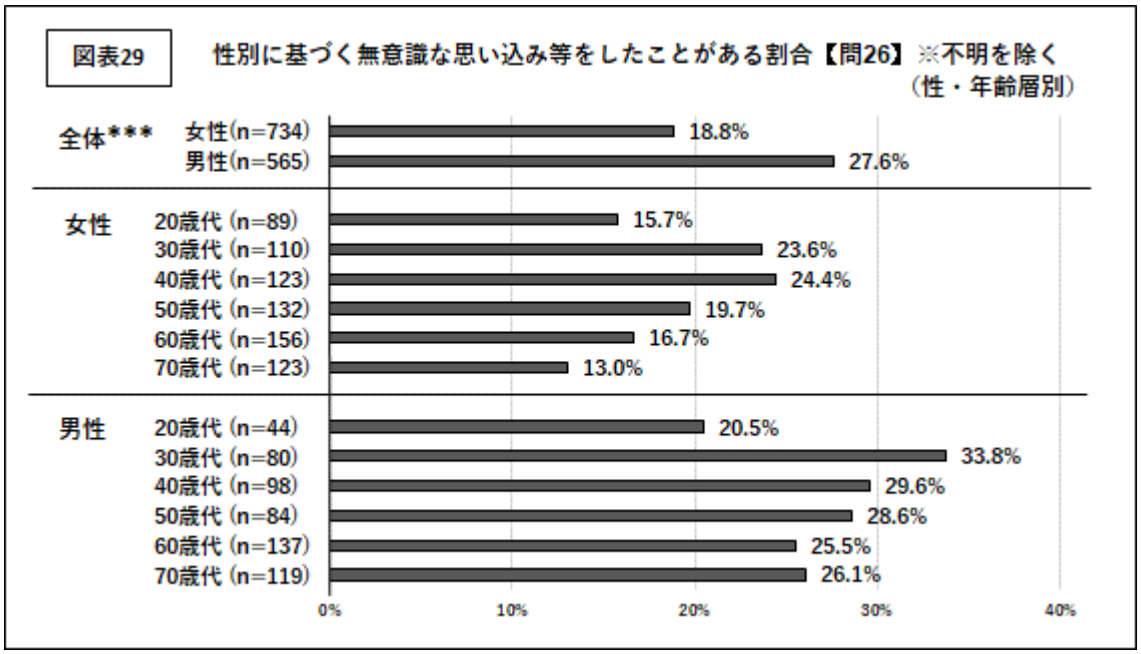
３　性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）等の経験

「『男性だから』『女性だから』という、性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方（性別役割分担意識も含む）をしたり、他人からされたりしたことはありますか。」と尋ねたところ、「したことがある」人が 22.3%、「されたことがある」人が 29.2%、「いずれもない」は 44.1%であるが、自分自身では意識しづらく、思い込みや偏った考え方をしているとは認識していない人もいると推察される（図表 28）。

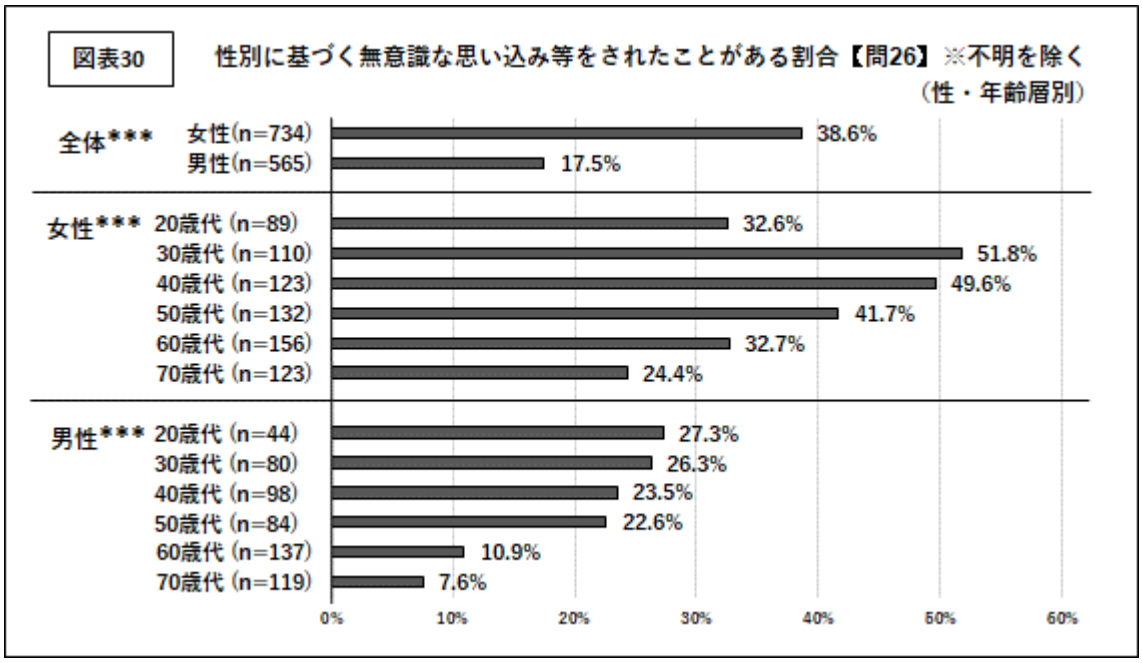


属性別傾向を見ると、男女別では、男性の方が「したことがある」人の割合が有意に高く、女性の方が「されたことがある」人の割合が有意に高くなっている（図表 29、30）。

性・年齢層別では、男女ともに「したことがある」人の割合は男女ともに年齢層による有意差は見られないが、「したことがある」人は、30 歳代～50 歳代の男性は約３割と多い傾向にある。一方、「されたことがある」人の割合は、男女ともに年齢層による有意差が見られ、女性は、30 歳代、40 歳の女性が約５割、50 歳代の女性が約４割と多く、男性は30～50 歳代が多いことがわかる。



有意差が見られた属性　【全体】女性<男性

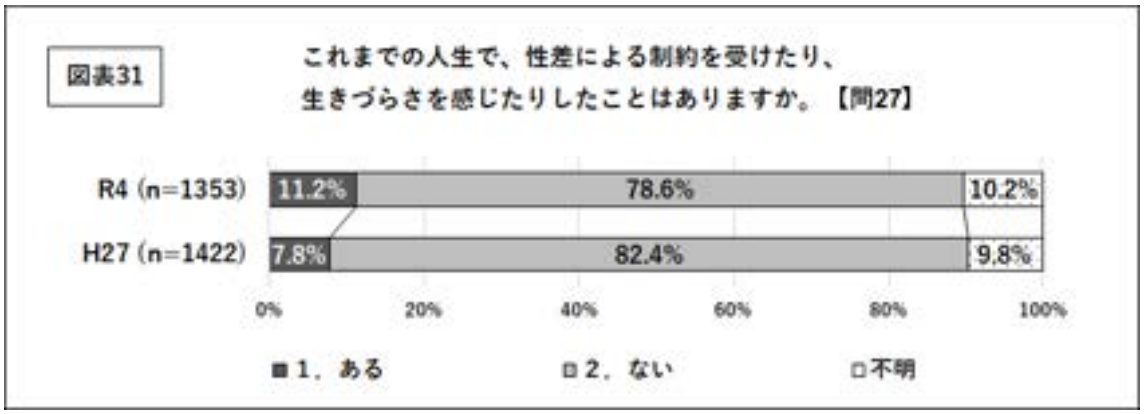


有意差が見られた属性
【全体】男性<女性　【女性】60, 70 歳代<30 歳代　70 歳代<40, 50 歳代　【男性】70 歳代<30, 40, 50 歳代

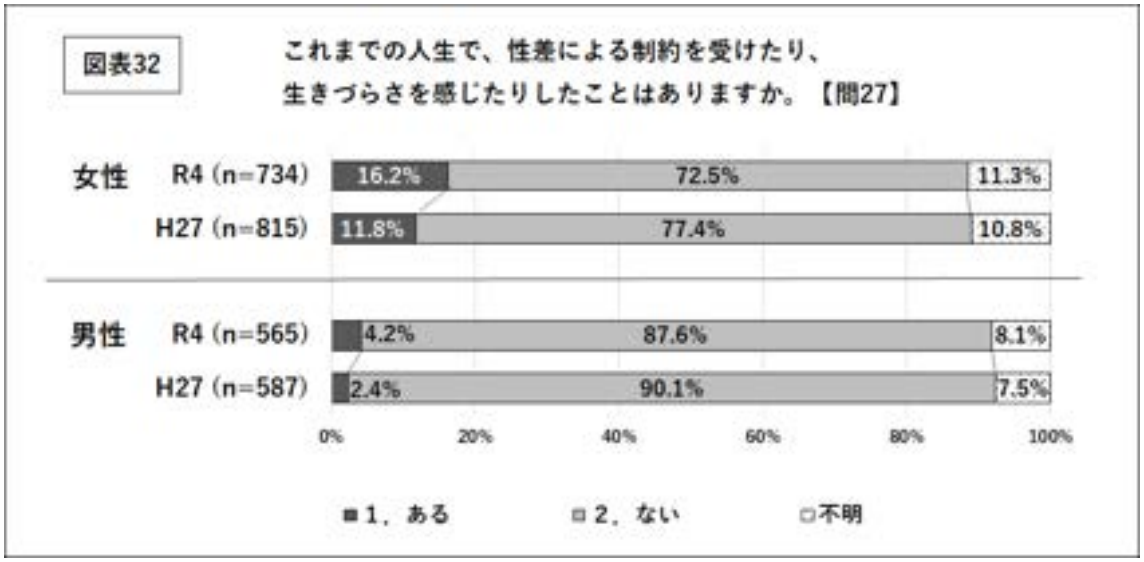
４　性差による制約等の経験

「これまでの人生で、性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりしたことはありますか。」と尋ねたところ、「ある」11.2%、「ない」78.6%で、約１割の人はこのような経験をしていることがわかる（図表 31）。

前回調査と比較すると、「ある」とする人の割合は、7.8%から 11.2%と 3.4 ポイントと若干ではあるが、増加している。

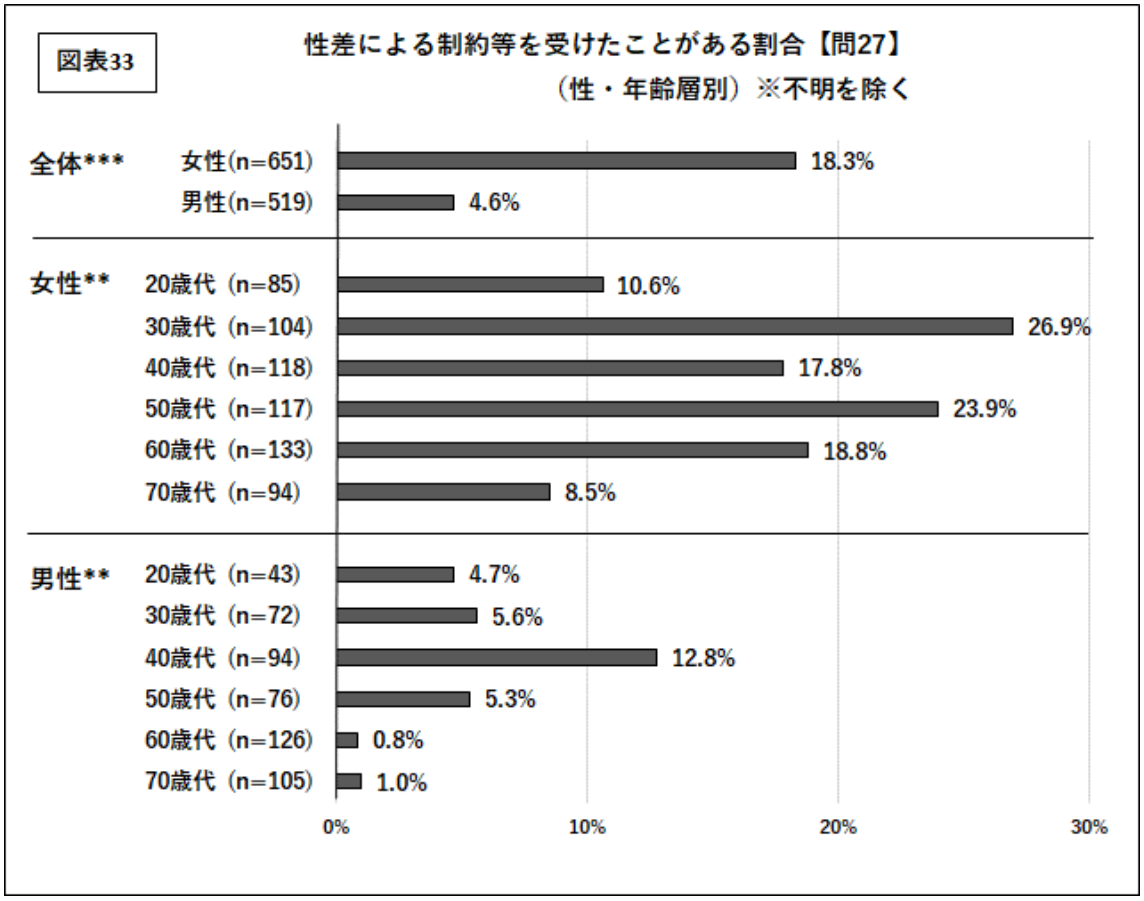


男女別に前回調査の結果と比較すると、経験がある人は、女性 4.4 ポイント、男性 1.8 ポイント微増している（図表 32）。



属性別傾向を見ると、男女別では、女性の方が性差による制約等を受けた経験がある人の割合が、有意に高くなっている。

性・年齢層別では、男女ともに有意差が見られる。女性は、30 歳代と 50 歳代に経験した人が多く、４人に１人が経験している。男性は、40 歳代で多く経験している(図表 33)。



有意差が見られた属性

【全体】男性<女性　【女性】20 歳代<30 歳代　70 歳代<30, 50 歳代　【男性】60, 70 歳代<40 歳代

これまでの人生で、性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりしたことが「ある」という人に記入してもらった内容をユーザーローカルＡＩテキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/ ）による分析を行ったところ、女性と男性では異なる傾向が見られた。

女性は、単語出現頻度で見ると、名詞については、性別を除くと、「仕事」が最も高く、次いで「結婚」「職場」「家事」「子ども」「母親」「夫」「意見」「育児」「上司」「介護」「妊娠」「親」「女の子」等が多くなっていた。仕事や家庭生活において、「結婚」や「妊娠」「出産」、「昇進」や「給与」、「家事」「育児」「介護」、「進学」「就職・就職活動」においてで、「夫」や「親」、「上司」から、「女性として」「母親として」「妻として」「嫁として」の役割や振る舞いなどと求められたり、性差による制約を受けたりしていることがわかる。それ以外でも、ＰＴＡ活動や町内会、就職活動においても制約が見られる（図表 34）。

※p.156～157：第３部　資料３　参考資料（自由記述から抜粋）にて、経験内容の抜粋を掲載しています。

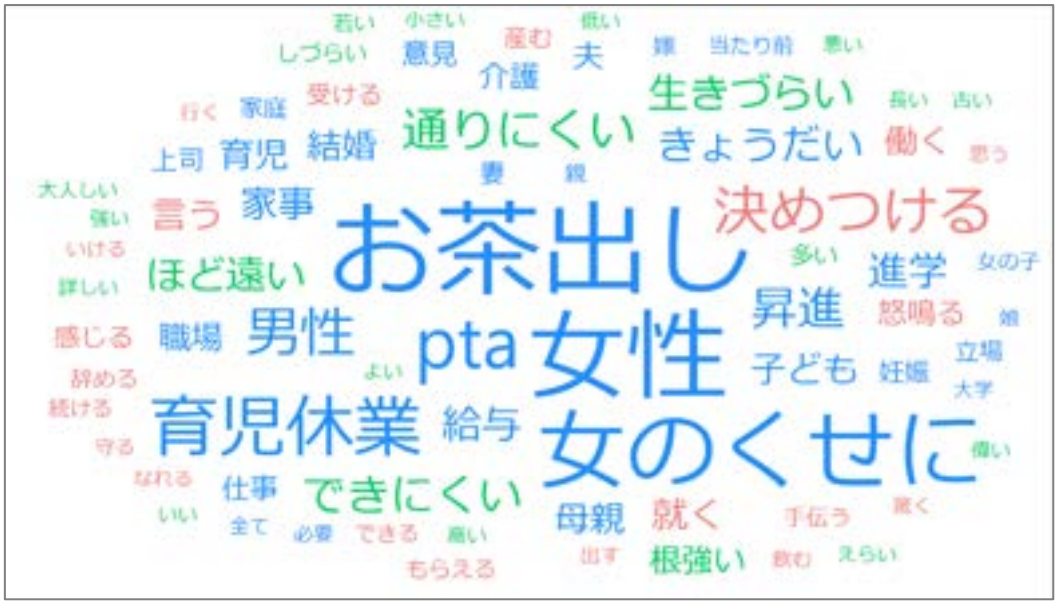
図表 34 単語出現頻度（女性）　名詞のみ（出現回数３回以上）　【問 27】

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
女性	58	進学	5	きょうだい	3
仕事	29	妊娠	5	就職活動	3
男性	25	当たり前	5	フルタイム	3
結婚	16	必要	5	風潮	3
職場	14	女のくせに	4	出産	3
家事	10	育児休業	4	スカート	3
子ども	10	昇進	4	パート	3
母親	9	給与	4	就職	3
夫	8	妻	4	お茶	3
意見	8	家庭	4	年齢	3
育児	7	立場	4	活動	3
上司	7	嫁	4	掃除	3
介護	6	大学	4	会社	3
親	6	娘	4	参加	3
女の子	6	全て	4		
お茶出し	5	ＰＴＡ	3		

スコア順（その単語がどれだけ特徴的であるかを表しているスコアの大きさ順）で見ると、「お茶出し」「女のくせに」「育児休業」「決めつける」等が高くなっている。職場で女性のみ「お茶出し」を求められ、「育児休業」に理解がない状況や、「女のくせに」と男性の方が優位であるような発言をされたり、家庭や職場で役割や選択肢を決めつけられたりしている現状が現れている（図表 35）。

※p. 157～158：第３部 資料 3 参考資料（自由記述から抜粋）にて、経験内容の抜粋を掲載しています。

図表 35 スコア順（女性）【問 27】



男性は、女性と比べると該当者が少なく、記述数も少ないため、各単語の出現頻度は女性ほど多くはないが、単語出現頻度で見ると、名詞については、性別を除くと、「仕事」が最も多く、次いで「レディースデー」等が挙がっていた（図表 36）。力仕事や危険な仕事、遠方での仕事、仕事でミスをした場合の処罰等仕事上の負担や処分に不平等を感じていたり、「長男として」の役割を求められたり、「男らしさ」という固定観念に息苦しさを感じていたりする様子も見られる（図表 36）。

※p. 158：第３部 資料 3 参考資料（自由記述から抜粋）にて、経験内容の抜粋を掲載しています。

図表 36 単語出現頻度（男性） 名詞のみ（出現回数２回以上） 【問 27】

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
女性	8	レディースデー	2	だめ	2
男性	8	立場	2		
仕事	5	男の子	2		

スコア順で見ると、「ＤＶ」「レディースデー」「育児休業」等が高くなっている。「ＤＶ」支援では女性が優先されたこと、女性のみ「レディースデー」があること、女性と同様に「育児休業」に理解がない現状が現れている（図表 37）。

※p. 158：第３部 資料 ３　参考資料（自由記述から抜粋）にて、経験内容の抜粋を掲載しています。

図表 37 スコア順（男性）【問 27】

また、女性と男性の具体的な記述内容に出現する単語を比較すると、偏りがあることがわかる。

女性には「結婚」「妊娠」「家事」「育児」「介護」、「進学」「就職・就職活動」といったライフイベント（人生で起こりうる出来事）において様々な制約などを受け、「親」や「夫」、「上司」などから求められる「女性」や「母親」などとしての役割や、制限される行動等に「生きづらさ」を感じているが、男性はライフイベントに影響されていないことがわかる（図表38）。

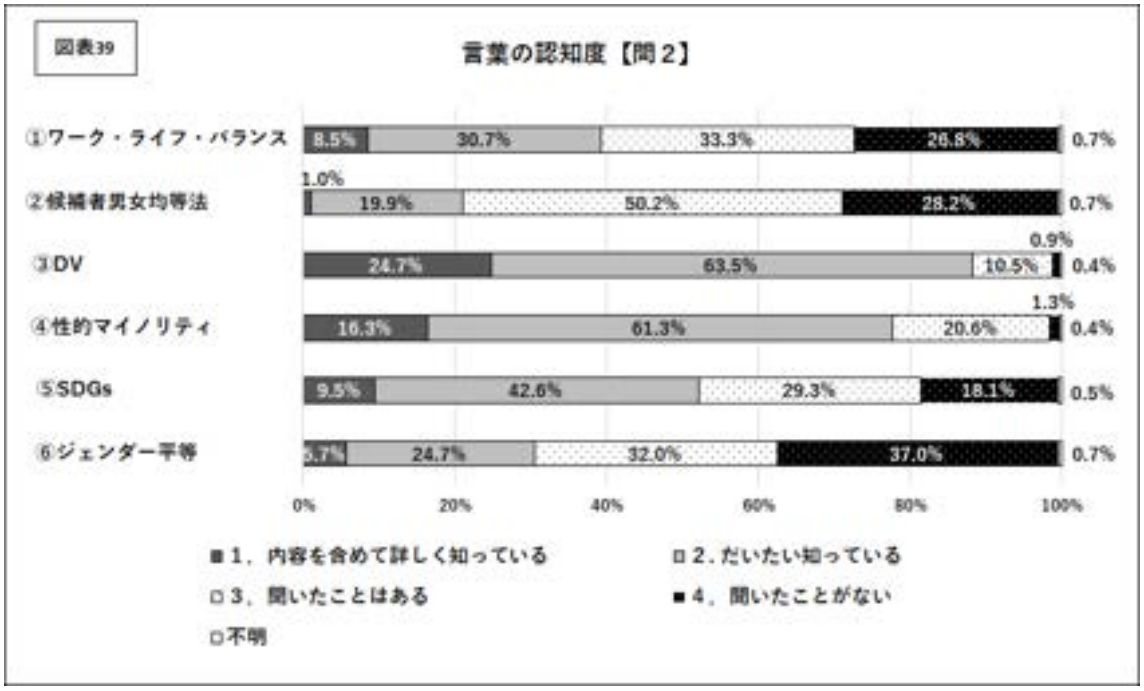
図表 38　【問 27】

女性にだけ出現	女性によく出る	両方によく出る	男性によく出る	男性にだけ出現
多い	言う	女性	男性	あまい
結婚	職場	仕事	よい	しんどい
感じる		できる	悪い	優しい
強い		思う	大きい	取りにくい
若い		女の子	入れる	頼もしい
働く			出す	おく
いい			入る	たどる
小さい			守る	ほる
生きづらい			くれる	保つ
長い			しまう	待ち受ける
高い			立場	得る
子ども			だめ	泣く
家事				行かす
母親				要す
受ける				レディースデー
夫				男の子
意見				ｄｖ
もらえる				グループ
決めつける				トイレ
上司				ミス
介護				リード
育児				主体
親				信頼
いける				優位
続ける				内向
行く				処罰
辞める				力仕事
えらい				危険
しづらい				同等
つらい				女性用

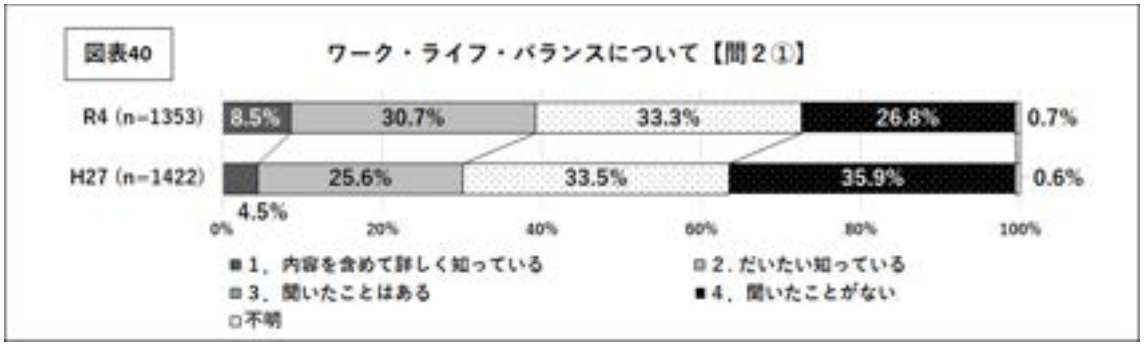
５　言葉の認知度

「次の言葉について、あてはまるものを１つ選んでください。」と尋ねたところ、『知っている』(「内容も含めて詳しく知っている」+「だいたい知っている」、以下同じ。）という人の割合は、「③ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス)」は約９割、「④性的マイノリティ（同性愛、両性愛、性同一性障がいなどの性的少数者)」は約８割と認知度は、非常に高い。一方、「①ワーク・ライフ・バランス」約４割、「②政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（以下、候補者男女均等法とする)」は約２割と認知度が低く、あまり知られていないことがわかる（図表 39)。

また、「⑤ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals〔持続可能な開発目標〕)」の認知度は約５割であるが、「⑥ＳＤＧｓの 17 の目標の中に『ジェンダー平等を実現しよう』が含まれていること」を知っている人は約３割である。ＳＤＧｓを知っていても、その目標に「ジェンダー平等」が含まれていることはまだ知られていないことがわかる（図表 39)。



前回の調査結果と比較すると、「①ワーク・ライフ・バランス」について、『知っている』という人の割合は 30.1%から 39.2%と約 10 ポイント増えてはいるが、まだ４割未満と低調である（図表 40）。



平成 27 年男女共同参画に関する市民意識調査（松山市）における設問
「次の言葉について、あてはまるものを１つ選んで○印をつけてください。『ﾜｰｸ・ﾗｲﾌ・ﾊﾞﾗﾝｽ』」に対する回答(n=1422)
（選択肢　１．内容を含めて詳しく知っている　２．だいたい知っている　３．聞いたことはある　４．知らない
を、上記グラフではそれぞれ　１．内容を含めて詳しく知っている　２．だいたい知っている　３．聞いたことはある
４．聞いたことがないとして掲載）

加重平均値※による属性別傾向を見ると、男女別では、「②候補者男女均等法」「⑤ＳＤＧｓ」において有意差が見られ、いずれも男性の方が詳しく内容を知っていることがわかる（図表 41～46）。

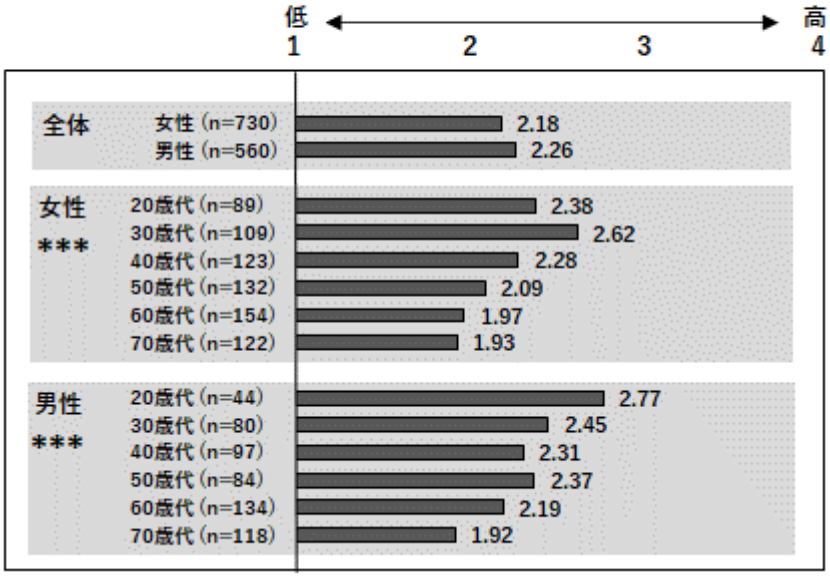
性・年齢層別では、女性は全ての項目で、男性はジェンダー平等以外の項目で有意差が見られた。男女ともに年齢が高い層は「①ワーク・ライフ・バランス」「③ＤＶ」「④性的マイノリティ」「⑤ＳＤＧｓ」については認知度が低く、「②候補者男女均等法」については認知度が高い。また女性は、30 歳代・40 歳代が「⑥ジェンダー平等」の認知度が高かった。

※ 加重平均値とは

本項目では「内容を含めて詳しく知っている」に４点、「だいたい知っている」に３点、「聞いたことはある」に２点、「聞いたことがない」に１点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、４点に近いほど詳しく知っていることを示す指標である。

図表41

言葉の認知度「ワーク・ライフ・バランス」【問２①】
（性・年齢層別）※不明を除く



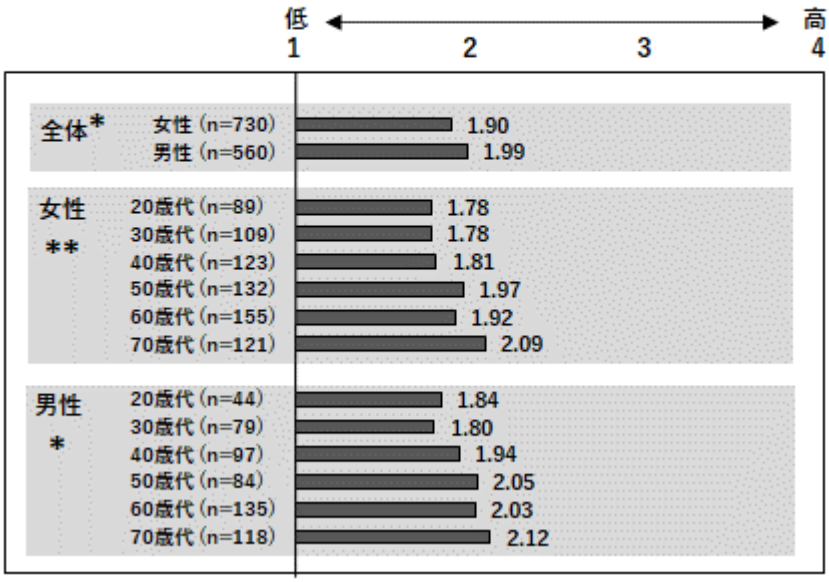
有意差が見られた属性

【女性の加重平均値】
60、70 歳代<20 歳代
50, 60, 70 歳代<30 歳代
70 歳代<40 歳代

【男性の加重平均値】
60, 70 歳代<20 歳代
70 歳代<30, 40, 50 歳代

図表42

言葉の認知度「候補者男女均等法」【問２②】
（性・年齢層別）※不明を除く

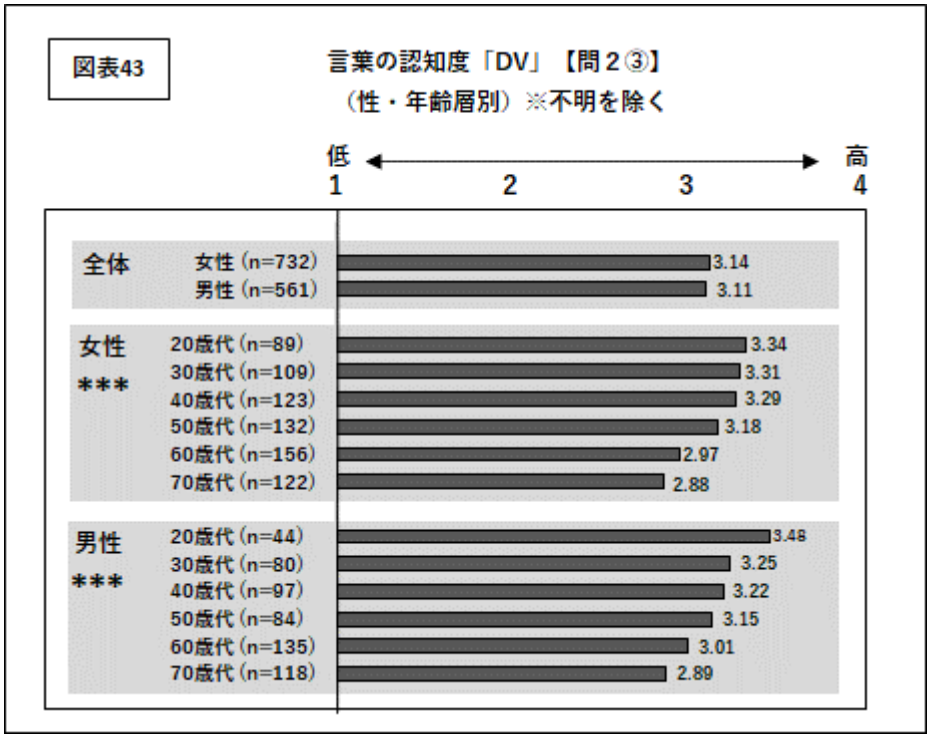


有意差が見られた属性

【全体の加重平均値】
女性<男性

【女性の加重平均値】
20, 30, 40 歳代<70 歳代

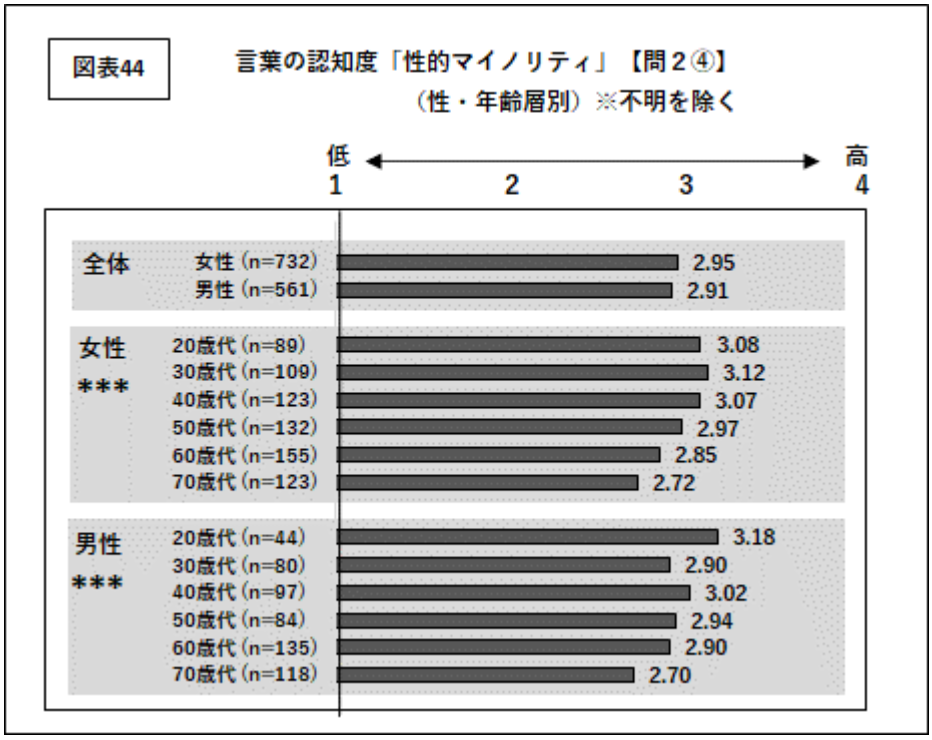
【男性の加重平均値】
30 歳代<70 歳代



有意差が見られた属性

【女性の加重平均値】
60, 70 歳代<20, 30, 40 歳代

【男性の加重平均値】
60, 70 歳代<20 歳代
70 歳代<30, 40, 50 歳代



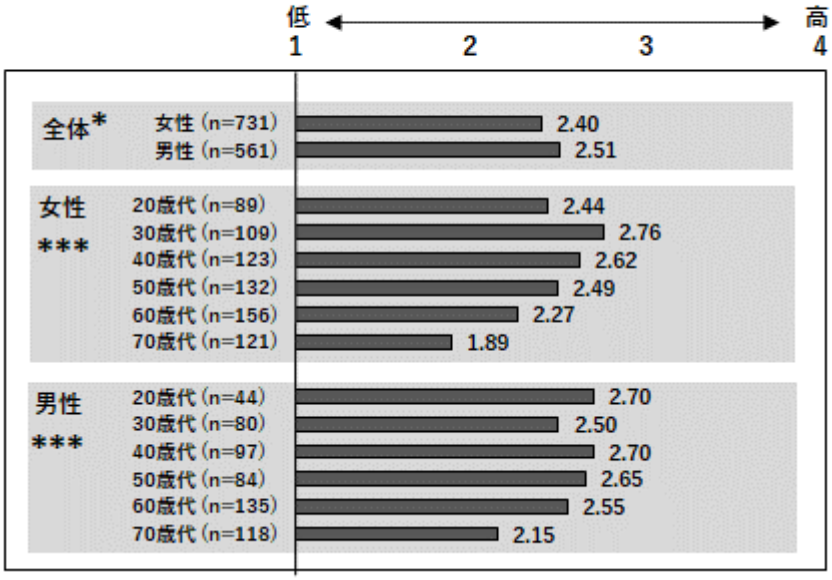
有意差が見られた属性

【女性の加重平均値】
70<20, 50 歳代
60, 70 歳代<30, 40 歳代

【男性の加重平均値】
70 歳代<20, 40 歳代

図表45

言葉の認知度「SDGｓ」【問２⑤】
（性・年齢層別）※不明を除く



有意差が見られた属性

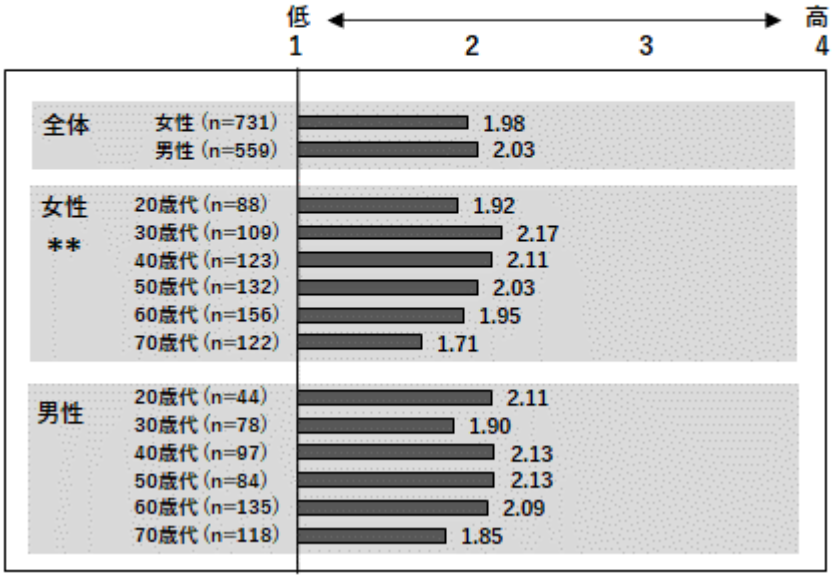
【全体の加重平均値】
女性<男性

【女性の加重平均値】
70歳代<20, 50, 60歳代
60, 70歳代<30, 40歳代

【男性の加重平均値】
70歳代<20, 40, 50, 60歳代

図表46

言葉の認知度「ジェンダー平等」【問２⑥】
（性・年齢層別）※不明を除く



有意差が見られた属性

【女性の加重平均値】
70歳代<30, 40歳代

言葉の認知度と男女共同参画に関わる意識に違いがないかを見るために、言葉を『知っているグループ』（「内容を含めて詳しく知っている」＋「だいたい知っている」）と『知らないグループ』（「聞いたことがない」）で、男女共同参画に関わる意識を比較した（図表 47～50）。

その結果、女性は「①ワーク・ライフ・バランス」を知っている人の方が、家庭及び地域における固定的な性別役割分担意識が低く、「選択制夫婦別姓」に肯定的であり、男性も、地域における固定的な性別役割分担意識が低く、「選択制夫婦別姓」に肯定的であった。このことから、「①ワーク・ライフ・バランス」を知っている人の方が家庭や地域における男女共同参画意識が高いことがわかった。

また、同様に、⑥ＳＤＧｓの 17 の目標の中に「ジェンダー平等を実現しよう」が含まれていることを知っている人の方が、男女ともに、「選択制夫婦別姓」に肯定的で、地域における固定的な性別役割分担意識が低く、男女共同参画意識が高くなっていた。

図表 47　男女共同参画に関わる意識【問１】（言葉の認知度別【問２】、女性）

	ワーク・ライフ・バランス【問2①】のことを	加重平均値
家庭における固定的な性別役割分担意識*	知っている（n=277）	1.21
【問 1①】	知らない　（n=198 ）	0.94
地域における固定的な性別役割分担意識*	知っている（n=277）	0.81
【問１④】	知らない　（n=197）	0.53
選択的夫婦別姓***	知っている（n=276）	0.87
【問１②】	知らない　（n=198）	0.33

有意差が見られた属性　　問１①④②　ワーク・ライフ・バランスのことを知らない人<知っている人

図表 48　男女共同参画に関わる意識【問１】（言葉の認知度別【問２】、男性）

	ワーク・ライフ・バランス【問2①】のことを	加重平均値
地域における固定的な性別役割分担意識*	知っている（n=238）	1.14
【問１④】	知らない　（n=146）	0.82
選択的夫婦別姓***	知っている（n=239）	0.53
【問１②】	知らない　（n=145）	-0.21

有意差が見られた属性　　問１④②　ワーク・ライフ・バランスのことを知らない人<知っている人

図表 49　男女共同参画に関わる意識【問１】（言葉の認知度別【問２】、女性）

	ジェンダー平等が含まれている【問2⑥】ことを	加重平均値
地域における固定的な性別役割分担意識*	知っている（n=215）	0.79
【問１④】	知らない　（n=268）	0.51
選択的夫婦別姓***	知っている（n=214）	0.87
【問１②】	知らない　（n=269）	0.27

有意差が見られた属性　　問１④②　ワーク・ライフ・バランスのことを知らない人<知っている人

図表 50　男女共同参画に関わる意識【問１】（言葉の認知度別【問２】、男性）

	ジェンダー平等が含まれている【問2⑥】ことを	加重平均値
地域における固定的な性別役割分担意識*	知っている（n=182）	1.19
【問１④】	知らない　（n=202）	0.70
選択的夫婦別姓***	知っている（n=183）	0.41
【問１②】	知らない　（n=201）	-0.08

有意差が見られた属性　　問１④②　ワーク・ライフ・バランスのことを知らない人<知っている人

６　小括

(1) 結果の要約

以上の調査結果を要約すると次のとおりである。

1) 固定的な性別役割分担意識や性別に基づく無意識の思い込み等

- 固定的な性別役割分担意識、性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方（性別役割分担意識も含む）は、女性にも男性にも見られる。
- 固定的な性別役割分担意識は女性よりも男性、年代が上がるにつれて肯定的な人が多く、まだ根強く残っていることがわかる。
- 固定的な性別役割分担意識は経年的に見れば少しずつ薄れてきている傾向にある（特に若い世代）。
- 性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方を女性の方がされたことが多く、男性の方がしたことが多い。

2) 男女の平等感

- 依然として社会のあらゆる場で男性優遇意識が強く、「政治の場で」「社会全体で」「職場の中で」「地域社会で」「法律や制度上で」「家庭の中で」「学校教育の場で」の順に男性の方が優遇されていると感じている。
- 女性の方が男性より、いずれの分野において男性の方が優遇されていると思っており、不平等感を抱いている。

3) 性差による制約などの経験

- 女性の方がこれまでの人生で性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりした経験がある割合が高く、30歳代と50歳代の女性は、４人に１人が経験している。
- 女性は仕事や家庭生活などにおいて、特に「結婚」「妊娠」「家事」「育児」「介護」「進学」「就職・就職活動」といったライフイベントにおいて様々な制約等を受け、「親」や「夫」、「上司」などから「女性」や「母親」「妻」「嫁」として固定的な性別役割を求められたり、行動を制限されたりすることに「生きづらさ」を感じているが、男性はライフイベントに大きく影響されていない。

4) 言葉の認知度

- 「ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）」「性的マイノリティ（同性愛、両性愛、性同一性障がいなどの性的少数者）」については、非常に認知度が高いが、「ワーク・ライフ・バランス」「候補者男女均等法」は認知度が低く、あまり知られていない。
- 「ＳＤＧｓ」を知っていても、ＳＤＧｓ17の目標に「ジェンダー平等」が含まれていることを知らない人もいる。

5) 男女共同参画の進捗状況に対する評価

- 総合的に見て男女共同参画が進んでいないと捉えている人の方が多く、男女共同参画の進捗状況に対する評価は低いが、20 歳代男性のみ進んでいると考えている人の方が多い。

調査項目		番号	経年変化 (平成27と比較)	性別	年齢層別
男女共同参画に関わる意識	家庭における固定的な性別役割分担意識	問１①	少し薄れてきつつある	男性の方が肯定的	男性の高年齢層が肯定的
	地域における固定的な性別役割分担意識	問１④	少し薄れてきつつある	女性の方が肯定的	有意差なし
	ワーク・ライフ・バランスに配慮した考え方	問１③	仕事優先意識が少し薄れてきつつある	男性の方が仕事優先	男性の高年齢層は仕事優先
	選択的夫婦別姓	問１②	否定派を肯定派が上回るようになった	女性の方が肯定的	男女ともに高年齢層は否定的
	進捗状況評価	問１⑤	―	男性の方が進んでいると評価	20歳代男性は進んでいると捉えている人の方が多い
男女の平等感	家庭の中で	問25①	―	全ての分野において、女性の方が男性の方が優遇されていると捉えている	40～70歳代女性、60、70歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	職場の中で	問25②	―		50、70歳代女性、60、70歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	学校教育の場で	問25③	―		50～70歳代女性、40、60歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	地域社会で	問25④	―		50、60歳代女性、60、70歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	法律や制度上で	問25⑤	―		50、60歳代女性、60歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	政治の場で	問25⑥	―		60歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
	社会全体で	問25⑦	―		30、50、60歳代女性、60、70歳代男性は男性の方が優遇されていると捉えている
性別に基づく無意識の思い込み等	性別に基づく無意識の思い込み等をした経験	問26-1	―	男性の方がした経験がある	有意差なし
	性別に基づく無意識の思い込み等をされた経験	問26-2	―	女性の方がされた経験がある	30、40歳代女性は約２人１人がされた経験がある 20～50歳代男性は約４人１人がされた経験がある

性差による制約等	性差による制約等の経験の有無	問 27	経験がある人が微増	女性の方が制約等を受けた経験がある	30、50 歳代女性、40 歳代男性は経験がある人が多い
	性差による制約等の経験内容	問 27 自由記述	―	女性は結婚、妊娠、家事、育児、介護、進学、就職・就職活動において、親や夫、上司等から制約等を受け、男性は仕事で制約等を受けている	どの年齢層も 制約等を受けている
言葉の認知度	ワーク・ライフ・バランス	問 2①	認知度は高まっているが、4 割と低調	有意差なし	20～40 歳代女性、20～50 歳代男性の認知度が高い
	候補者男女均等法	問 2②	―	男性の方が認知度が高い	男女ともに 70 歳代の認知度が高い
	ＤＶ	問 2③	―	有意差なし	20～40 歳代女性、20～50 歳代男性の認知度が高い
	性的マイノリティ	問 2④	―	有意差なし	20～50 歳代女性、20、40 歳代男性の認知度が高い
	ＳＤＧｓ	問 2⑤	―	男性の方が認知度が高い	男女ともに 70 歳代の認知度が低い
	ジェンダー平等	問 2⑥	―	有意差なし	30、40 歳代女性の認知度が高い

(2) 考察

平成 19 年に、内閣府が「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」と行動指針を定めてから、約 15 年が経過したのにも関わらず、ワーク・ライフ・バランスの認知度は約４割と低調である。意識においても、女性より男性の方が仕事を家庭生活よりも優先した方がよいと考え、男性のなかでも 70 歳代では仕事中心の生活の意向が他の年齢層と比べてさらに高くなっている。働く全ての人が、家事、育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動などの「生活」と「仕事」との調和をはかり、その両方を充実させる生き方・働き方に対し、性別・世代間において意識差があることがわかる。

そして、性別を問わず個人の能力等によって役割を決めることが適切であるにも関わらず、「男は仕事、女は家庭」というように、女性・男性という性別を理由として、役割を固定的に分ける性別役割分担意識は、男性の方が、そして男性のなかでも高年齢層の方が高くなっている。しかし、前回（平成 27 年）調査と比較すると、どの年齢層においても性別役割分担意識は少しずつ薄れつつある（特に若い世代）。昭和 54 年の国連総会において採択された女子差別撤廃条約に日本が批准するために、平成元年改訂の学習指導要領において、「家庭科」「技術・家庭」は男女とも必修で、男女同一の教育課程となり、中学校については平成５年度から、高等学校は平成６年度から適用されることになった。高等学校で「家庭科」を男女必修で履修した最初の生徒は、令和４年現在 42～43 歳となっており、20～30 歳代男性の性別役割分担意識が低いことは、「男女が協力して家庭を営むこと」等を学習する男女必修家庭科の学習が少なからず影響を与えているのではないかと推察される。

また、現在、男女共同参画を推進するために、さまざまな法制度の整備や取り組みが進められているものの、依然として社会全体が変わるまでには至っていない。今回調査においても、全ての分野において、「男性の方が優遇されている」と捉えている人の割合が「女性の方が優遇されている」と捉えている人の割合を上回っており、職場、地域社会、家庭、政治、法律や制度上、社会全体で男性の方が優遇されている意識が高く、「平等」と回答した人の割合は 50%を超えたのは、学校教育のみである。この根底には、固定的な性別役割分担意識、性別に基づく無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）や性差に関する偏った考え方・固定観念が根強く残っていることが挙げられる。

これらを踏まえ、個人の個性と能力を発揮する機会を制限することなく、多様な生き方・働き方の選択ができるようにしていくためには、このような固定的な性別役割分担意識や性別に基づく無意識の思い込み等の見直し・解消に向けて、意識改革と理解の促進が必要である。具体的には、学校・地域・家庭・職場等における男女平等参画に向けた教育・学習のさらなる推進が考えられる。

例えば、児童生徒の発達の段階に応じ、社会科、公民科、家庭科、道徳、特別活動等の教科等、学校教育全体を通じて、人権の尊重や男女の平等、男女が共同して社会に参画することやパートナーと協力して家庭を築くことの重要性についての指導の充実をさらに図る必要がある。男女共同参画の視点から主体的に自己の生き方を考え、意思決定する力を身につけることで、性別にとらわれずに進路選択や就職などの意思決定ができ、将来、性別に関わらずあらゆる分野での活躍にもつながることが期待される。

また、令和元年度「中学生の男女共同参画に関する意識調査」（(公財）松山市男女共同参画推進財団）によると、中学生が「女の子だから…」や「男の子だから…」と言われた経験は、「よく言われる」14.1%、「ときどき言われる」32.6%で、約半数の生徒が性別役割意識に基づいた言葉がけをされていることが明らかになっている。その言葉を言われたとき、「いやな気持ちがした（36.2%)」、「その通りだと思った（12.7%)」、「何とも思わなかった（46.0%)」と回答している。「その通りだと思った」ということは、まわりが求める性別に基づく固定観念やイメージである「女の子らしさ」「男の子らしさ」に自分を当てはめようとしていたり、「何とも思わなかった」ということは、意識をしたことがないため深く考えていなかったり、「女らしさ」「男らしさ」の固定観念がさらに肯定されていくことが危惧される。そして、その言葉を言われた相手は、「母（63.2%)」、「父（37.3%)」、「小学校・中学校の先生（29.7%)」、「友達（28.3%)」、「祖母（20.8%)」という回答が多く、家庭や学校で、固定的な性別役割分担意識や性別による固定観念が助長され、再生産されていくことが懸念される。学校教育だけでなく、家庭や地域等における男女共同参画教育の推進や、学校において隠れたカリキュラム※の再考・改善も必要である。

※ 隠れたカリキュラム

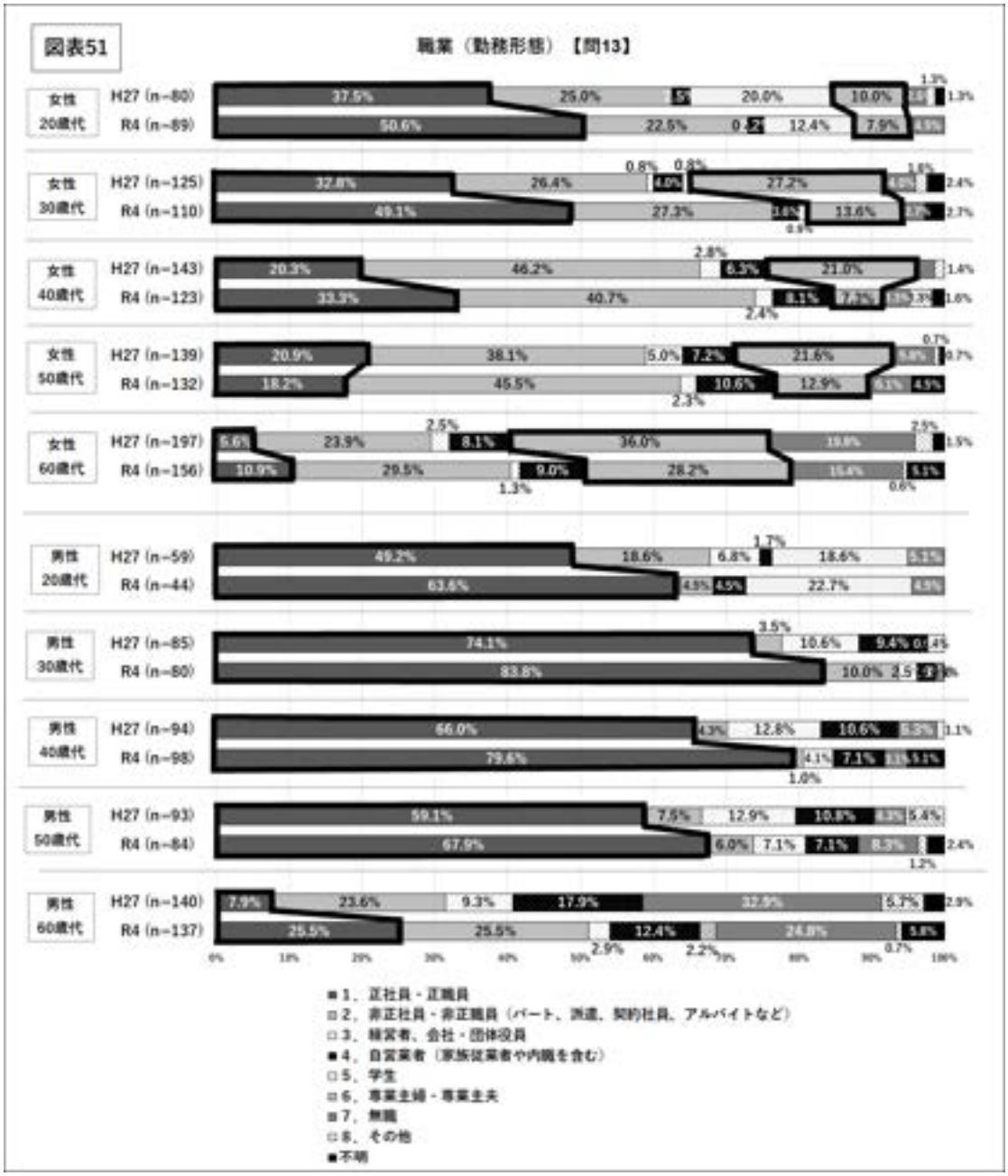
教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営むなかで、児童生徒自らが学びとっていく全ての事柄（文部科学省)。例えば、男女別名簿、男女別の並び方、さまざまな場面での男女の色分け、委員や係など役割分担における男女別の偏り、教員の管理職に占める女性の割合、教科による教員の男女比の偏りなどがある。

第２章　女性の継続就業・方針決定過程への女性の参画拡大

１　昇進について

(1) 勤務形態について

前回（平成 27 年）調査と比べて、回答者全体における「正社員・正職員」の割合が全体的に上昇している。とはいえ、男女における格差はまだまだ大きい（図表 51）。※



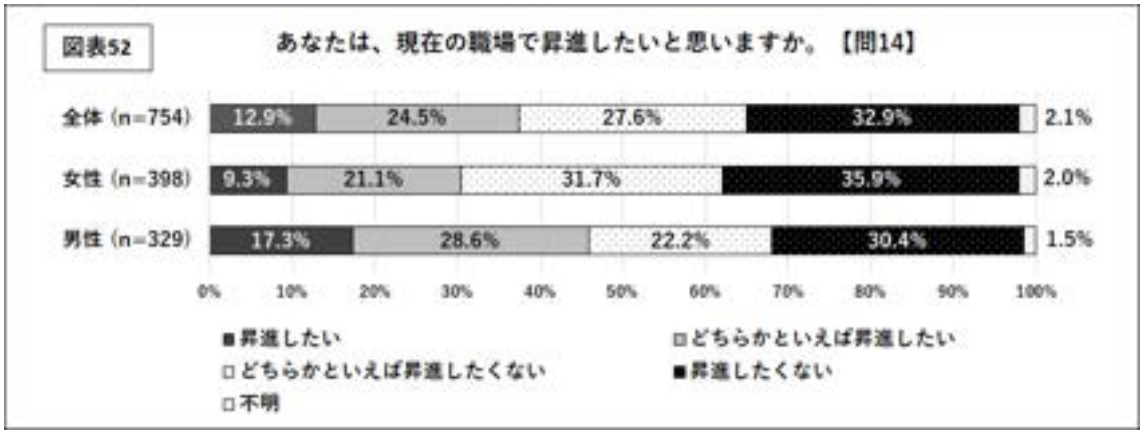
※ なお、勤労者の勤務形態に関する全国的な傾向については、内閣府『男女共同参画白書（令和３年度版）』の中の「内閣府年齢階級別非正規雇用労働者の割合の推移」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-02-07.html　も参照のこと

(2) 昇進への意欲について

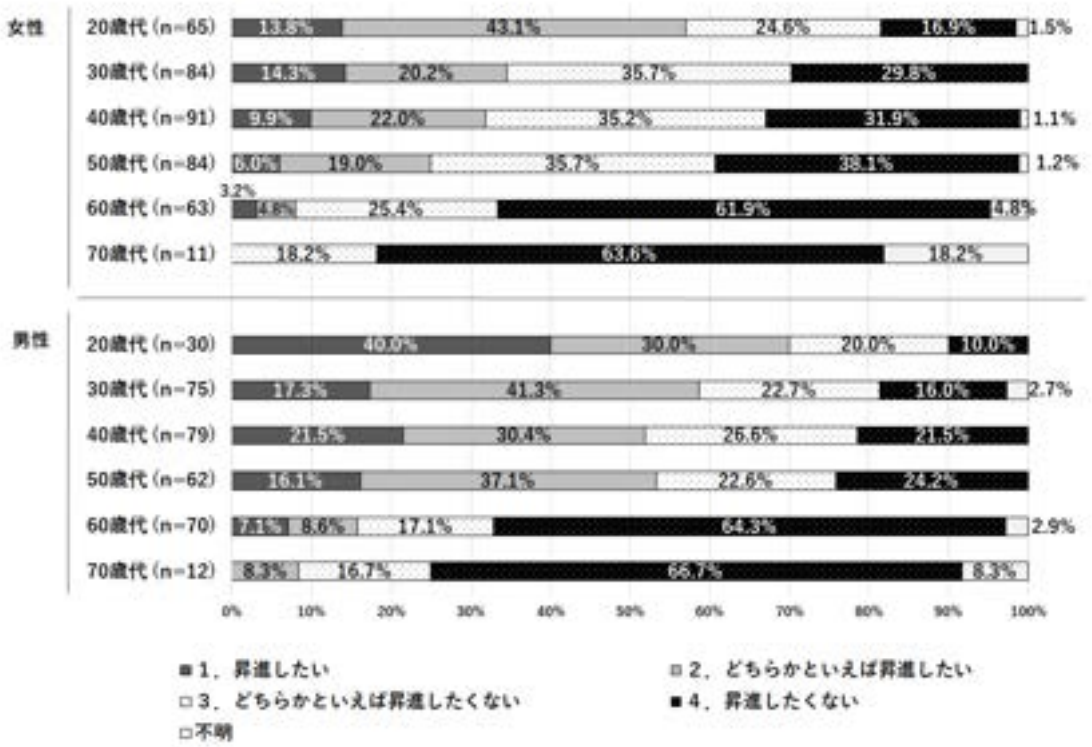
全体的な男女比では、男性の方が女性よりも昇進意欲が高い（図表 52)。

性・年齢層別に見ていくと、男女ともに「昇進したい」「どちらかといえば昇進したい」の回答を合わせた割合は、20 歳代において最も高い数値となっている。逆に「昇進したくない」と答えた人の割合は、男女ともに年代が上がるほど上昇していく傾向が見られる（図表 53)。

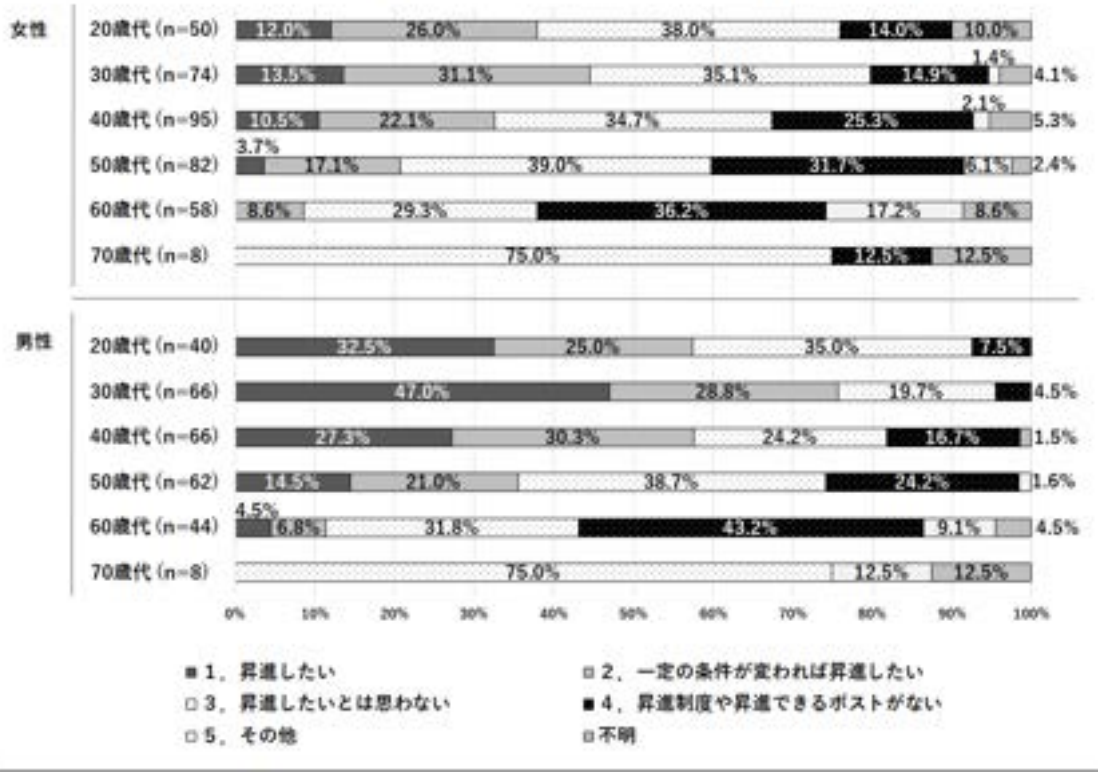
男女ともに 20 歳代と 30 歳代以降において昇進意欲の度合いに落差が見られる。但し、その「違い」の表れ方は、男女では少々違っているように思われる。明確に「昇進したい」と回答している人の割合に着目すると、女性は男性に比べて年齢層別の違いは小さい。女性の場合、20 歳代と 30 歳代以降における昇進意欲の違いは、「どちらかといえば昇進したい」と回答する人（いわば「機会主義者」？「浮動層」？）の割合が 20 歳代から 30 歳代で大幅に低下していることによる部分が大きいといえる。一方、男性の場合は、明確に「昇進したい」と答えた人の割合が 20 歳代から 30 歳代で大幅に低下しているのが、今回の調査結果におけるひとつの特徴といえる（図表 53)。



図表53　あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。【問14】



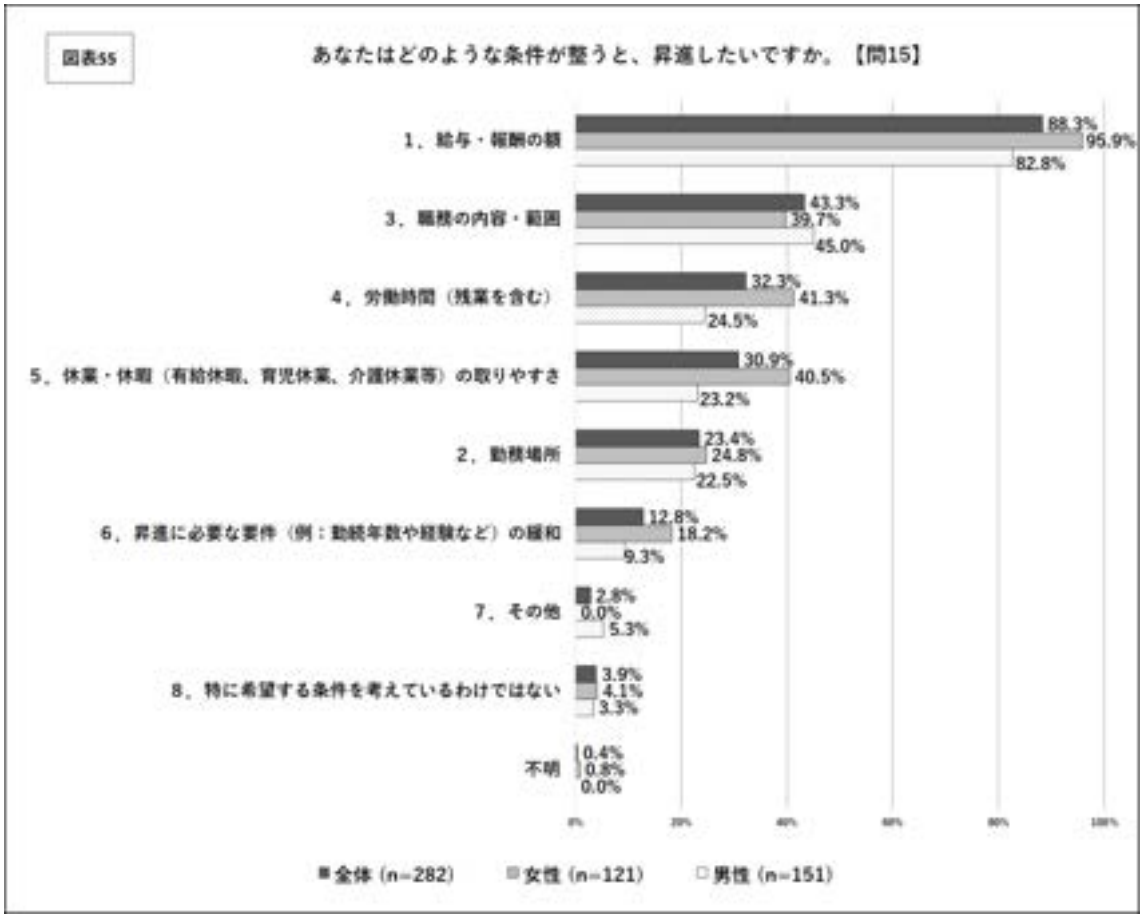
図表54　あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。【平成27年 問6】



(3) 昇進の条件

「昇進の条件」としていくつかの選択肢を挙げ、あてはまるもの全てを選んでもらった（図表 55)。

「給与・報酬」が全体で 88.3%（女性 95.9%、男性 82.8%）と最も多く、次いで「職務内容」が全体で 43. 3％（女性 39.7%、男性 45.0%)、「労働時間」全体 32.3%（女性 41.3%、男性 24.5%)、「休業・休暇」全体 30.9%（女性 40.5%、男性 23.2%）となっている。



当然のことながら、ほとんどの回答者が「給与・報酬」の選択肢を選んでいる。50 歳代男性が「報酬」を挙げる割合が突出して少ないのは、現行の制度において、正社員・正職員の勤続年数に伴う「賃金カーブ」がこのころからほぼ頭打ちになる、あるいは下降に転じることとも関係があるものと思われる（図表 56）。

「勤務の内容・範囲」に関しては、全体的な男女差というよりも年齢層別の違い（の表れ方）に着目したい。女性では 30 歳代が突出してこの選択肢を選んだ割合が高かったのに対し、男性では、20 歳代ではこの選択肢を選ぶ割合が低い一方、30～60 歳代では 40%以上がこの選択肢を選んでいる。

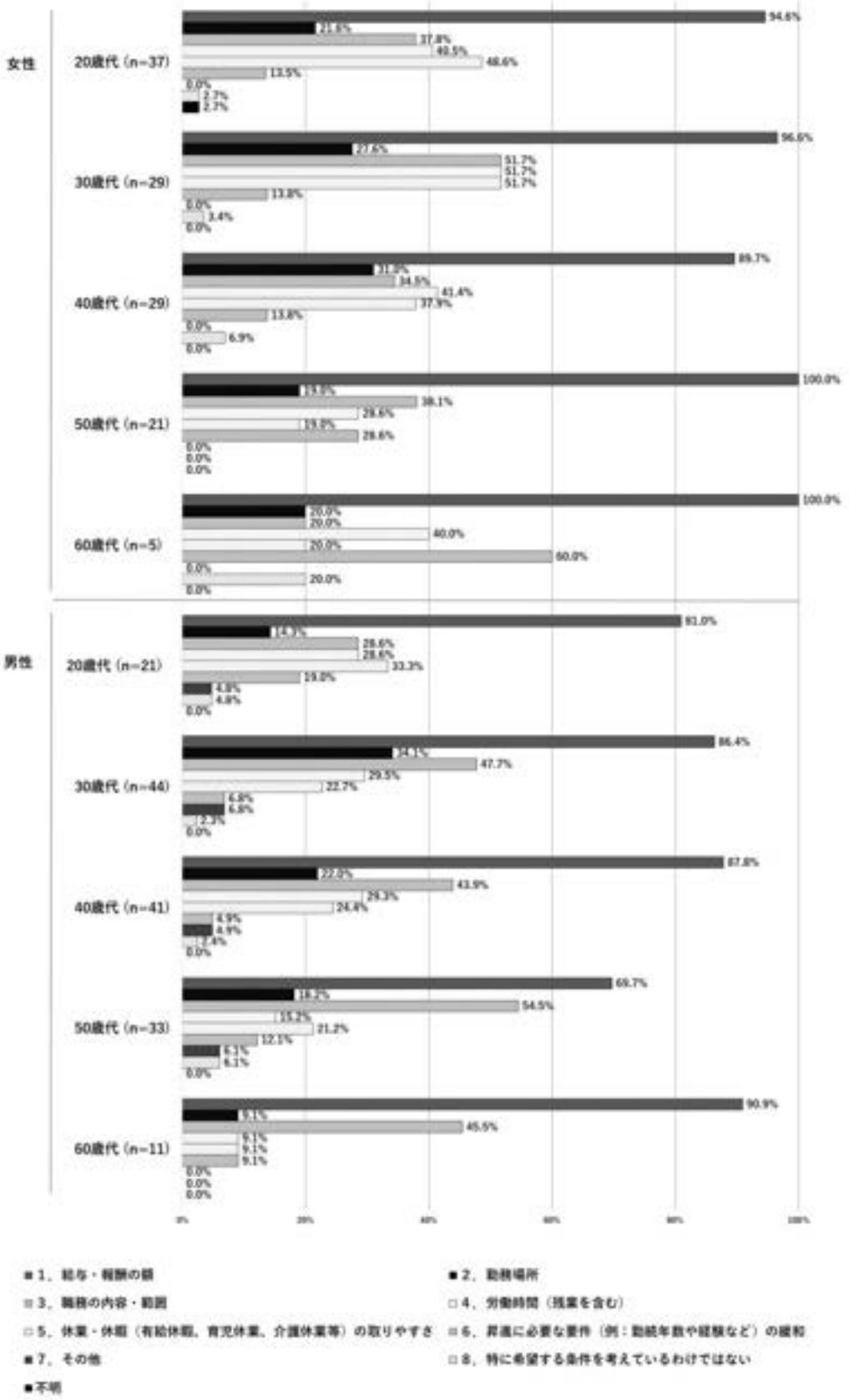
一方、「労働時間」を考慮する割合は、女性の 20 歳代～40 歳代と 60 歳代では 40%以上となっている半面、男性の 20～40 歳代では 30%弱と、性・年齢層別で差異が見られる。また、「休業・休暇の取りやすさ」でも、20～40 歳代の男女の割合には 10%以上から 30 歳代では約２倍もの開きが見られる。こうした回答結果を、問 16 で選択肢「家庭の事情」を選んだ人の割合などと合わせて考察してみると、やはり今なお、「男性は外で働き、女性が家庭の仕事を請け負う」という固定的性別役割分担意識が一定程度影響を及ぼしているようにも思われる。

一般的に、家事・育児・介護と仕事との両立を難しくする要素のひとつとして「転勤」が考えられる。しかし今回の調査においては、「勤務場所」については男女で回答の差異はさほどなかった。これは男女ともに地元企業勤務が多く、大きな転勤を想定していないということでもあろうか。

「昇進に必要な条件の緩和」を選んだ回答者の割合は、60 歳代女性が 60%、ついで 50 歳代女性も 30%弱と、それ以下の年代、あるいは男性全般と比べて突出して高い。これは男女雇用機会均等法（昭和 60 年成立）をはじめとする諸々の体制整備のメリットを享受できたかどうかによる違いと考えられよう。世代や性別によらず、意欲と能力がある人が正当に評価され、平等に昇進の機会を獲得できるような制度整備が望まれる。

図表56

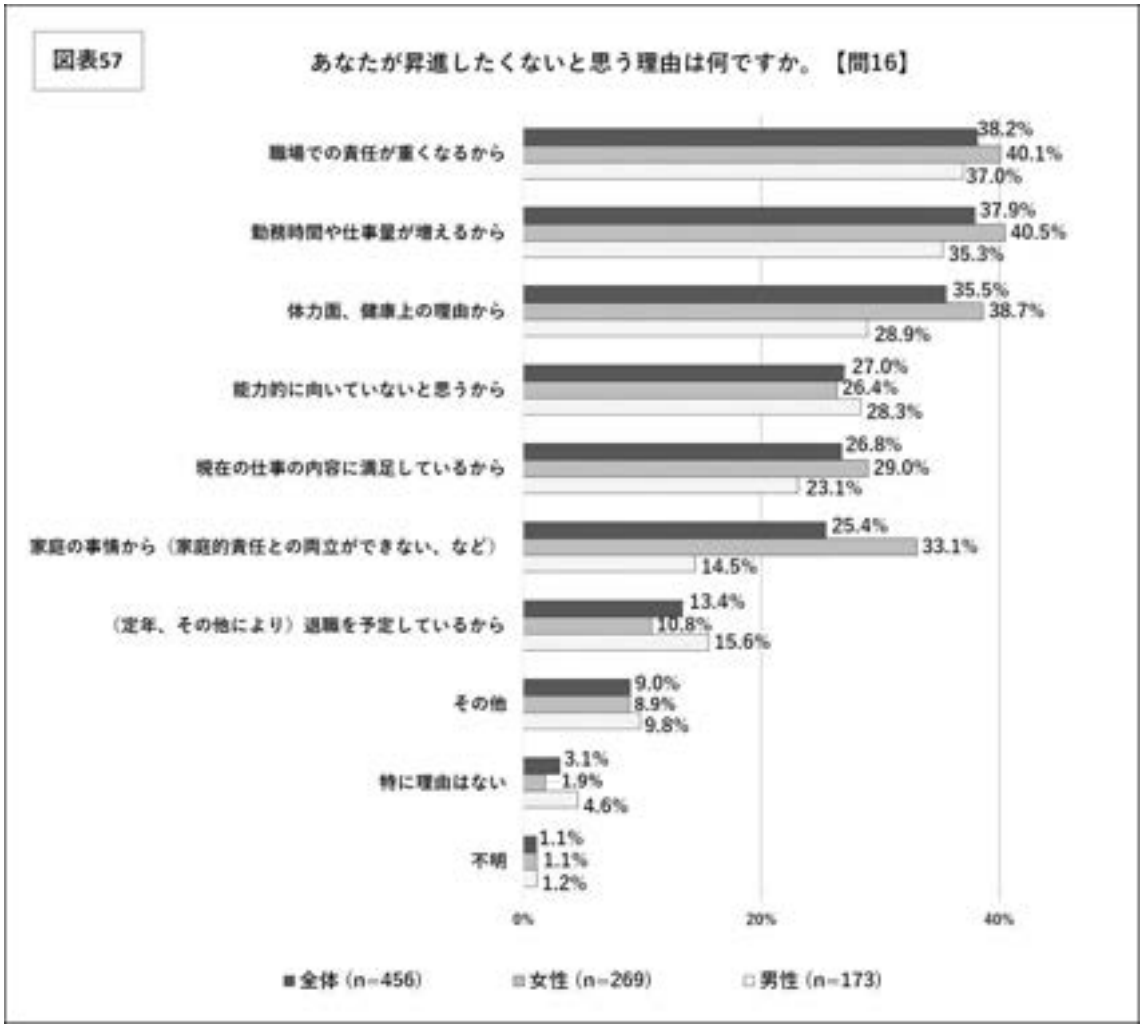
あなたはどのような条件が整うと、昇進したいですか。【問15】



(4) 昇進したくない理由

「あなたは現在の職場で昇進したいと思いますか」という質問に対して「(どちらかといえば) 昇進したくない」と回答した人に対象を絞り、いくつかの選択肢を挙げ、当てはまるもの全てを選んでもらった (図表 57)。

全体では、割合が高い順に「職場の責任が重くなるから」38.2%、「勤務時間や仕事量が増えるから」37.9%、「体力面、健康上の理由から」35.5%となっている。この上位 3 つの理由については顕著な男女差は見られなかった。一方、「家庭の事情」を選んだ割合は、女性 33.1%、男性 14.5%と大きな開きがある。



「責任が重くなる」「勤務時間や仕事量が増える」ことへの負担感は、20 歳代から 50 歳代までの世代にほぼ共通して見られるようである。自由記述欄にも、責任と報酬のアンバランス、仕事以外にかける時間の大切さ、を理由に挙げたものが複数見られた（図表 58)。

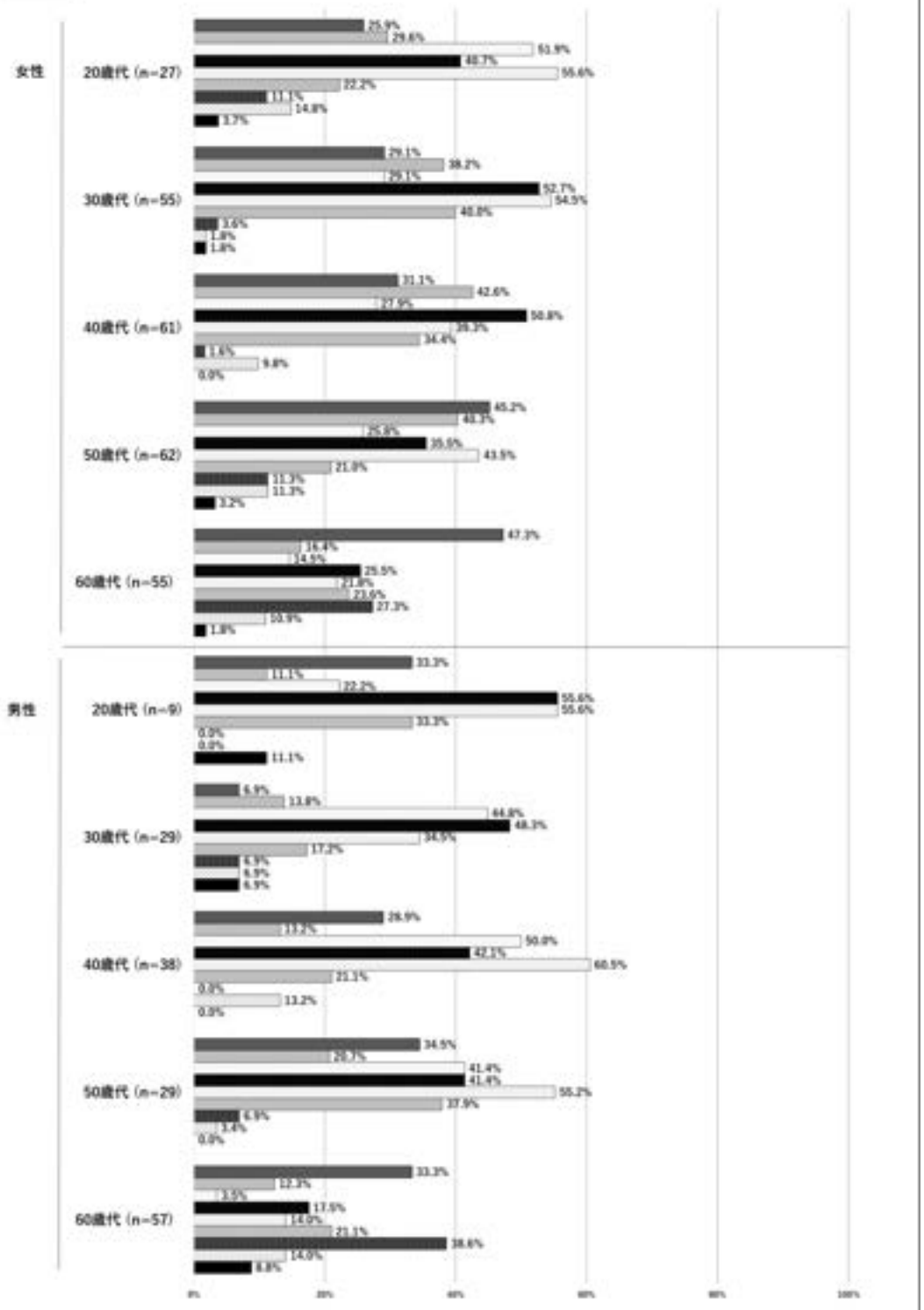
「家庭の事情」を選んだ割合は男性よりも女性、そして女性の中でも正社員・正職員よりも非正社員・非正職員が高い。このような雇用形態による違いは男性には見られなかった。「家庭の事情」が昇進の妨げとなる割合については、それぞれの回答者の家族形態とも照らし合わせて検討する必要性があろう（図表 59、60)。

他方では、「能力的に向いていない」という選択肢を選んだ人の割合を性・年齢層別に見てみると、興味深い違いが見いだされる。20 歳代では約半数の女性が選んでいる一方、男性では 22.2%にとどまっている。これに対し、（より就労経験が豊富と思われる）30 歳代から 50 歳代においては、「能力的に向いていない」を選ぶ人の割合が、男性では高く、女性では低くなっている。これは、経験を重ねるうちに自らの能力を再認識するようになる女性が多い証左なのかもしれない。条件さえ整えば自身の能力を今以上に発揮できそうだと考えている女性は少なからずいるだろう（図表 58)。

雇用形態による違いについても若干の検討を行っている。正社員・正職員では「責任の重さ」や「勤務時間や仕事量が増える」と回答するものの割合が最も高かったのに対し、非正社員・非正職員では「体力的・健康上の理由」を挙げる人の割合が最も高い。また、非正社員・非正職員のとりわけ 30 歳代、40 歳代女性には「現在の仕事に満足しているから」の割合が突出して高めであった（図表 61、62)。

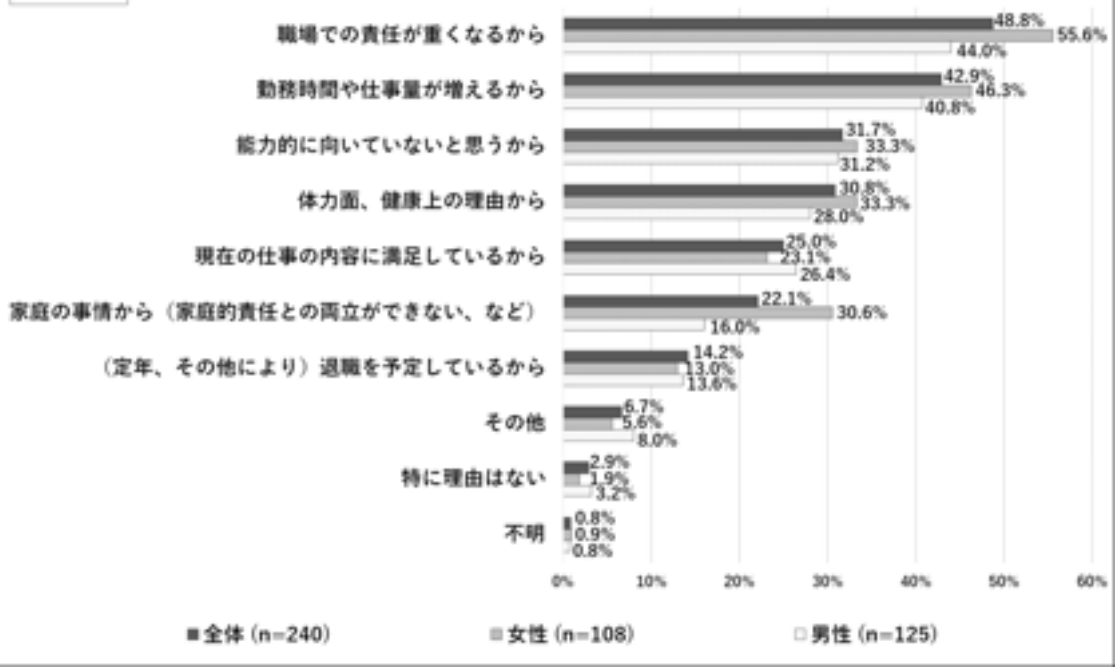
図表58

あなたが昇進したくないと思う理由は何ですか。【問16】



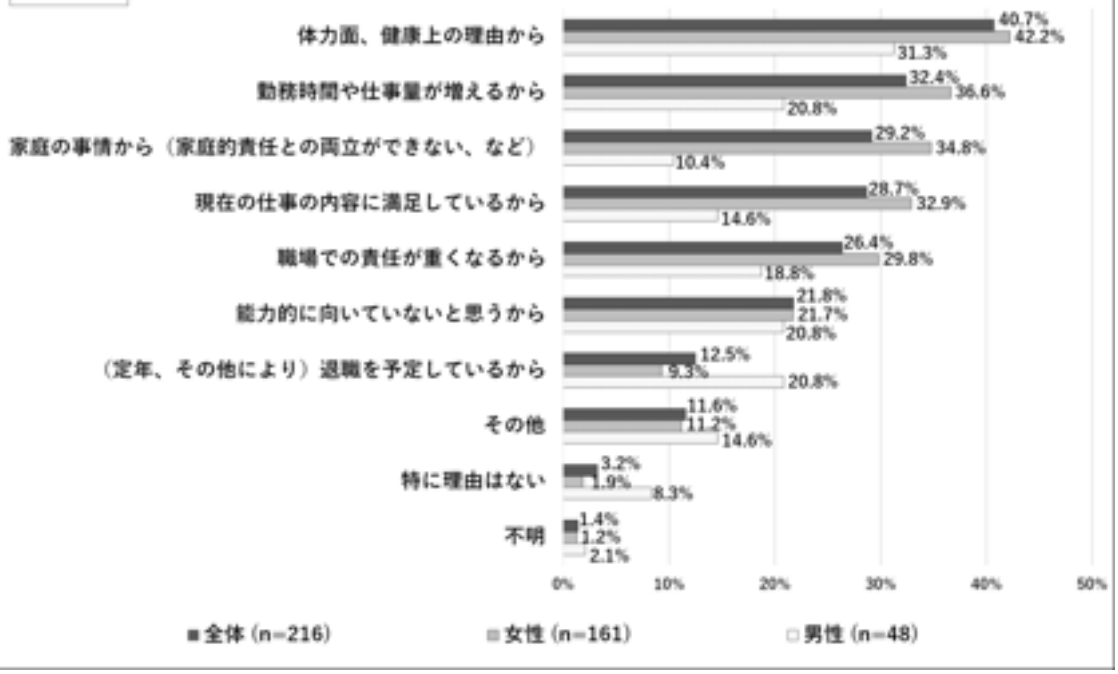
図表59

昇進したくないと思う理由(正社員・正職員)【問16】



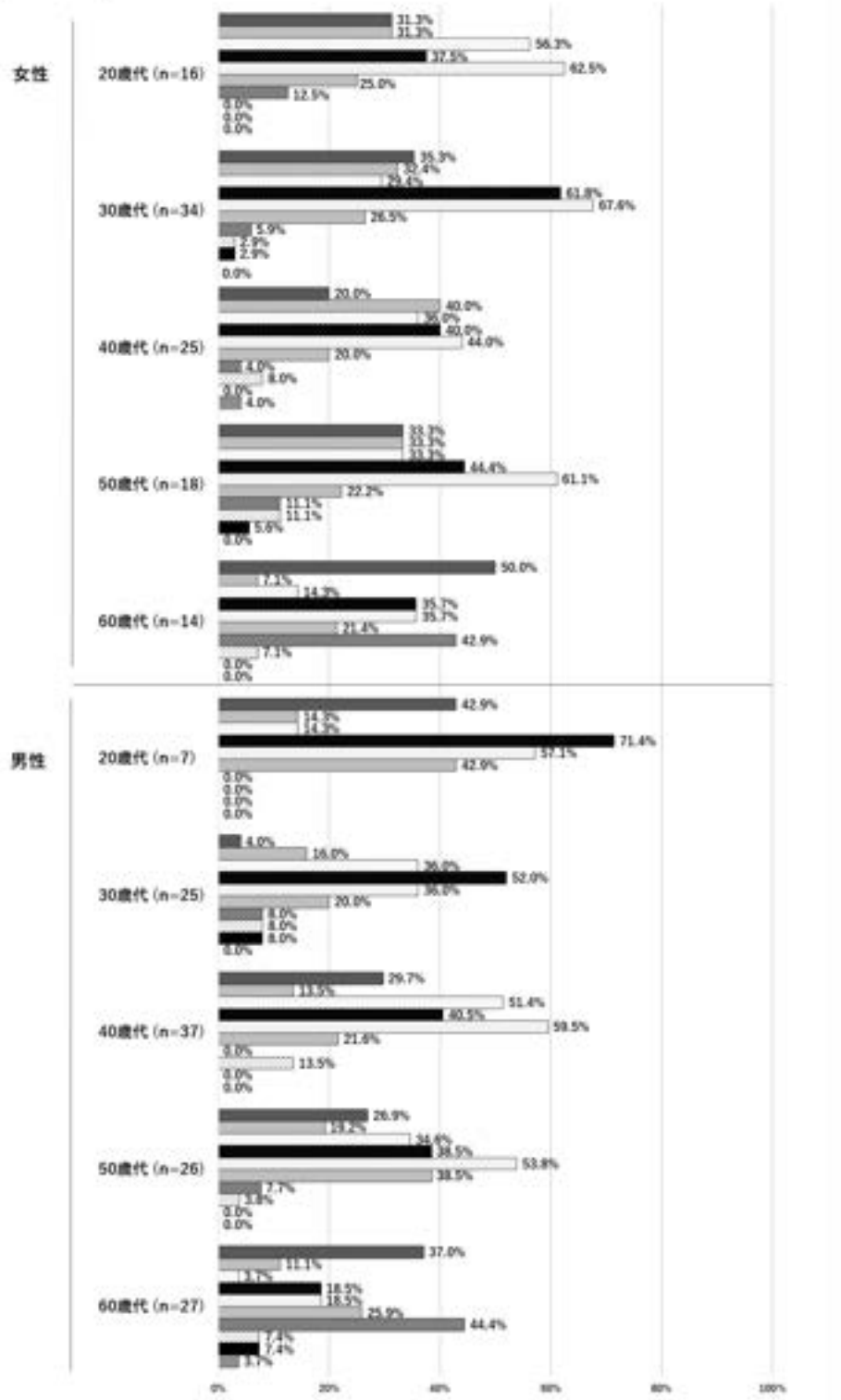
図表60

昇進したくないと思う理由(非正社員・非正職員)【問16】



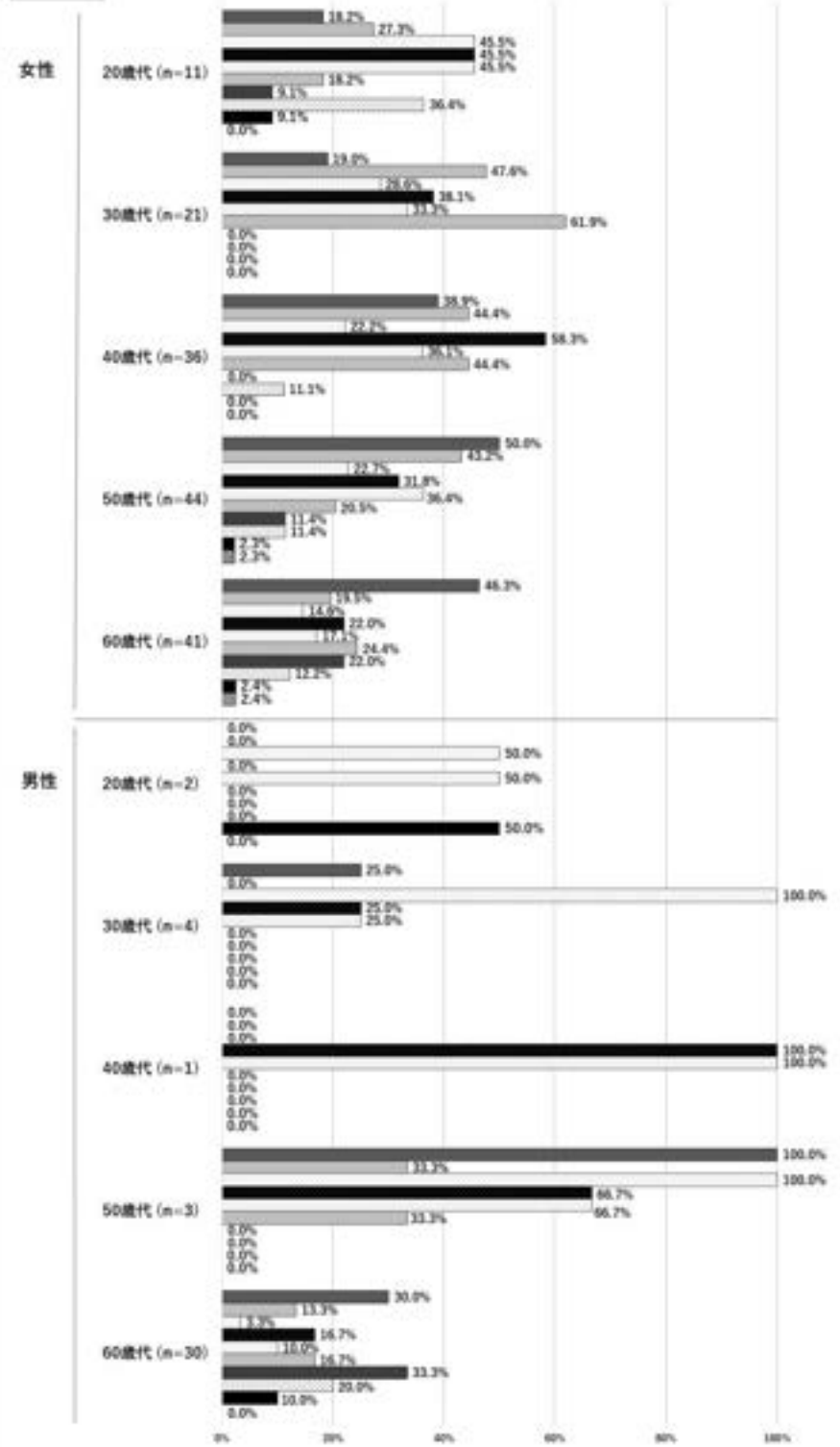
図表61

昇進したくないと思う理由（正社員・正職員のみ）【問16】



図表62

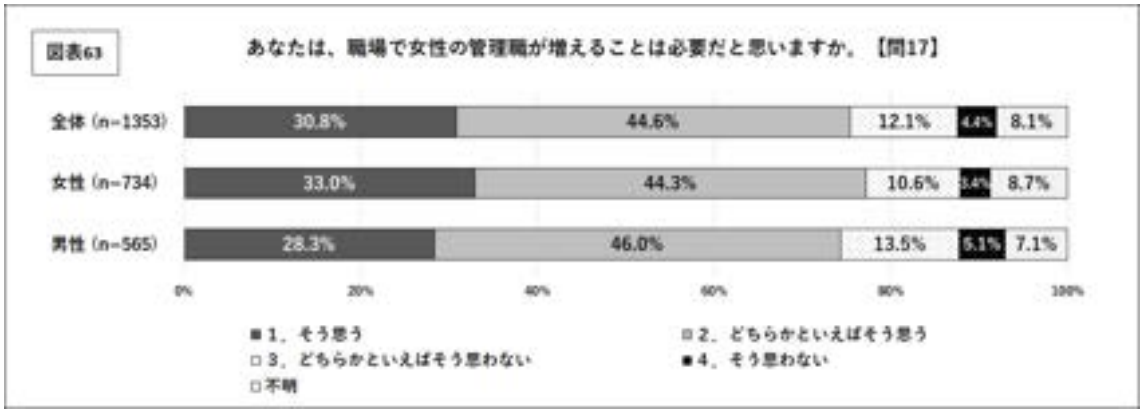
昇進したくないと思う理由（非正社員・非正職員のみ）【問16】



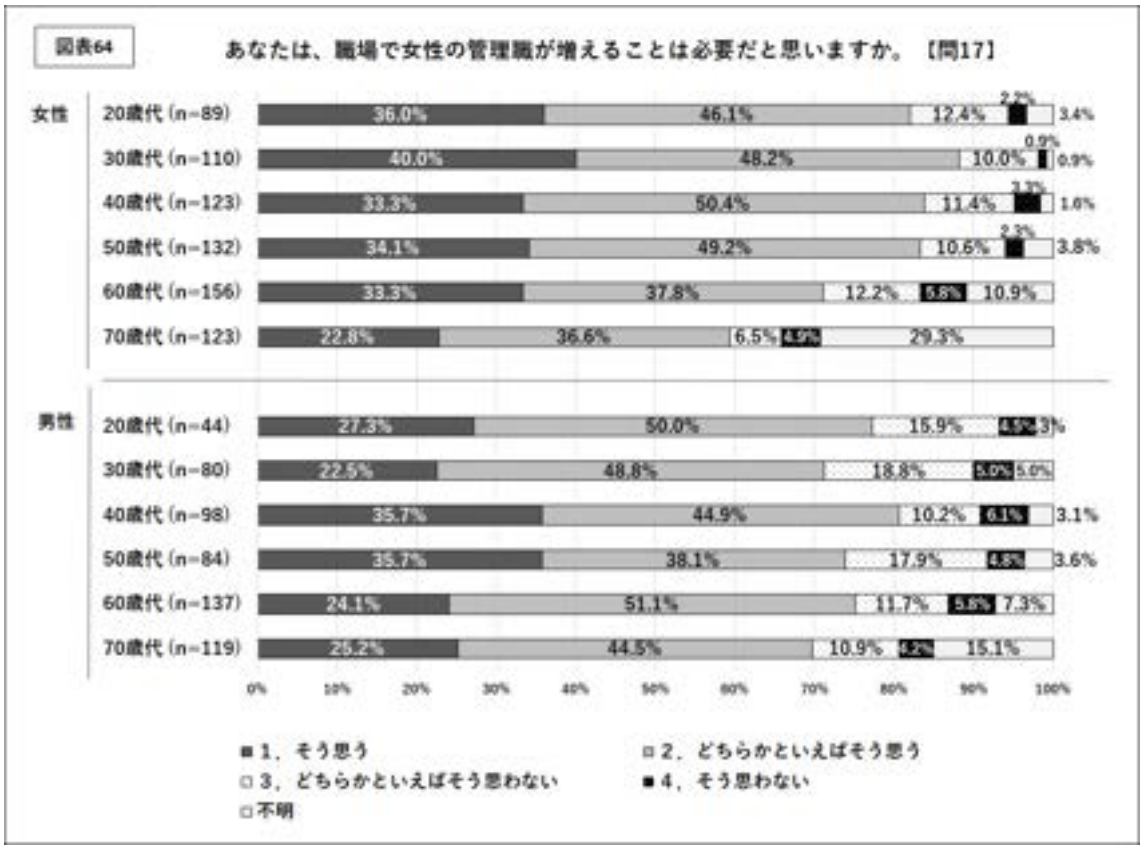
２　女性の管理職が増えることについて

(1) 女性の管理職が増えることの必要性

女性の管理職が増えることの必要性に関する質問に対しては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人は男女ともにほぼ全ての年代で７割を超えた（図表 63)。今回の調査結果を見る限り、女性の管理職が増える必要性については、松山市民の間でも、全体的にはほぼコンセンサスが得られているような印象を受ける。ただし、この種の質問に対しては、「このように答えておく方が世間的に無難であろう」という考慮が一定程度影響を及ぼしている可能性もあることに留意が必要であろう。後述するように、そのためにどのような変革が必要かを問う設問では、概して、社会や男性の側の変革が求められるような項目を選ぶ割合は、男性は女性より低めとなっている一方、女性自身に変革が求められるような項目に関しては、そうした違いがさほど顕著に見られない。



性・年齢層別の回答結果を見比べると、「必要である」と回答した人の割合は、女性では 70 歳代以上、男性では 30 歳代と 60 歳代以上の間で低めである。世代による意識の差に加え、30 代男性における割合の低さは、ちょうど仕事と家事・育児との両立という問題に直面している世代であるだけに看過できないように思われる（図表 64)。



(2) 女性の管理職が増えるために必要なこと

「女性の管理職を増やすために必要なこと」について、当てはまるものを複数回答してもらった。「企業が、女性が管理職として活躍しやすい職場風土をつくる」が女性65.8%、男性59.1%と1位であった。以下、「女性自身が必要な知識や経験などを持つ」女性54.4%、男性50.3%、「行政が保育・介護の公的サービスを整備する」女性52.3%、男性41.6%と続く（図表65）。

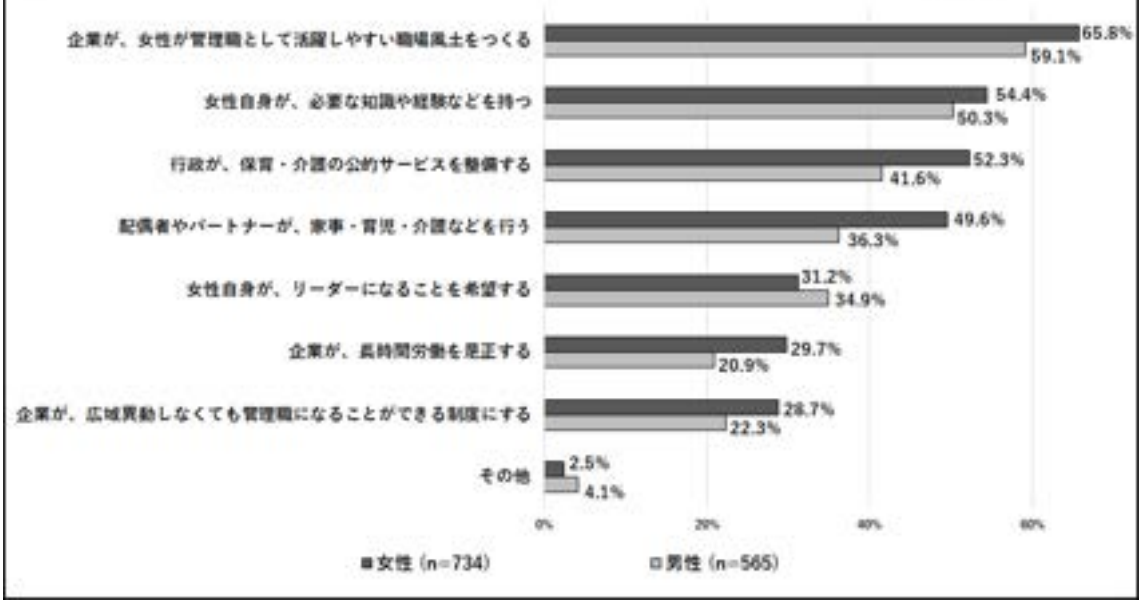
前回（平成27年）調査との比較においては、職場風土の問題か女性自身の問題かについて、僅差ながら男女間で優先順位の違いも見られたものの（図表66）、今回の調査結果においても、全体的な構図に大きな変化は見られない。

「長時間労働の是正」についてはどの年代においても女性の方が男性より回答した割合が高い。根強く残っている長時間労働の問題について、男性がいわば所与の前提として受け容れているのに対し、意識の上でも実態の面でも、そのしわ寄せが依然として女性に偏っている可能性があるのではないか。実際、20歳代～60歳代の女性の約半数が「配偶者やパートナーが家事・育児・介護などを行う」を必要なこととして選んでいる半面、男性は全ての年代において20～40%台しかこの選択肢を選んでいない。また、企業による職場風土の醸成や、行政による公的サービスの整備に関しても、各年代において男女間ではこれを選ぶ割合に10%前後の差異が見られた（図表67）。

図表65

あなたは、職場で女性の管理職が増えるにはどのようなことが必要だと思いますか。

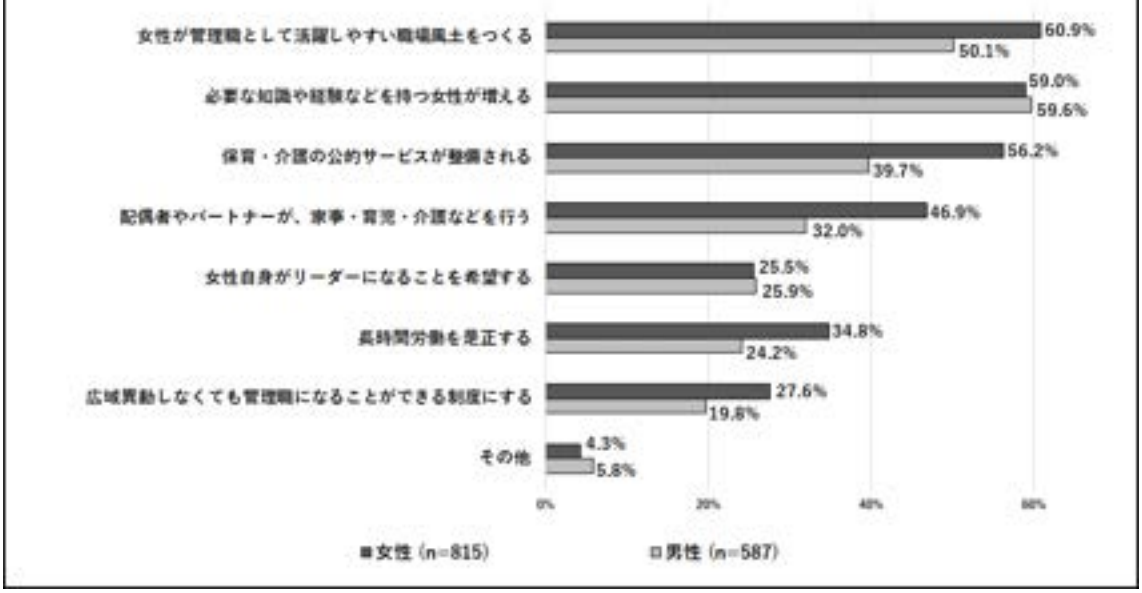
【問18】



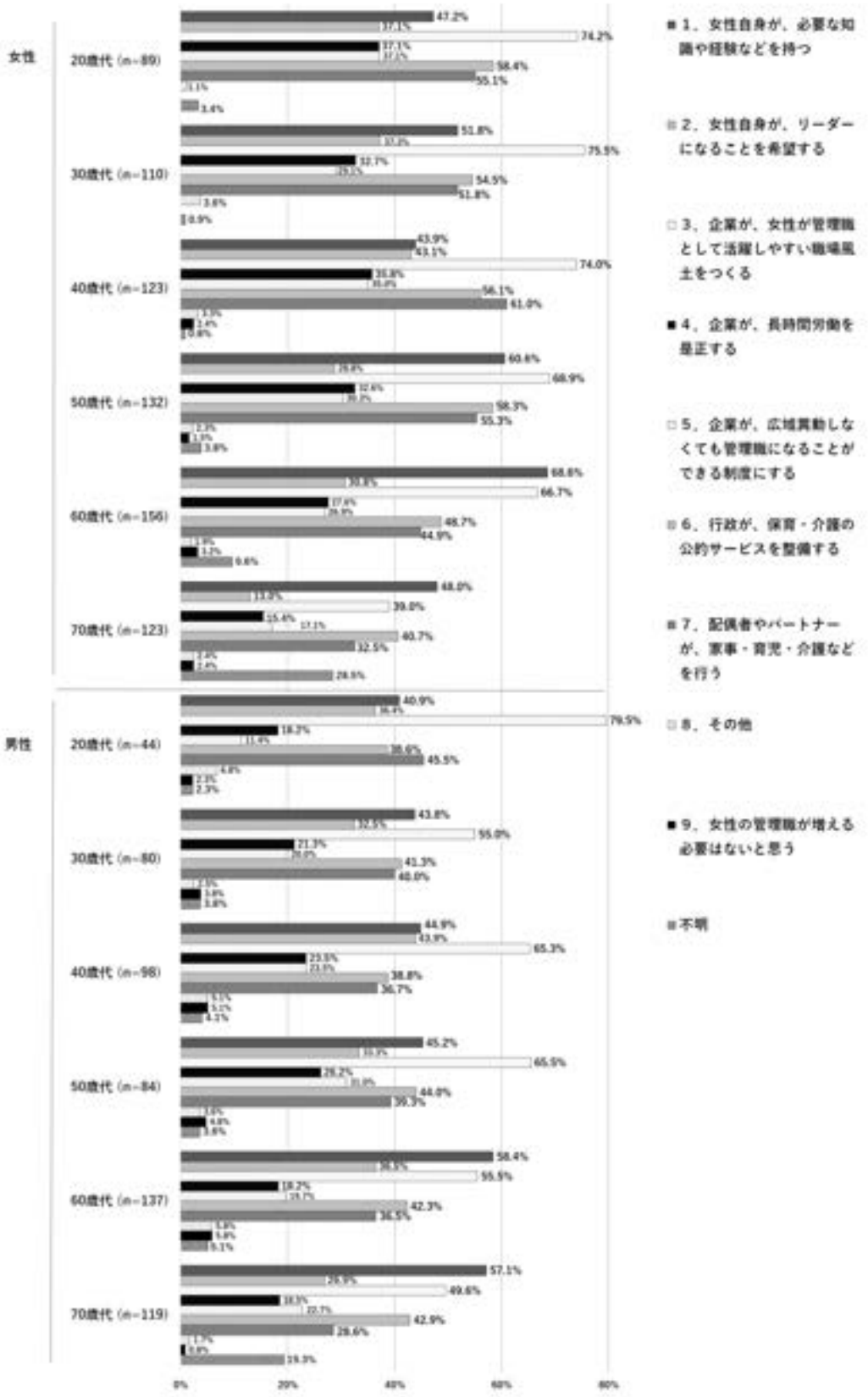
図表66

あなたは、職場で女性の管理職が増えるにはどのようなことが必要だと思いますか。

【平成27年調査　問8】



図表67　あなたは、職場で女性の管理職が増えるにはどのようなことが必要だと思いますか。【問18】



３　小括

(1) 結果の要約

以上の調査結果を要約すると次のとおりである。

1) 昇進の意欲

全体的には男性の方が女性よりも昇進意欲が高い。昇進意欲が最も高いのは 20 歳代で、男女ともに、年代が上がるほど「昇進したくない」と答えるものの率が上がる傾向にある。

2) 昇進の条件

第１位が「給与・報酬」、次いで「職務内容」「労働時間」「休業・休暇の取りやすさ」と続く。「労働時間」や「休業・休暇の取りやすさ」を選ぶ率は男性より女性が高い。

3) 昇進したくない理由

男女共通して「職場の責任が重くなる」「勤務時間や仕事量が増える」ことへの負担感が大きいようである。「家庭の事情」を選んだ割合は、男性より女性、また女性の中でも正社員・正職員よりも非正社員・非正職員層が高い。

4) 女性の管理職が増えることについての必要性

「どちらかといえばそう思う」を含めると、男女ともにほぼ全世代で７割超がその必要性を感じているという回答結果となっている。

5) 女性の管理職を増やすために必要なこと

「企業による職場風土の醸成」、「女性自身の知識や経験」、「行政による公的サービスの整備」、「配偶者・パートナーが家事・育児・介護などを行うこと」など、企業、行政、個人それぞれに求められる課題が多く残っている。また、男性よりも女性の方がそれらの課題解決についてより切実に希望しているように思われる。

(2) 考察

女性の継続就労や昇進についても肯定的に捉える見方は、少なくとも表面的には社会の中で浸透しつつあるように思われる。しかし、意欲や能力があれば誰でも、性別や現在の雇用形態などにとらわれず組織の意思決定過程に参画できるようになるには、人々の意識と社会のしくみの両面において、まだ変化の必要性があるようにも思われる。

第３章　ワーク・ライフ・バランス

１　生活時間

「１週間を振り返り、あなたの１日あたりの平均的な時間の使い方を教えてください」（問５）として、Ａ家事、Ｂ育児、Ｃ介護、Ｄ就労、Ｅ学業、Ｆ趣味、Ｇ地域活動の７つの行動種類に分け、平日と休日に分けて時間を記入してもらった。

まず、全体、性別ごと、年代ごとの平均値から、今回調査時点での生活時間の様子を見ていく（図表 68）。

図表 68　一日あたりの平均的な時間の使い方　【問５】

		全体	女性	男性	20代女性	30代女性	40代女性	50代女性	60代女性	70代女性	20代男性	30代男性	40代男性	50代男性	60代男性	70代男性
A家事	平日	2:19	3:03	1:16	1:51	2:38	3:22	3:06	3:27	3:30	1:11	1:11	1:03	0:57	1:15	1:53
	休日	2:53	3:40	1:49	2:30	3:24	4:21	3:59	3:46	3:40	1:52	2:23	1:55	1:41	1:28	1:47
B育児	平日	1:08	1:40	0:22	2:36	3:28	2:15	0:04	0:04	0:07	0:15	0:49	0:25	0:13	0:06	0:17
	休日	1:55	2:26	1:15	2:58	5:36	3:21	0:04	0:05	0:05	0:43	3:06	1:23	0:54	0:16	0:24
C介護	平日	0:16	0:16	0:14	0:00	0:01	0:01	0:33	0:25	1:01	0:00	0:00	0:02	0:05	0:34	0:42
	休日	0:24	0:28	0:18	0:00	0:01	0:09	0:57	0:48	1:12	0:00	0:04	0:04	0:08	0:34	1:07
D就労	平日	6:42	5:54	7:39	6:19	6:31	6:20	6:41	4:54	3:18	6:56	9:38	9:23	8:57	6:48	2:24
	休日	0:44	0:37	0:49	0:35	0:15	0:28	0:34	0:56	1:28	0:54	0:55	0:43	0:33	0:48	1:00
E学業	平日	0:45	0:52	0:39	2:48	0:48	0:12	0:12	0:19	0:21	2:36	0:03	0:33	0:00	0:36	0:00
	休日	0:25	0:29	0:19	1:10	0:45	0:02	0:15	0:05	0:26	1:16	0:18	0:15	0:00	0:10	0:04
F趣味	平日	1:38	1:36	1:41	1:55	1:46	1:26	1:19	1:34	1:47	2:45	1:47	1:11	1:16	1:32	2:09
	休日	2:56	2:33	3:20	3:43	3:21	2:11	2:24	1:47	1:46	5:53	3:59	2:56	3:18	2:44	2:48
G地域活動	平日	0:05	0:04	0:05	0:00	0:01	0:05	0:03	0:05	0:23	0:00	0:03	0:01	0:03	0:04	0:24
	休日	0:08	0:04	0:10	0:02	0:03	0:04	0:03	0:09	0:12	0:00	0:00	0:05	0:08	0:19	0:28

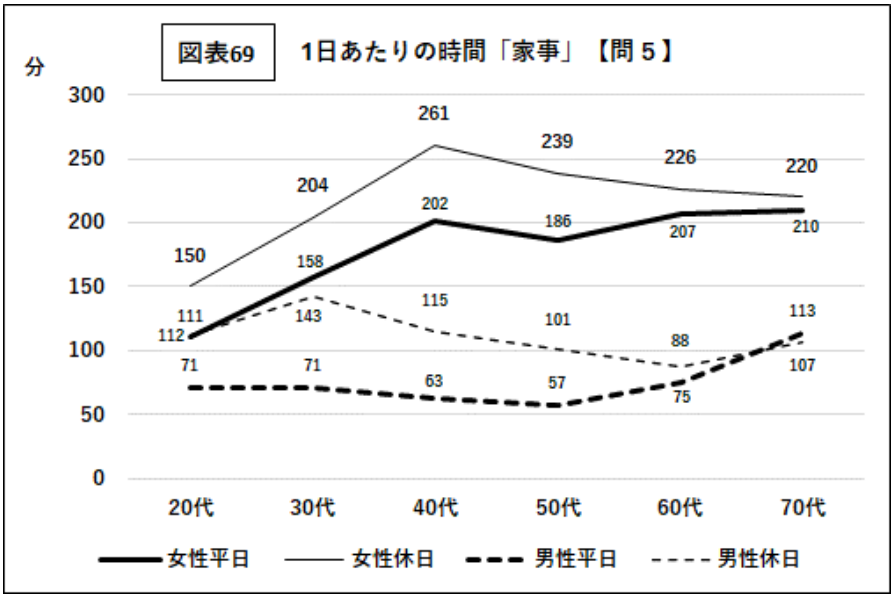
(1) 行動の種類別の生活時間の様子

① 家　事

まず、家事に当てられている平均の時間は、女性の平日で３時間３分、休日では３時間 40 分、男性は平日が１時間 16 分、休日が１時間 49 分である。一日の「家事」時間が最も長かったのは、40 歳代女性の休日で、４時間 21 分に達した。

平日と休日を比較すると、ほぼ全ての層で休日の方が家事時間は長い。特に平日と休日の差が大きいのは、男性の 30 歳代（休日の方が１時間 12 分長い）、女性 40 歳代（同 59 分）など 30 歳代から 50 歳代の層であり、休日に家事を集めて行っている様子がわかる。

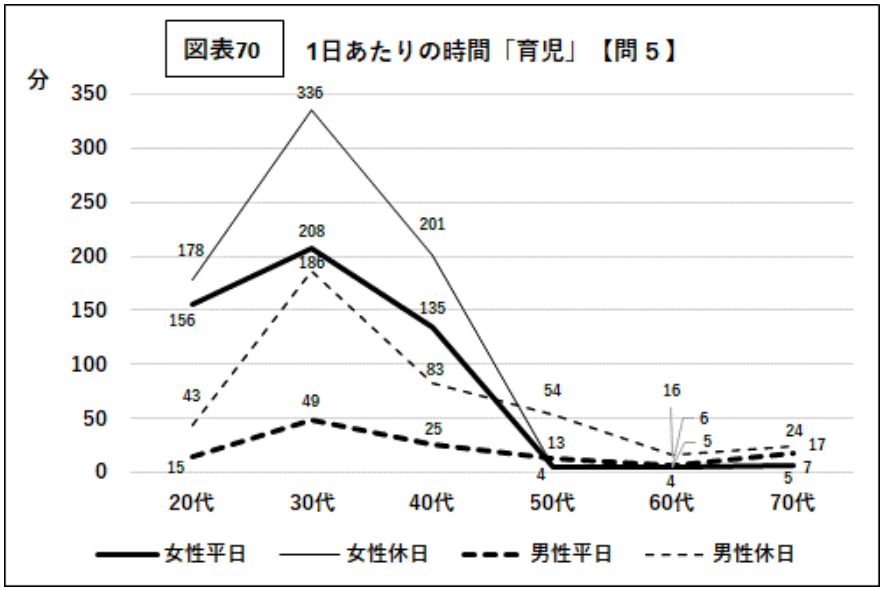
男女の差を見ると、30 歳代以降の全ての年代で男性より女性の方が家事時間は２時間程度長いが、その差は休日も平日と大きくは変わらない（図表 69）



② 育　児

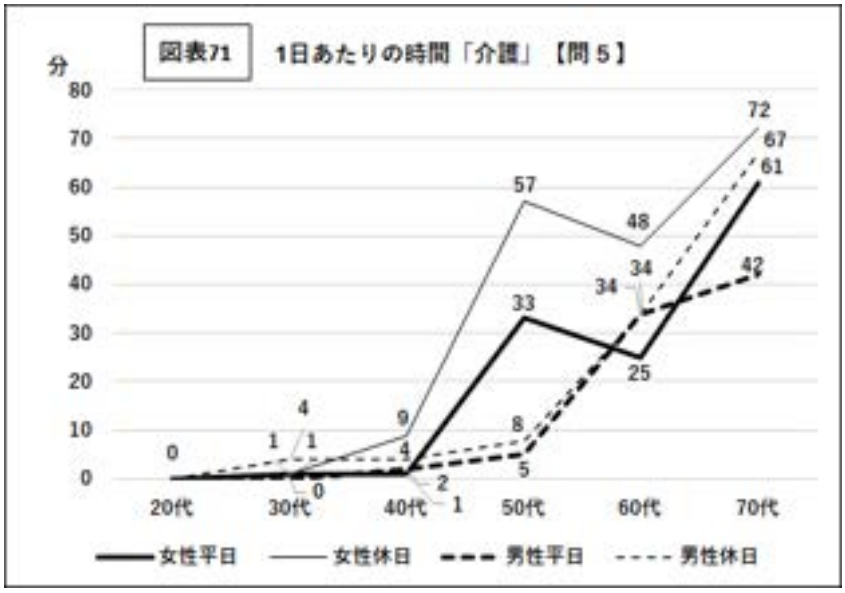
育児時間が最も長いのはやはり 20 歳代から 40 歳代であり、それ以降は大幅に下がる。特に長いのは 30 歳代女性で、その平均は平日で３時間 28 分、休日には５時間 36 分に及んでいる。この年代の女性の育児負担の大きさと、また休日に平日よりもさらに長い時間を育児に当てている現状がうかがえる。

男性の育児時間は平日で 30 歳代 49 分、40 歳代 25 分となっており、この年代の男女の育児時間の差は大きい。男性も休日の育児時間は平日より長い（30 歳代男性は最も長く、３時間６分である）が、女性も休日の育児時間は同様に長く、育児時間の男女差は平日も休日もほぼ同じである（図表 70）。



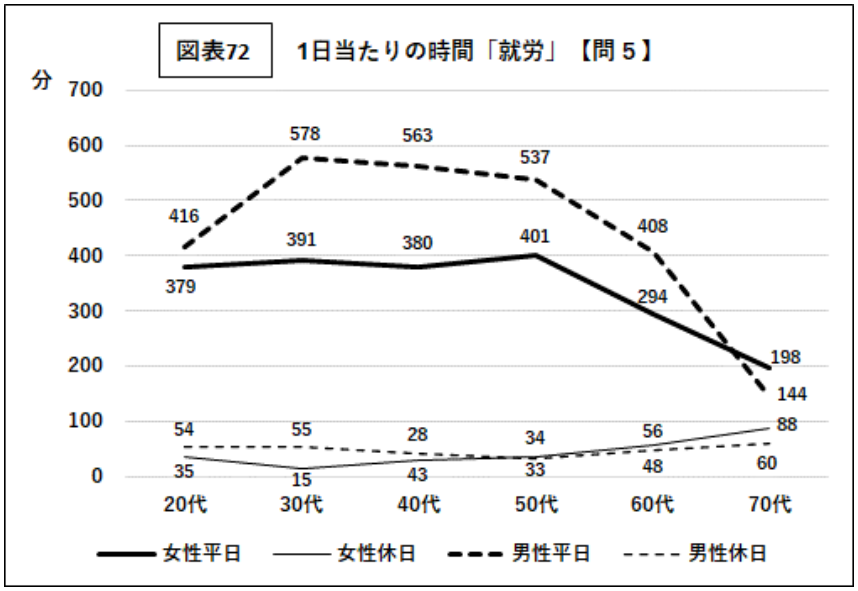
③ 介　護

介護時間は、40 歳代までは「０」とする回答が多く、平均で見るとその年代までは男女とも短いものとなっている。大きく伸びるのは図表 71 に見るように 50 歳代からである。その増加は特に女性において顕著で、休日の 50 歳代女性で 57 分となっている。介護時間が最も長いのは男女とも 70 歳代（70 歳代男性休日１時間７分、70 歳代女性休日１時間 12 分）であり、介護者の高齢化とその介護負担の問題が生活時間からもうかがえる。



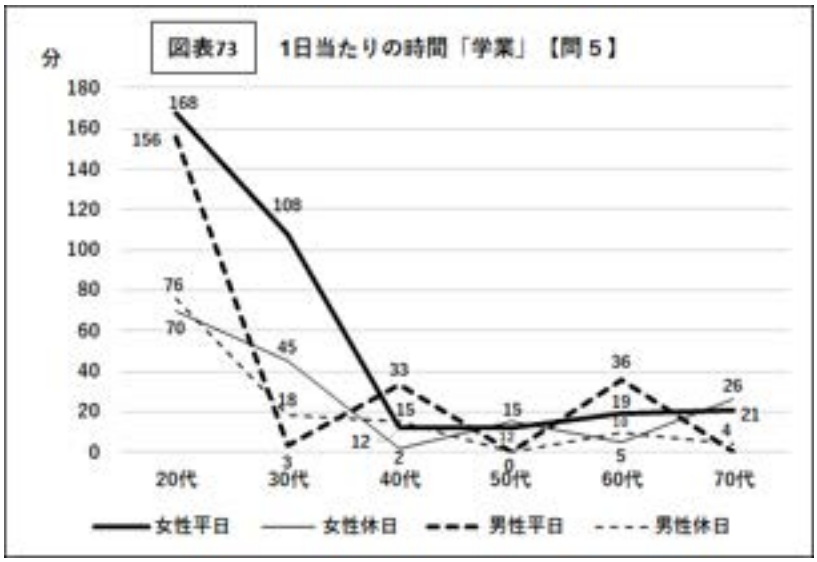
④ 就　労

平日の就労時間は、女性全体で平均５時間 54 分、男性全体で平均７時間 39 分である。年代による推移を見ると、男性は最も長い 30 歳代で９時間 38 分に達するなど、30 歳代から 50 歳代まで８時間を超えている。女性は、20 歳代（６時間 19 分）からそれ以降ほぼ横ばいに推移しており、最も長いのは 50 歳代で６時間 41 分となっている（図 72）。



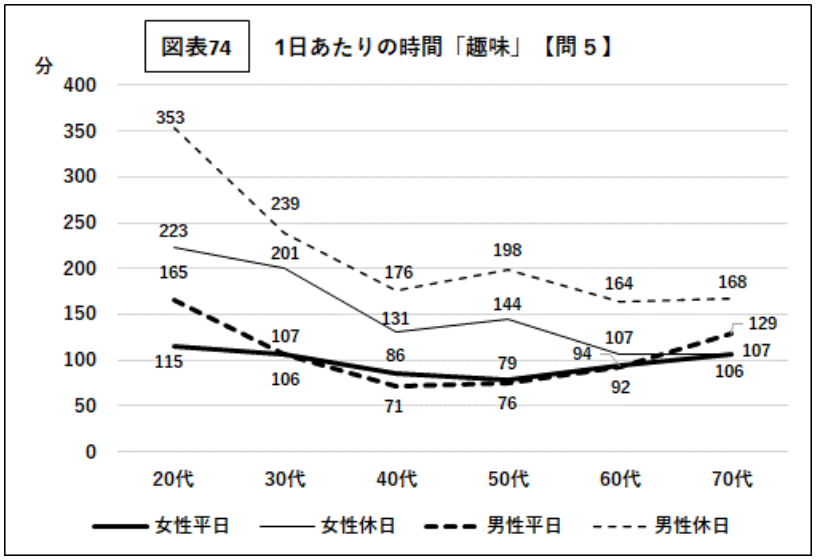
⑤ 学　業

学業時間の多いのはやはり 20 歳代であり、20 歳代女性の平均は平日で２時間 48 分、休日で１時間 10 分、20 歳代男性の平均は平日で２時間 36 分、休日で１時間 16 分である。平日、休日ともに女性の方が男性よりも長い（図表 73）。40 歳代以上の年代は、学業に当てている時間は少なく、平均で数分から 30 分程度となっているが、性別で比較すると、多くの年代で女性の方がわずかに長い。



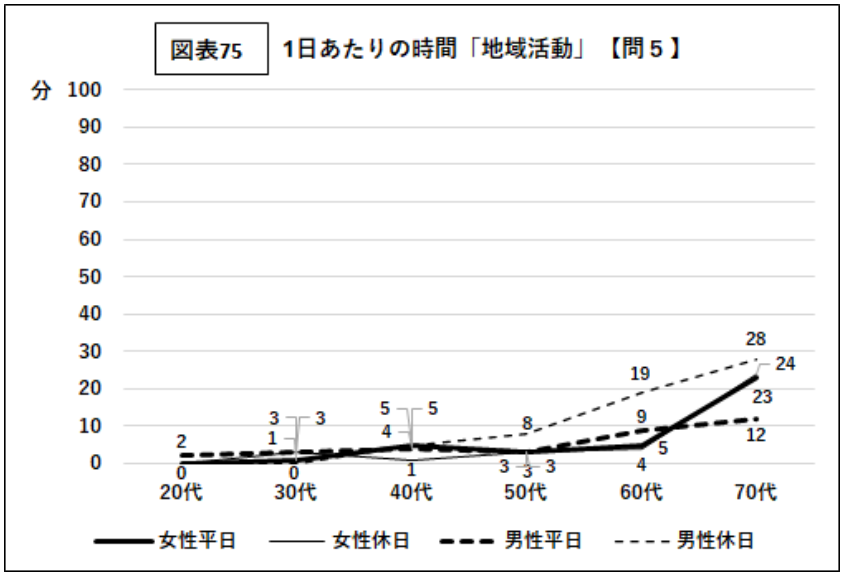
⑥ 趣　味

趣味に当てる時間は、女性全体の平均は平日１時間 36 分、休日２時間 33 分、男性全体の平均は平日１時間 41 分、休日３時間 20 分である。年代による推移を見ると、男女とも 20 歳代は長い時間を趣味に当てており、40 歳代にかけて減少していき、50 歳代以降以降でやや上がる。平日と休日では当然ながら休日の方が長い。性別で比較すると、平日は違いはあまりないが、休日は全年代にわたって男性の方が長く、その差はおおむね 50 分程度となっている（図表 74）。



⑦ 地域活動

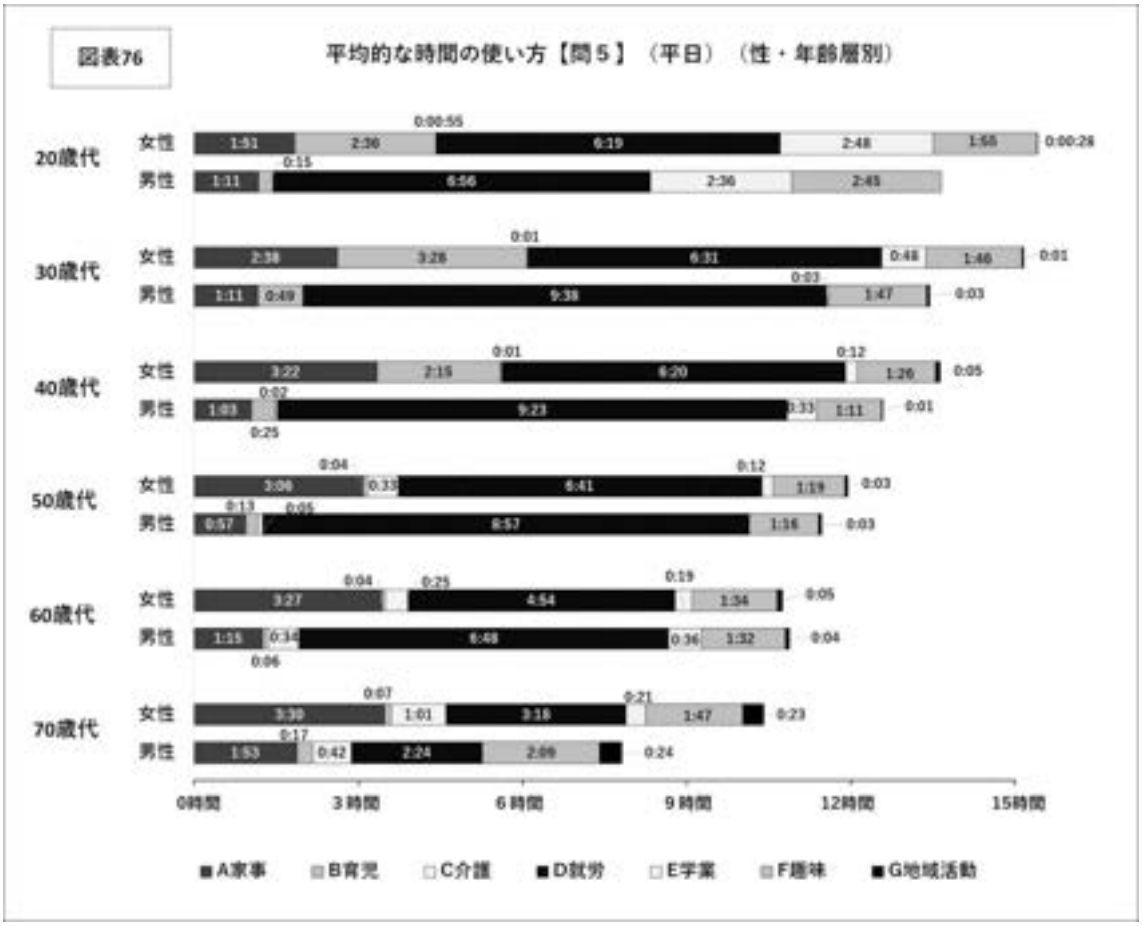
前回（平成 27 年）調査では「地域活動・趣味」としていたが、今回調査ではこの両者を分けて質問した。地域活動に当てる時間は、全年代にわたって短いものであった。休日でも、地域活動時間の平均は女性で４分、男性で 10 分であった。特に 20 歳代、30 歳代は平均で男女とも０分から３分と極めて短い。男性の 50 歳代以降、女性の 60 歳代以降になるとやや時間が増加しているものの、人々の生活のなかに占める地域活動の割合は、総じて極めて小さいという現状が今回の結果からうかがえる（図表 75）。



(2) 一日当たりの平均的な時間の使い方

次に、性・年齢別の７種類の行動時間の平均値に基づいて、一日当たりの平均的な時間の構成を見ていく。

まず、平日を見ると、７種の行動時間の合計は、若い年代ほど長く、高齢になるにつれて減少している（図表 76）。また性別で比較すると、ほとんどの年代で女性の方が男性より長い。家事時間（全年代）および育児時間（特に 20 歳代から 40 歳代）が女性の方が著しく長いことがその大きな要因となっている。７種類の行動の合計時間が最も長い層は 20 歳代女性、30 歳代女性で、15 時間を越えている。総務省の「社会生活基本調査」（令和３年度）の結果によると、必需行動（食事、睡眠および身の回りの世話など）の合計は平日（月～金）で 10 時間 40 分程度、日曜で 11 時間 40 分程度であるから、それと比較しても今回調査の 20 歳代女性、30 歳代女性の回答からはまさに「いっぱいいっぱい」の現状がうかがえる。一方男性は、一日の時間に占める就労時間の割合が大きく、特に就労時間の長い 30 歳代、40 歳代、50 歳代においては、合計時間に占める就労時間の割合もそれぞれ 71.2%、73.9%、77.5%に及んでいる。



各項目のｎ

【家　　事】
女性 20 歳代：86、女性 30 歳代：101、女性 40 歳代：115、女性 50 歳代：121、女性 60 歳代：142、女性 70 歳代：98
男性 20 歳代：40、男性 30 歳代：67、男性 40 歳代：83、男性 50 歳代：73、男性 60 歳代：107、男性 70 歳代：80

【育　　児】
女性 20 歳代：70、女性 30 歳代：88、女性 40 歳代：86、女性 50 歳代：73、女性 60 歳代：73、女性 70 歳代：25
男性 20 歳代：34、男性 30 歳代：59、男性 40 歳代：73、男性 50 歳代：46、男性 60 歳代：70、男性 70 歳代：34

【介　　護】
女性 20 歳代：66、女性 30 歳代：73、女性 40 歳代：76、女性 50 歳代：85、女性 60 歳代：78、女性 70 歳代：29
男性 20 歳代：33、男性 30 歳代：49、男性 40 歳代：71、男性 50 歳代：45、男性 60 歳代：75、男性 70 歳代：37

【就　　労】
女性 20 歳代：78、女性 30 歳代：95、女性 40 歳代：111、女性 50 歳代：107、女性 60 歳代：106、女性 70 歳代：44
男性 20 歳代：38、男性 30 歳代：76、男性 40 歳代：88、男性 50 歳代：76、男性 60 歳代：108、男性 70 歳代：53

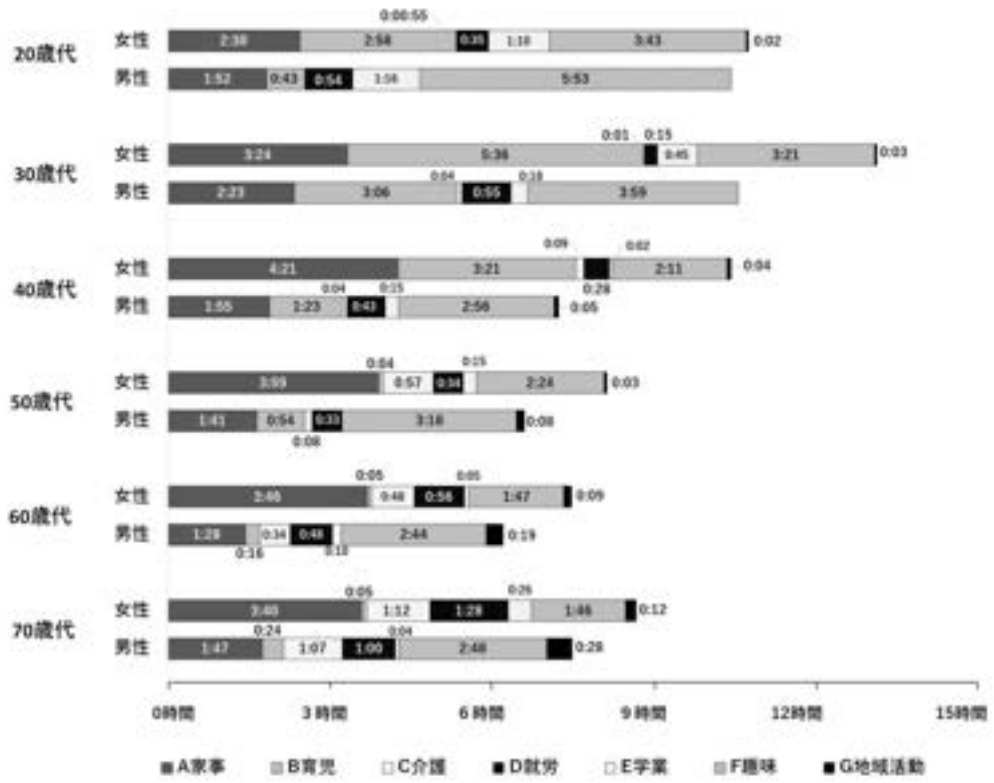
【学　　業】
女性 20 歳代：27、女性 30 歳代：29、女性 40 歳代：21、女性 50 歳代：22、女性 60 歳代：28、女性 70 歳代：11
男性 20 歳代：19、男性 30 歳代：19、男性 40 歳代：20、男性 50 歳代：17、男性 60 歳代：36、男性 70 歳代：15

【趣　　味】
女性 20 歳代：84、女性 30 歳代：88、女性 40 歳代：94、女性 50 歳代：98、女性 60 歳代：112、女性 70 歳代：61
男性 20 歳代：40、男性 30 歳代：64、男性 40 歳代：79、男性 50 歳代：69、男性 60 歳代：97、男性 70 歳代：73

【地域活動】
女性 20 歳代：64、女性 30 歳代：71、女性 40 歳代：74、女性 50 歳代：76、女性 60 歳代：75、女性 70 歳代：30
男性 20 歳代：34、男性 30 歳代：50、男性 40 歳代：71、男性 50 歳代：46、男性 60 歳代：77、男性 70 歳代：39

一方休日を見ると、どの層も、７種類の行動時間の合計は平日よりもおおむね２時間程度短い。性別で比較すると、平日と同様に、男性よりも女性の方が７種類の行動の合計時間は長い。内訳を見ると、「趣味」時間が平日より長いのは男女、および各年代で共通しているが、女性はさらに「家事」、そして子育ての年代ではとりわけ「育児」に多くの時間を当てていることがわかる。特に 30 歳代女性、40 歳代女性においては、休日の行動時間に占める「家事」「育児」の割合は際だって高くなる(それぞれ 67.0%、72.4%)（図表 77)。

図表77　平均的な時間の使い方【問５】（休日）（性・年齢層別）



各項目の n

【家　　事】
女性 20 歳代：84、女性 30 歳代：100、女性 40 歳代：112、女性 50 歳代：121、女性 60 歳代：133、女性 70 歳代：78
男性 20 歳代：39、男性 30 歳代：71、男性 40 歳代：84、男性 50 歳代：74、男性 60 歳代：108、男性 70 歳代：70

【育　　児】
女性 20 歳代：68、女性 30 歳代：86、女性 40 歳代：82、女性 50 歳代：73、女性 60 歳代：67、女性 70 歳代：22
男性 20 歳代：32、男性 30 歳代：59、男性 40 歳代：73、男性 50 歳代：45、男性 60 歳代：69、男性 70 歳代：32

【介　　護】
女性 20 歳代：65、女性 30 歳代：71、女性 40 歳代：74、女性 50 歳代：87、女性 60 歳代：77、女性 70 歳代：27
男性 20 歳代：31、男性 30 歳代：49、男性 40 歳代：67、男性 50 歳代：46、男性 60 歳代：73、男性 70 歳代：34

【就　　労】
女性 20 歳代：70、女性 30 歳代：74、女性 40 歳代：82、女性 50 歳代：73、女性 60 歳代：71、女性 70 歳代：28
男性 20 歳代：31、男性 30 歳代：55、男性 40 歳代：72、男性 50 歳代：51、男性 60 歳代：83、男性 70 歳代：44

【学　　業】
女性 20 歳代：27、女性 30 歳代：28、女性 40 歳代：21、女性 50 歳代：22、女性 60 歳代：28、女性 70 歳代：9
男性 20 歳代：18、男性 30 歳代：19、男性 40 歳代：21、男性 50 歳代：18、男性 60 歳代：36、男性 70 歳代：14

【趣　　味】
女性 20 歳代：81、女性 30 歳代：88、女性 40 歳代：93、女性 50 歳代：100、女性 60 歳代：104、女性 70 歳代：45
男性 20 歳代：39、男性 30 歳代：68、男性 40 歳代：86、男性 50 歳代：72、男性 60 歳代：104、男性 70 歳代：68

【地域活動】
女性 20 歳代：62、女性 30 歳代：70、女性 40 歳代：69、女性 50 歳代：71、女性 60 歳代：69、女性 70 歳代：25
男性 20 歳代：31、男性 30 歳代：48、男性 40 歳代：70、男性 50 歳代：48、男性 60 歳代：77、男性 70 歳代：38

(3) 前回（平成 27 年）調査結果との比較

では、こうした行動種類別の時間は、前回（平成 27 年）の調査時からどのように変容しているだろうか。

図表 78　生活時間の推移（平成 27 年からの増減）（分）【問５】

R4 － H27（分）		全体	女性	男性	女性						男性					
					20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
①家事	平日	-53	-70	-4	-9	-132	-36	-51	-72	-93	9	21	-2	-13	-16	-21
	休日	-39	-65	10	-20	-144	-19	-61	-62	-57	21	59	28	2	-17	-30
②育児	平日	-42	-62	-11	22	-159	45	-29	-30	-6	-16	-10	-16	6	-4	-4
	休日	-64	-83	-34	25	-186	53	-48	-30	-7	-28	-35	-76	41	7	8
③介護	平日	-22	-38	-1	-4	-6	-17	-37	-118	-183	-3	-2	-21	-37	-8	32
	休日	-10	-15	-4	-4	-1	-19	21	-76	-168	-3	1	-3	-27	-33	57
④就労	平日	-35	-16	-62	-23	22	-17	4	-30	-9	-56	-54	-22	-30	-47	-123
	休日	-40	-18	-70	-46	-15	-19	-7	-50	67	-66	-61	-48	-84	-82	-110
⑤学業	平日	-91	-10	-118	-126	84	12	12	19	21	-154	3	33	-90	-84	0
	休日	-26	-6	-60	-11	24	2	15	5	26	-61	18	15	-180	-20	4
⑥地域活動・趣味	平日	4	12	-7	36	36	23	-16	-1	62	15	30	4	-17	-11	-43
	休日	12	18	1	5	69	20	21	-5	-14	78	10	-1	-12	13	-9

図表 78 は、各種類の行動時間を分に換算し、前回と今回の調査結果の差異を性別、平日・休日別に示したものである。マイナスとなっている数値は前回より時間が減少したこと、プラスは前回よりも増加したことを示す（なお、前回調査では、「地域活動・趣味」として尋ねているため、今回調査についても「趣味」と「地域活動」の合計値で示した）。これに基づいて、前回からの推移の様子を行動種類ごとに見ていく。

まず家事に当てられている時間を女性について見ると、前回調査と比較して今回は全年代で減っており、とりわけ 30 歳代女性では平日・休日とも２時間以上という大幅な減少を示している。これに対して男性は、平日の 20 歳代で９分、30 歳代で 21 分、休日は 20 歳代で 21 分、30 歳代で 59 分、40 代で 28 分増加しており、若干ではあるが男性の家事時間の増加傾向を見ることができる。

これに対して育児時間は、30 歳代女性では大幅に減っているものの、20 歳代および 40 歳代女性で逆に増加している。また、40 歳代以下の男性では、育児時間が平日休日ともに減少しており、男性の育児への「参画」が進んでいるとは残念ながらいえない。

就労時間は、平均では男女とも減っている。減少幅は、平均で男性が 62 分、女性が 16 分（いずれも平日）となっており、どの年代を見ても、減少幅は男性の方が大きい。

この就労時間の減少傾向は、全国的な動向とも一致している。例えば総務省の「社会生活基本調査」によると、有業者の「仕事」時間は平成 18 年をピークとして男女とも漸減しており、平成 23 から令和３年までの間で男性は 33 分、女性はそれよりもやや少ない 18 分の減少となっている※。本市調査の平成 27 年と令和４年を比較した結果も、この動向に沿った推移になっているといえる。

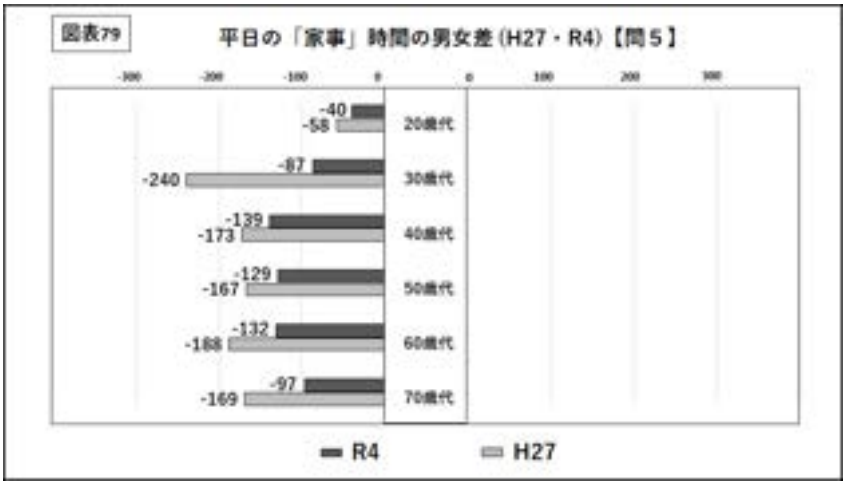
※「社会生活基本調査」令和３年版報告書　より

一方、「家事」「育児」時間については、全国的には女性は減少、男性は増加の推移が指摘されている。たとえば「社会生活基本調査」では、平成 13 年から最近調査までの期間で女性の「家事関連時間」は漸減、男性は漸増が示されており、平成 23 から令和３年の間では男性が 11 分増、女性が 20 分減となって、男女の差は縮小傾向にある※。調査ごとの質問・集計方法も異なるため単純な比較・評価はできないが、こうした全国の動向と比較してみると、本市では若年層を中心に家事時間の増加は見られるものの、上述したように育児時間は減少するなど、男性の家事関連時間は延びているとはいえず、家庭的役割の偏り解消の動きが定着しているとは言いにくい。

(4) 性別間の行動時間の差

次に、「家事」「育児」および「就労」時間の男女差を前回調査と今回調査とで比較した。図表８～10 において、左側（マイナス）は「女性の行動時間の方が長い」、右側（プラス）は「男性の行動時間の方が長い」ことを示す。「０」は「等しい」ことを示す。

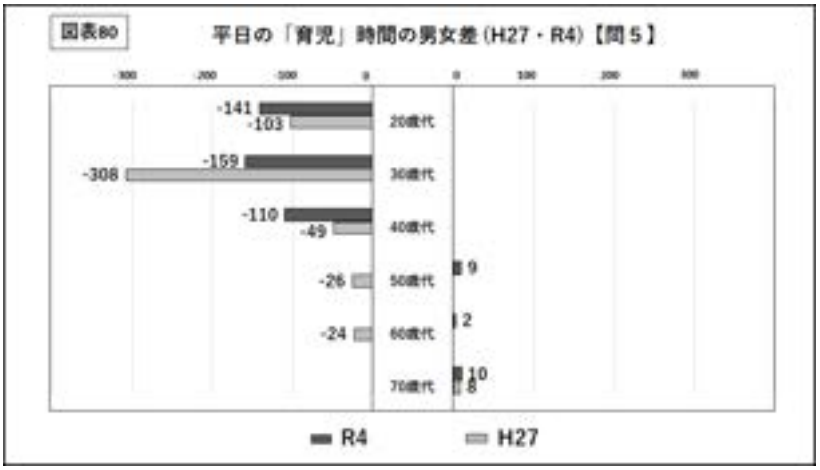
「家事」は、前回調査においてほとんどの年代で 150 分以上女性の方が長く、家事の負担は大きく偏っていたことがわかる。男女差が最も大きかったのは 30 歳代で、女性の方が 240 分も長く家事に携わっている。今回調査ではその差が縮まっている様子を見ることができるが、それでも依然として 90 分近く女性の方が長い。今回調査では、最も差の大きかったのは 40 歳代で 139 分となっている。一方、前回最も差が大きかった 30 歳代では、男性の家事時間が１時間近く延び、差は大幅に縮まった（図表 79）。



各項目の n
【R4　：家事】
女性 20 歳代：86、女性 30 歳代：101、女性 40 歳代：115、女性 50 歳代：121、女性 60 歳代：142、女性 70 歳代：98
男性 20 歳代：40、男性 30 歳代：67、男性 40 歳代：83、男性 50 歳代：73、男性 60 歳代：107、男性 70 歳代：80
【H27：家事】
女性 20 歳代：73、女性 30 歳代：118、女性 40 歳代：134、女性 50 歳代：133、女性 60 歳代：178、女性 70 歳代：102
男性 20 歳代：46、男性 30 歳代：68、男性 40 歳代：73、男性 50 歳代：68、男性 60 歳代：81、男性 70 歳代：67

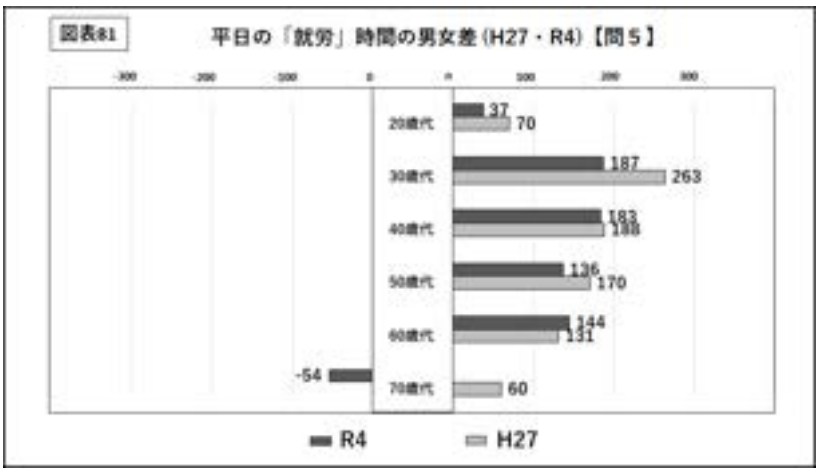
※「家事」「育児」「介護・看護」「買い物」時間の合計を「家事関連時間」として、その推移が示されている。

「育児」も「家事」と同様に、前回調査で男女差の大きかった 30 歳代では、特に女性の時間が短縮したことで、男女差は大幅に縮まった。ただし前述したように、男性の育児時間は伸びておらず、20歳代、40歳代ではむしろ育児時間の男女差は拡大している（図表80）。



各項目のｎ
【R4　：育児】
女性 20 歳代：70、女性 30 歳代：88、女性 40 歳代：86、女性 50 歳代：73、女性 60 歳代：73、女性 70 歳代：25
男性 20 歳代：34、男性 30 歳代：59、男性 40 歳代：73、男性 50 歳代：46、男性 60 歳代：70、男性 70 歳代：34
【H27：育児】
女性 20 歳代：67、女性 30 歳代：104、女性 40 歳代：85、女性 50 歳代：49、女性 60 歳代：44、女性 70 歳代：9
男性 20 歳代：39、男性 30 歳代：63、男性 40 歳代：51、男性 50 歳代：41、男性 60 歳代：33、男性 70 歳代：14

最後に「就労」時間の男女差は、前回調査と今回調査で、ほぼ変わっていない。男女差が最も小さいのは 20 歳代、最大は 30 歳代である。ただし前回調査と今回調査を比較すると、就労時間の男女差が最大となる 30 歳代でもその差は縮小している（図表 81）。

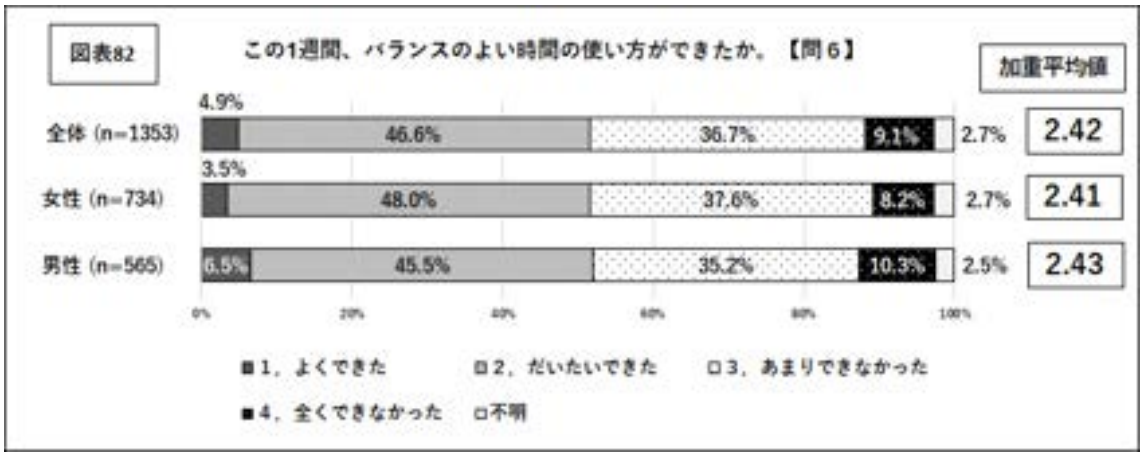


各項目のｎ
【R4　：就労】
女性 20 歳代：78、女性 30 歳代：95、女性 40 歳代：111、女性 50 歳代：107、女性 60 歳代：106、女性 70 歳代：44
男性 20 歳代：38、男性 30 歳代：76、男性 40 歳代：88、男性 50 歳代：76、男性 60 歳代：108、男性 70 歳代：53
【H27：就労】
女性 20 歳代：70、女性 30 歳代：103、女性 40 歳代：116、女性 50 歳代：107、女性 60 歳代：95、女性 70 歳代：21
男性 20 歳代：51、男性 30 歳代：78、男性 40 歳代：80、男性 50 歳代：79、男性 60 歳代：87、男性 70 歳代：37

２　一日の時間バランス

(1) 全体の状況・前回との比較

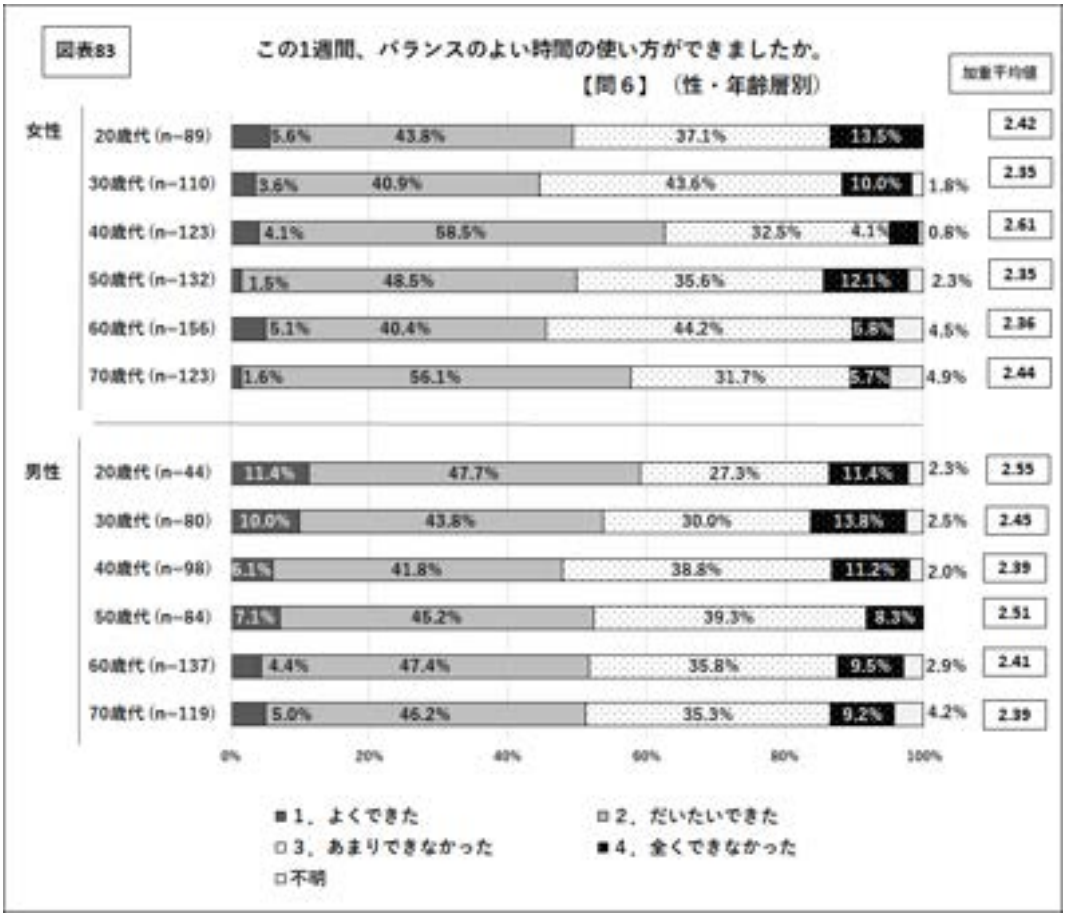
「この 1 週間、バランスのよい時間の使い方はできましたか」と質問したところ、『できた』　(以下、「よくできた」と「だいたいできた」の合計で示す）は全体の 51.5%、『できなかった』(以下、「あまりできなかった」「全然できなかった」の合計）は 45.8%であった。『できた』とする割合は前回の調査結果（51.0%）とほぼ同等といえる。性別を比較してもほぼ同じで、加重平均値※も同じだが、男性の方が、「よくできた」「全くできなかった」という両極にやや分かれている（図表 82)。

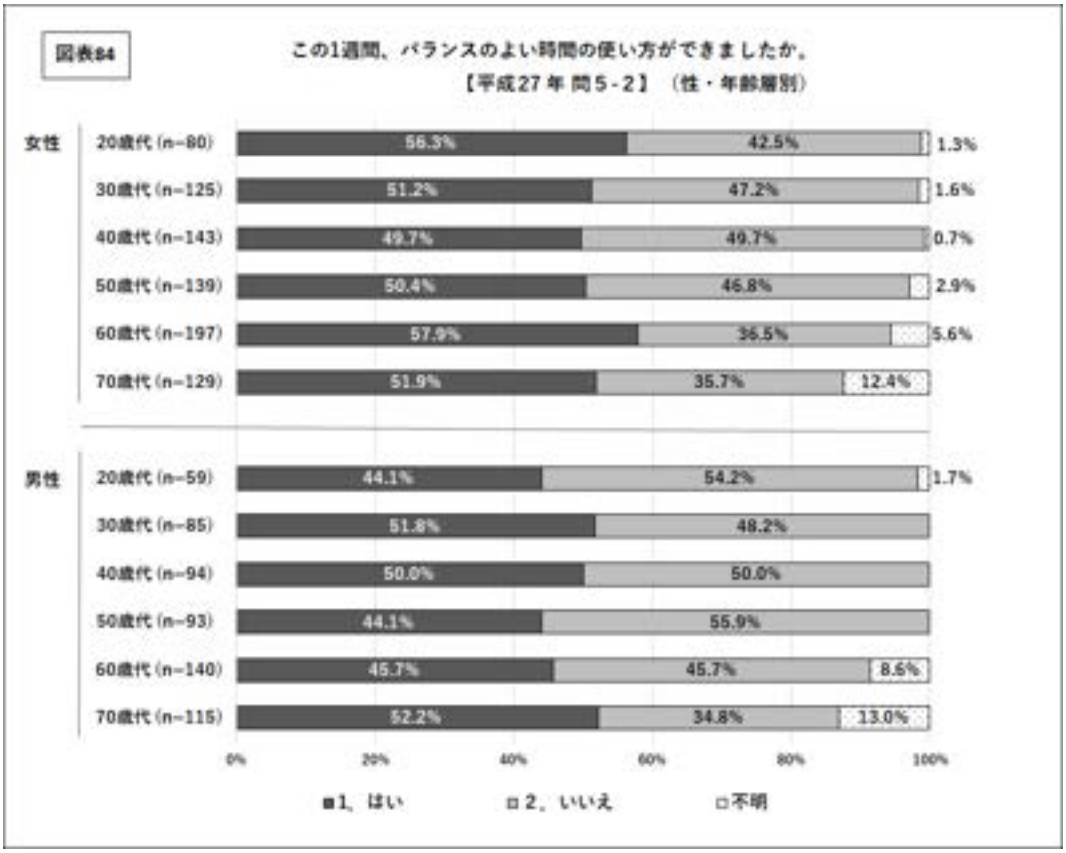


女性では、最も『できた』割合が最も低いのは 30 歳代(44.5%)で、加重平均値※も 2.35 と最も低い（図表 83)。30 歳代女性は、先に示したように一日の各種行動時間の合計が最も長く、またその中に家事・育児時間の占める割合が大きい層であるので、そのことが一つの要因にあると考えられる。また、前回調査と比較すると、女性は 50 歳代、70 歳代以外の全ての年代で『できた』の割合が下がった（図表 84)。

男性は、前回と比較すると 40 歳代、70 歳代以外は『できた』の割合が上がった。しかし 30 歳代、40 歳代は「全くできなかった」との強い否定が多く、加重平均値※も低い（それぞれ 2.45、2.39)。やはり、就労時間が多くを占める年代であることが要因の一つであるかもしれない。また男性では 60 歳代、70 歳代と年代が進むにつれて肯定感がやや下がっている（加重平均値※はそれぞれ 2.41、2.39）（図表 83)。

※ 加重平均値とは、本項目では「よくできた」に４点、「だいたいできた」に３点、「あまりできなかった」に２点、「全くできなかった」に１点の係数を、それぞれの回答件数に乗じ加重平均して算出した値で、４点に近いほどこの１週間、バランスのよい時間の使い方ができたことを示す指標である。


図表83
この1週間、バランスのよい時間の使い方ができましたか。
【問6】（性・年齢層別）
加重平均値
女性
20歳代 (n=89) 5.6% 43.8% 37.1% 13.5% 2.42
30歳代 (n=110) 3.6% 40.9% 43.6% 10.0% 1.8% 2.35
40歳代 (n=123) 4.1% 58.5% 32.5% 4.1% 0.8% 2.61
50歳代 (n=132) 1.5% 48.5% 35.6% 12.1% 2.3% 2.35
60歳代 (n=156) 5.1% 40.4% 44.2% 5.8% 4.5% 2.36
70歳代 (n=123) 1.6% 56.1% 31.7% 5.7% 4.9% 2.44
男性
20歳代 (n=44) 11.4% 47.7% 27.3% 11.4% 2.3% 2.55
30歳代 (n=80) 10.0% 43.8% 30.0% 13.8% 2.5% 2.45
40歳代 (n=98) 6.1% 41.8% 38.8% 11.2% 2.0% 2.39
50歳代 (n=84) 7.1% 45.2% 39.3% 8.3% 2.51
60歳代 (n=137) 4.4% 47.4% 35.8% 9.5% 2.9% 2.41
70歳代 (n=119) 5.0% 46.2% 35.3% 9.2% 4.2% 2.39
0% 20% 40% 60% 80% 100%
1．よくできた
2．だいたいできた
3．あまりできなかった
4．全くできなかった
不明

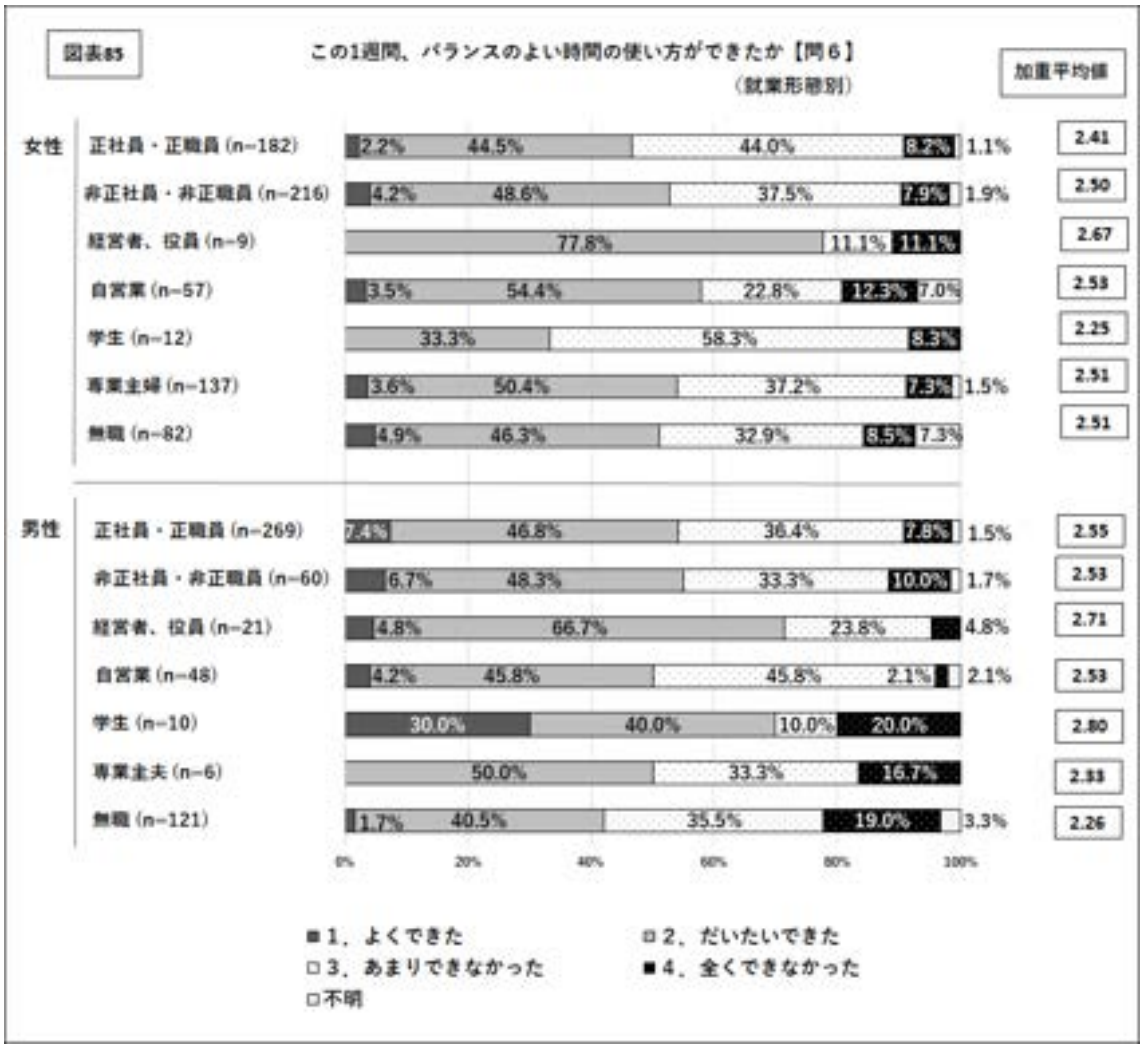

図表84
この1週間、バランスのよい時間の使い方ができましたか。
【平成27年 問5-2】（性・年齢層別）
女性
20歳代 (n=80) 56.3% 42.5% 1.3%
30歳代 (n=125) 51.2% 47.2% 1.6%
40歳代 (n=143) 49.7% 49.7% 0.7%
50歳代 (n=139) 50.4% 46.8% 2.9%
60歳代 (n=197) 57.9% 36.5% 5.6%
70歳代 (n=129) 51.9% 35.7% 12.4%
男性
20歳代 (n=59) 44.1% 54.2% 1.7%
30歳代 (n=85) 51.8% 48.2%
40歳代 (n=94) 50.0% 50.0%
50歳代 (n=93) 44.1% 55.9%
60歳代 (n=140) 45.7% 45.7% 8.6%
70歳代 (n=115) 52.2% 34.8% 13.0%
0% 20% 40% 60% 80% 100%
1．はい
2．いいえ
不明

(2) 職業別、婚姻状態別

就業形態別（図表 85）で見ると、女性では「経営者・役員」で『できた』と回答した人の割合が 77.8%と際だって高く、次いで「自営業」(58.9%)、「非正社員・非正職員」(52.8%）の順である。これに対して「正社員・正職員」は『できなかった』と回答している割合が高く（52.2%)、加重平均値※も 2.41 と低い。

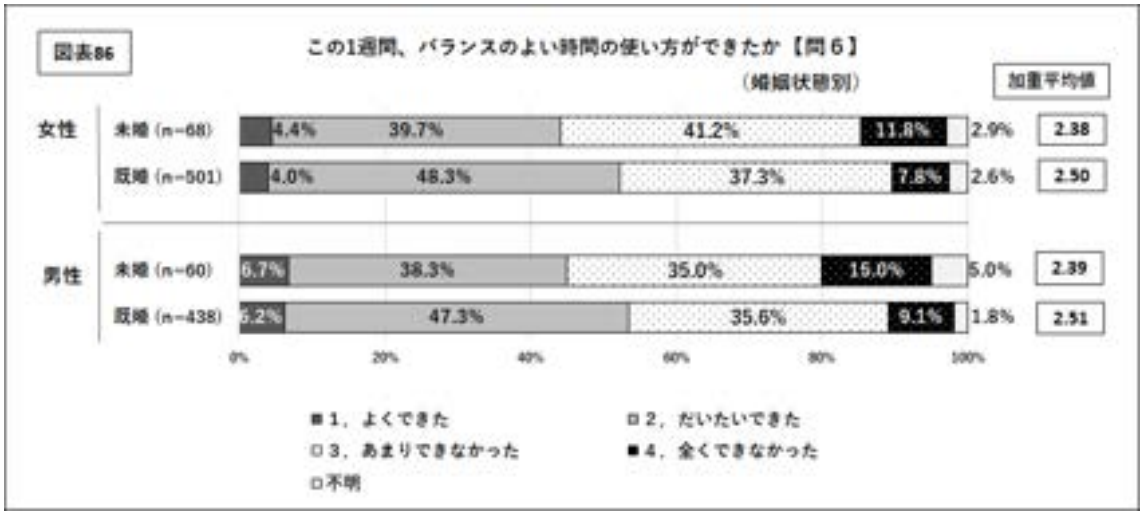
男性も、最も高いのは「経営者・役員」(71.5%）であり、次いで学生（70.0%）となった。「正社員・正職員」と「非正社員・非正職員」とでは、男性ではほぼ同じであるが、加重平均値で見ると後者の方がわずかに低い。

なお、男性では、『できなかった』の割合が「無職」層で最も高いのが特徴的である（加重平均値 2.26)。サンプル数が少ないため参考値となるが「専業主夫」も同様に低い。



※ 加重平均値については、p.72 を参照。

また「未婚」と「既婚」で比較してみると男女とも「未婚」の方が「既婚」よりも「できなかった」と回答している人が多いという結果も出ている（図表 86）。



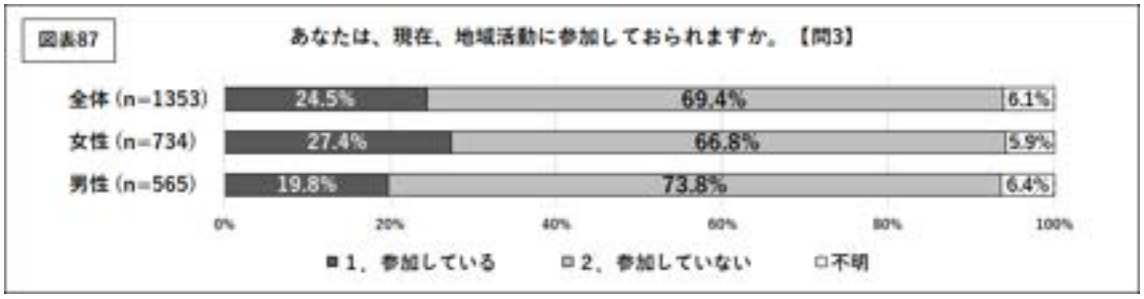
これらの結果を見ると、「バランスのよい時間の使い方ができた」という感覚は、就労や家事・育児等の役割バランスの他に、自己裁量感や充足感など、さまざまな要因が背景にあると考えられる。

３　地域活動

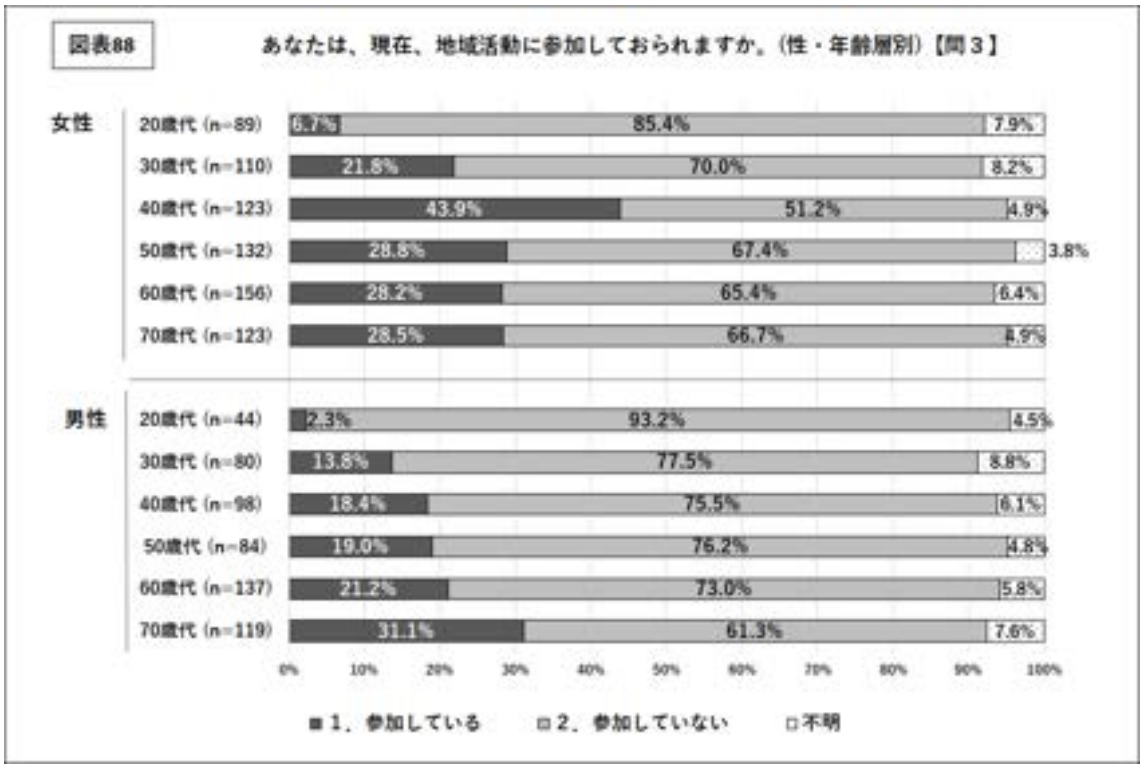
(1) 全体の状況・前々回（平成 19 年）との比較

今回調査では、現在の地域活動状況として「参加している」か「参加していない」の二択で尋ねた。全体の結果は、「参加していない」(69.4%) が「参加している」(24.5%) を大きく上回った。性別で比較すると、女性の方が「参加している」割合はやや高い（図表 87)。

質問形式は異なるが前々回（平成 19 年）調査で「参加していない」の選択肢があるのでその結果と比較してみると、「参加していない」と答えた人の割合は、男女ともに今回の方が大幅に上昇している（女性は平成 19 年 44.5%に対し今回 69.4%、男性は平成 19 年 51.7%に対し今回 73.8%)。

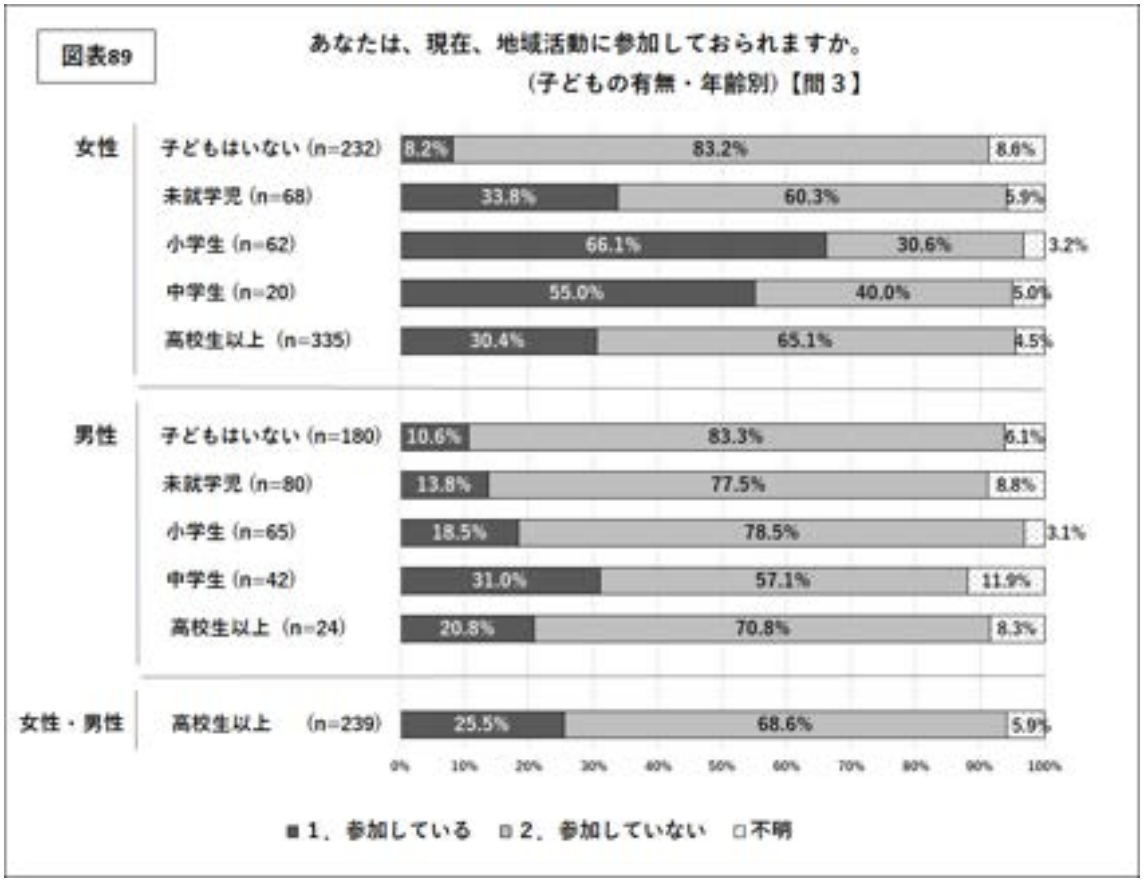


性・年齢層別に見ると、男女とも 20 歳代では地域活動への参加率の低さが顕著であるが、これも平成 19 年からさらに下がっている。女性は、「参加している」割合が最も高いのは 40 歳代である (43.9%)。男性は年代が上がるにつれて上昇しており、70 歳代で最も高い (31.1%)。こうした年代による参加率の変化も、前々回の調査とおおむね同じであるが、参加率は全ての年代にわたって下がっている。(図表 88)

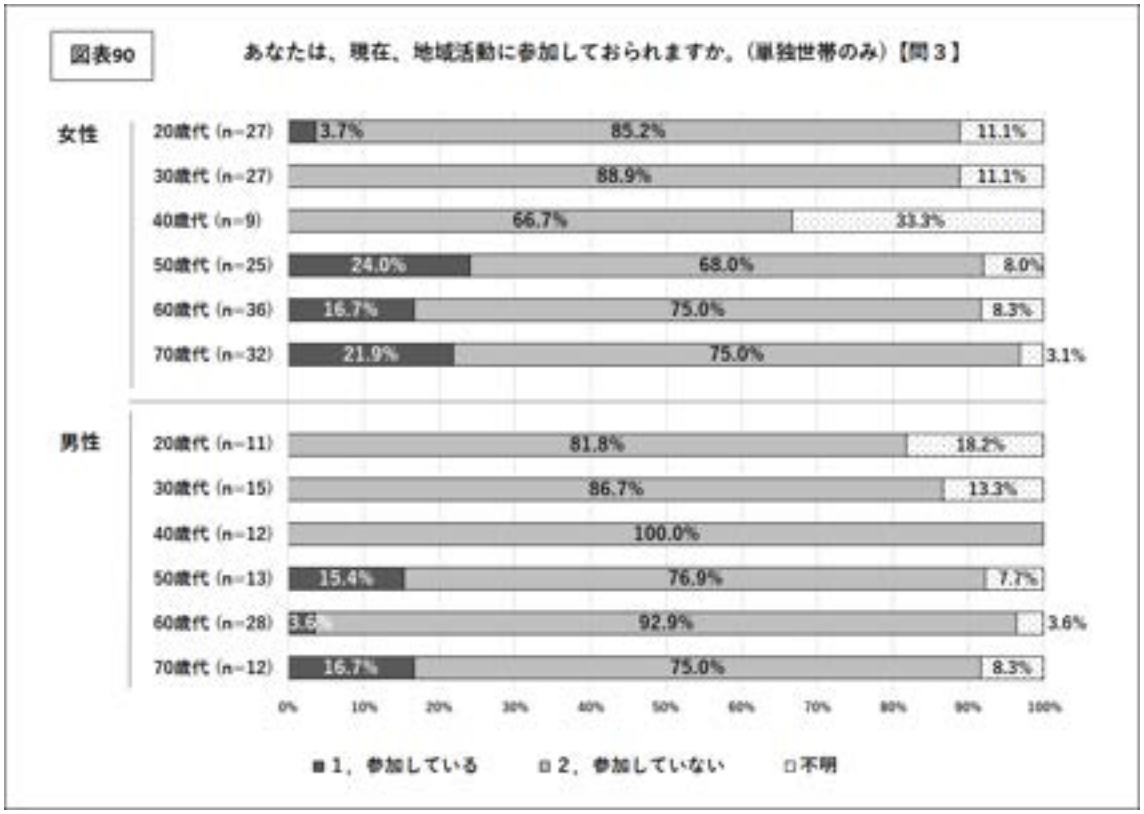


(2) 地域とつながる要因

人が地域活動に参加するきっかけの一つに考えられるのは、子どもの存在である。子ども（複数いる場合は最年少の子ども）の年齢別に地域活動の様子を見ると、男女とも「小学生」の子どもがいる場合に地域活動の参加率は最も高くなることがわかる（図表 89)。特に女性では、小学生の子どもをもつ層の地域活動参加率は 66.1%に達している。



逆に、単身者の場合は地域活動の参加率も低い。図表 90 は、単独世帯のみに絞って性・年齢層に地域活動への参加状況を示したものであるが、男女ともに 20 歳代～40 歳代は「参加している」との回答は０、もしくはごく少数にとどまる。50 歳代以降は参加率は上昇するが、それでも図表 88 に示す全体の割合と比較すると、単身者の地域活動への参加率は低い。地域関係の希薄化が指摘される中、単身者が地域とつながるきっかけづくりの難しさがうかがわれる結果となった。



(3) 参加している地域活動

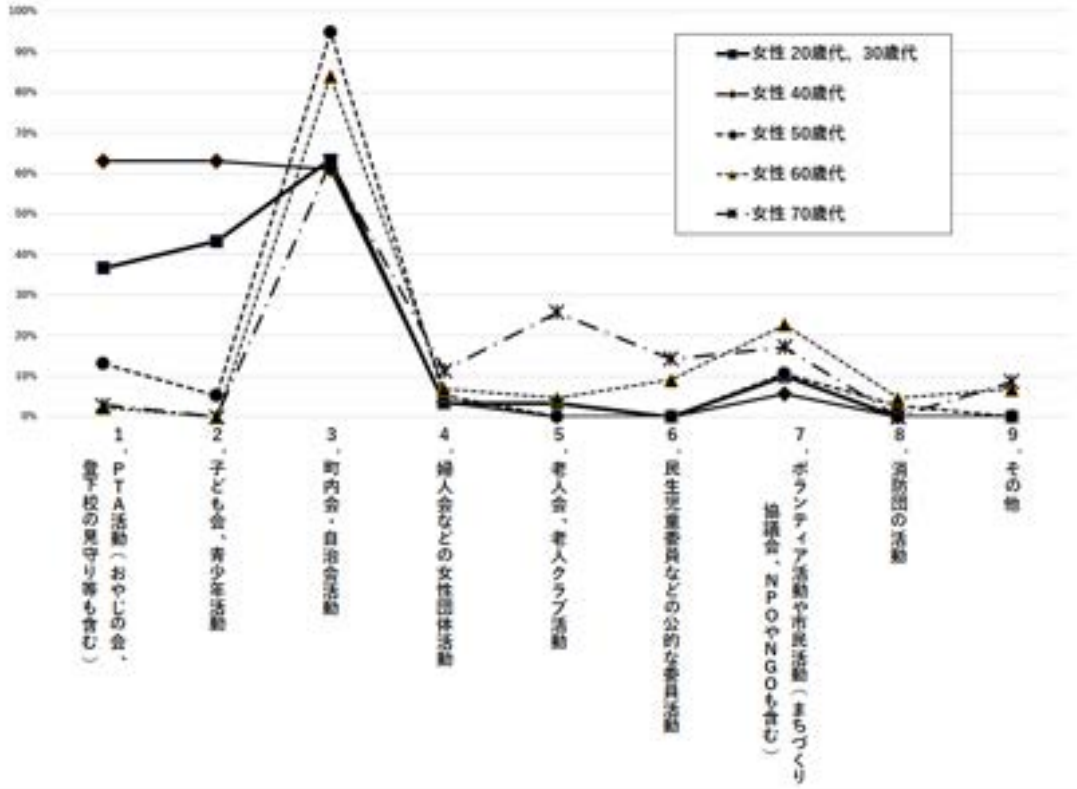
地域活動に「参加している」と回答した人（女性 201 人、男性 112 人）に、参加している地域活動を選択肢から複数回答で選んでもらった。最も多かったのは「町内会、自治会活動」で、回答者 313 人のうち 75.5%がこれを挙げた。次いで、「ＰＴＡ活動」（おやじの会、登下校の見守りなども含む）（23.3%）、「子ども会、青少年活動」（18.7%）と、子ども関連の活動が挙がっている。

性・年齢層別の様子を見ると、女性では、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「ＰＴＡ活動」「子ども会、青少年活動」への参加率が高いが、「自治会、町内会活動」は 50 歳代、60 歳代に比べると低いことがわかる（図表 91）。男性では、「ＰＴＡ活動」への参加率が高いのは 40 歳代である。「自治会・町内会活動」は、40 歳代以上の層は 70%以上が挙げているのに対して 20 歳代、30 歳代のみが低く、こうした地域団体に関する若い層の意識の変容がうかがわれる（図表 92）。「ボランティア活動や市民活動」を挙げた人は、女性では 60 歳代が多く、男性では 20 歳代、30 歳代、50 歳代等が多く挙げている。（なお、この項目では 20 歳代の該当者が少なかったため、合計で「20 歳代、30 歳代」として集計した）。

「その他」としては、防災士、防災活動など防災関連を挙げた人が６人あり、他に神社役員・お寺の清掃活動、祭り、地域の児童クラブや土地改良区等の委員、スポーツ、レクリエーション、文化活動への参加などが挙げられた。

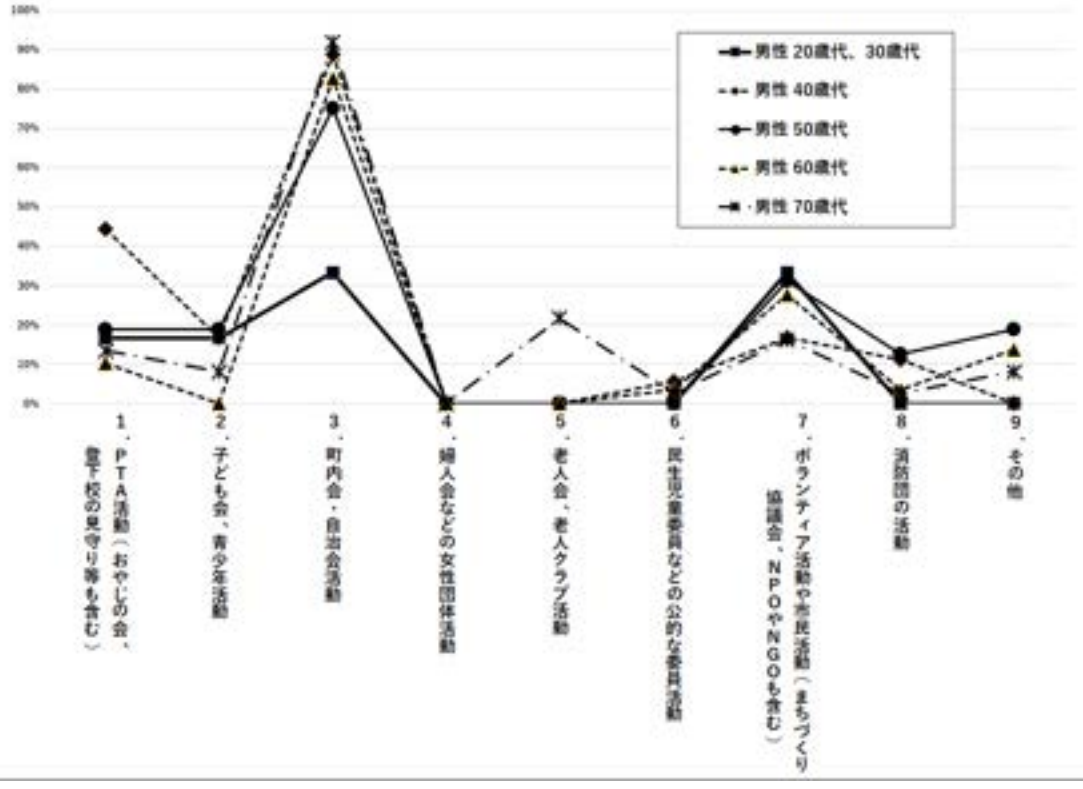
図表91

参加している地域活動（女性、年齢層別）（n=201）【問４】



図表92

参加している地域活動（男性、年齢層別）（n=112）【問４】



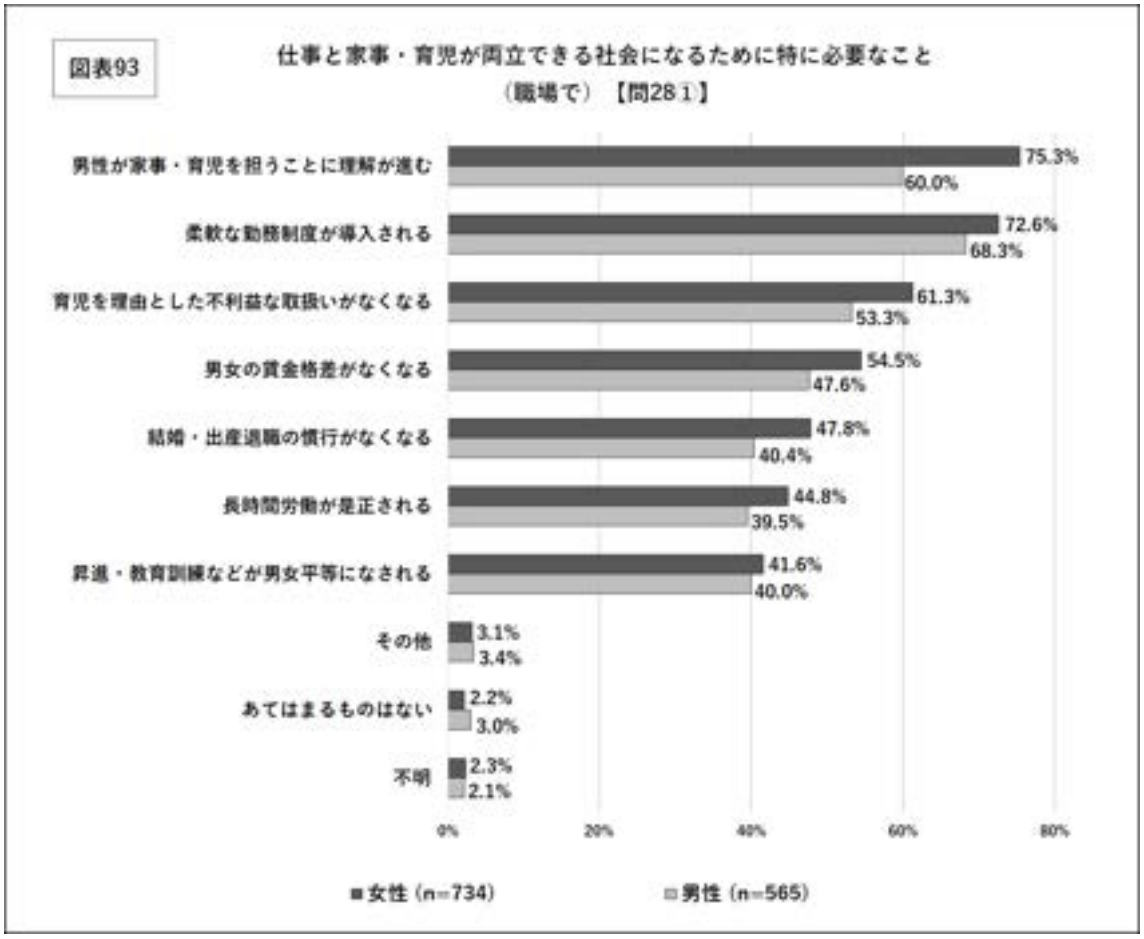
４　職場、行政、家庭での取り組み

「安心して子どもを産み育て、仕事と家事・育児の両立ができる社会」になるために、どのような取り組みが必要と考えられているか。今回調査では、①「職場で」、②「行政・地域社会での取り組みとして」、③「家庭など、子育ての環境で」の３つに分け、それぞれ選択肢を示して、必要と思うものを全て選ぶ複数回答により選んでもらった。

①「職場で」（図表 93）

まず「職場で」の取り組みについては、男女とも上位３つは「柔軟な勤務制度が導入される」「男性が家事・育児を担うことに理解が進む」「育児を理由とした不利益な取り扱いがなくなる」であった。女性の第１位である「男性が家事・育児を担うことに理解が進む」は女性の 75.3%が挙げており、男性の 60.0%との間にはやや開きがある。生活時間の項目で見たように、家事・育児時間の男女差は依然として大きいが、女性層には、職場での理解や配慮の不足がその大きな障壁になっていると捉えられていることがわかる。また「柔軟な勤務制度の導入」（女性２位、男性１位）、「育児を理由とした不利益な取り扱いがなくなる」（男女とも３位）が上位に挙げられているように、現実に仕事と家事・育児等が両立した生活を営むことができる条件整備として、具体的な労働施策の導入、職場慣行の改善が求められているといえる。

「その他」の自由記述では収入面の施策を求める意見が多く、「性別にかかわらず全体の賃金の上昇」「会社単位ではなく、国、県単位で産休中の収入の保証があればいい」「外部に一部の家事・育児を委託できる水準の給与」等が挙げられた。また具体的な施策として「企業のトップの理解・協力、その事に対するリーダーシップの発揮」「女性のロールモデルを増やすこと」「不必要な転勤の廃止」「出産・育休中のブランクを就労の経歴年数として問わないこと」「不必要な転勤の廃止」などの要望があった。育休取得者の「周囲」の側からの意見として「長く育休を取っている人がいるが、未婚、子どもがいないなどで負担が増えるのはおかしい。現場はずっと人手不足であり働ける人を雇って欲しい」といった声もあった。



②「行政・地域社会で」（図表 94）

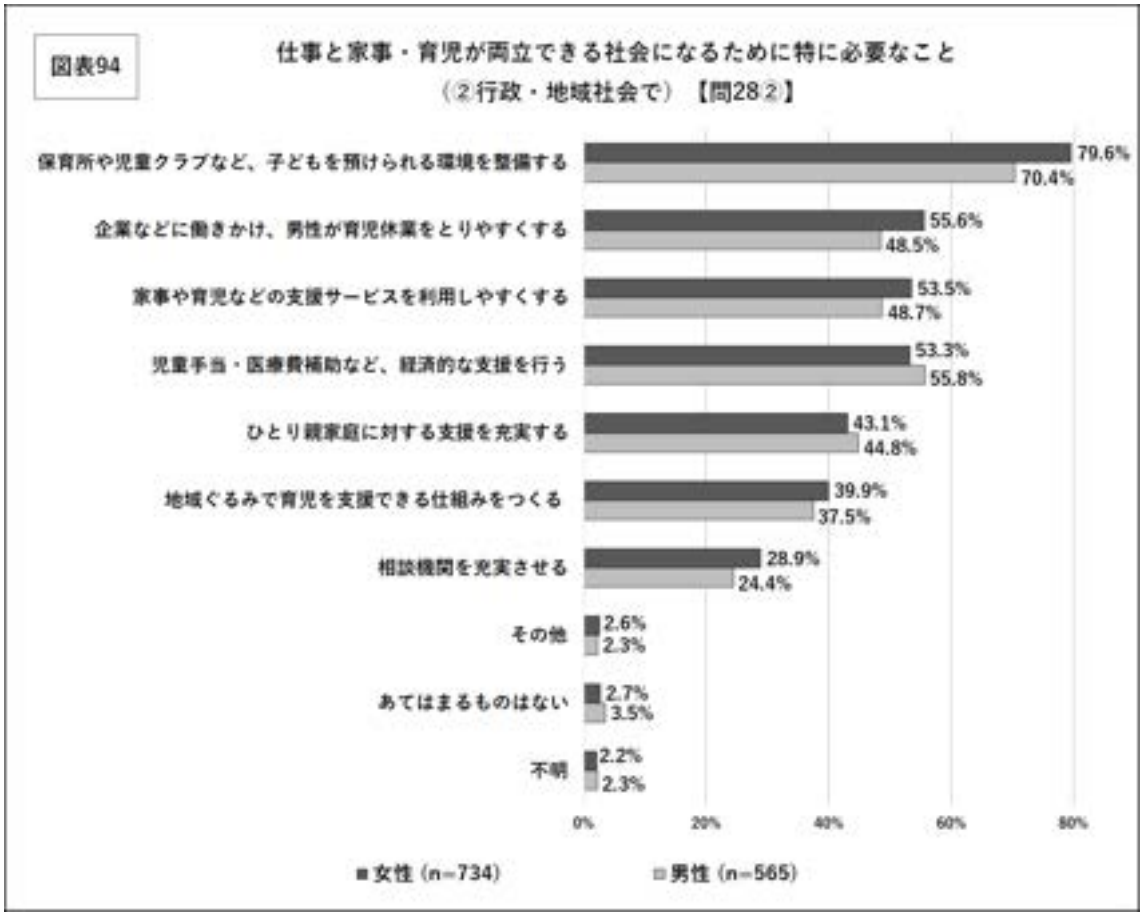
「行政・地域社会」に対する要望としては、「子どもを預けられる環境を整備する」が女性 79.6%、男性 70.4%と、男女ともに他を圧して多かった。

男性では、２位として「児童手当・医療費補助などの経済的支援」（55.8%）が挙がった。３位は「家事や育児などの支援サービスを利用しやすくする」（48.7%）であり、「男性の育児休業を取りやすくする」（48.5%）は４位となった。

女性では、２位が「男性が育児休業を取りやすくする」（55.6%）、次いで３位「家事や育児などの支援サービスを利用しやすくする」（53.5%）となった。１位の「子どもを預けられる環境整備」も含めて、女性層では、家族との分担や支援サービス等によって育児負担を軽減する施策がより強く求められているように思われる。なお、「経済的支援」（53.3%）も３位とほぼ同率の４位となっている。

「その他」の自由記述としては、まず意識改革のための教育が挙げられており、「男性への教育が先決」「子どもの頃からの男性への教育」「年齢・性別に関係なく皆が男女の平等感についての意識化が必要」などの記述があった。また、「行政が行っている支援、サービスの広報」「家事育児支援サービスの金銭的援助、広報」など、制度の周知や利用の

しやすさへの要望もあった。さらに、子育ての立場からの具体的要望として「24 時間開いていて子どもが泣いていても行って安心して休める場所」「母親参加が暗黙の了解となっているＰＴＡ活動の負担をなくす」「ＰＴＡなどで退職教員がとりまとめるなどバランスをとりやすくする仕組み」「子どもを預けるより免許をもったシッターさんが来てくれる仕組み」などがあった。

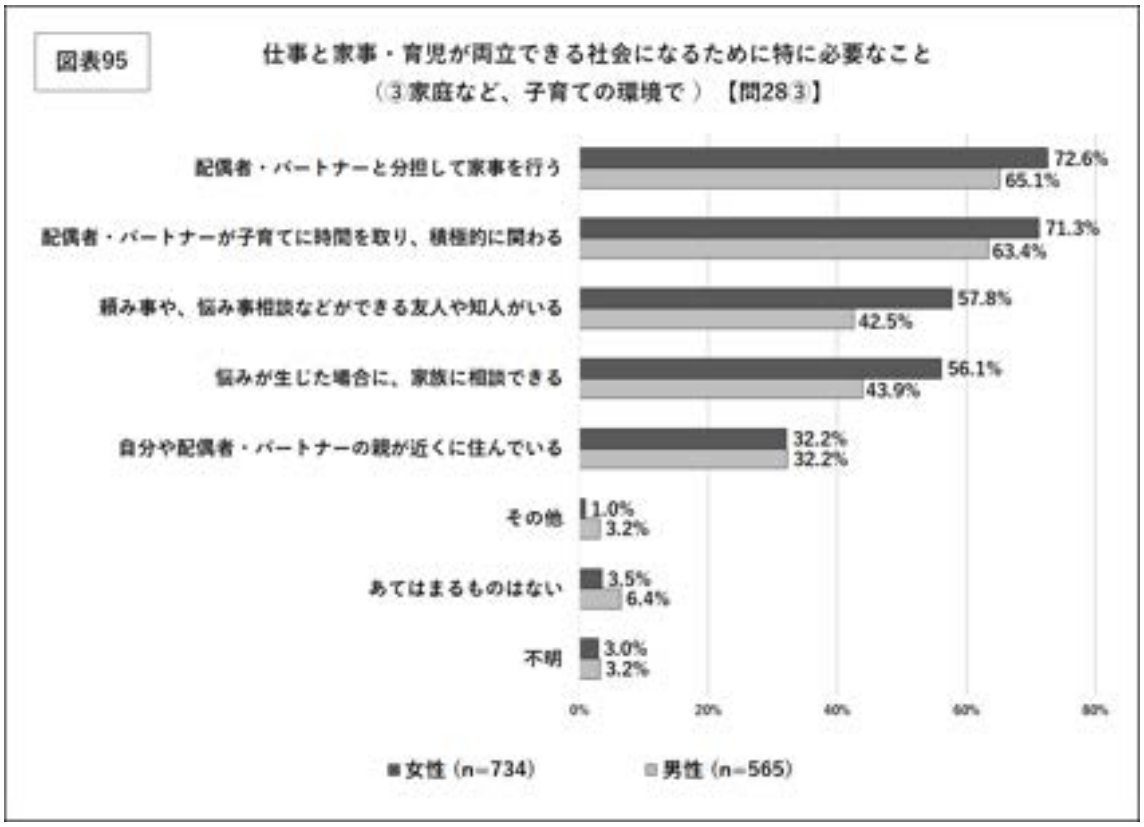


③ 家庭など、子育ての環境（図表 95）

家庭などのインフォーマルな子育て環境について必要と思うものとしては、男女とも１位が「配偶者・パートナーと分担して家事を行う」（女性 72.6%、男性 65.1%）、２位が「配偶者・パートナーが子育てに時間を取り、積極的に関わる」（女性 71.3%、男性 63.4%）となり、この２つが突出して高い割合となった。配偶者間での分担・協力が最も求められる、との認識は、男女ともに浸透しているといえるが、いずれの選択肢も女性の方が男性よりも７%程度高い結果となっている。

３位、４位に入った項目も男女ともに同じく「頼み事・悩み事相談などのできる知人がいる」　（女性 57.8%、男性 42.5%）と、「悩みが生じた場合に、家族に相談できる」（女性 56.1%、男性 43.9%）の２つであった。ここでも女性と男性を比較すると、回答した割合には 13～15%程度の開きがあり、女性では特に、家族、友人・知人といった身近な存在による支援や助言などが、両立を支える要素として重視されていることがわかる。

「その他」の記述内容としては目立ったのは、親、家族、友人以外の相談、支援機関への要望であり、「行政、地域ぐるみの仕組みづくり」「ファミリー・サポート・センターの充実」「行政に相談できる場所の充実」「行政機関だけでなく、少しでも身近なところに相談できるＮＰＯ等」などの記述があった。「家庭の形は色々あるので、画一的な対応では無理が出ると思う。第三者に相談出来るよう、行政相談がしやすいようになると助かります」とあるように、ＮＰＯ等の諸機関との連携によるきめ細かな相談、支援の体制づくりを行政に望む声が強いように思われる。

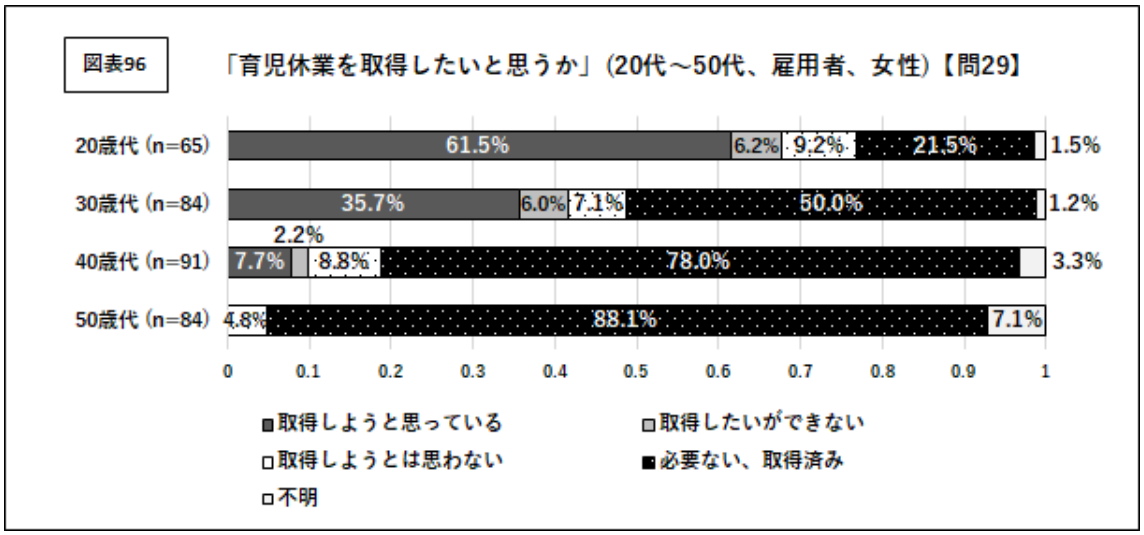


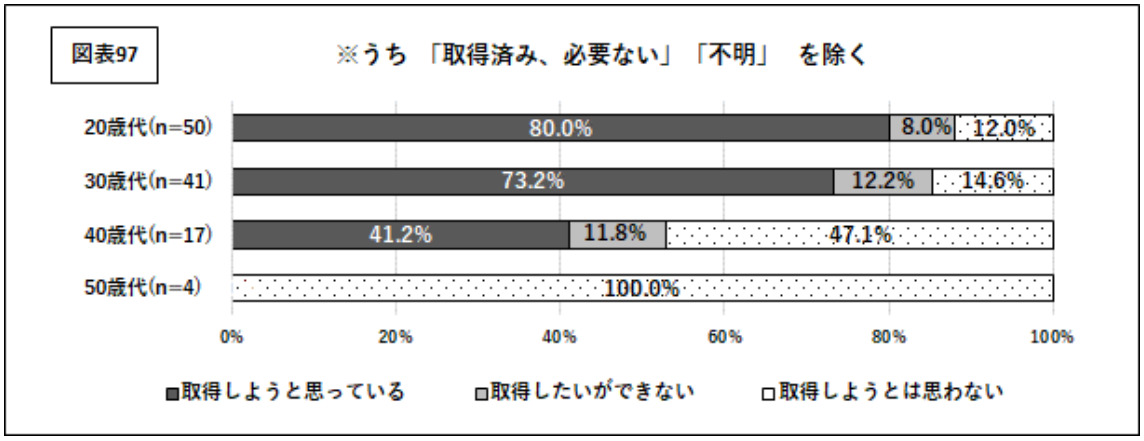
５　育児休業の取得

現在、両立支援施策として官民による取り組みが進む「育児休業取得」について意識、意見を尋ねた。

「あなたは、育児休業を今後取得しようと思いますか」という質問に対する 20 歳代～50 歳代の雇用者層(正社員・正職員および非正社員・非正職員)の回答を図表 96、図表 98 に示した。ただし、男女とも年代が上がるにしたがって「今後、取得の予定はない」「すでに取得済みである」人の割合が上がる。そこで、それらと「不明」とを除いた結果を、今後取得の可能性がある層の意向として、それぞれ図表 97、図表 99 に示している。

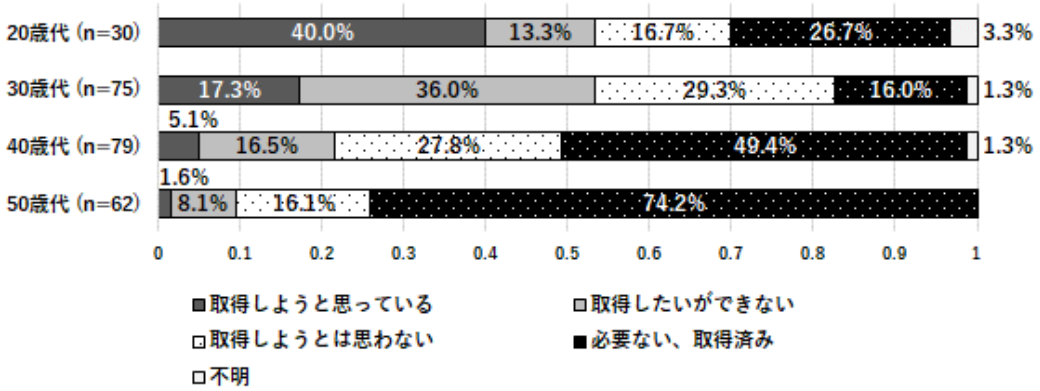
図表 97、図表 99 からわかるように、男女とも「取得しようと思っている」人の割合は若年層ほど高い。女性では 20 歳代で取得の可能性がある人のうちの 80.0%、30 歳代で 73.2%が「取得しようと思っている」。これに対して、男性で「取得しようと思っている」割合は 20 歳代で 57.1%であり、30 歳代では　21.0%と大幅に下がる。令和３年の全国の男性の育児休業取得率が 13.97%であることを考えると、認識・意識は浸透してきつつあるものの、実際の取得の意向は女性との開きがまだ大きい。



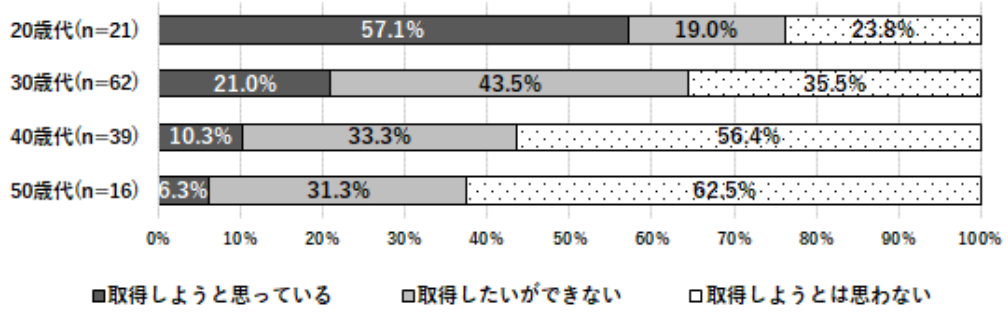


また男性では「取得したいができない」と答えた人の割合が高い。取得の可能性がある層に占める割合としては 30 歳代が最も高く 43.5%に達している。「取得しようと思っている」と「取得したいができない」を合わせると、20 歳代、30 歳代男性の半数以上、40 歳代でも 40%以上にのぼり、育児休業取得そのものには前向きな回答を寄せているともいえるが、それにもかかわらず、30 歳代以上で「できない」が急増する点に、当事者の意識要因のほかに取得を困難としている現実の課題が見える。

図表98 「育児休業を取得したいと思うか」(20代～50代、雇用者、男性)【問29】



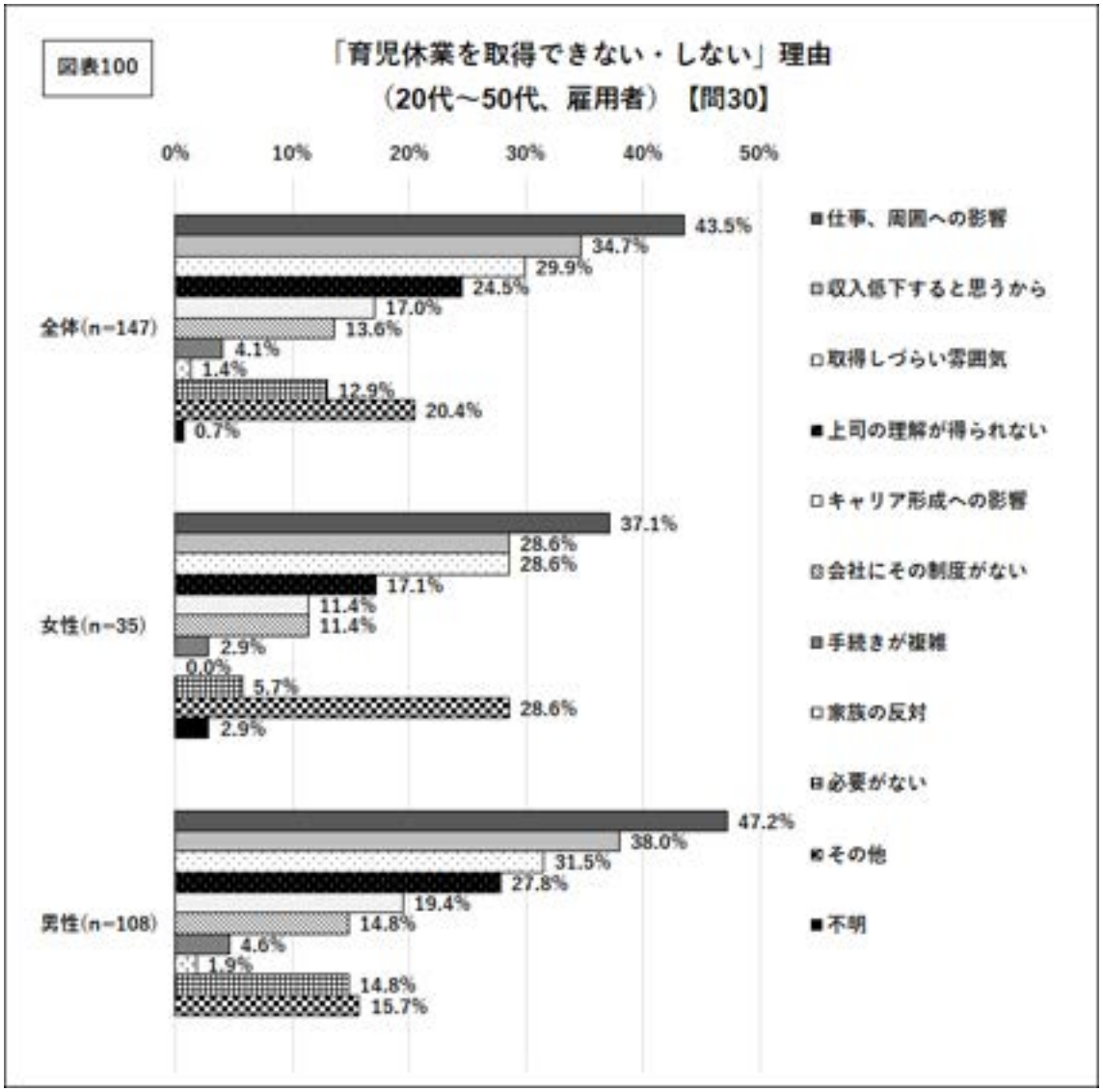
図表99 ※うち 「取得済み、必要ない」「不明」 を除く



次に、「取得したいができない」「取得しようとは思わない」と答えた人に、なぜそのように思うのか、理由を選択肢から複数回答で尋ねた（図表 100）。

20～50 歳代の雇用者の回答を見ると、男女とも最も多いのは「仕事、周囲への影響」であり、女性の 37.1%、男性の 47.2%がこれを挙げている。次いで「取得しづらい雰囲気」（女性 28.6%、男性 31.5%）、「上司の理解が得られない」（女性 17.1%、男性 27.8%）などの割合が高い。また、いずれの選択肢も女性より男性の方が挙げられた割合は高い。男性の育児休業取得率の向上に向けた取り組みが官民を挙げて進められている現在でも、実際の職場においてはこうした職場環境が育児休業の取得を困難にしていることがわかる。

取得による現実的な不利益に関しては、「収入低下」（女性 28.6%、男性 38.0%）が多い。「キャリア形成への遅れ」を挙げた人はそれよりは低く、女性で 17.0%、男性 19.4%であるが、こうした「育児休業取得による不利益」が生じない仕組み、そうした不利益への不安解消の取り組みが、職場、行政に対して求められている大きな課題だといえる。



６　小括

(1) 結果の要約

以上の調査結果を要約すると次のとおりである。

1)　生活時間

①　行動の種類別の生活時間の様子

- 30 歳代以降の全ての年齢層で、女性の方が男性より２時間程度長く家事を行っている。育児時間は 30 歳代女性が最も長く、休日には５時間を越えており、女性の家事・育児負担が依然として大きい。
- 就業している人の就労時間は、男性で平日平均７時間 39 分であるが、30 歳代から 50 歳代は長時間であり、最も長い 30 歳代男性は９時間 38 分に達している。女性は、平均６時間 19 分で、20 歳代から 50 歳代まで大きな増減はない。
- 地域活動の時間は性別、年齢層にかかわらずきわめて短い。

②　一日あたりの平均的な時間の使い方

- 若い人ほど一日の合計時間は長い。特に 20 歳代、30 歳代女性は平日の合計活動時間が長く、また 30 歳代、40 歳代女性は休日の家事・育児時間が占める割合が特に高い。一方男性は、30 歳代～50 歳代の就労時間が、平日の一日合計活動時間の 70%を越えている。

③　前回との比較

- 前回（平成 27 年）調査と比較すると、女性の家事時間は全年代で減少している。男性は、平日の 20 歳代、30 歳代、休日の 20 歳代～40 歳代で家事時間が若干増えている。うち最も増えているのは 30 歳代（平日は 59 分増）で、これらの層の家事参画の増加傾向を見ることができる。
- 育児時間については、平日の女性の 20 歳代、40 歳代で若干増加し、男性も 40 歳代以下の男性は平日休日ともに減少しており、男性の育児への参画が進んでいるとはいえない。
- 就労時間は、平日の全体平均で男性は 62 分、女性は 16 分減少している。

④　家事・育児時間の男女差の推移

- 家事・育児時間の男女差を前回調査と比較すると、女性の家事・育児時間が大幅な減少、男性の家事時間の増加が要因となり、家事時間の男女差は大幅に縮小している。しかしそれでも、平日の全体平均で 150 分近く女性の方が長い。
- 育児時間は、前回と比較すると 30 歳代では男女差は大幅に縮まったが、20 歳代、40 歳代の女性の育児時間の増加、男性の育児時間の減少により逆に男女差は若干拡大している。

2) 一日の時間のバランス

- 女性では 30 歳代でバランスのよい時間の使い方が『できた』と回答した人の割合が最も低い。男性でも、30 歳代、40 歳代は強い否定の割合が高い。

3) 地域活動

- 地域活動に「参加している」人の割合は、平成 19 年調査の結果と比較すると男女とも、また全ての年齢層にわたって下がっている。
- 子ども、特に小学生の子どもをもつ層は、地域活動への参加率が高い。単独世帯の人は、地域活動への参加率も低い傾向にある。
- 「参加している」人の活動の種類としては、「町内会・自治会活動」が多いが、若い層では参加率が低下している。その他では、子ども関連の地域活動への参加率が高い。

4) 職場・行政・家庭での取り組み

- 職場での取り組みとしては、女性の回答では「男性が家事・育児を担うことに理解が進む」が最も多い。また、「柔軟な勤務制度の導入」を始めとする具体的な労働施策の導入や職場慣行の改善が強く求められている。
- 行政・地域社会に対する要望としては、「子どもを預けられる環境の整備」が男女とも他を圧して多い。以下、男性では手当・補助などの「経済的支援」、女性では育児休業制度、支援サービス等を「利用しやすくする施策」が続いている。自由記述においても制度の利用促進、広報などへの言及が散見された。
- 家庭など、子育ての環境に関する要望では、配偶者・パートナーとの家事や育児の分担・協力と回答した割合が極めて高い。自由記述においては、家族や友人知人以外の相談・支援機関への要望が多く、またＮＰＯ団体等と行政が連携したきめ細かな支援体制の構築が望まれている。

5) 育児休業の取得

- 雇用者層の意向を見ると、「育児休業を取得しようと思う」との回答は、男女とも若いほど高く、「取得したいが取れない」まで含めると 20 歳代、30 歳代の男性の６割以上が「取得したい」と考えている。
- 男性では「取得しようと思う」の割合は 30 歳代以降で大幅に低下し、「取得したいができない」の割合が上昇する。
- 「取得できない」「取得したくない」理由で最も大きいのは「仕事・周囲への影響」であり、「取得しづらい雰囲気」「上司の理解が得られない」も含めて仕事や職場に対する影響があるのではないかという懸念が大きい。

(2) 考察

以上、一日の行動時間やワーク・ライフ・バランスへの取り組みを中心として生活の現状を見てきた。

生活行動時間については、30 歳代を中心とする女性の家事時間が前回調査と比較して短縮し、また 20 歳代から 40 歳代にかけての男性の家事時間が増加したこと、そしてそれにより性別間での家事時間の差が短縮したことは、家事への共同参画推進の観点から見て望ましい傾向といえる。一方、考察の中で述べたように、育児時間の差は縮小しておらず、逆に子育て期の年代で若干拡大の傾向も見られる。家事・育児の時間合計での男女差も、前回調査から引き続き大きく改善したとはいえない。就労時間の男女差は徐々に縮小しつつあることから、女性の「二重負担」状況が継続することも懸念され、そうした問題の改善は急がれる現状にあるといえる。

第１章において、意識の面では家庭における固定的な性別役割分担意識が薄れていることが示された。しかし実情においては、女性への家事・育児負担の偏りや二重負担状況はまだ解消されているとはいえない。この「意識」と「現実」の乖離を埋めていく取り組みは、今後さらに進めていく必要がある。

育児休業取得を尋ねた質問においては、20 歳代、30 歳代の男性雇用者のうち６割以上（「取得したいができない」も含めると）が取得意欲を示しているものの、30 歳代以降になると「取得したいができない」の割合が急増する。その理由として最も大きいのは、仕事や周囲への影響があるのではないかという懸念であった。その「周囲」の者の立場からの「未婚者や子どものない者の仕事が増えるのはおかしい」等の自由記述もあったが、現実的に望まれるライフスタイルを実現できる条件整備として、雇用施策、支援施策の推進が求められているといえる。

一方、地域との関係に目を向けてみると、地域活動に行動時間が全体的に短く、また前回調査と比較しても減少していることがわかった。個々の活動種類を前々回（平成 19 年）調査結果と比較しても参加率は低下し、若年層においては「町内会・自治会」といったこれまで「参加している」と回答した割合の高かった地域団体への意識も変容しているなど、地域関係の希薄化の様子が示された。家庭、育児などに関する自由記述の中では、行政機関だけではなくＮＰＯ団体などと行政が連携することによるきめ細かい支援を望む記述があった。そうした要望を踏まえると、地域の中で望まれる支援の枠組や担い手をどのように育てていくかという点も重要な課題となるように思われる。

第１章の結果を見ると、「家庭の中での平等度」について評価は、女性においては、「男女共同参画の進捗状況に対する評価」と有意に関連しているのに対して、男性にはそうした関連は見られなかった。実際には本章で見てきたように、家事や育児については依然として女性の負担が大きい状況にあり、その改善もまた「男女共同参画社会」の実現において重要な課題であるという認識は、今後も浸透を進めていく必要がある。

第４章　人権・それを侵害する暴力

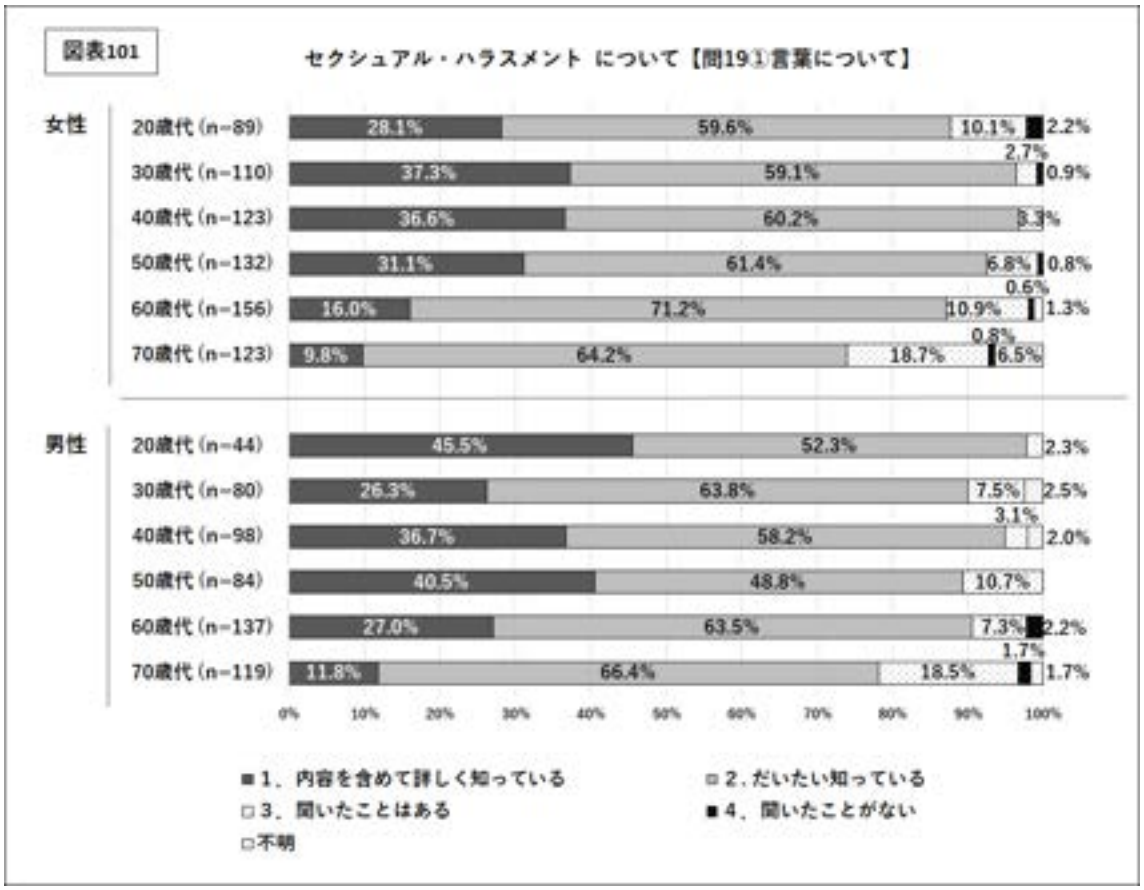
１　ハラスメントについて

(1)セクシュアル・ハラスメント、(2)マタニティ・ハラスメント、(3)ストーカー行為のそれぞれについて、言葉の認知度と、直接的・間接的な体験について尋ねた。

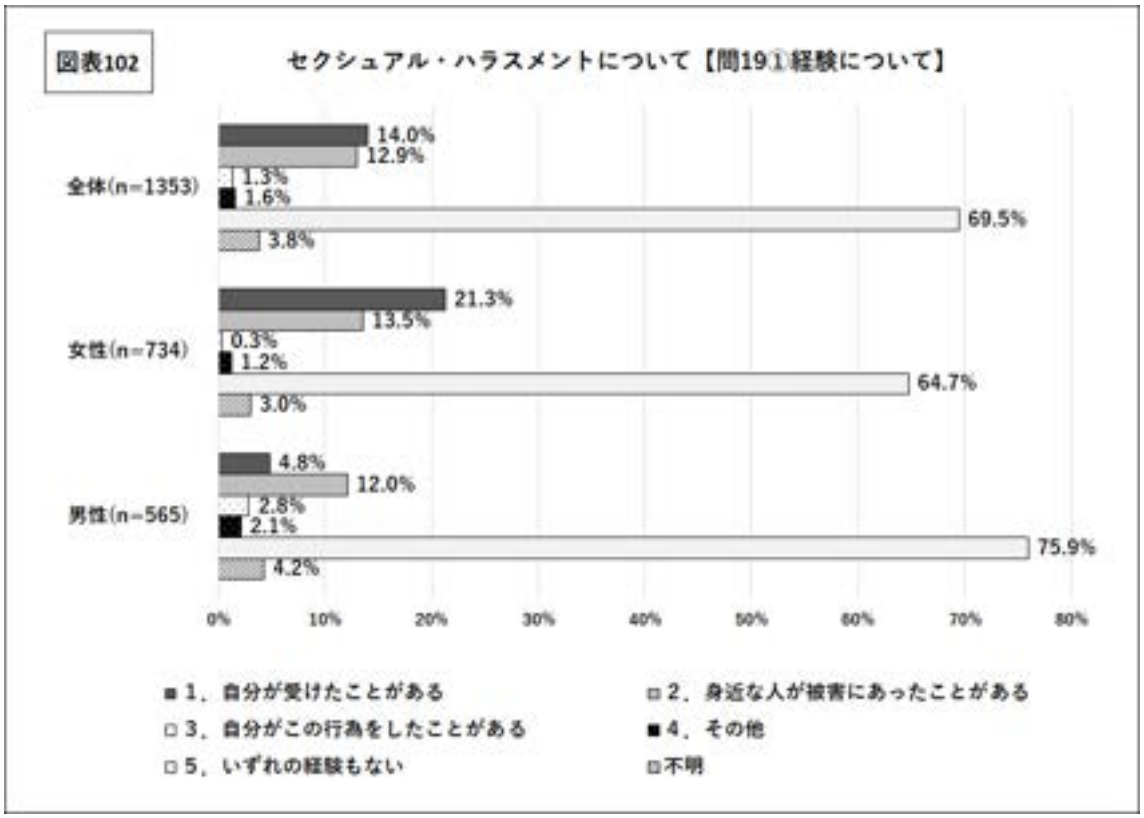
以下に見るとおり、それぞれの言葉は世代を超えて一定程度認知されている。

(1) セクシュアル・ハラスメント

言葉について「内容も含めて詳しく知っている」「大体知っている」と回答した人の割合は、70 歳代以上でも７割、それ以下の年代では８割から９割となっている（図表 101)。

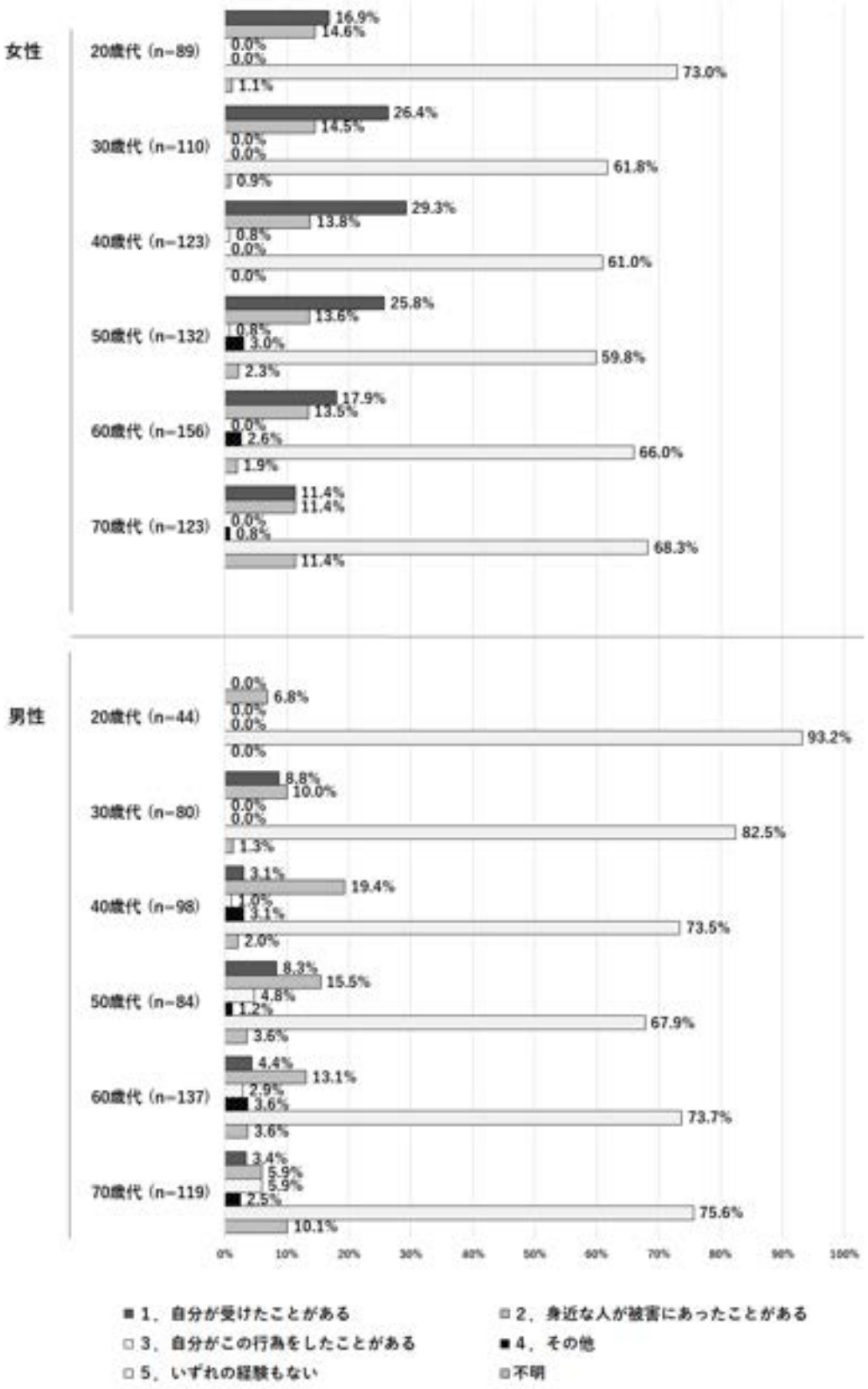


体験についても、「自分が受けたことがある」「身近な人が被害に遭ったことがある」の割合については、セクシュアル・ハラスメントでは女性で 21.3%と 13.5%、全体でも 14.0%と 12.9%と最も高い（図表 102)。「自分がこの行為をしたことがある」も、６%未満と低めとはいうものの、中高年層の男性を中心に該当例が散見される（図表 103)。



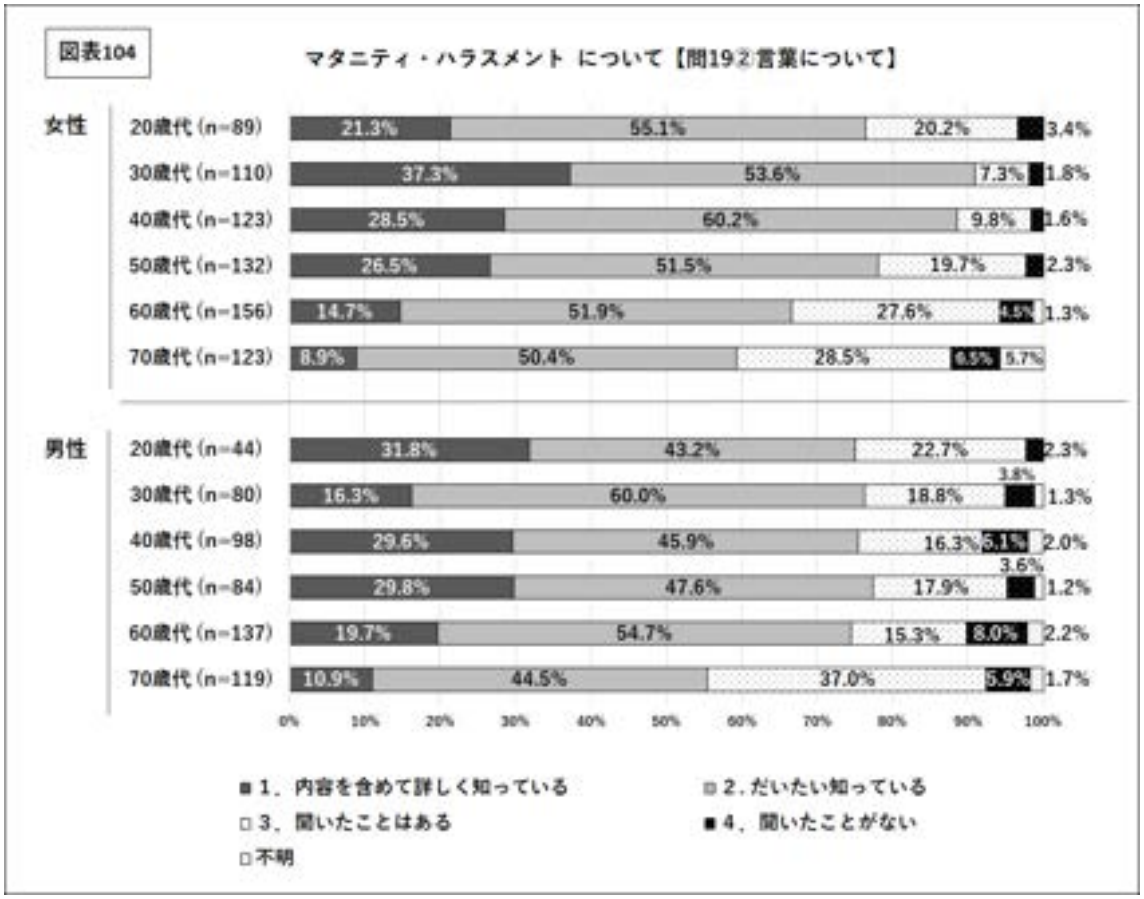
図表103

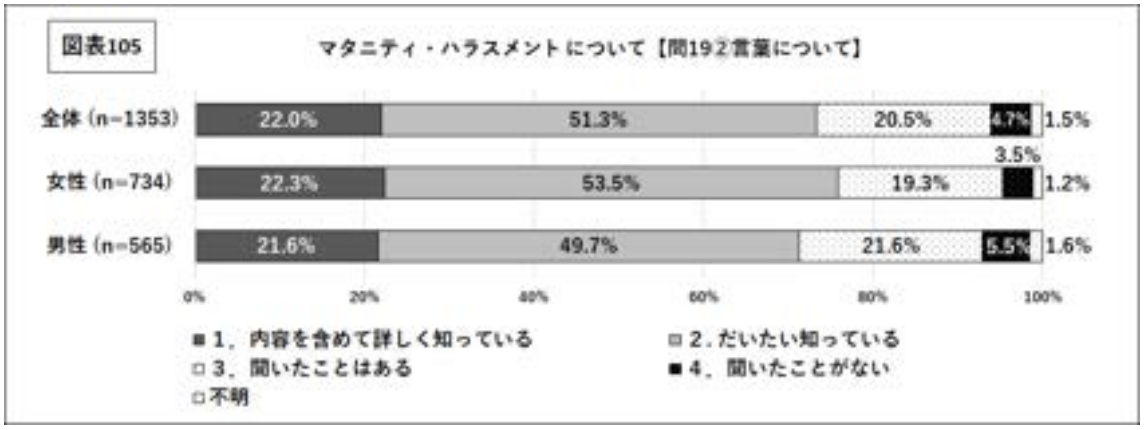
セクシュアル・ハラスメント について【問19①経験について】



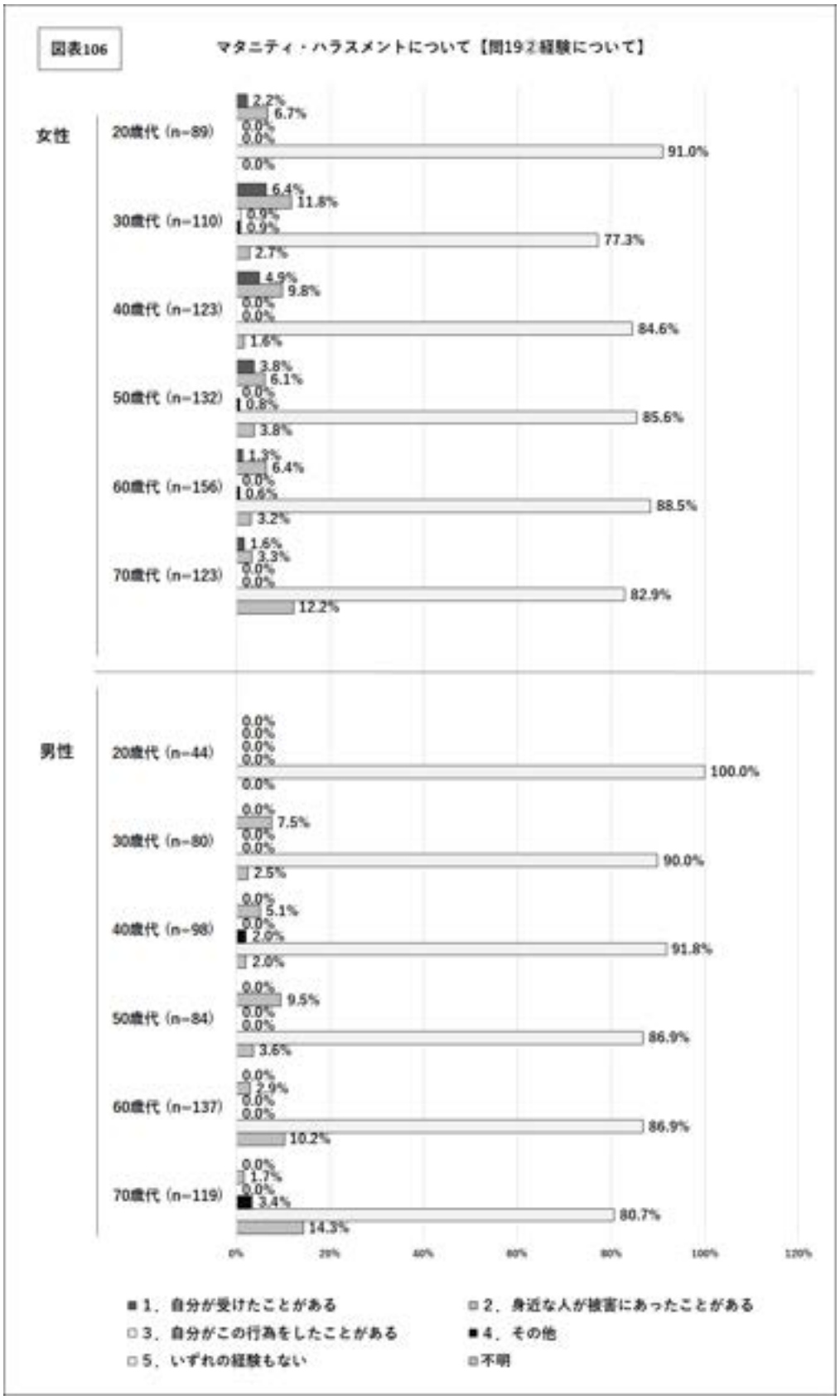
(2) マタニティ・ハラスメント

60 歳代、70 歳代以上では、認知度がやや低めであったが（図表 104）、全体では「内容を含めて詳しく知っている」「だいたい知っている」と回答した人は７割に上った（図表 105）。



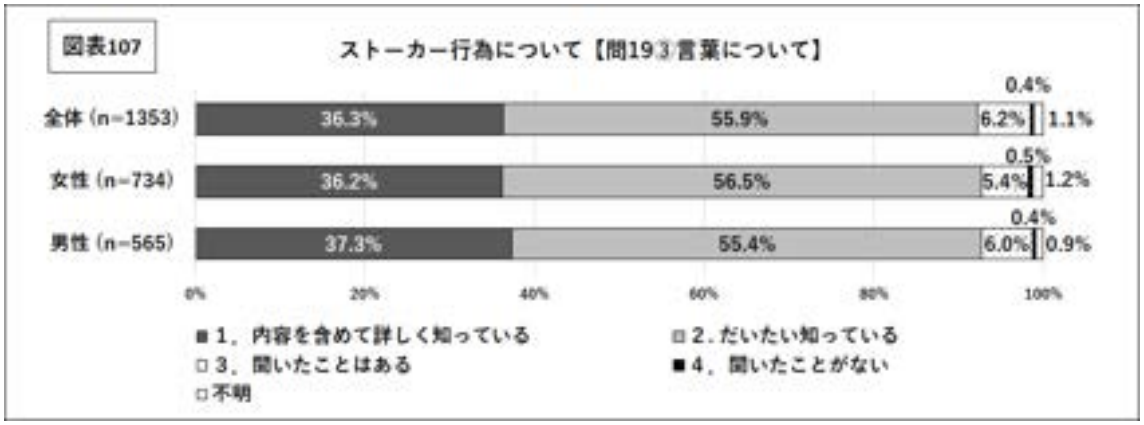


ほとんどの年代で 10%に満たないとはいえ、「自分が体験した」「身近な人が被害に遭った」経験を持つ回答者もいた（図表 106）。

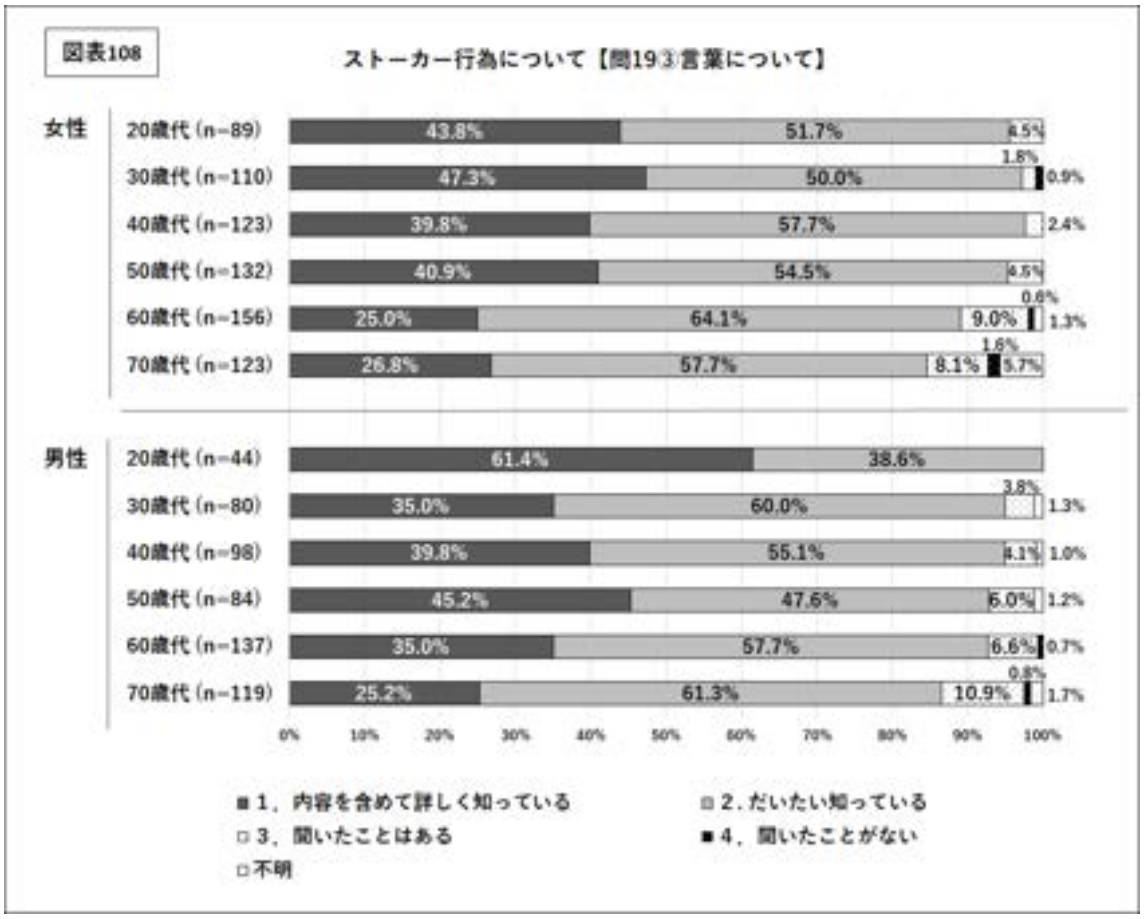


(3) ストーカー行為

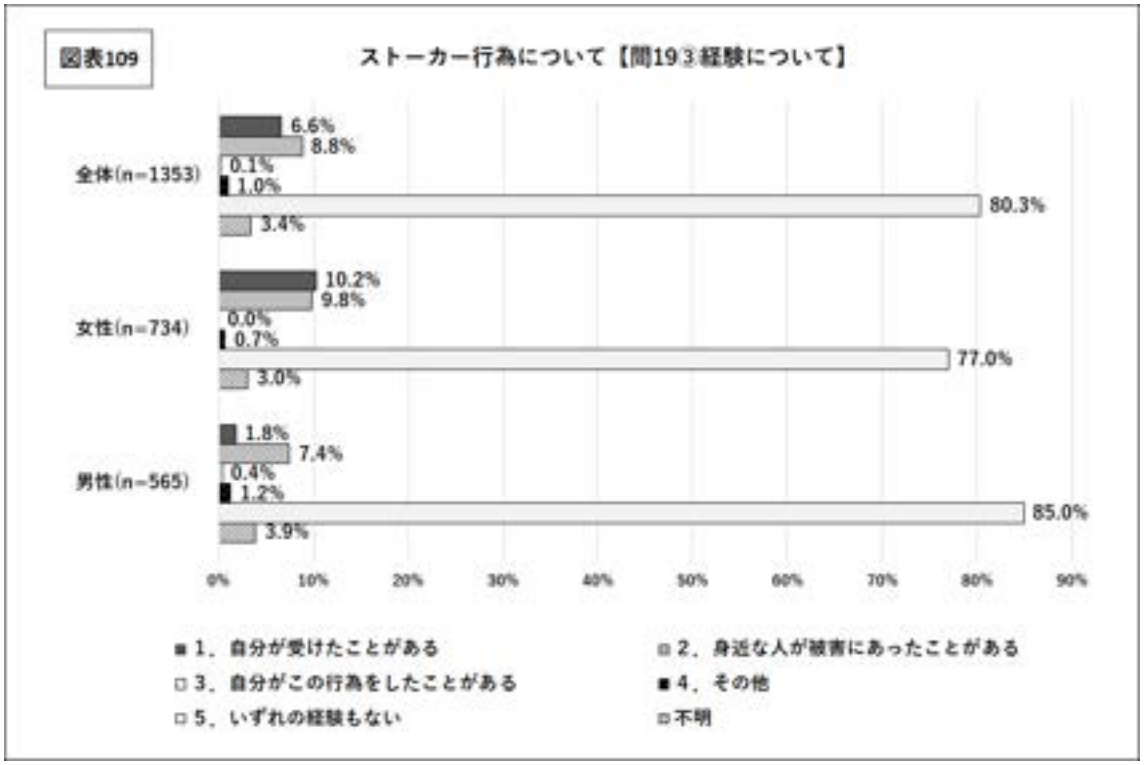
「内容も含めて詳しく知っている」「だいたい知っている」と回答した人の割合は全体で9割近くとなっている（図表107）。



性・年齢層別に見ても、言葉の認知度の高さがわかる。「内容も含めてよく知っている」と答えた人も、60歳代の男女、70歳代以上の女性では「内容も含めてよく知っている」は約25%にとどまっているものの、その他の年代では4割近く、最も高い20歳代男性では6割にのぼる（図表108）。



ストーカー行為についても、「自分が受けたことがある」「身近な人が被害に遭ったことがある」の割合が女性ではそれぞれ 10.2%と 9.8%、全体でも 6.6%と 8.8%となっており、看過しがたい数値となっている（図表 109）。



２　配偶者・交際相手に対する暴力について

(1)　回答者の属性

ＤＶの経験についての設問に関連するパーソナルクエスチョンである。

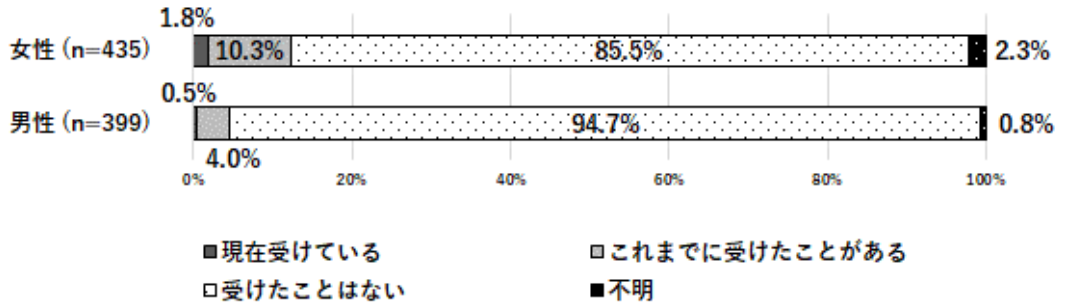
なお、クロス集計の結果からは、

・未婚で交際相手がある人も、ＤＶ経験率は婚姻中の人とほぼ同じくらいある

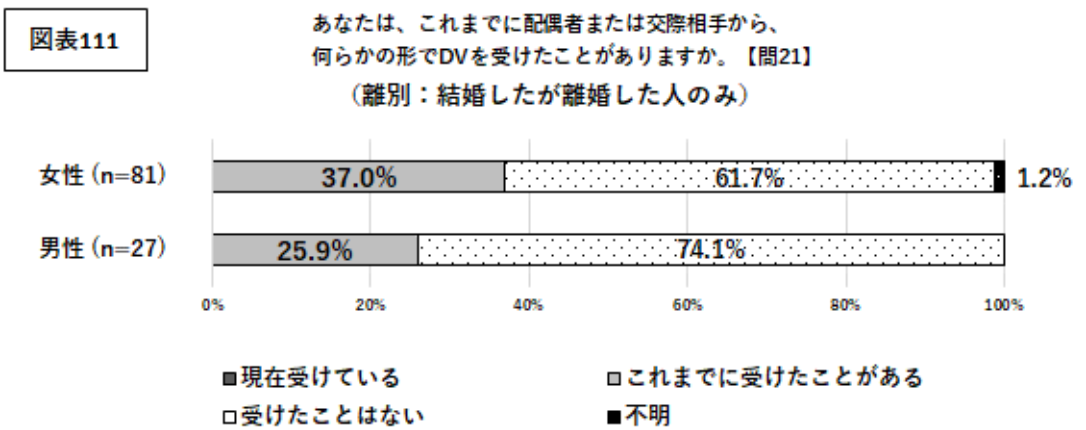
・離婚経験者のＤＶ経験率は高い（特に女性の場合）

ということが出来る（図表 110～112）。

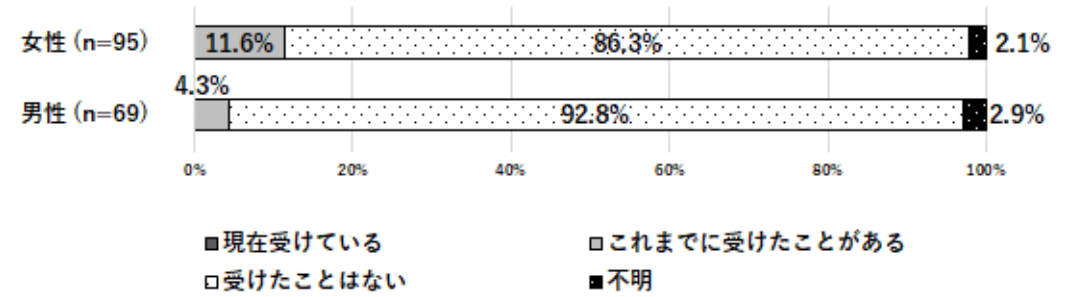
図表110



図表111



図表112

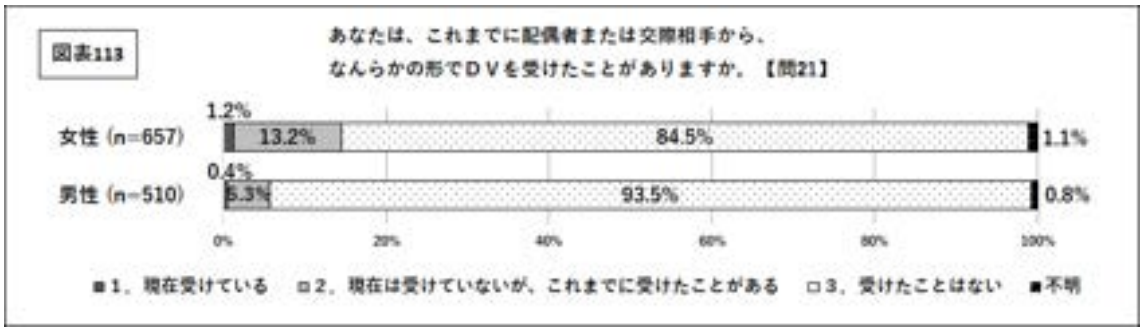


(2) ＤＶを受けた体験

「これまでに受けたことがある」との回答が女性 13.2%、男性 5.3%である。「現在も受けている」も、それぞれ 1.2%と 0.4%となっている（図表 113)。また、その態様については図表 114、115 にあるとおりである。

いうまでもなく、身体的・経済的・精神的な暴力あるいは性的行為の強要といったいずれのかたちの暴力も許されるものではなく、また、数値が小さければ問題ないというわけではない。

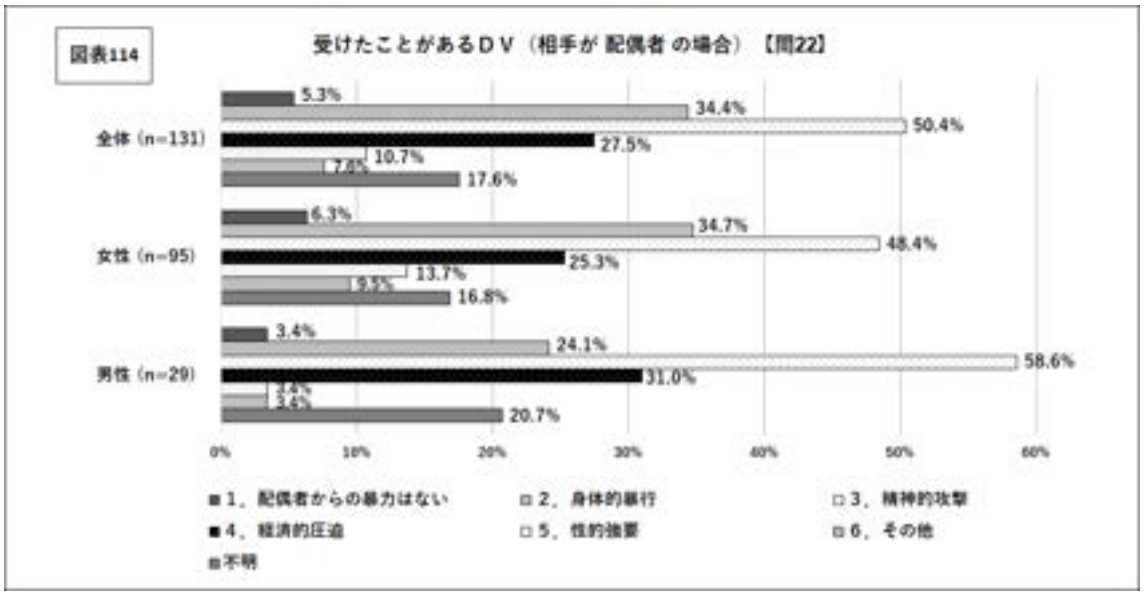
ここでは特に「交際相手」から受けたＤＶの態様を問う設問に対し、「不明」とされる割合が非常に高かったことについても触れておきたい。苦痛に満ちた体験を思い出し、見知らぬ他人に伝えることの難しさは、被害者支援の関係者によっても指摘されているところである。この「不明」の割合には、自らの体験を「データ」として処理されることへの違和感も影響している可能性があろう（図表 113)。



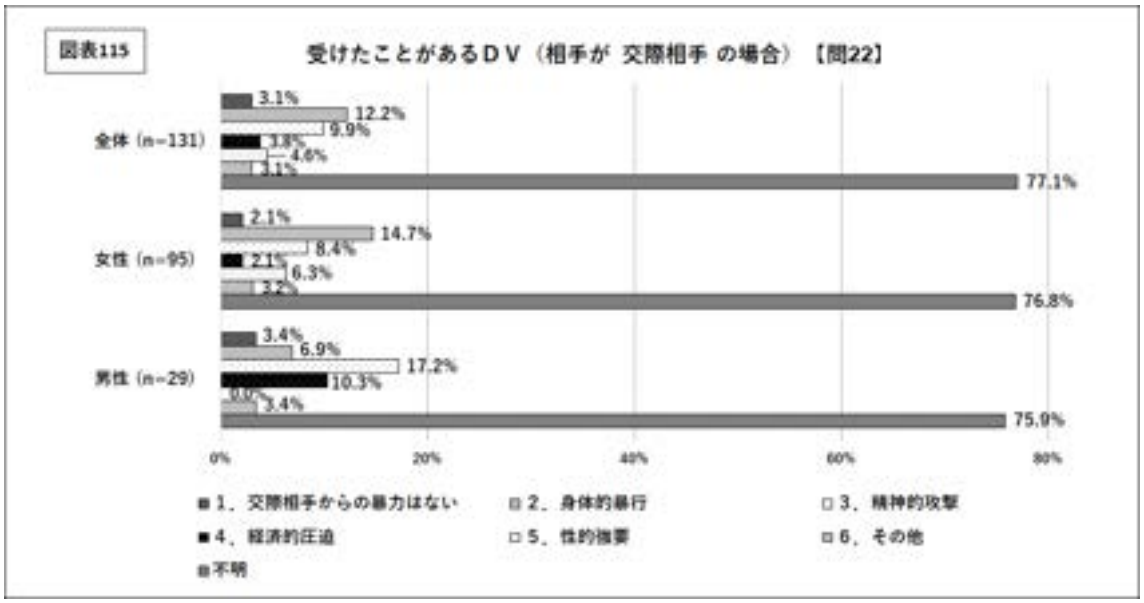
(3) ＤＶの被害内容

被害を受けたことがある、あるいは現在受けているとした回答は、年齢層別などで分析するには数が少ない。このため、ここでは、全体のデータのみの掲載にとどめる。

相手が配偶者の場合は、精神的攻撃が全体で 50.4%、身体的暴行が全体で 34.4%、経済的圧迫が全体で 27.5%の順に多い（図表 114）。

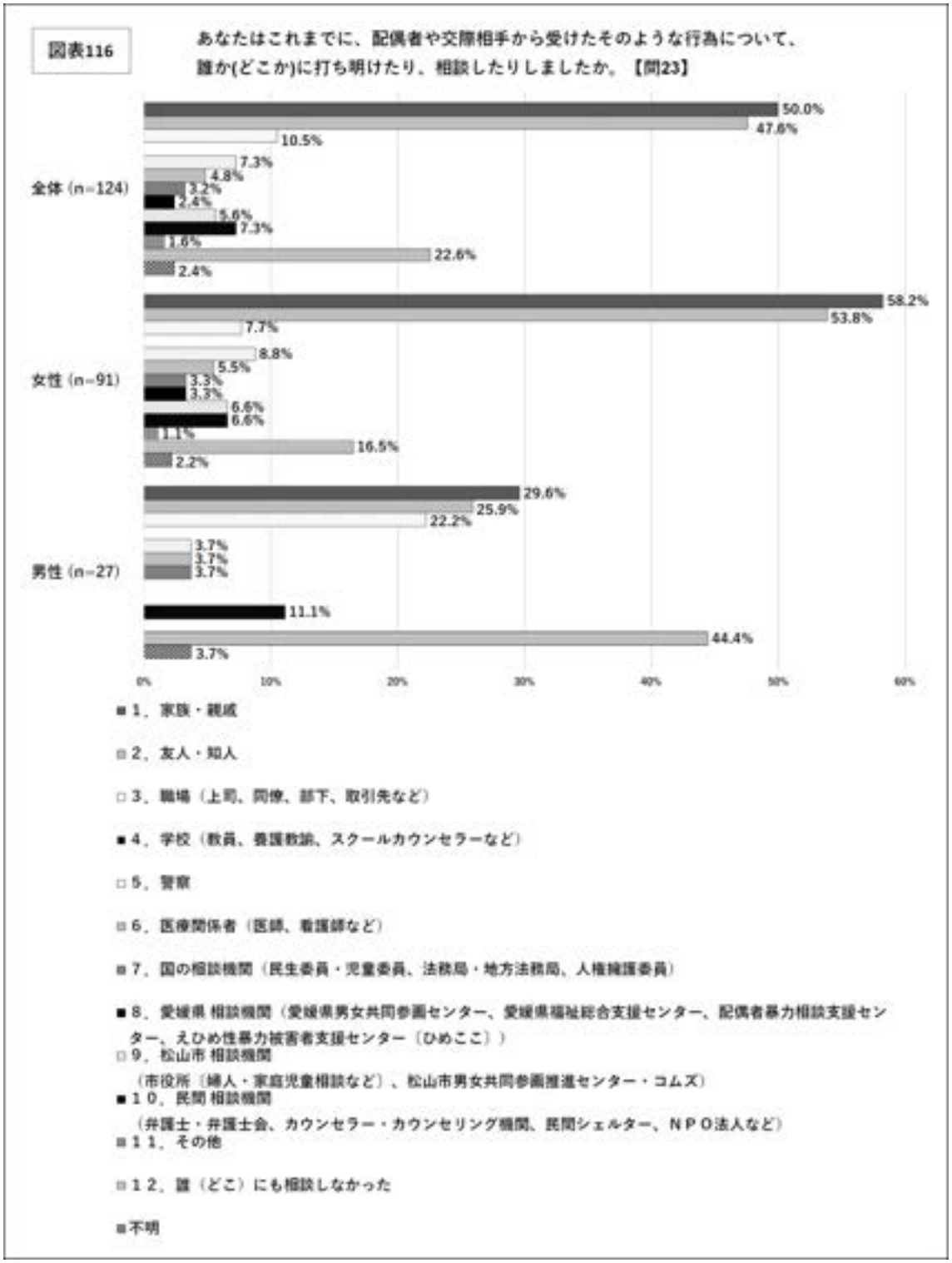


相手が交際相手の場合、受けたことのあるＤＶの具体的内容について回答した人の割合が、相手が配偶者の場合と比べると際立って低く、「不明」が７割超と非常に高い結果となっている（図表 115）。



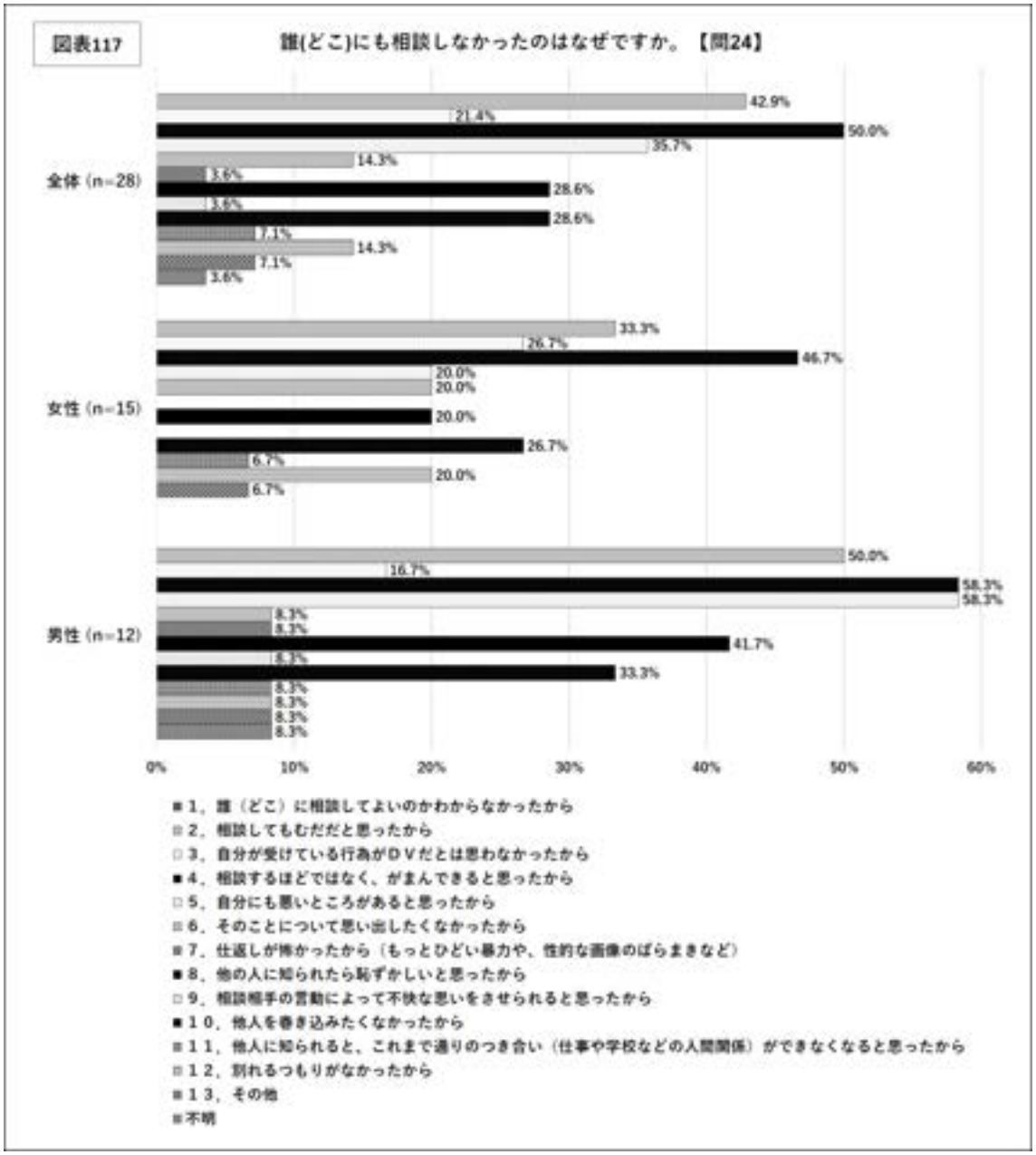
(4) 被害に関する相談

家族・親戚や友人・知人といった身近な人々への相談、あるいは「誰にも相談しなかった」という回答が多い。男女別では女性よりも男性の方が誰にも相談せず、ひとりで問題を抱え込んでいた（いる）割合が高い（図表 116）。



(5) 相談しなかった理由

年齢層別に分けるとサンプル数が非常に少なくなるため、全体的な回答結果のみを掲載する（図表 117)。「相談しても無駄」といった諦めや、「恥ずかしい」「他人を巻き込みたくない」などといった周囲に対する遠慮、「我慢できると思ったから」といった「自信」（？）がうかがえる。いずれにしても、公的相談機関が取り組むべき課題の大きさを物語っている回答結果といえよう。実際にも、国・県・市町村を問わず、公的機関に相談をしたと回答した人の割合は非常に低い。問題を自分自身や身近な家族・知人などだけで抱え込まず、必要なときには被害者が速やかに各種の公的支援のしくみにつながることが出来るよう、さらなる周知・啓発の方法も含め、行政による救済・支援体制の強化と質の向上が必要である。



３　小括

(1) 結果の要約

以上の結果を要約すると次のとおりである。

1) 言葉の認知度

様々な人権侵害に関する用語についての認知度は非常に高い。「内容も含めて詳しく知っている」「大体知っている」と回答した人の割合はセクシュアル・ハラスメントで約８割、マタニティ・ハラスメントで７割、ストーカーでは９割近くとなっている。

2) 人権侵害に関わる体験

女性の１割近くがこれらの人権侵害について「自分が被害を受けたことがある」「身近な人が被害に遭ったことがある」という回答を寄せている。

3) ＤＶ

ＤＶを「これまでに受けたことがある」または「現在も受けている」と回答した人の割合は女性で 14.4%、男性が 5.7%となっており、その態様については、相手が配偶者の場合は精神的攻撃、身体的暴行、経済的圧迫の順に多い。相手が交際相手の場合は具体的な暴力の態様を挙げた回答が少なく、「不明」という回答が非常に多いという結果となった。また、被害に関する相談相手としては、家族・親戚や友人・知人が多く、「誰にも相談しなかった」という回答も多かった。

(2) 考察

人権を侵害する種々の暴力に関する用語についてはいずれも社会の中で一定程度認知されている。一方では、女性の１割強が、自身の、あるいは身近な人々への、様々な形での人権侵害を体験している。

こうした状況については、言葉の認知度の上昇との関連性とともに、実際に被害が増加している可能性も考える必要があろう。内閣府男女共同参画局の公表資料によれば、ＤＶ相談件数は令和２年度では 18 万 2,188 件と前年度より約 1.5 倍増加しているという。同局の調査によると、愛媛県内で３つの施設において、令和２年度に配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談件数は 704 件に上る。そのうち女性からの相談は 697 件、男性からの相談は７件であったという※。

被害者には、一人で、あるいは身近な人々だけで問題に対処しようとする傾向が見られる。各種の公的相談機関の体制強化が求められる。

※ 内閣府男女共同参画局「【公表資料】配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数等（令和２年度分）」
URL　https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/data/pdf/2020soudan.pdf　（2022 年 10 月 1 日検索）

第５章　新型コロナウイルス感染症がもたらした影響

１　生活の変容

今回調査では、令和元年末からの「新型コロナウイルス感染症」感染拡大の本市におけるその影響の様子を探るため、「コロナ禍による生活の変化」についての質問を加えた。図表 118 に示すように、９つの項目を挙げ、その時間や活動が「減った」から「増えた」までの５段階で変化の様子を回答してもらった。

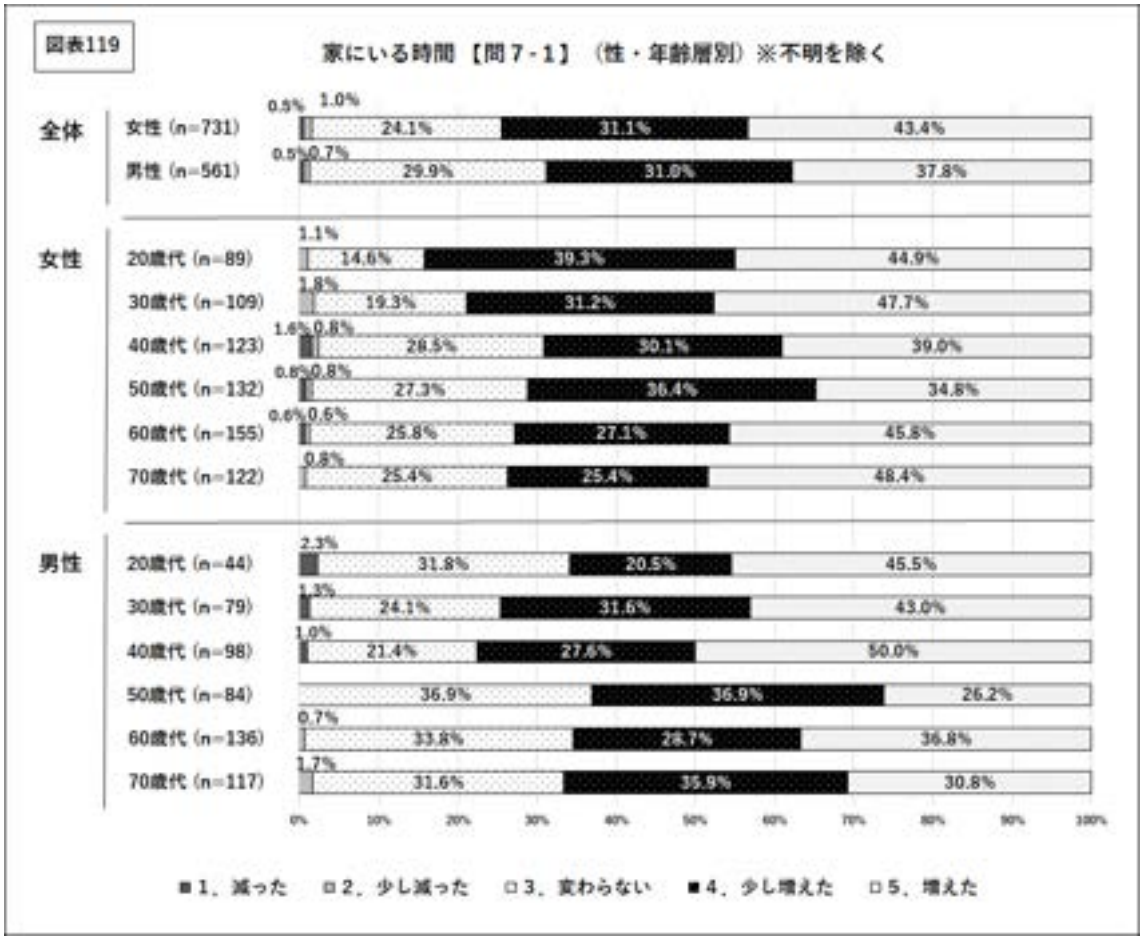
図表 118　コロナ禍での生活の変化【問７】

		減った (%)	少し減った (%)	変わらない (%)	少し増えた (%)	増えた (%)	不明 (%)	加重平均値
家にいる時間	女性（n=734）	0.5	1.0	24.0	**30.9**	**43.2**	0.4	4.16
	男性（n-565）	0.5	0.7	29.7	**30.8**	**37.5**	0.7	4.05
就労（労働）時間	女性（n=734）	**7.4**	**6.7**	65.1	5.6	2.5	12.8	2.88
	男性（n-565）	**6.5**	**10.3**	66.7	2.7	4.1	9.7	2.86
家事・育児・介護時間	女性（n=734）	0.8	1.6	67.0	**15.8**	**8.4**	6.3	3.31
	男性（n-565）	0.5	0.4	71.9	**14.5**	**3.2**	9.6	3.22
学業時間	女性（n=12）	8.3	16.7	16.7	**33.3**	**25.0**	0.0	3.50
	男性（n-10）	10.0	10.0	**60.0**	10.0	10.0	0.0	3.00
収入	女性（n=734）	**11.2**	**12.3**	62.8	3.7	0.7	9.4	2.67
	男性（n-565）	**11.2**	**12.7**	63.9	3.5	1.6	7.1	2.70
支出	女性（n=734）	3.4	15.0	36.8	24.8	11.3	8.7	3.28
	男性（n-565）	3.7	12.0	48.7	23.0	5.8	6.7	3.16
家族との交流	女性（n=734）	**9.1**	**12.4**	47.5	15.0	6.8	9.1	2.98
	男性（n-565）	6.0	7.3	55.6	17.7	6.2	7.3	3.12
家族以外の人との交流	女性（n=734）	**51.6**	**27.2**	11.7	1.4	0.1	7.9	1.60
	男性（n-565）	39.6	25.7	26.4	1.4	0.2	6.7	1.89
インターネット・SNSの利用時間	女性（n=734）	1.2	1.2	30.8	28.7	**24.7**	13.4	3.86
	男性（n-565）	0.5	1.2	40.0	29.7	17.7	10.8	3.70

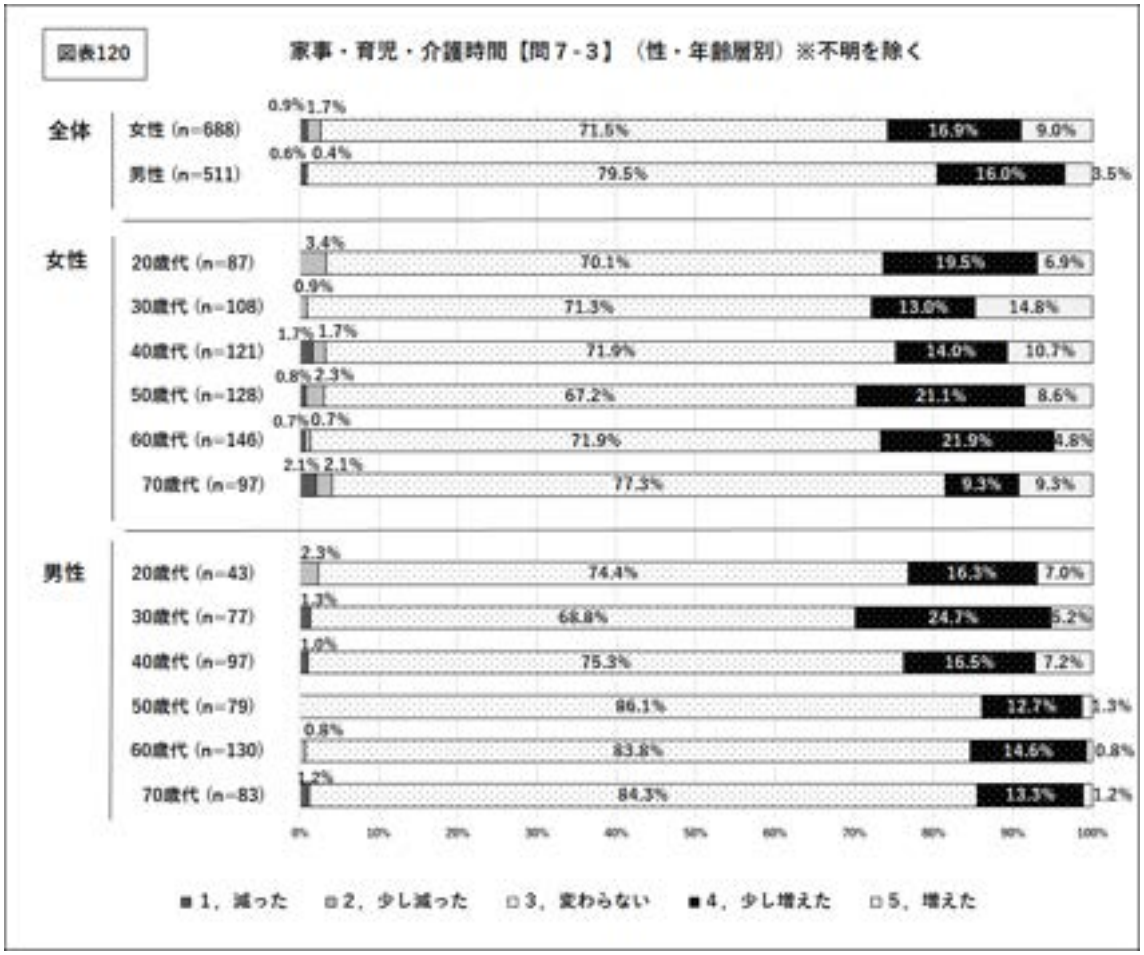
・「学業時間」の回答者は、「学生」と答えた人のみ。
・「加重平均値」は、回答に「減った」＝1 点、「少し減った」＝2 点、「変わらない」＝3 点、「少し増えた」＝4 点、「増えた」＝5 点の点数を与えて平均を求めたものである。

(1) 家庭での過ごし方

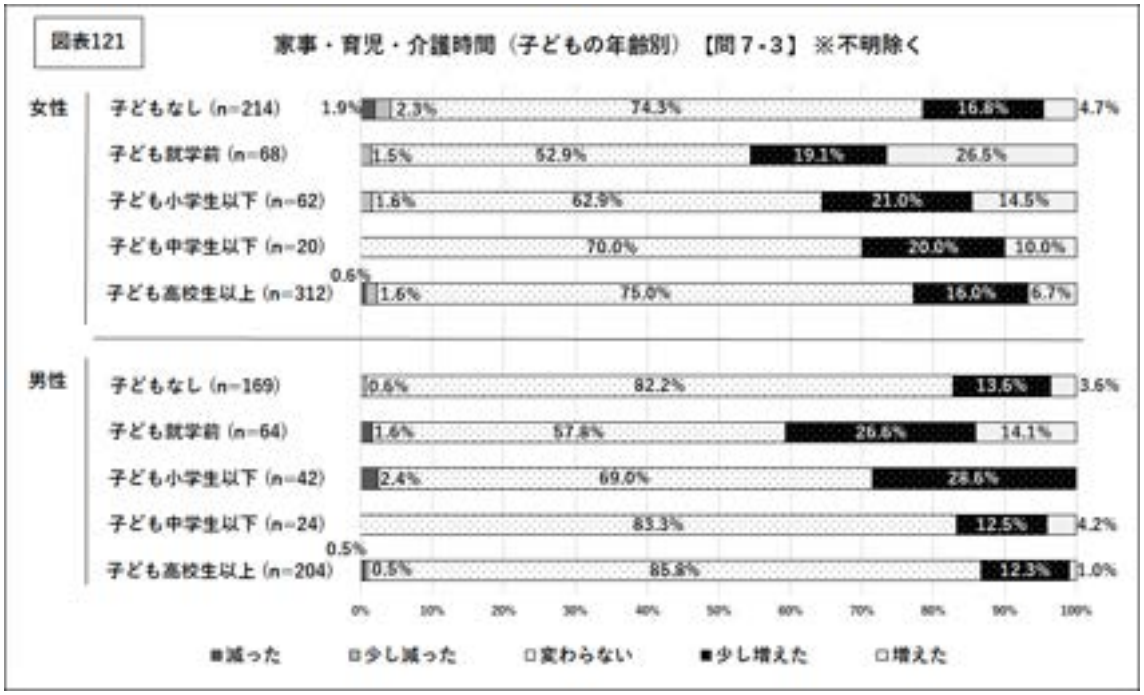
「家にいる時間」については、「増えた」もしくは「少し増えた」との回答が男女とも７割を越えており、在宅勤務や外出自粛といった感染拡大防止策を背景とした変化の様子がはっきり現われる結果となった（図表 119）。



生活時間のうち「家事・育児・介護」については、女性の 25.9%、男性の 19.5%が「増えた」もしくは「少し増えた」と答えている。特に「増えた」の割合を見ると最も高いのは女性30歳代、次いで女性40歳代であり、全年代にわたって女性の方が男性より高い（図表120)。

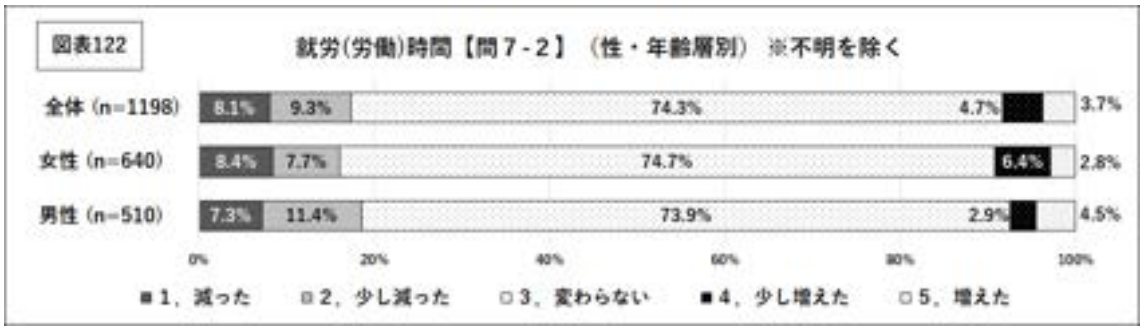


図表 121 は、子ども（複数いる場合は最年長の子ども）の年齢との関連を示したものである。男女とも子どもの年齢が低い層ほど、「家事・育児・介護」時間が「増えた」「少し増えた」という回答の割合は高く、コロナ禍の中で、育児関連の時間が増えている様子が推察できる。特に、小学生以下、未就学児といった小さな子どもをもつ女性層でその傾向は顕著である。第３章でも見た家事・育児等の負担の偏りが、こうしたコロナ禍の影響の現れ方にも反映していることがわかる。

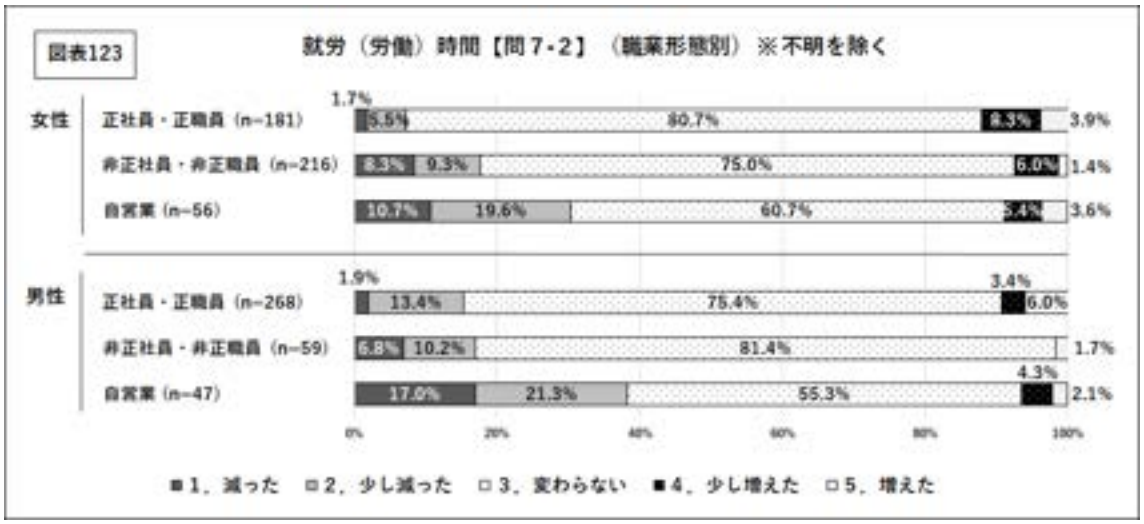


(2) 就業時間・収入・支出

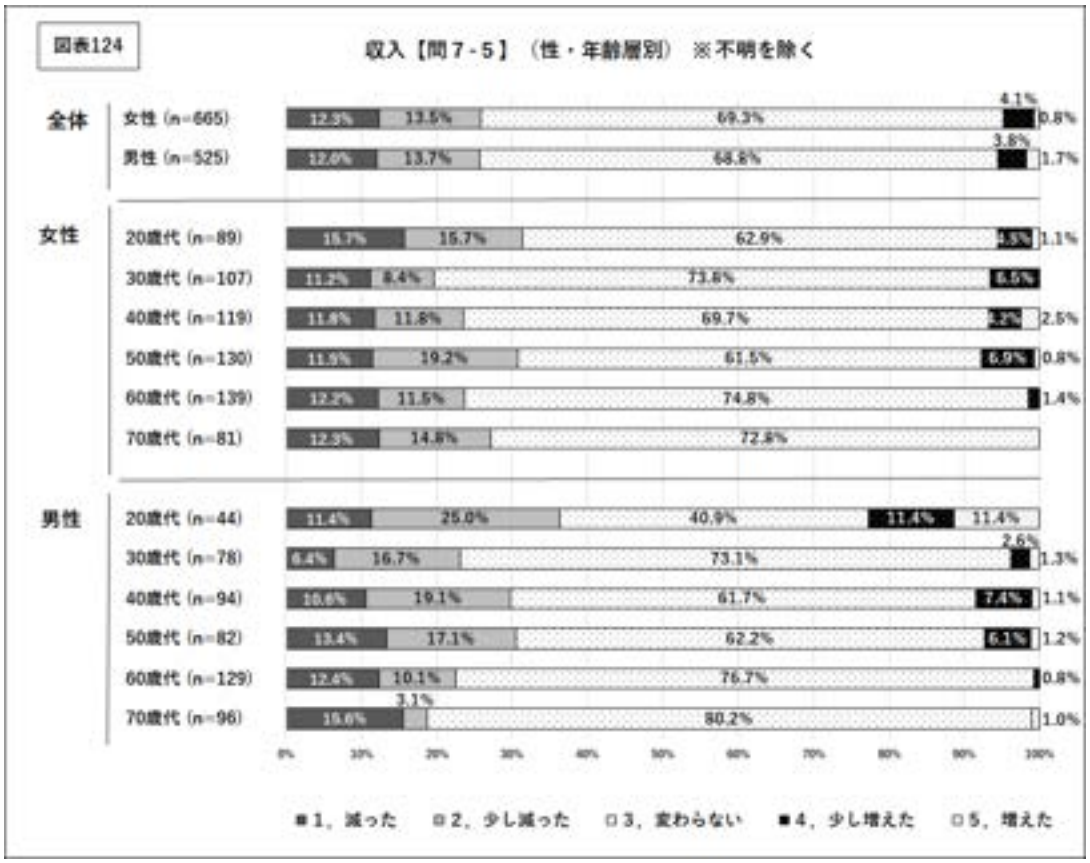
「就労（労働）時間」は、「変わらない」が男女とも最も多く、女性で 74.7%、男性で 73.9%である。「減った」と「少し減った」の合計は、女性で 16.1%、男性 18.7%となっている（図表 122)。



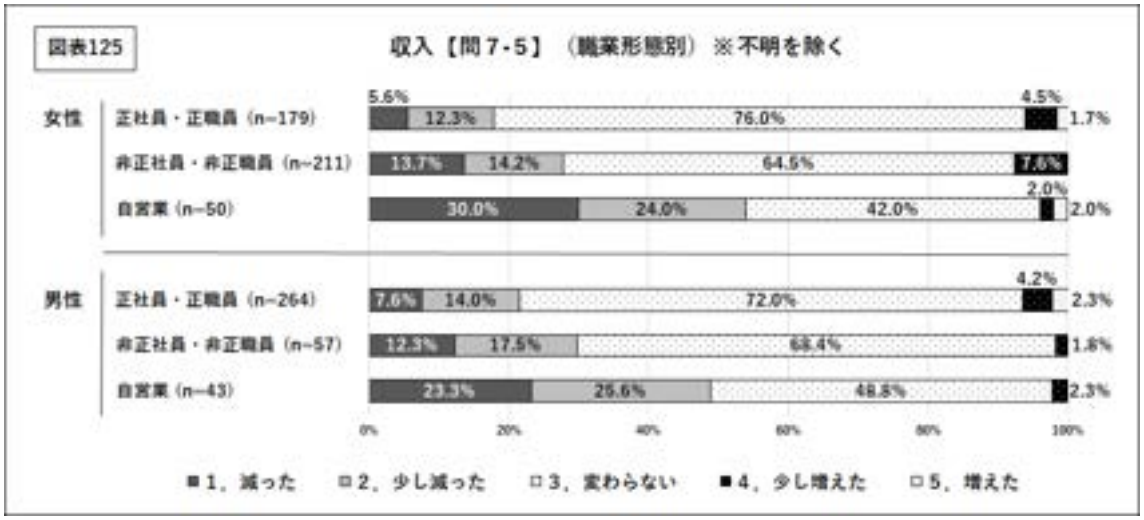
これを就業形態別に見ると、雇用者のうち「正社員・正職員」では、女性の 8.2%、男性の 15.3%が「減った」もしくは「少し減ったと」答えている。ただし、「正社員・正職員」は、コロナ禍において就業時間が「増えた」との回答も 10%程度ある。また「正社員・正職員」と「非正社員・非正職員」を比較すると、後者の方が「減った」答えた割合は高い（女性 8.3%、男性 6.8%）。また「自営業」でも就労時間の減少は大きいことがわかる（図表 123）。



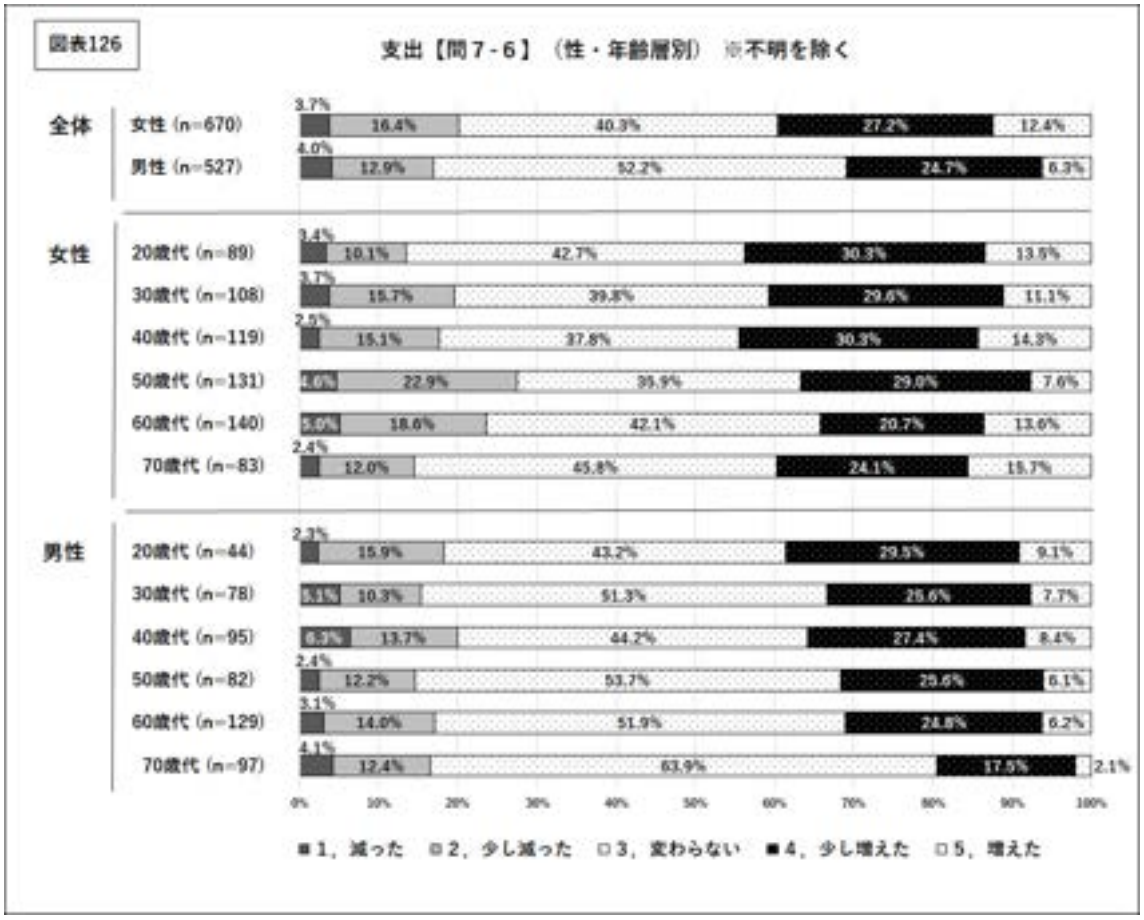
収入を見ると、「減った」「少し減った」との回答は、女性で合計 16.1%、男性で 18.7%に達しており、就労時間よりもさらにはっきりと減少が現われている（図表 124）。



就業形態別に見ると、「非正社員・非正職員」で男女とも１割以上、「自営業」では２割以上の人が「減った」と回答しており、就労（労働）時間とあわせて、コロナ禍の打撃が大きかったことが読み取れる（図表 125）。



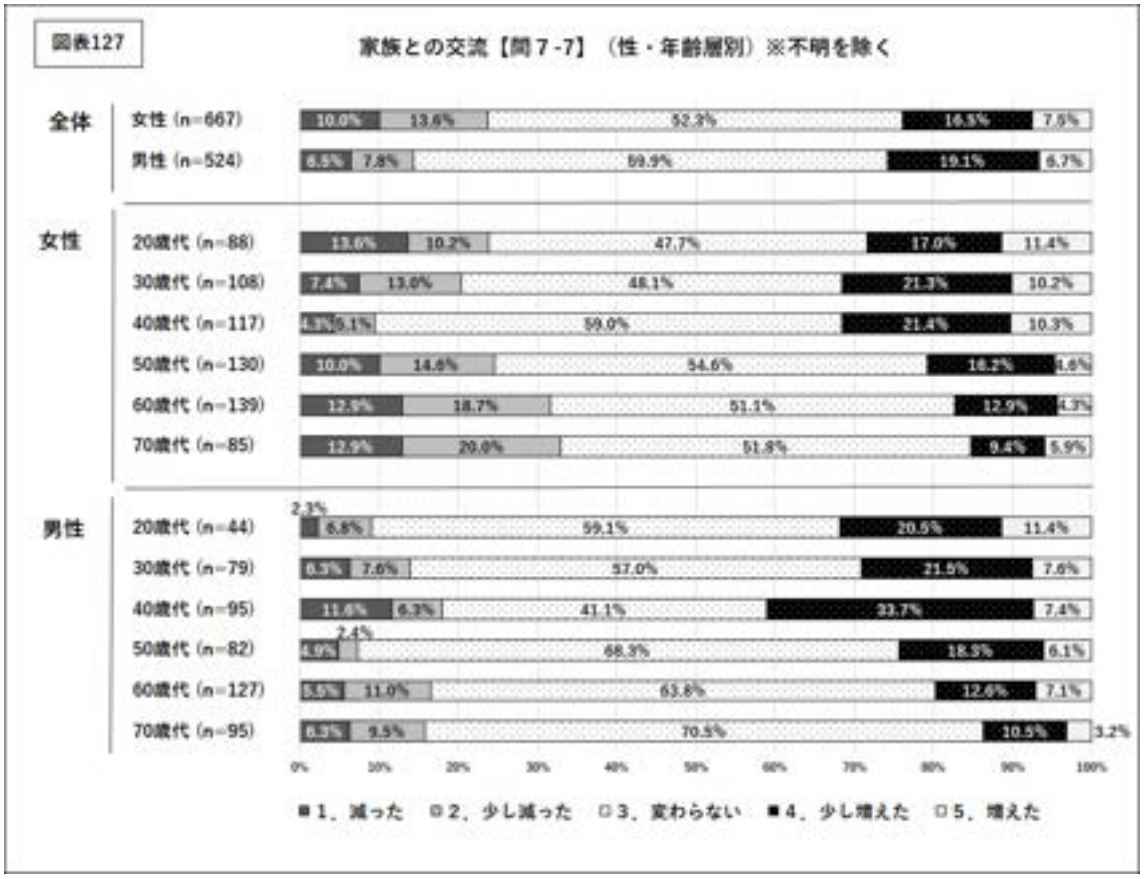
支出についてはやや回答が分かれているが、女性の 39.6%、男性の 31.0%が「増えた」「少し増えた」と回答している。特に若い年齢層において「増えた」割合が高い（図表 126）。



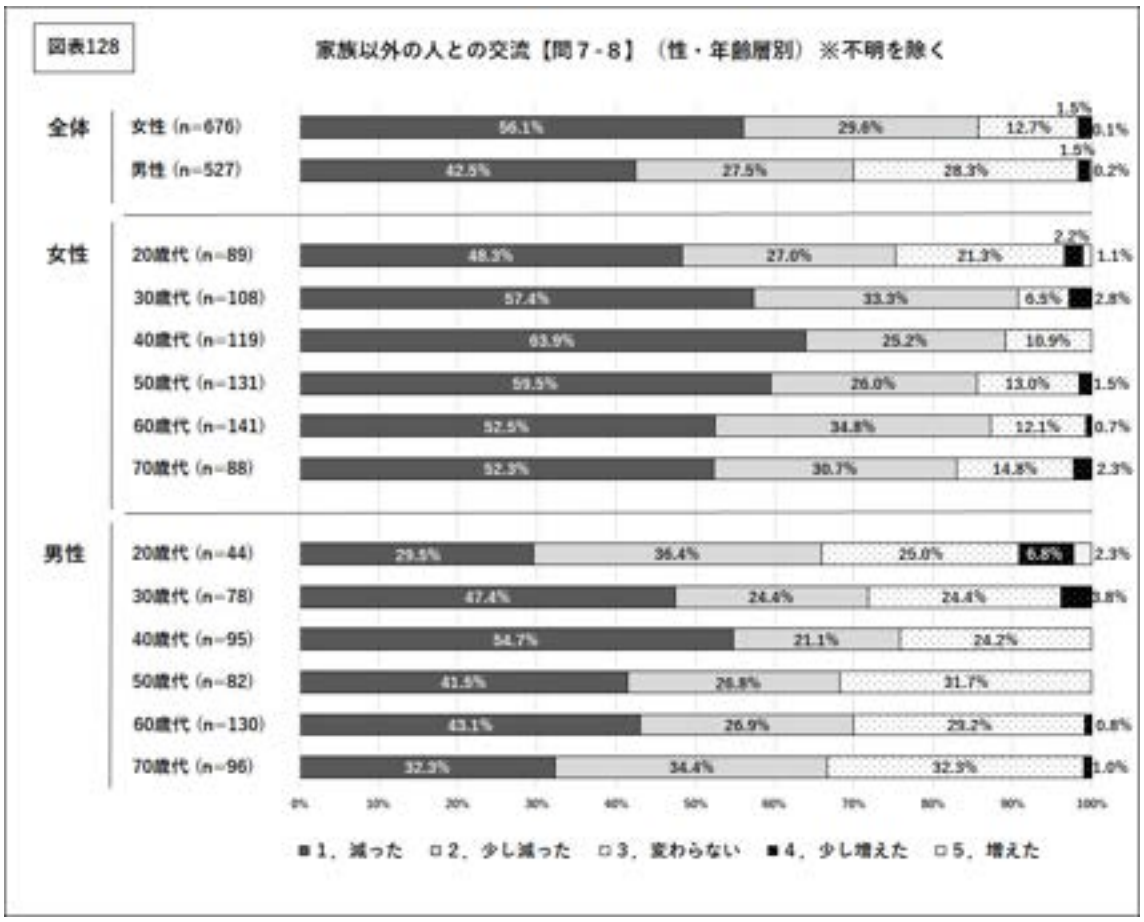
(3) 人との関わり

「家族との交流」の変化について見たところ、男女も半数前後は「変わらない」と答えているが、男性は女性よりも「増えた」と回答した割合が高い。特に 40 歳代男性は「増えた」もしくは「少し増えた」が 41.1%を占めており、コロナ禍における行動様式の変化が家族との関わり方にも大きな影響をもたらしたことがわかる。また女性では、40 歳代までの女性で、特に「増えた」の割合が高い（図表 127）。

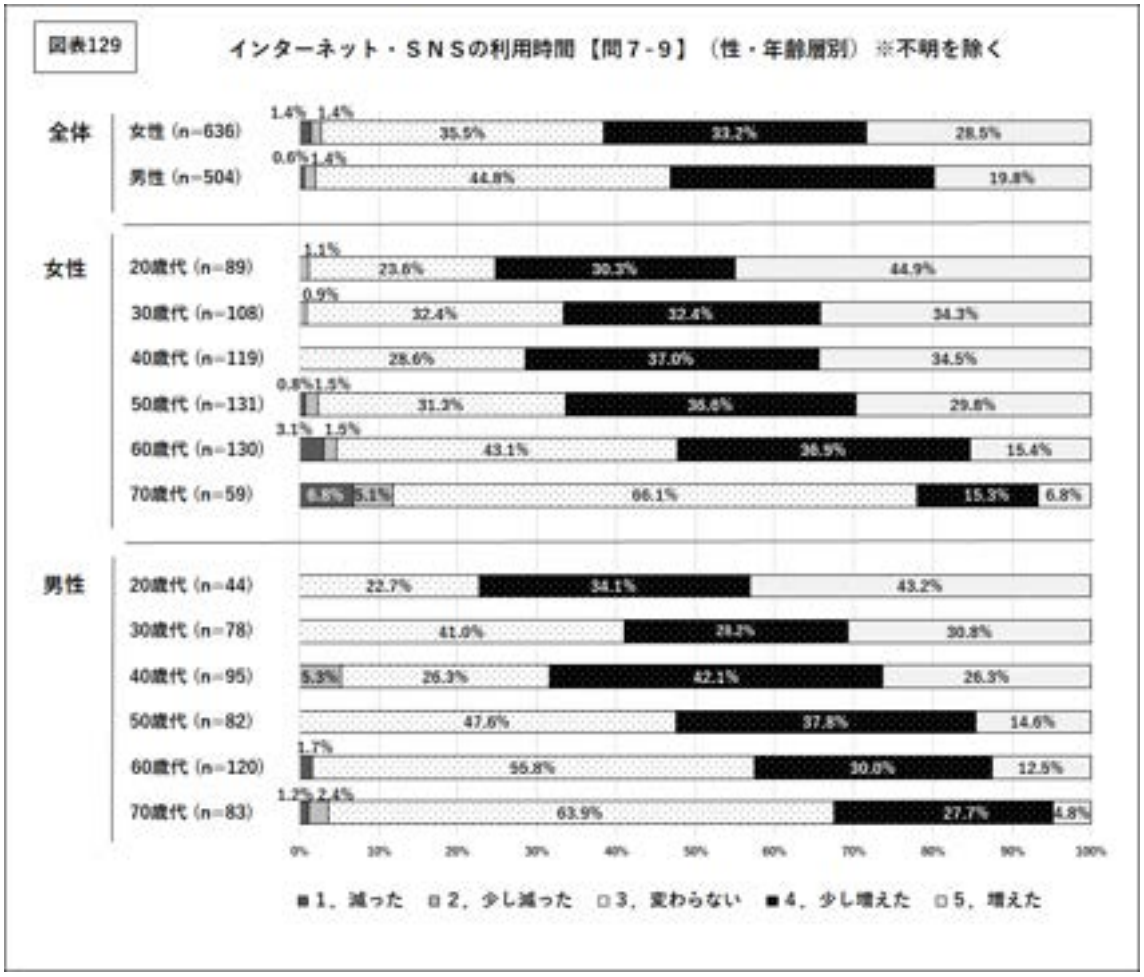
しかし逆に、コロナ禍の中で家族との交流が減ったとの回答もあり、特に女性では「減った」「少し減った」の合計が全体の 23.6%に上っている。特に女性の 20 歳代および 50 歳代でその割合は高い。帰省や訪問など、離れて暮らす家族との交流が制限されたことが含まれると考えられる。この点については男女で回答割合がやや異なっており、家族関係の中での役割や関心の違いも示唆されており興味深い結果となっている。



家族以外の人との交流については、いずれの層でも「減った」と回答した割合は極めて高く、外出制限の中で人と関わる機会が大幅に制限されている様子がわかる。性別で比較すると、「減った」と答えている割合は女性の方が高く、また年代では 30 歳代・40 歳代が高い（図表 128）。

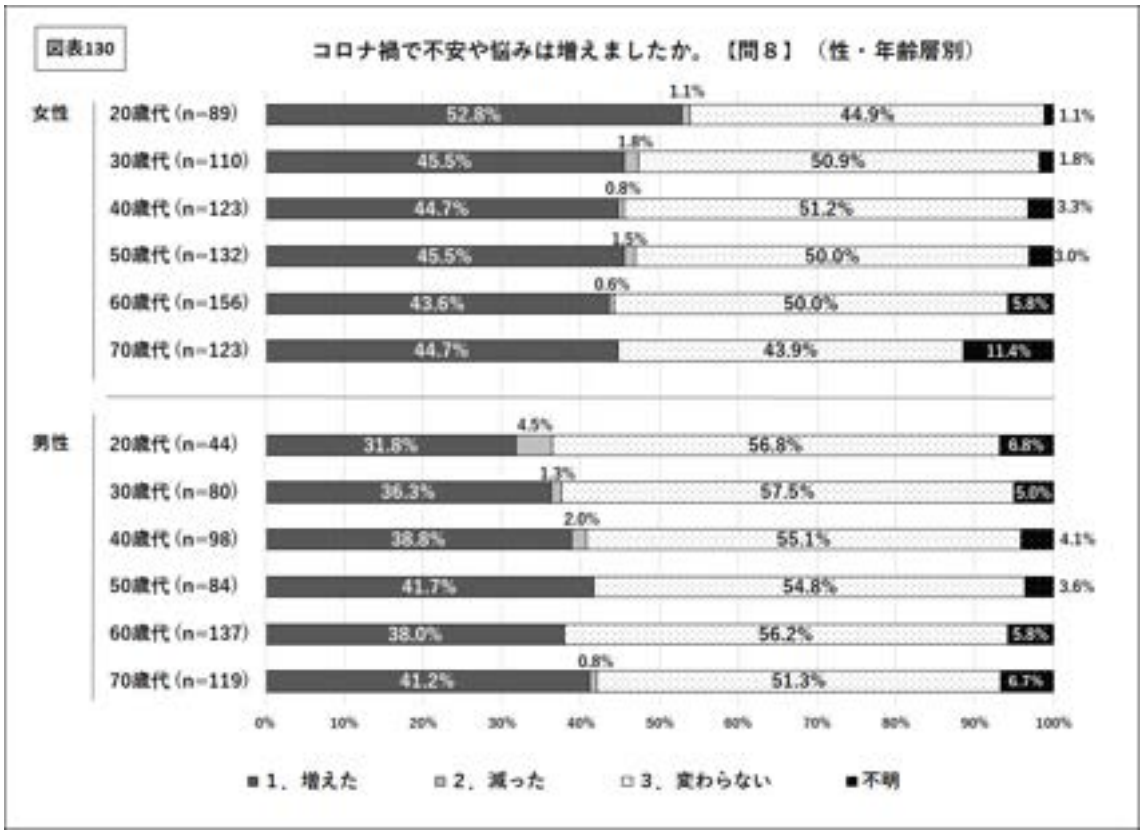


これに対し「インターネット・SNS の利用時間」は、全年代にわたり多くの人が「増えた」と答えており、男女とも 50 歳代以下の年代では半数以上の人が「増えた」もしくは「やや増えた」と回答している（図表 129）。

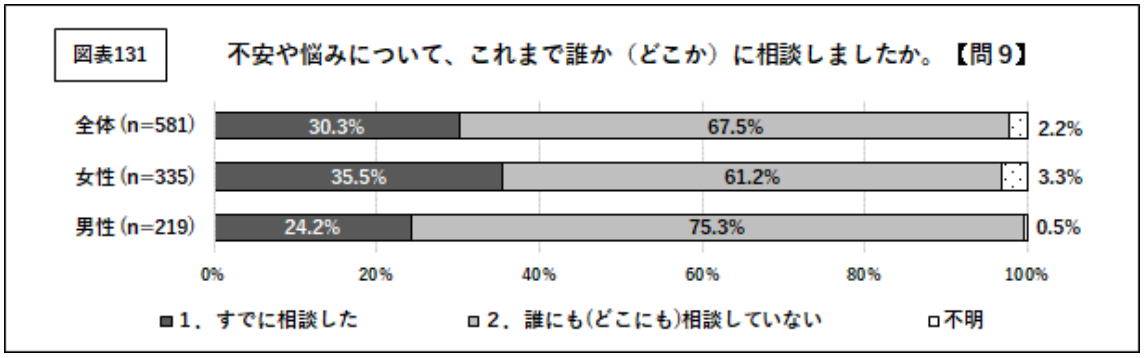


２　不安・悩み

このように、コロナ禍がもたらした様々な変化に直面する中で、不安や悩みはやはり増えている。性別で見ると全年代にわたり女性の方が「ある」と回答した割合は高く、20 歳代女性では半数以上の人が「増えた」と回答している。年齢による違いは顕著とはいえないが、男性において、年齢が上昇するほど「悩みが増えた」という人はやや増加する傾向が見える（図表 130）。



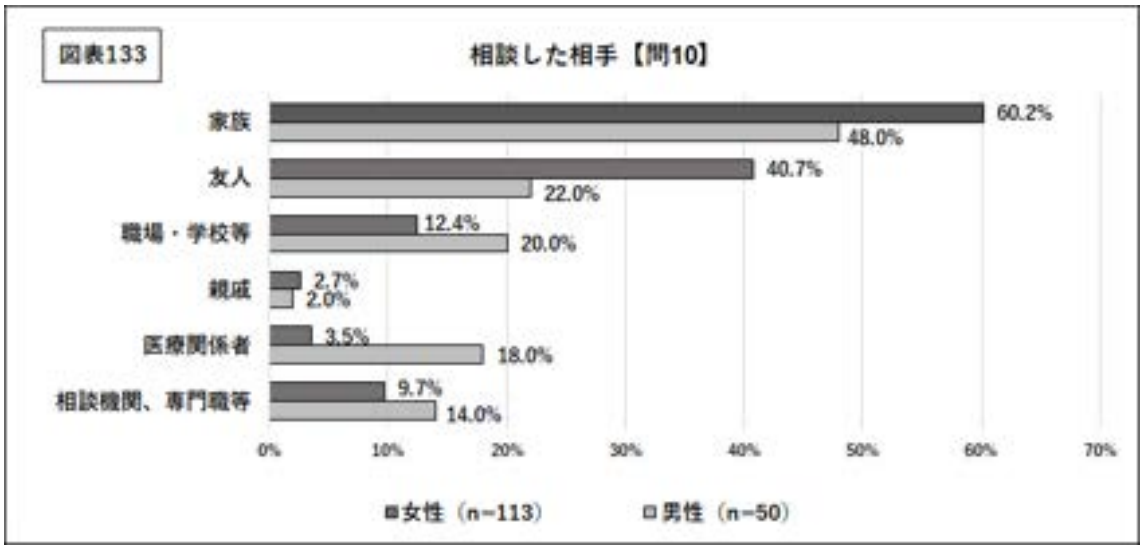
しかしこうした不安や悩みを「相談した」か、また「今後相談したい」かを尋ねると、その割合はあまり多くない。「誰かに相談しましたか」という質問に対して「相談した」と回答した人は 176 人（女性 119 人、男性 53 人、不明など４人）で、悩みが「増えた」と回答した人のうち 30.3%であった。性別で見ると、女性の方が若干高い（図表 131）。



「相談した」人に、誰（どこ）に「相談した」かを自由記述で尋ねた。その回答に登場した語をユーザーローカル ＡＩ テキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）によって示された出現頻度順の図（図表 132）で見ると、家族、友人を中心とし、その他多様な先に相談し、また話題として取り上げ、情報交換をしている様子がわかる。

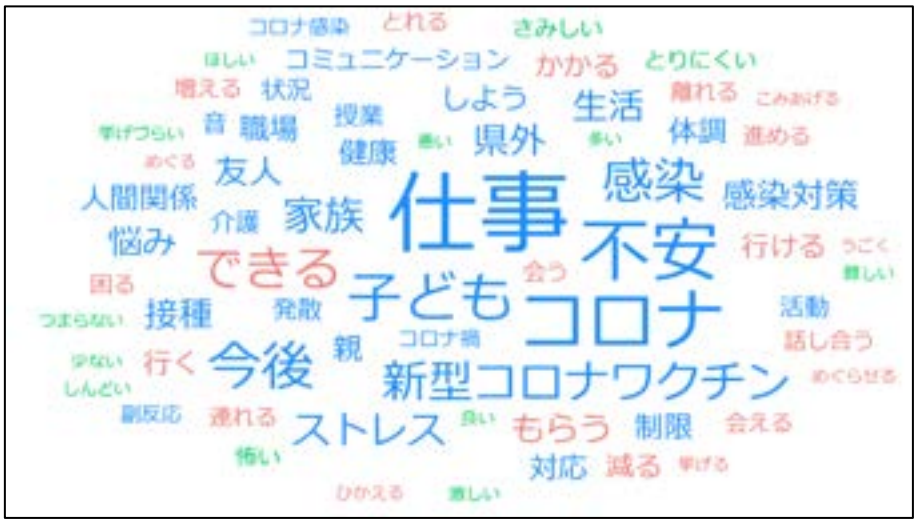
図表 132　出現頻度順【問 10】

相談相手を回答者の性別によって比較すると、性別による若干の違いも見られる（図表 133）。家族（図表 132 に登場している「親」「母」「夫」「息子」等も含む）、友人（「知人」「親友」なども含む）を挙げた割合は女性の方が多く、職場・学校等（「上司」「同僚」「教員」等）、医療関係者（「医療機関」「医師」「看護師」等）、相談機関・専門職等（「カウンセラー」「保健所」「ハローワーク」「市役所」「銀行」「社会福祉協議会」等を含む）を挙げた割合は男性の方が高い。



図表 134 は、相談した内容を、同様に出現頻度に従って図示したものである。ここからは、「ワクチン」、「感染」、「感染対策」、「体調」といった健康管理上の不安とともに、「仕事」、「職場」、「授業」など仕事や学業に関する悩み、「制限」、「コミュニケーション」、「ストレス」など、行動や人間関係に関するものなど多岐にわたる内容が現われているが、それと共に、「しんどい」、「つまらない」、「こみ上げる」、「さみしい」など、コロナ禍の中で直面している様々な心境も読み取ることができる。

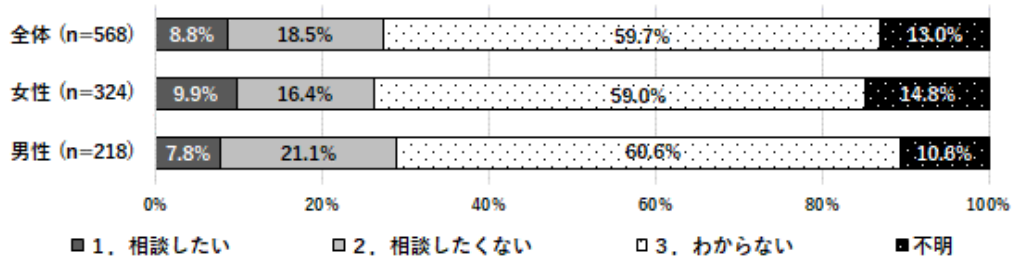
図表 134　出現頻度順【問 10】



こうした悩みの中にありながらも、今後、誰か（どこか）に相談したいか、という問いに対する肯定率も、やはり高くない（図表 135）。自由記述の中には「コロナにかかっても特定されるのが怖いので検査など一切できない（本当はしたい）」といった相談すること自体についての不安や、「相談場所がわかりません」「そういった制度はあるが全く機能していない」といった相談先・相談機関についての不安・不満を述べた記述も見られた。

また、この設問に「わからない」の割合がきわめて高いことも、注目すべき点といえるかもしれない。感染症の拡大という、未経験の出来事が日常生活にもたらした変容の捉えどころのなさ、対応の難しさ、さらには「相談」という行動との結びつきにくさがこうした回答の背景にあるのではないかと想像される。

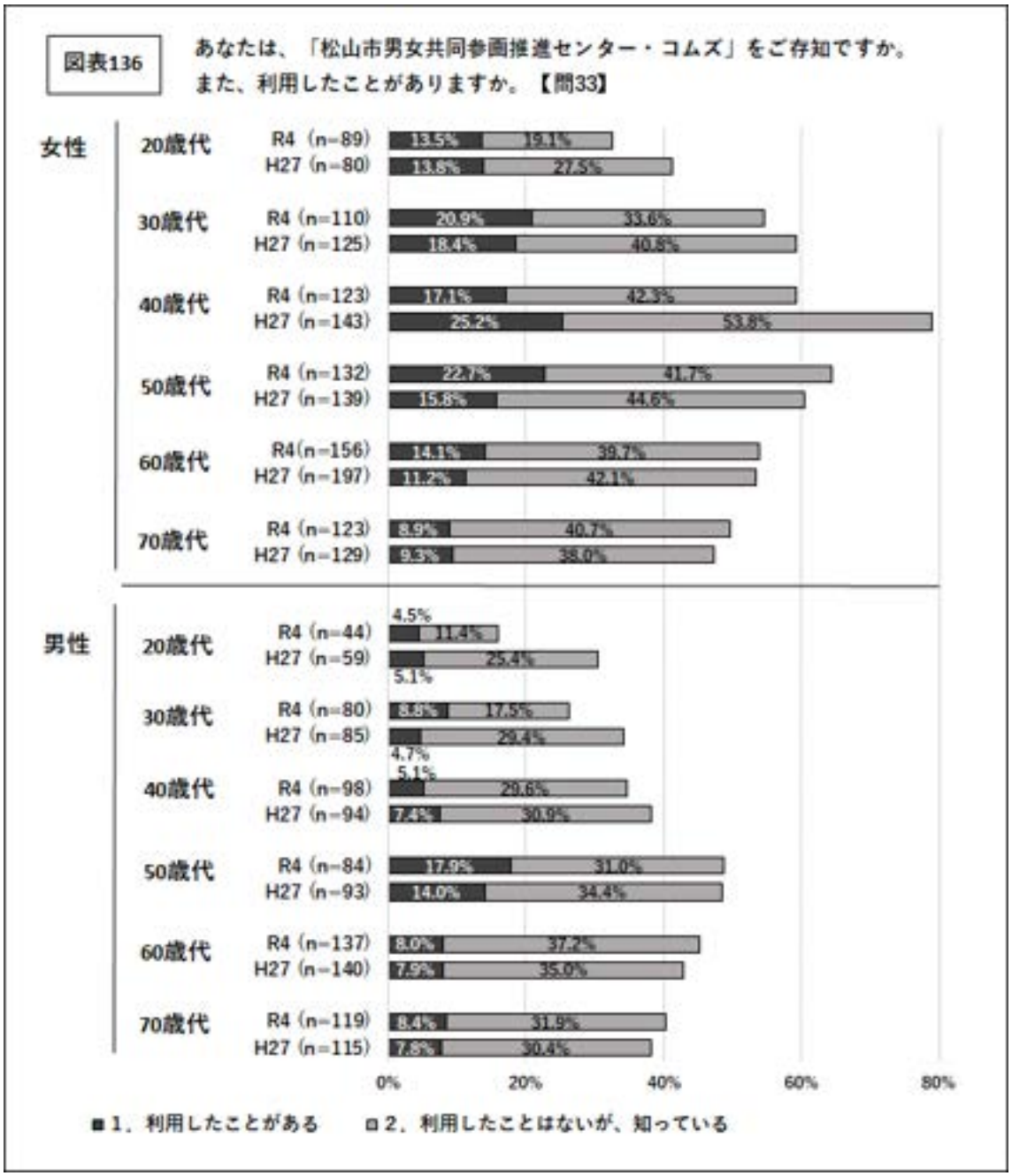
図表135　今後、誰か（どこか）に相談したいですか。【問11】



第６章　松山市男女共同参画推進センター・コムズについて

１　認知度と利用度

「利用したことがある」または「利用したことはないが、知っている」の合計が減少しているのは、女性 20～40 歳代、男性 20～40 歳代であった。ただし、30 歳代女性と 30 歳代男性の「利用したことがある」割合は、それぞれ 2.5 ポイント、4.1 ポイント増加している。一方、「利用したことがある」または「利用したことはないが、知っている」の割合の合計が上昇しているのは、女性 50～70 歳代、男性 50～70 歳代であった（図表 136）。

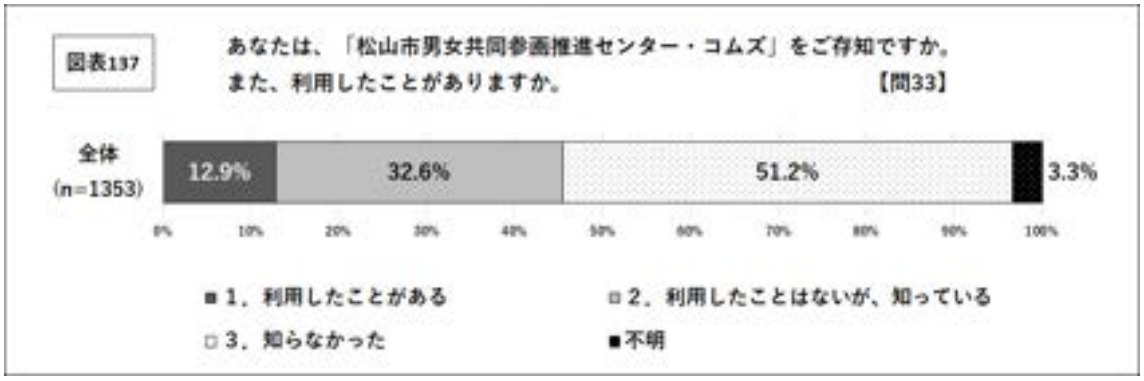


２　受講したい講座について

松山市男女共同参画推進センター・コムズでは、男女共同参画の意識啓発や市民への学習機会の提供を目的として、例年、無料の講座やイベントを複数開催している。

今後は、コムズを知らない層（特に若い世代）へのアプローチが必要であり、そのためには、性・年齢層別に、どのようなニーズがあるかを把握し、実現していくことが求められている。

なお、今回の調査は、コムズを「知らなかった」(51.2%)、「利用したことはないが、知っている」(32.6%）と回答した人の意見も反映されているため、今後の講座企画にぜひ取り入れていきたいと考えている（図表 137)。



次ページ以降で、参加したい講座やセミナーについて尋ねた調査結果から、性・年齢層別に、ニーズが高いと思われる題材を確認することができた。性・年齢層別で上位３項目に着目し、割合が比較的高い 20%以上のものに〇印 を付けた（図表 138～140)。

また、相談窓口において相談したい内容も調査したため、悩み解決の一助となるよう、「相談したい内容」をテーマとする講座も需要があると推察される。こちらについても、性・年齢層別で上位３項目に着色し、割合が比較的高い 15%以上のものに〇印を付けた（図表 138)。講座参加者を相談室へつなげたり、困りごとの解決へつなげたりするという意味でも、今後の企画内容に取り入れていきたい。

※性・年齢層別で、上位３位を着色…… １位：■　２位：■　３位：■
※問 31…… 15%以上：割合を○で囲った。
※問 34①、問 34②…… 20%以上：割合を○で囲った。

図表 138 相談したい内容【問 31】

	1. 心の問題	2. 健康上の悩みや問題	3. 仕事上の悩みや問題	4. 経済上の悩みや問題	5. 育児・子育て上の悩みや問題	6. 介護上の悩みや問題	7. パートナー間の悩みや問題	8. それ以外の家族関係上の悩みや問題	9. その他	10. 相談窓口を利用したいと思わない	不明
女性 20歳代(n=89)	19.1%	9.0%	20.2%	9.0%	9.0%	2.2%	3.4%	2.2%	4.5%	53.9%	5.6%
女性 30歳代(n=110)	8.2%	6.4%	13.6%	8.2%	12.7%	1.8%	2.7%	0.9%	0.9%	65.5%	2.7%
女性 40歳代(n=123)	4.9%	7.3%	2.4%	8.1%	13.0%	8.9%	3.3%	1.6%	8.9%	68.3%	4.9%
女性 50歳代(n=132)	10.6%	9.8%	9.8%	9.1%	1.5%	22.0%	1.5%	5.3%	6.8%	48.5%	6.1%
女性 60歳代(n=156)	5.8%	8.3%	4.5%	8.3%	0.6%	17.9%	3.2%	3.8%	5.1%	46.2%	10.9%
女性 70歳代(n=123)	1.6%	13.0%	0.8%	7.3%	0.8%	17.1%	0.8%	2.4%	7.3%	29.3%	29.3%
男性 20歳代(n=44)	9.1%	2.3%	9.1%	9.1%	9.1%	2.3%	4.5%	0.0%	2.3%	65.9%	2.3%
男性 30歳代(n=80)	10.0%	6.3%	6.3%	8.8%	7.5%	3.8%	2.5%	0.0%	0.0%	70.0%	7.5%
男性 40歳代(n=98)	10.2%	8.2%	17.3%	11.2%	5.1%	6.1%	3.1%	0.0%	2.0%	62.2%	5.1%
男性 50歳代(n=84)	10.7%	14.3%	11.9%	16.7%	1.2%	9.5%	4.8%	3.6%	3.6%	60.7%	6.0%
男性 60歳代(n=137)	8.8%	16.1%	5.8%	15.3%	1.5%	12.4%	1.5%	4.4%	5.1%	48.2%	12.4%
男性 70歳代(n=119)	0.8%	11.8%	0.8%	12.6%	0.0%	5.9%	0.8%	3.4%	4.2%	46.2%	20.2%

図表 139 参加したい講座のテーマ【問 34①】

	1. 生き方	2. 育児・子育て	3. 親子関係	4. 介護	5. 健康増進	6. 防災	7. DV（ドメスティック・バイオレンス）	8. その他	9. 参加したいテーマはない	不明
女性 20歳代(n=89)	32.6%	48.3%	15.7%	18.0%	21.3%	24.7%	7.9%	3.4%	23.6%	0.0%
女性 30歳代(n=110)	30.9%	41.8%	11.8%	16.4%	17.3%	32.7%	2.7%	2.7%	26.4%	0.0%
女性 40歳代(n=123)	31.7%	18.7%	10.6%	27.6%	24.4%	26.0%	0.8%	3.3%	24.4%	2.4%
女性 50歳代(n=132)	31.1%	3.8%	7.6%	38.6%	34.8%	12.9%	2.3%	2.3%	22.0%	3.8%
女性 60歳代(n=156)	33.3%	5.1%	7.7%	35.9%	46.2%	21.8%	3.2%	1.9%	17.9%	2.6%
女性 70歳代(n=123)	24.4%	0.8%	4.9%	34.1%	44.7%	16.3%	0.0%	0.8%	13.0%	12.2%
男性 20歳代(n=44)	22.7%	25.0%	4.5%	20.5%	13.6%	22.7%	4.5%	2.3%	43.2%	0.0%
男性 30歳代(n=80)	23.8%	30.0%	13.8%	13.8%	20.0%	25.0%	6.3%	1.3%	37.5%	2.5%
男性 40歳代(n=98)	19.4%	15.3%	11.2%	20.4%	21.4%	26.5%	3.1%	3.1%	34.7%	3.1%
男性 50歳代(n=84)	28.6%	4.8%	9.5%	27.4%	33.3%	25.0%	3.6%	8.3%	32.1%	1.2%
男性 60歳代(n=137)	27.0%	1.5%	5.1%	29.9%	41.6%	24.8%	2.9%	3.6%	21.2%	4.4%
男性 70歳代(n=119)	21.0%	1.7%	4.2%	26.9%	41.2%	19.3%	0.8%	1.7%	17.6%	9.2%

図表 140 参加したい講座の内容【問 34②】

	1. コミュニケーション力の向上に役立つこと	2. 仲間をつくれること	3. 自分の生活や家庭生活に役立つこと	4. 仕事に役立つこと	5. 地域で役立つこと	6. からだを動かすこと	7. 子どもと参加できること	8. パートナーと参加できること	9. 映画などの鑑賞	10. ICT、インターネット、オンラインツールの使い方	11. その他	12. 参加したい内容はない	不明
女性 20歳代(n=89)	34.8%	27.0%	58.4%	24.7%	10.1%	16.9%	25.8%	20.2%	18.0%	6.7%	0.0%	13.5%	1.1%
女性 30歳代(n=110)	25.5%	15.5%	58.2%	30.0%	5.5%	18.2%	30.9%	8.2%	15.5%	9.1%	0.9%	19.1%	1.8%
女性 40歳代(n=123)	19.5%	13.0%	57.7%	17.1%	6.5%	24.4%	26.0%	6.5%	10.6%	16.3%	0.0%	15.4%	3.3%
女性 50歳代(n=132)	19.7%	18.2%	57.6%	13.6%	9.1%	28.8%	3.0%	6.8%	15.2%	15.2%	0.0%	18.9%	2.3%
女性 60歳代(n=156)	16.7%	17.9%	51.9%	9.0%	12.2%	34.0%	1.9%	7.1%	14.1%	14.7%	0.0%	14.7%	2.6%
女性 70歳代(n=123)	11.4%	11.4%	48.8%	1.6%	9.8%	30.1%	0.0%	8.1%	9.8%	7.3%	0.0%	11.4%	13.8%
男性 20歳代(n=44)	25.0%	11.4%	54.1%	31.8%	15.9%	9.1%	18.2%	13.6%	11.4%	9.1%	2.3%	29.5%	0.0%
男性 30歳代(n=80)	25.0%	22.5%	37.5%	23.8%	16.3%	12.5%	17.5%	15.0%	6.3%	6.3%	0.0%	26.3%	3.8%
男性 40歳代(n=98)	17.3%	13.3%	41.8%	25.5%	11.2%	18.4%	21.4%	17.3%	15.3%	8.2%	2.0%	24.5%	2.0%
男性 50歳代(n=84)	27.4%	20.2%	41.7%	19.0%	16.7%	20.2%	7.1%	15.5%	11.9%	9.5%	2.4%	23.8%	1.2%
男性 60歳代(n=137)	15.3%	19.0%	41.6%	7.3%	19.7%	31.2%	2.2%	10.9%	10.9%	10.9%	1.5%	20.4%	5.8%
男性 70歳代(n=119)	10.9%	11.8%	39.5%	2.5%	16.8%	22.7%	0.8%	10.1%	1.7%	11.8%	0.8%	16.0%	10.9%

(1)健　　康

✤相談したい内容（問 31）で「健康上の悩みや問題」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……60 歳代（３位）、70 歳代（３位）
【男性】……50 歳代（３位）、60 歳代（２位）、70 歳代（３位）
なお、15％以上の割合だったのは、
【男性】……60 歳代

★参加したい講座テーマ（問 34①）で「健康増進」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……50 歳代（２位）、60 歳代（１位）、70 歳代（１位）
【男性】……40 歳代（３位）、50 歳代（１位）、60 歳代（１位）、70 歳代（１位）
なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……20 歳代、40～70 歳代
【男性】……30 歳代～70 歳代

✱参加したい講座内容（問 34②）で「からだを動かすこと」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……40 歳代（３位）、50 歳代（２位）、60 歳代（２位）、70 歳代（２位）
【男性】……60 歳代（２位）、70 歳代（２位）
なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……40 歳代～70 歳代
【男性】……50 歳代～70 歳代

(2)介　　護

✤相談したい内容（問 31）で「介護上の悩みや問題」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……50 歳代（２位）、60 歳代（２位）、70 歳代（２位）
なお、15％以上の割合だったのは、
【女性】……50 歳代～70 歳代

★参加したい講座テーマ（問 34①）で「介護」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……40 歳代（２位）、50 歳代（１位）、60 歳代（２位）、70 歳代（２位）
【男性】……60 歳代（２位）、70 歳代（２位）

なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……40 歳代～70 歳代
【男性】……20 歳代、40 歳代～70 歳代

講座参加者を相談室へつなげたり、困りごとの解決へつなげたりという意味でも、今後、介護をテーマとした講座を実施していきたい。

(3)経　　済

✤相談したい内容（問 31）で「経済上の悩みや問題」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……60 歳代（３位）
【男性】……20 歳代（２位）、30 歳代（３位）、40 歳代（３位）、50 歳代（２位）、
60 歳代（３位）、70 歳代（２位）
男性はどの年代でも回答した割合が高い結果となった。

⑷ 育児・子育て

✤相談したい内容（問31）で「育児・子育て上の悩みや問題」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……30歳代（３位）、40歳代（２位）

★参加したい講座テーマ（問34①）で「育児・子育て」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……20歳代（１位）、30歳代（１位）
【男性】……20歳代（２位）、30歳代（２位）
なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……20歳代、30歳代
【男性】……20歳代、30歳代

✱参加したい講座内容（問34②）で「子どもと参加できること」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……30歳代（２位）、40歳代（２位）
なお、20％以上が回答したのは、
【女性】……20歳代～40歳代
【男性】……40歳代

⑸ 仕　　事

✤相談したい内容（問31）で「仕事上の悩みや問題」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……20歳代（２位）、30歳代（２位）
【男性】……20歳代（２位）、40歳代（２位）
なお、15％以上が回答したのは、
【女性】……20歳代
【男性】……40歳代

✱参加したい講座内容（問34②）で「仕事に役立つ事」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……30歳代（３位）
【男性】……20歳代（２位）、40歳代（２位）
なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……20歳代、30歳代
【男性】……20歳代～40歳代

⑹ コミュニケーション、仲間づくり

✱参加したい講座内容（問34②）で「コミュニケーション力の向上に役立つこと」と回答した割合が高かったのは、
【女性】……20歳代（２位）、50歳代（３位）、70歳代（３位）
【男性】……30歳代（３位）、50歳代（２位）
なお、20％以上の割合だったのは、
【女性】……20歳代、30歳代
【男性】……20歳代、30歳代、50歳代

✱参加したい講座内容（問 34②）で「仲間をつくれること」と回答した割合が高かったのは、

【女性】……20 歳代（２位）、60 歳代（３位）、70 歳代（３位）

なお、20%以上の割合だったのは、

【女性】……20 歳代

【男性】……30 歳代、50 歳代

⑺生き方

★性別・年代を問わず、参加したい講座テーマ（問 34①）で「生き方」と回答した割合は高い。

【女性】……20 歳代（２位）、30 歳代（３位）、40 歳代（１位）、50 歳代（３位）、60 歳代（３位）、70 歳代（３位）

【男性】……20 歳代（３位）、30 歳代（３位）、50 歳代（３位）、60 歳代（３位）、70 歳代（３位）

なお、20%以上の割合だったのは、

【女性】……20 歳代～70 歳代

【男性】……20 歳代、30 歳代、50 歳代～70 歳代

⑻防　　災

★性別・年代を問わず、参加したい講座テーマ（問 34①）で「防災」と回答した割合は高い。

【女性】……20 歳代（３位）、30 歳代（２位）、40 歳代（３位）

【男性】……20 歳代（３位）、40 歳代（２位）

なお、20%以上の割合だったのは、

【女性】……20 歳代～40 歳代、60 歳代

【男性】……20 歳代～60 歳代

防災の講座では、男女共同参画の視点で防災に関する知識や事例を学ぶことができるのに加え、「地域活動への参画の入り口」としても適したテーマである。

⑼自分の生活や家庭生活に役立つ事

✱性別・年代を問わず参加したい講座内容（問 34②）で「自分の生活や家庭生活に役立つ事」と回答した割合は非常に高い。

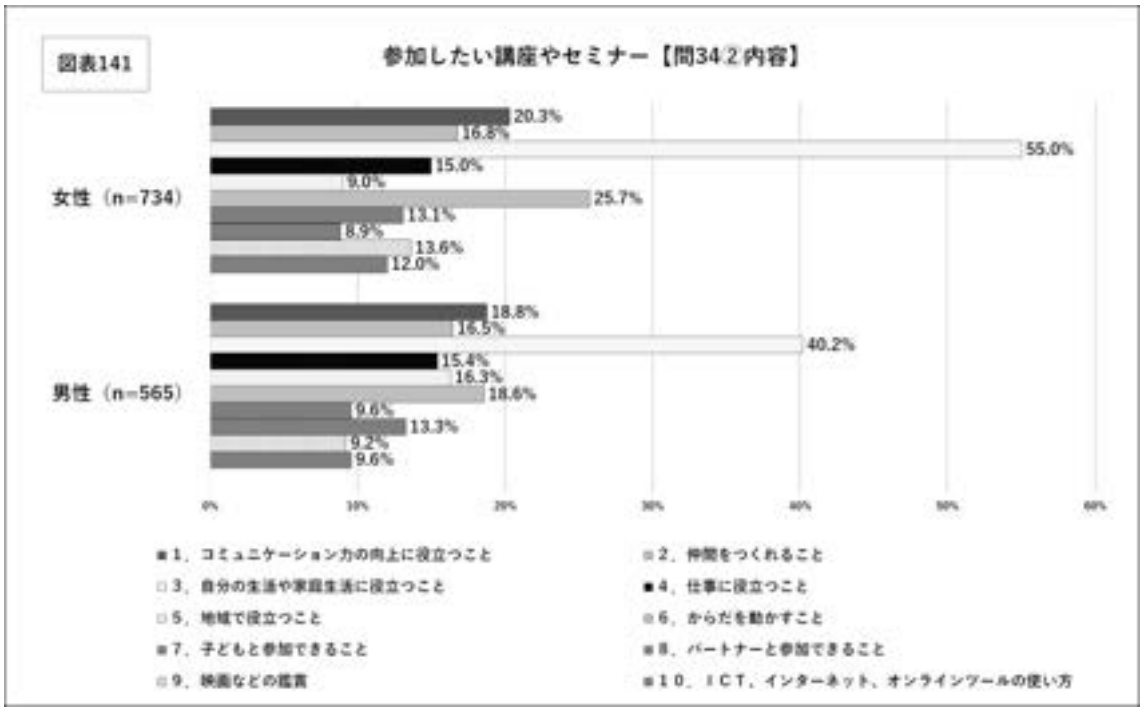
【女性】……20 歳代～70 歳代（いずれも１位）

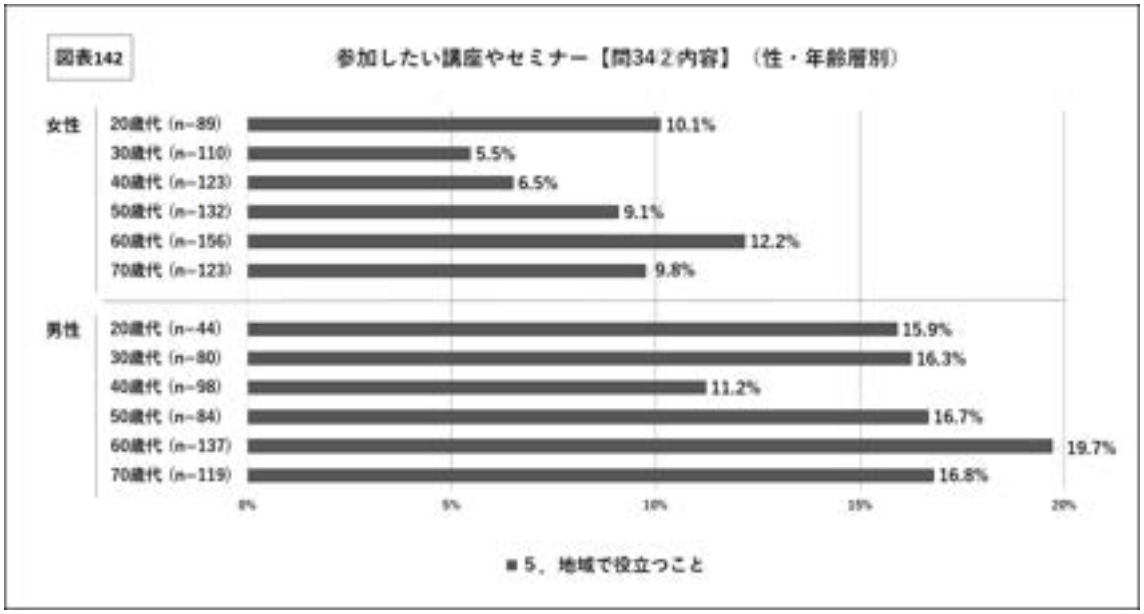
【男性】……20 歳代～70 歳代（いずれも１位）

なお、図表 138 のとおり、相談したい内容を尋ねる質問に対して、いずれの性別・年代でも「相談窓口を利用したいと思わない」という回答が第１位であった。悩み事や困り事が生じた際にためらわず相談窓口を利用していただくことができるよう、より一層の相談窓口充実の必要性が現れる結果となった。

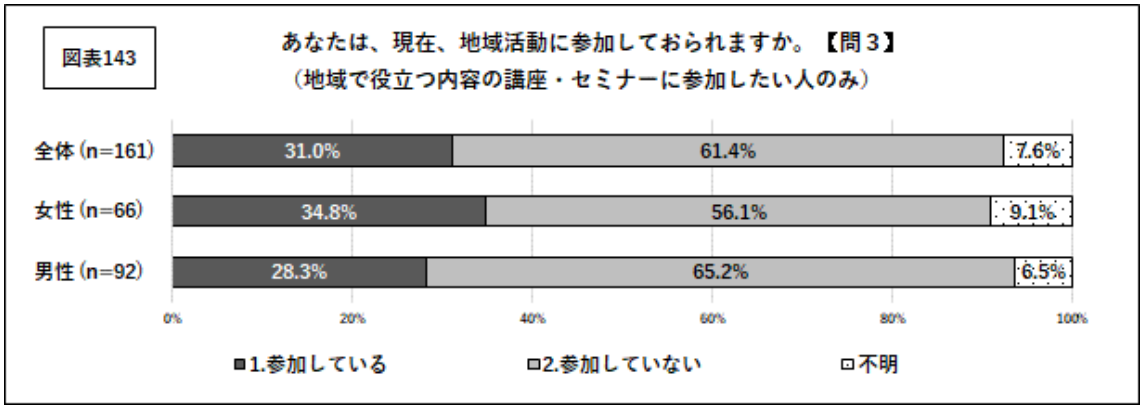
３　地域活動への参画推進に向けて

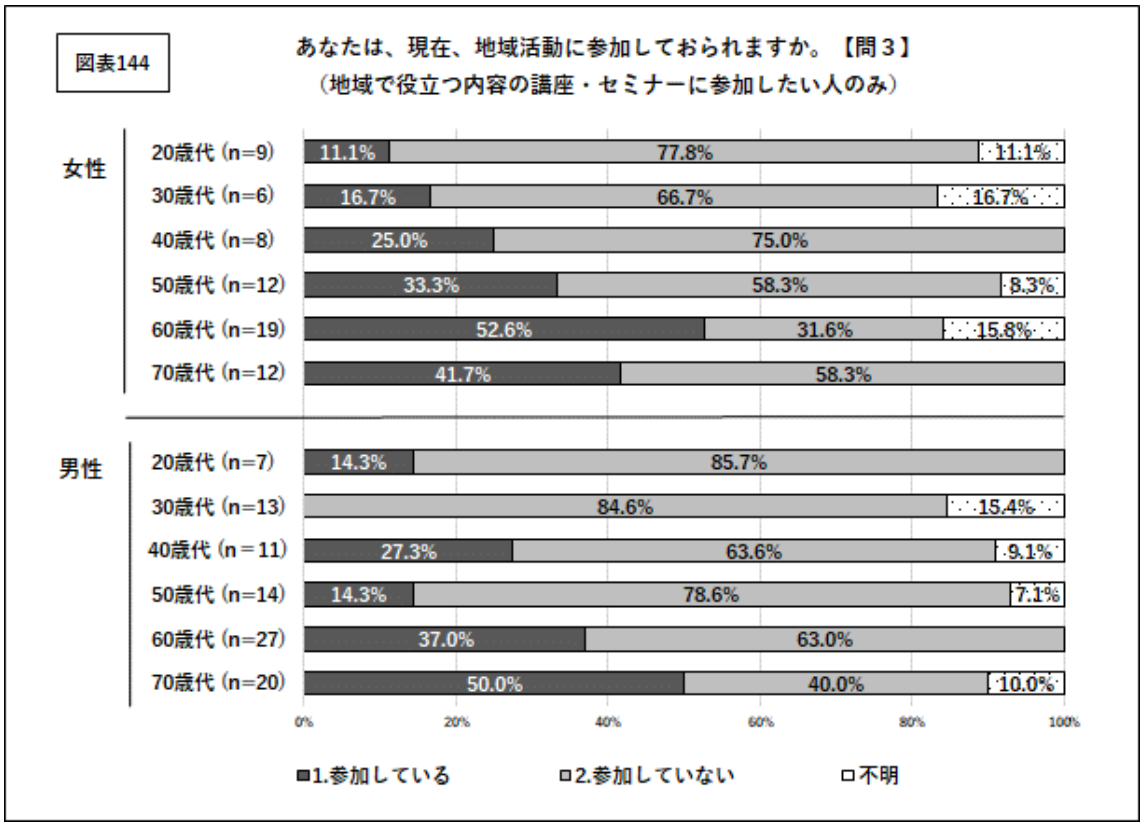
参加したい講座やセミナーについて聞いたところ、「地域で役立つこと」は女性 9.0%、男性 16.3%であり、男性の方が女性より 7.3 ポイント高い結果となった（図表 141）。中でも、60 代男性は 19.7%で他の年代と比べて高い割合となった（図表 142）。



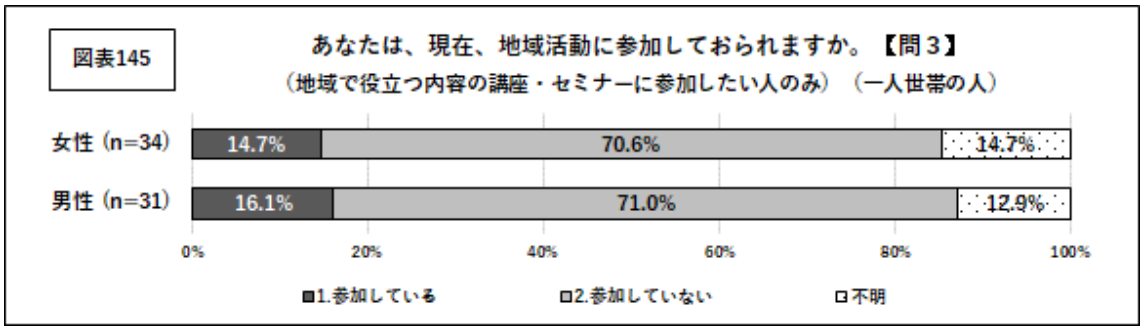


そこで、参加したい講座の内容として「地域で役立つこと」と回答した人は、現在、地域活動に参加しているのかどうかを確認した。すると、年齢層ごとに差はあるものの（図表144）、女性 56.1%、男性 65.2%が「現在、地域活動に参加していない」と回答していた。このことから、「地域で役立つこと」に関心を持ちつつも、地域活動に参加しているとは限らない人の方が多いことがわかった（図表 143）。



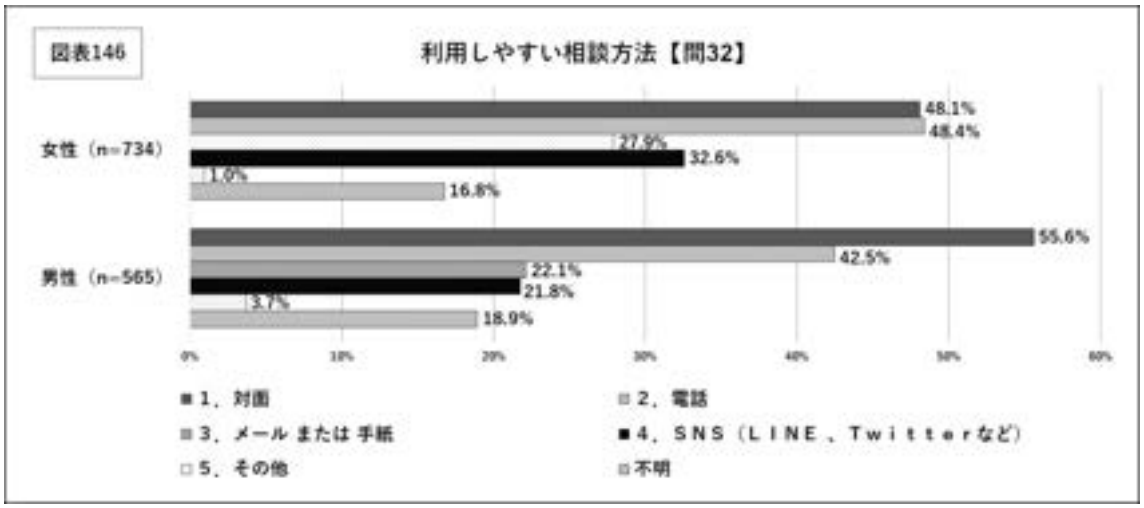


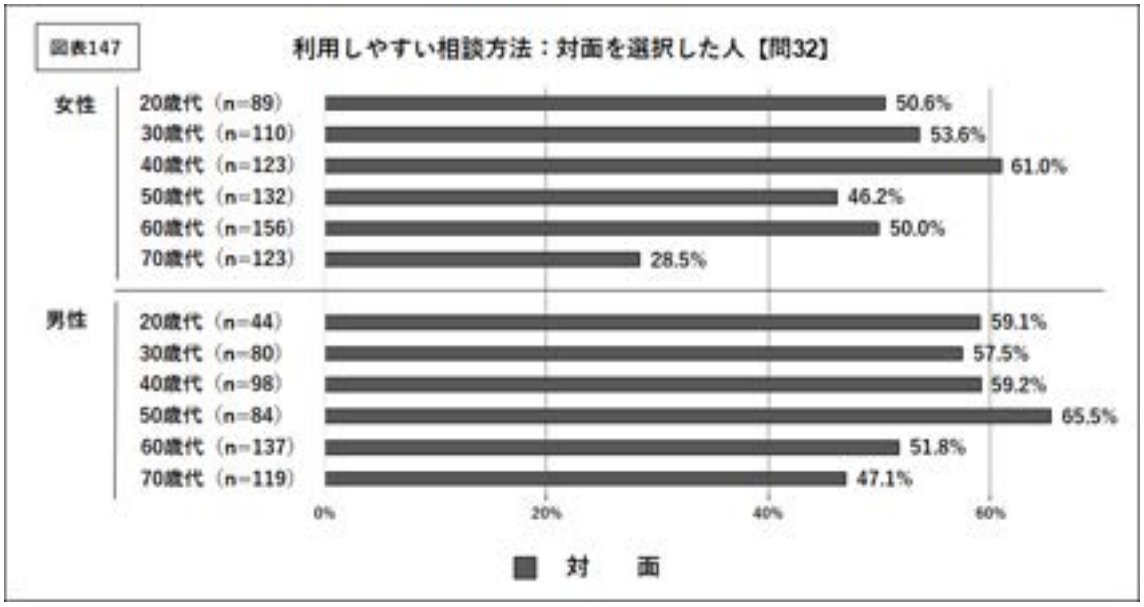
なお、「一人世帯」かつ「地域で役立つ内容の講座・セミナーに参加したい」と回答した人のうち、男女ともに約 70%の人が、「現在、地域活動に参加していない」こともわかった。当センターの講座に参加したことがきっかけとなり、地域との関わりを持つようになるという可能性も考えられる。地域で孤立する人をつくらないために、当センターが果たすことができる役割を今後も考えていきたい（図表 145）。



４　相談事業について

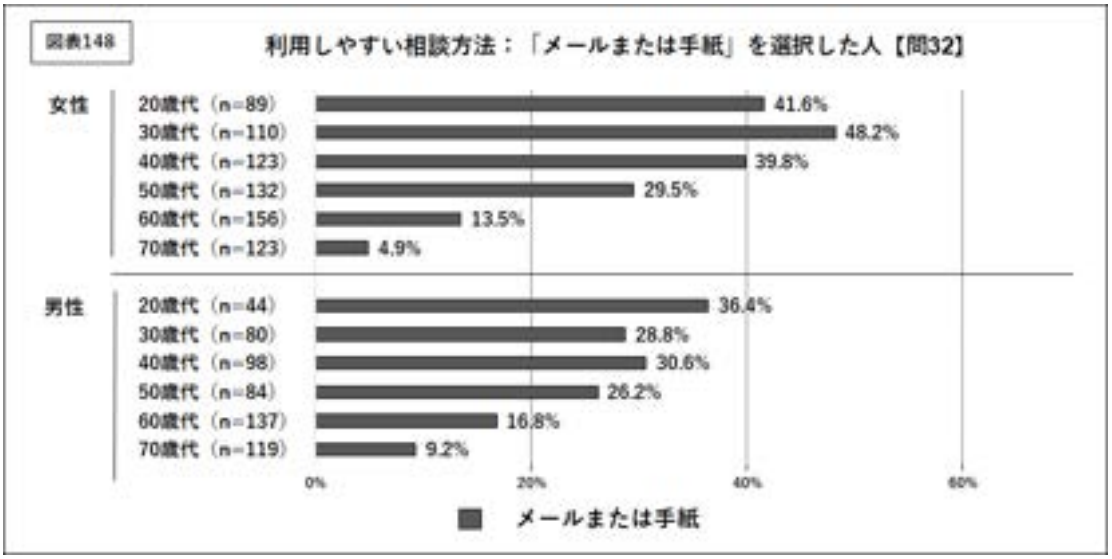
利用しやすい相談方法について尋ねたところ、女性（48.1%）より男性（55.6%）の方が、対面での相談を希望する割合が高かった（図表 146）。中でも、50 歳代男性は、65.5%が「対面」を選択している（図表 147）。

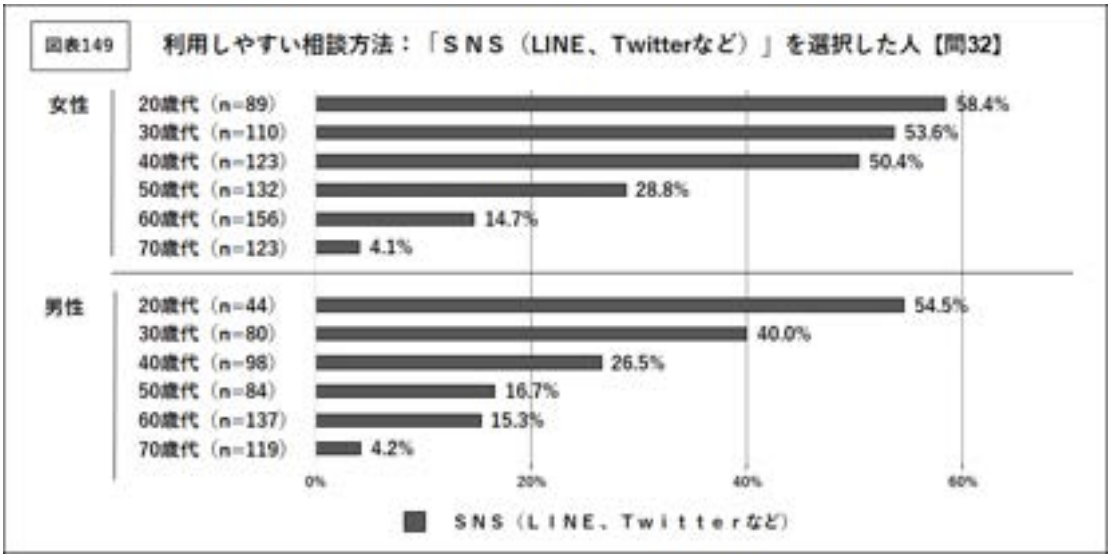




「メールまたは手紙」を選んだ割合が特に高かったのは、女性 30 歳代の 48.2%、女性 20 歳代の 41.6%、女性 40 歳代の 39.8%で、女性の 20～40 歳代には、４割程度の需要があることがわかった（図表 148）。

「ＳＮＳ」について性・年齢層別に見ると、20 歳代女性（58.4%）が一番高く、比較的低い年代がＳＮＳを利用しやすいと回答する割合が高い傾向が見られた（図表 149）。





コムズの女性相談は、電話相談および面接相談を行っており、月２回託児付き面接相談も実施している。男性相談は、月４回ほど、電話相談および面接相談を行っている。

今回の調査結果を参考に、困りごとを抱えた方や話をしたい方が、より利用しやすい相談室の運営を、今後も検討していきたい。

【コムズ相談室ホームページ】

https://www.coms.or.jp/soudan/index.html

第３部

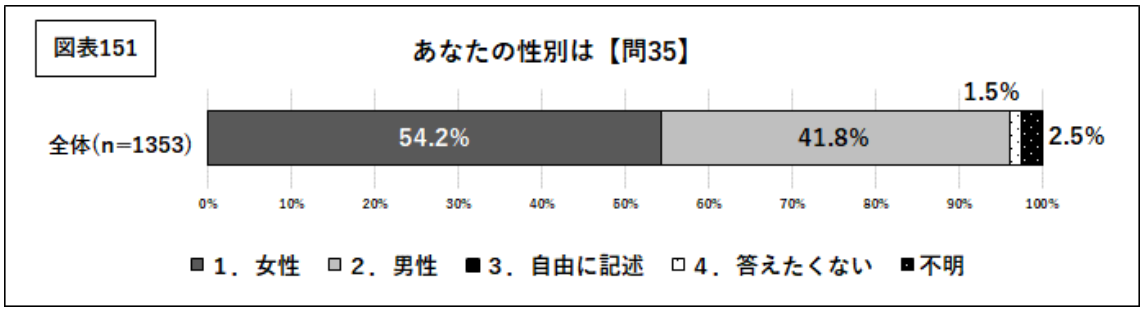
資　料

1　回答者について

(1) 回答者の性別

図表 150

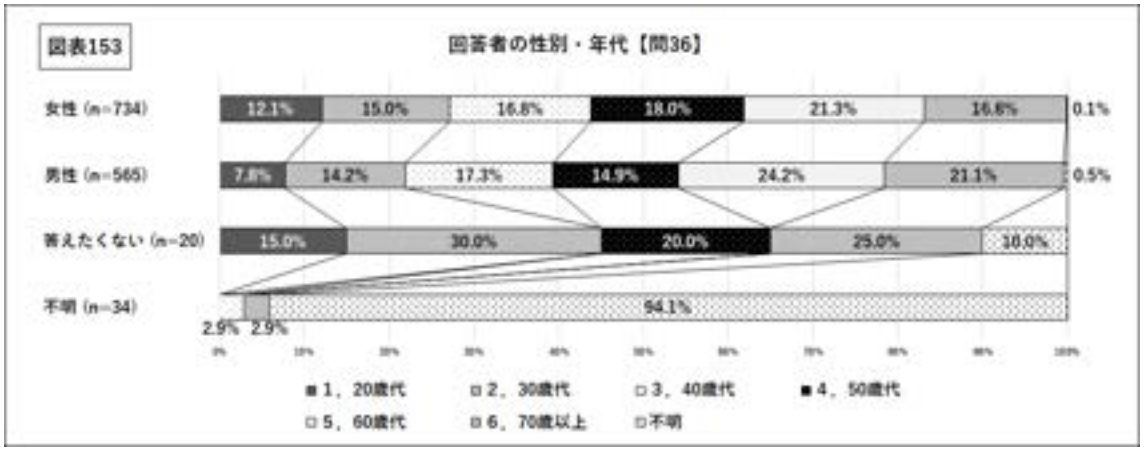
1．女性	734 (54.2%)
2．男性	565 (41.8%)
3．自由に記述	0 (0.0%)
4．答えたくない	20 (1.5%)
不　明	34 (2.5%)
合　計	1353(100.0%)



(2) 回答者の年代

図表 152

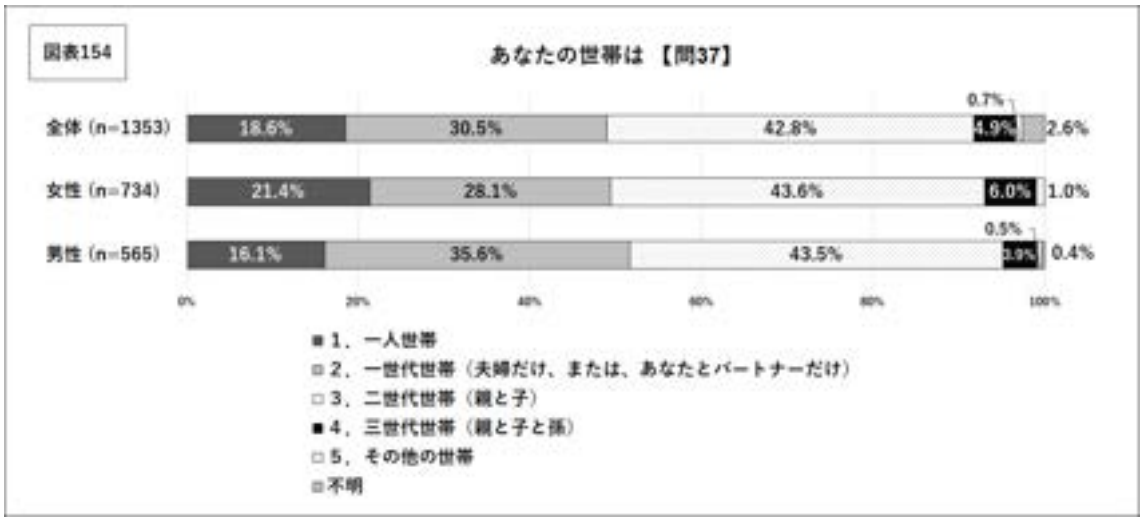
	1． 20 歳代	2． 30 歳代	3． 40 歳代	4． 50 歳代	5． 60 歳代	6． 70 歳以上	不明	合計
1．女性	89 (12.1%)	110 (15.0%)	123 (16.8%)	132 (18.0%)	156 (21.3%)	123 (16.8%)	1 (0.1%)	734 (54.2%)
2．男性	44 (7.8%)	80 (14.2%)	98 (17.3%)	84 (14.9%)	137 (24.2%)	119 (21.1%)	3 (0.5%)	565 (41.8%)
3．自由に記述	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
4．答えたくない	3 (15.0%)	6 (30.0%)	0 (0.0%)	4 (20.0%)	0 (0.0%)	5 (25.0%)	2 (10.0%)	20 (1.5%)
性別不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	32 (94.1%)	34 (2.5%)
合計	136 (10.1%)	196 (14.5%)	222 (16.4%)	220 (16.3%)	293 (21.7%)	248 (18.3%)	38 (2.8%)	1353 (100%)



(3) 回答者の世帯

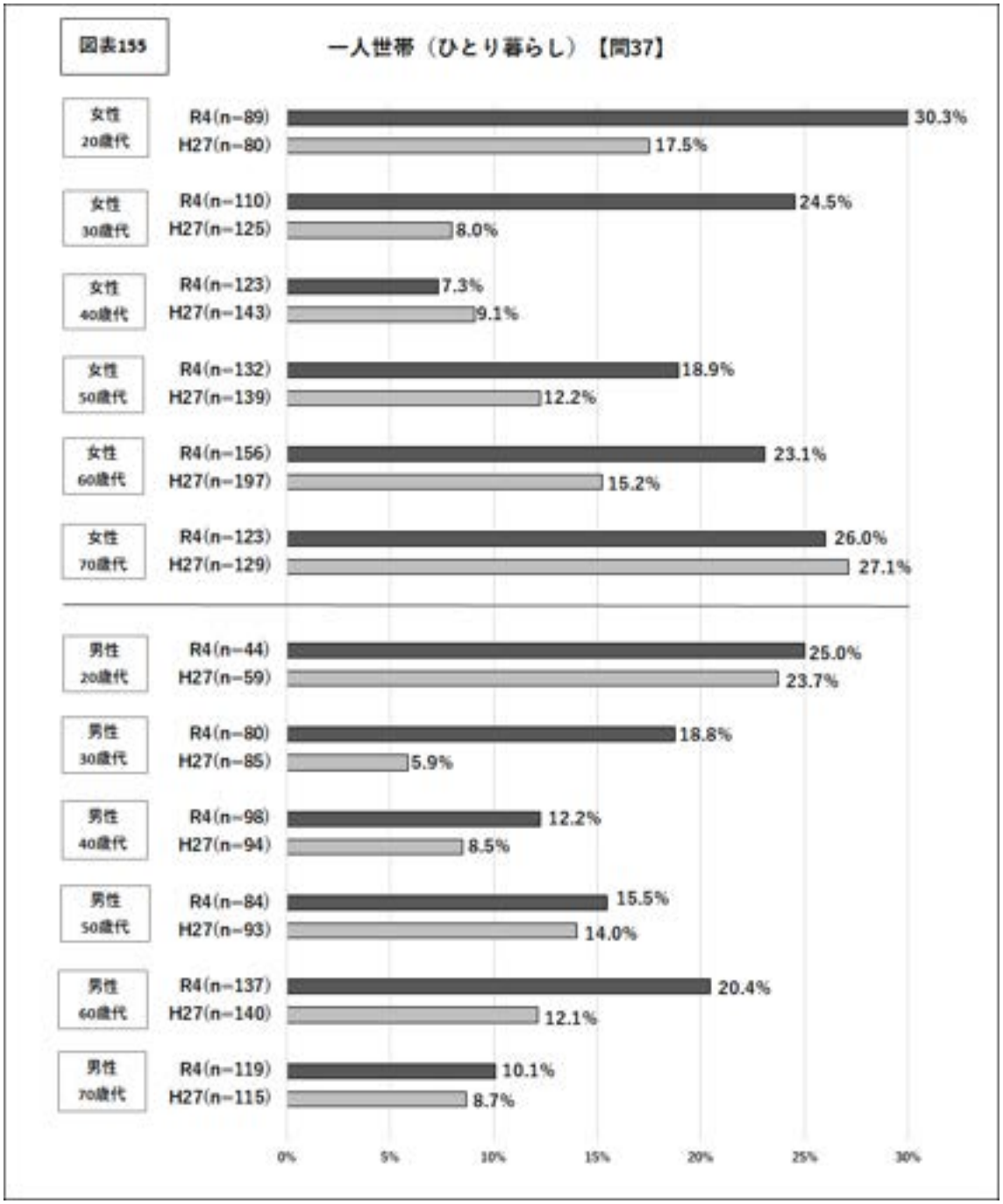
アンケート回答者に、世帯を尋ねたところ、全体的に一番割合が大きかったのは「二世代世帯」(42.8%) であった。次いで、「一世代世帯」(30.5%)、「一人世帯」(18.6%) であった (図表 154)。

特に、一人世帯の割合を男女で比較すると、女性 21.4%、男性 16.1%で、女性の方が男性より 5.3 ポイント高い結果となった。一方、一世代世帯については、女性 28.1%、男性 35.6%で、男性の方が女性より 7.5 ポイント高くなっている。



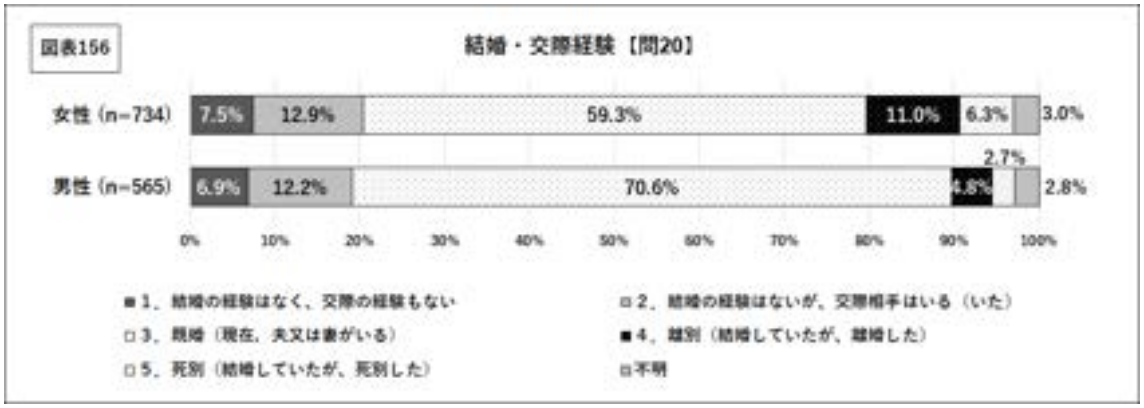
一人世帯の割合が最も高いのは、20 歳代女性の 30.3%である（図表 155）。

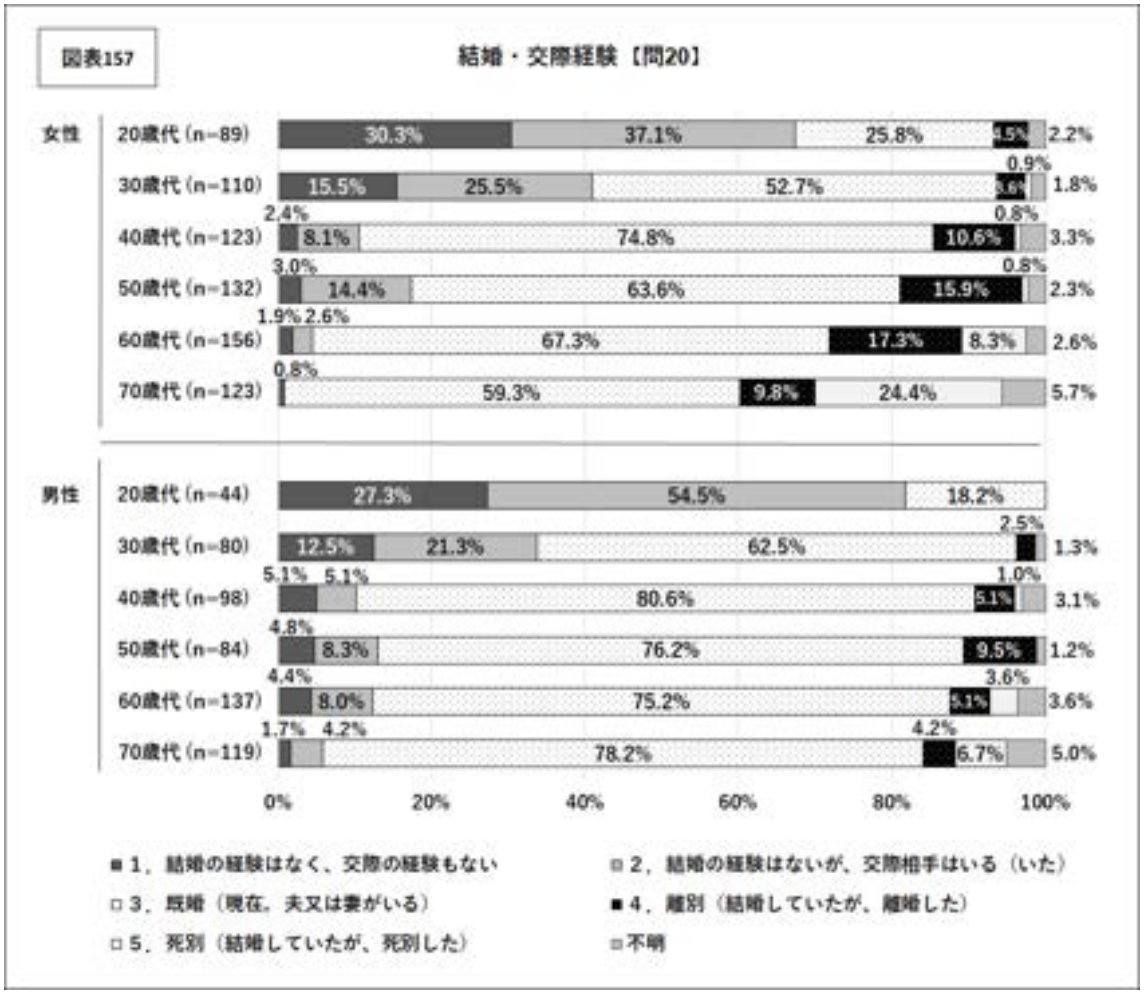
前回の調査結果と比較して「一人世帯」と回答した割合が上昇しているのは、女性の 20 歳代、30 歳代、50 歳代、60 歳代で、男性は 20～ 70 歳代で上昇した。特に増加幅が大きかったのは、女性 20 歳代、女性 30 歳代、男性 30 歳代で、それぞれ 13.2 ポイント、16.5 ポイント、12.9%ポイント増加している。



(4) 結婚・交際の経験について

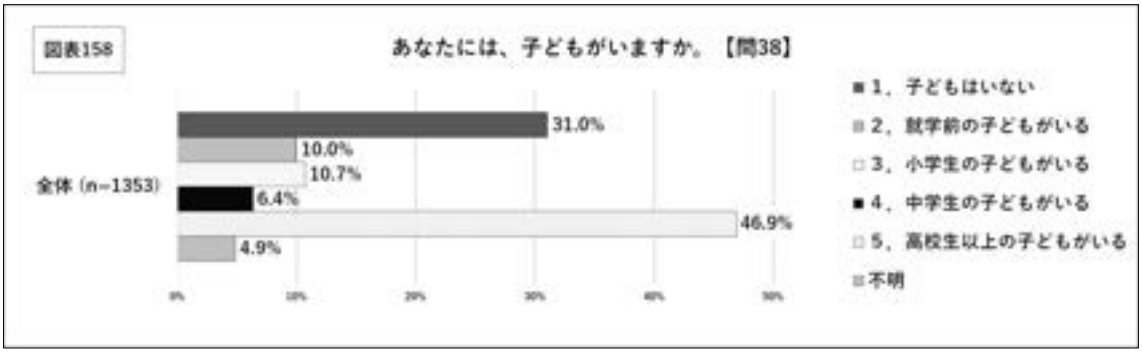
結婚・交際経験について尋ねた。「既婚」は、女性 59.3%、男性 70.6%で 11.3 ポイントの差があった。「離別」の割合に着目すると、女性 11.0%、男性 4.8%で、どの年齢層においても、男性より女性の方が「離別」が高く（図表 156)、中でも女性 50 歳代（15.9%）と女性 60 歳代（17.3%）が高いことがわかった（図表 157)。



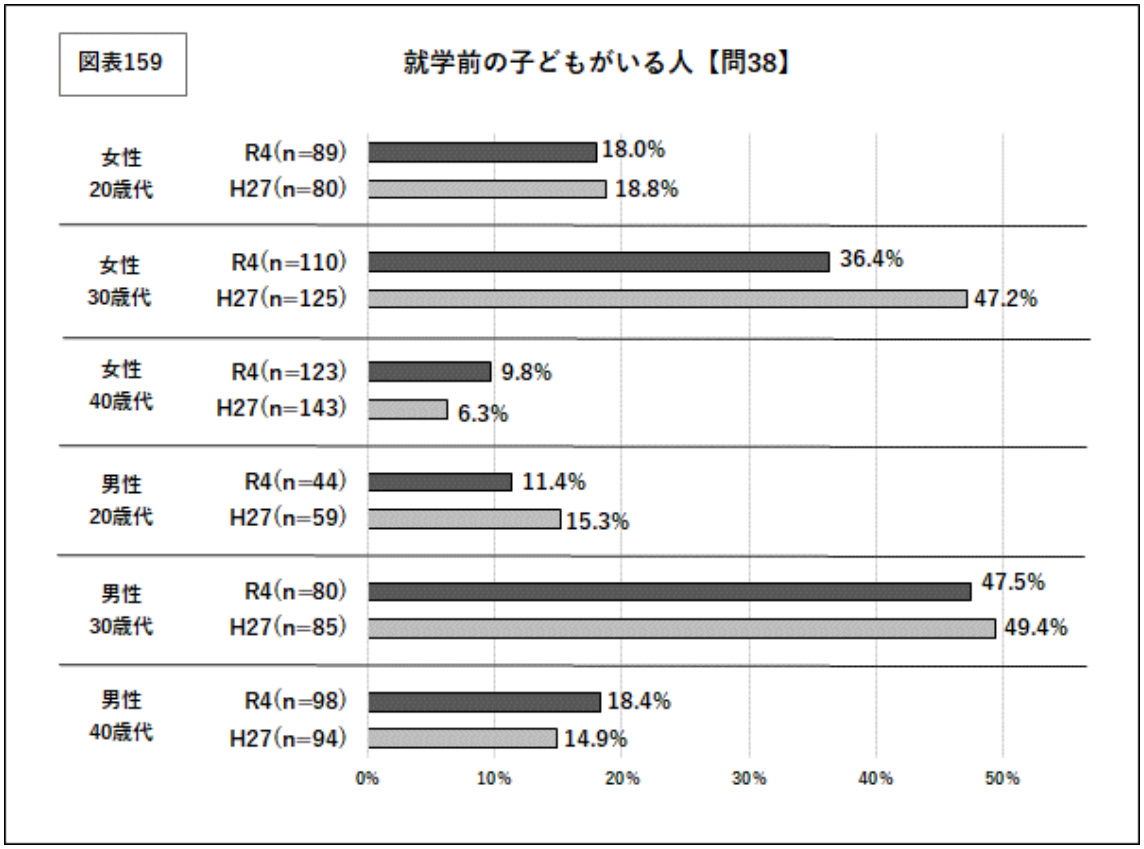


(5) 子どもの有無

子どもの有無を尋ねたところ、全体として「子どもはいない」(31.0%)、「就学前の子どもがいる」(10.0%)、「小学生も子どもがいる」(10.7%)、「中学生の子どもがいる」(6.4%)、「高校生以上の子どもがいる」(46.9%) であった (図表 158)。



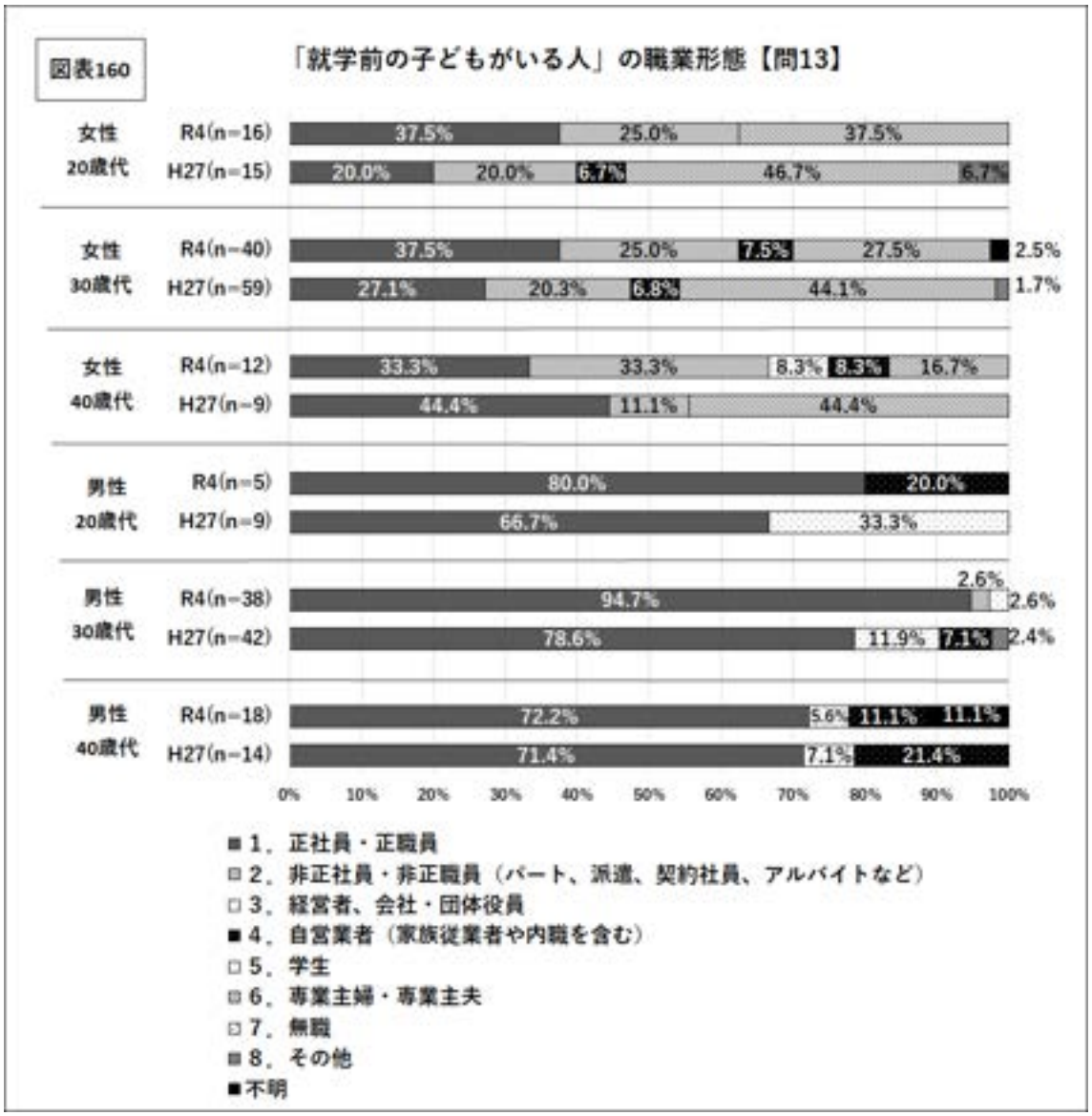
特に、就学前の子どもがいると回答した人について、前回調査の結果と比較すると、20 歳代と 30 歳代は女性、男性ともに減少している。一方、40 歳代では、男女ともに、就学前の子どもがいる人の割合は上昇している (図表 159)。



さらに、就学前の子どもがいると回答した人の職業形態を確認した（図表 160）。

「正社員・正職員」の割合に着目すると、女性 20 歳代は 20.0%から 37.5%、女性 30 歳代は 27.1%から 37.5%上昇している。男性においても、20 歳代は 66.7%から 80.0%、男性 30 歳代は 78.6%から 94.7%、40 歳代は 71.4%から 72.2%と、前回調査と比べて、全体に占める正社員・正職員の割合は上昇している。

「専業主婦・専業主夫」ついては、女性 20 歳代は 46.7%から 37.5%、女性 30 歳代は 44.1%から 27.5%、女性 40 歳代は 44.4%から 16.7%と、いずれの年代も前回調査より、専業主婦の割合が低下したことがわかった。



２　本調査の質問及び集計結果

問１　次にあげる考え方について、あなたはどう思いますか。①～⑤のそれぞれについて、
あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。（①～⑤のそれぞれに、○は１つだけ）

①「夫は外で働き、妻は家庭を守った方がよい」という考え方について

	女性	男性	全体
１．そう思う	18（ 2.5%）	21（ 3.7%）	42（ 3.1%）
２．どちらかといえばそう思う	138（18.8%）	144（25.5%）	299（22.1%）
３．どちらかといえばそう思わない	199（27.1%）	141（25.0%）	349（25.8%）
４．そう思わない	377（51.4%）	254（45.0%）	656（48.5%）
不明	2（ 0.3%）	5（ 0.9%）	7（ 0.5%）

②「希望する夫婦は、別々の姓を名乗ってもかまわない」という考え方について

	女性	男性	全体
１．そう思う	270（36.8%）	176（31.2%）	467（34.5%）
２．どちらかといえばそう思う	216（29.4%）	119（21.1%）	345（25.5%）
３．どちらかといえばそう思わない	149（20.3%）	130（23.0%）	290（21.4%）
４．そう思わない	96（13.1%）	134（23.7%）	242（17.9%）
不明	3（ 0.4%）	6（ 1.1%）	9（ 0.7%）

③「仕事を持っている場合、仕事を家庭生活よりも優先した方がよい」という考え方について

	女性	男性	全体
１．そう思う	13（ 1.8%）	30（ 5.3%）	48（ 3.5%）
２．どちらかといえばそう思う	92（12.5%）	146（25.8%）	250（18.5%）
３．どちらかといえばそう思わない	325（44.3%）	192（34.0%）	535（39.5%）
４．そう思わない	298（40.6%）	190（33.6%）	507（37.5%）
不明	6（ 0.8%）	7（ 1.2%）	13（ 1.0%）

④「地域のリーダーは男性の方が向いている」という考え方について

	女性	男性	全体
１．そう思う	55（ 7.5%）	32（ 5.7%）	93（ 6.9%）
２．どちらかといえばそう思う	191（26.0%）	117（20.7%）	324（23.9%）
３．どちらかといえばそう思わない	201（27.4%）	125（22.1%）	333（24.6%）
４．そう思わない	283（38.6%）	285（50.4%）	593（43.8%）
不明	4（ 0.5%）	6（ 1.1%）	10（ 0.7%）

⑤「総合的に見ると男女共同参画は進んでいる」という考え方について

	女性	男性	全体
１．そう思う	22（ 3.0%）	42（ 7.4%）	68（ 5.0%）
２．どちらかといえばそう思う	188（25.6%）	160（28.3%）	363（26.8%）
３．どちらかといえばそう思わない	337（45.9%）	220（38.9%）	575（42.5%）
４．そう思わない	182（24.8%）	134（23.7%）	332（24.5%）
不明	5（ 0.7%）	9（ 1.6%）	15（ 1.1%）

問２　次の①～⑥のそれぞれの言葉について、あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。（①～⑥のそれぞれに、○は１つだけ）

①ワーク・ライフ・バランス

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	57(7.8%)	54(9.6%)	115(8.5%)
２．だいたい知っている	220(30.0%)	185(32.7%)	416(30.7%)
３．聞いたことはある	254(34.6%)	175(31.0%)	451(33.3%)
４．聞いたことがない	199(27.1%)	146(25.8%)	362(26.8%)
不明	4(0.5%)	5(0.9%)	9(0.7%)

②政治分野における男女共同参画の推進に関する法律（候補者男女均等法）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	7(1.0%)	7(1.2%)	14(1.0%)
２．だいたい知っている	131(17.8%)	126(22.3%)	269(19.9%)
３．聞いたことはある	374(51.0%)	280(49.6%)	679(50.2%)
４．聞いたことがない	218(29.7%)	147(26.0%)	382(28.2%)
不明	4(0.5%)	5(0.9%)	9(0.7%)

③ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	182(24.8%)	138(24.4%)	334(24.7%)
２．だいたい知っている	477(65.0%)	356(63.0%)	859(63.5%)
３．聞いたことはある	69(9.4%)	59(10.4%)	142(10.5%)
４．聞いたことがない	4(0.5%)	8(1.4%)	12(0.9%)
不明	2(0.3%)	4(0.7%)	6(0.4%)

④性的マイノリティ（同性愛、両性愛、性同一性障がいなどの性的少数者）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	122(16.6%)	89(15.8%)	221(16.3%)
２．だいたい知っている	464(63.2%)	339(60.0%)	830(61.3%)
３．聞いたことはある	137(18.7%)	125(22.1%)	279(20.6%)
４．聞いたことがない	9(1.2%)	8(1.4%)	17(1.3%)
不明	2(0.3%)	4(0.7%)	6(0.4%)

⑤ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals〔持続可能な開発目標〕）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	63(8.6%)	59(10.4%)	128(9.5%)
２．だいたい知っている	300(40.9%)	261(46.2%)	576(42.6%)
３．聞いたことはある	233(31.7%)	149(26.4%)	397(29.3%)
４．聞いたことがない	135(18.4%)	92(16.3%)	245(18.1%)
不明	3(0.4%)	4(0.7%)	7(0.5%)

⑥ＳＤＧｓの 17 の目標の中に「ジェンダー平等を実現しよう」が含まれているのを知っていますか。

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	40(5.4%)	33(5.8%)	77(5.7%)
２．だいたい知っている	175(23.8%)	150(26.5%)	334(24.7%)
３．聞いたことはある	246(33.5%)	174(30.8%)	433(32.0%)
４．聞いたことがない	270(36.8%)	202(35.8%)	500(37.0%)
不明	3(0.4%)	6(1.1%)	9(0.7%)

問３　あなたは、現在、地域活動に参加しておられますか。

	女性	男性	全体
１．参加している	201(27.4%)	112(19.8%)	331(24.5%)
２．参加していない	490(66.8%)	417(73.8%)	939(69.4%)
不明	43(5.9%)	36(6.4%)	83(6.1%)

問４　あなたが参加している地域活動はどのようなものですか。
あてはまるもの全てに○印をつけてください。

	女性	男性	全体
１．ＰＴＡ活動（おやじの会、登下校の見守り等も含む）	52(25.9%)	21(18.8%)	77(23.3%)
２．子ども会、青少年活動	49(24.4%)	11(9.8%)	62(18.7%)
３．町内会・自治会活動	147(73.1%)	90(80.4%)	250(75.5%)
４．婦人会などの女性団体活動	12(6.0%)	0(0.0%)	13(3.9%)
５．老人会、老人クラブ活動	12(6.0%)	8(7.1%)	22(6.6%)
６．民生児童委員などの公的な委員活動	9(4.5%)	3(2.7%)	12(3.6%)
７．ボランティア活動や市民活動 （まちづくり協議会、ＮＰＯやＮＧＯも含む）	26(12.9%)	26(23.2%)	57(17.2%)
８．消防団の活動	3(1.5%)	6(5.4%)	9(2.7%)
９．その他（具体的に　　）	6(3.0%)	10(8.9%)	17(5.1%)
不明	0(0.0%)	2(1.8%)	2(0.6%)

問５　１週間を振り返り、あなたの１日あたりの平均的な時間の使い方を教えてください。
就業している方は、平日とは勤務日、休日とは仕事が休みの日でご記入ください。
学生の方は、平日とは授業がある日、休日とは授業がない日でご記入ください。

【平 日】

	女性	男性	全体
Ａ 家事 例：食事作り・後片付け・掃除・洗濯・買い物など	3 時間 03 分	1 時間 16 分	2 時間 19 分
Ｂ 育児	1 時間 40 分	0 時間 22 分	1 時間 08 分
Ｃ 介護	0 時間 16 分	0 時間 14 分	0 時間 16 分
Ｄ 就労	5 時間 54 分	7 時間 39 分	6 時間 42 分
Ｅ 学業	0 時間 52 分	0 時間 39 分	0 時間 45 分
Ｆ 趣味	1 時間 36 分	1 時間 41 分	1 時間 38 分
Ｇ 地域活動	0 時間 04 分	0 時間 05 分	0 時間 05 分

【休 日】

	女性	男性	全体
Ａ 家事 例：食事作り・後片付け・掃除・洗濯・買い物など	3 時間 40 分	1 時間 49 分	2 時間 53 分
Ｂ 育児	2 時間 26 分	1 時間 15 分	1 時間 55 分
Ｃ 介護	0 時間 28 分	0 時間 18 分	0 時間 24 分
Ｄ 就労	0 時間 37 分	0 時間 49 分	0 時間 44 分
Ｅ 学業	0 時間 29 分	0 時間 19 分	0 時間 25 分
Ｆ 趣味	2 時間 33 分	3 時間 20 分	2 時間 56 分
Ｇ 地域活動	0 時間 04 分	0 時間 10 分	0 時間 08 分

問６　この１週間、バランスのよい時間の使い方ができましたか。（○は１つだけ）

	女性	男性	全体
１．よくできた	26(3.5%)	37(6.5%)	66(4.9%)
２．だいたいできた	352(48.0%)	257(45.5%)	631(46.6%)
３．あまりできなかった	276(37.6%)	199(35.2%)	496(36.7%)
４．全くできなかった	60(8.2%)	58(10.3%)	123(9.1%)
不明	20(2.7%)	14(2.5%)	37(2.7%)

問７　コロナ禍の影響で、あなたの生活に変化はありましたか。次のそれぞれの項目について、「コロナ禍前」と現在を比較して、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。

１．家にいる時間

	女性	男性	全体
１．減った	4(0.5%)	3(0.5%)	8(0.6%)
２．少し減った	7(1.0%)	4(0.7%)	12(0.9%)
３．変わらない	176(24.0%)	168(29.7%)	357(26.4%)
４．少し増えた	227(30.9%)	174(30.8%)	423(31.3%)
５．増えた	317(43.2%)	212(37.5%)	546(40.4%)
不明	3(0.4%)	4(0.7%)	7(0.5%)

２．就労（労働）時間

	女性	男性	全体
１．減った	54(7.4%)	37(6.5%)	97(7.2%)
２．少し減った	49(6.7%)	58(10.3%)	111(8.2%)
３．変わらない	478(65.1%)	377(66.7%)	890(65.8%)
４．少し増えた	41(5.6%)	15(2.7%)	56(4.1%)
５．増えた	18(2.5%)	23(4.1%)	44(3.3%)
不明	94(12.8%)	55(9.7%)	155(11.5%)

３．家事・育児・介護時間

	女性	男性	全体
１．減った	6(0.8%)	3(0.5%)	9(0.7%)
２．少し減った	12(1.6%)	2(0.4%)	15(1.1%)
３．変わらない	492(67.0%)	406(71.9%)	931(68.8%)
４．少し増えた	116(15.8%)	82(14.5%)	206(15.2%)
５．増えた	62(8.4%)	18(3.2%)	83(6.1%)
不明	46(6.3%)	54(9.6%)	109(8.1%)

４．学業時間

	女性	男性	全体
１．減った	1(8.3%)	1(10.0%)	2(9.1%)
２．少し減った	2(16.7%)	1(10.0%)	3(13.6%)
３．変わらない	2(16.7%)	6(60.0%)	8(36.4%)
４．少し増えた	4(33.3%)	1(10.0%)	5(22.7%)
５．増えた	3(25.0%)	1(10.0%)	4(18.2%)
不明	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

５．収入

	女性	男性	全体
１．減った	82(11.2%)	63(11.2%)	155(11.5%)
２．少し減った	90(12.3%)	72(12.7%)	169(12.5%)
３．変わらない	461(62.8%)	361(63.9%)	848(62.7%)
４．少し増えた	27(3.7%)	20(3.5%)	48(3.5%)
５．増えた	5(0.7%)	9(1.6%)	15(1.1%)
不明	69(9.4%)	40(7.1%)	118(8.7%)

６．支出

	女性	男性	全体
１．減った	25(3.4%)	21(3.7%)	49(3.6%)
２．少し減った	110(15.0%)	68(12.0%)	181(13.4%)
３．変わらない	270(36.8%)	275(48.7%)	567(41.9%)
４．少し増えた	182(24.8%)	130(23.0%)	323(23.9%)
５．増えた	83(11.3%)	33(5.8%)	122(9.0%)
不明	64(8.7%)	38(6.7%)	111(8.2%)

７．家族との交流

	女性	男性	全体
１．減った	67(9.1%)	34(6.0%)	103(7.6%)
２．少し減った	91(12.4%)	41(7.3%)	137(10.1%)
３．変わらない	349(47.5%)	314(55.6%)	689(50.9%)
４．少し増えた	110(15.0%)	100(17.7%)	220(16.3%)
５．増えた	50(6.8%)	35(6.2%)	87(6.4%)
不明	67(9.1%)	41(7.3%)	117(8.6%)

８．家族以外の人との交流

	女性	男性	全体
１．減った	379(51.6%)	224(39.6%)	621(45.9%)
２．少し減った	200(27.2%)	145(25.7%)	360(26.6%)
３．変わらない	86(11.7%)	149(26.4%)	246(18.2%)
４．少し増えた	10(1.4%)	8(1.4%)	18(1.3%)
５．増えた	1(0.1%)	1(0.2%)	3(0.2%)
不明	58(7.9%)	38(6.7%)	105(7.8%)

９.インターネット・ＳＮＳの利用時間

	女性	男性	全体
１．減った	9(1.2%)	3(0.5%)	14(1.0%)
２．少し減った	9(1.2%)	7(1.2%)	16(1.2%)
３．変わらない	226(30.8%)	226(40.0%)	477(35.3%)
４．少し増えた	211(28.7%)	168(29.7%)	387(28.6%)
５．増えた	181(24.7%)	100(17.7%)	288(21.3%)
不明	98(13.4%)	61(10.8%)	171(12.6%)

問８　コロナ禍で不安や悩みは増えましたか。あてはまるものを１つ選んで〇をつけてください。

	女性	男性	全体
１．増えた	335(45.6%)	219(38.8%)	581(42.9%)
２．減った	7(1.0%)	6(1.1%)	14(1.0%)
３．変わらない	358(48.8%)	310(54.9%)	690(51.0%)
不明	34(4.6%)	30(5.3%)	68(5.0%)

問９　不安や悩みについて、これまで誰か(どこか)に相談しましたか。
あてはまるものを１つ選んで〇をつけてください。

	女性	男性	全体
１．すでに相談した	119(35.5%)	53(24.2%)	176(30.3%)
２．誰にも(どこにも)相談していない	205(61.2%)	165(75.3%)	392(67.5%)
不明	11(3.3%)	1(0.5%)	13(2.2%)

問 10　誰(どこ)に、どのような内容を相談しましたか。

	女性	男性	全体
回答あり	113(95.0%)	50(94.3%)	166(94.3%)
不明	6(5.0%)	3(5.7%)	10(5.7%)

【問 10「誰に相談しましたか」※単語の出現数（全体の多い順）】

	女性	男性	全体
友人	45	8	54
家族	38	14	52
医師	4	4	8
同僚	6	2	8
夫	8	0	8
上司	4	3	7
親	6	1	7
子ども	6	0	6
知人	4	2	6
母	4	2	6
職場の人	3	2	5
心療内科	2	2	4
妻	1	3	4
市役所	3	0	3
銀行	1	2	3
ハローワーク	2	0	2
窓口	2	0	2
姉	2	0	2
職場の先輩	1	1	2
保健所	1	1	2
兄弟	1	1	2
息子	1	0	2
姉妹	1	0	1
親族	1	0	1
身内	1	0	1
親友	1	0	1

	女性	男性	全体
先輩	1	1	2
会社	1	0	2
発熱相談	1	0	1
介護職	1	0	1
sns	1	0	1
税理士	1	0	1
カウンセラー	1	0	1
個人	1	0	1
学校	1	0	1
職場	1	0	1
園	1	0	1
事務所	1	0	1
社会福祉協議会	0	1	1
精神科医	0	1	1
医療機関	0	1	1
病院	0	1	1
看護師	0	1	1
関係先	0	1	1
保育園	0	1	1
大学	0	1	1
役員	0	1	1
教授	0	1	1
親戚	0	1	1
父	0	1	1
同じ活動（運動）をしている人達	0	1	1
娘	0	0	1

【問 10「何を相談しましたか」※単語の出現数（全体の多い順）】

	女性	男性	全体
仕事	20	8	28
不安	19	1	20
コロナ	15	4	19
子ども	14	0	14
今後	9	4	13
感染	12	0	12
新型コロナワクチン	6	4	10
できない	7	2	9
家族	7	1	8
ストレス	7	0	7
県外	6	0	6
生活	6	0	6
感染対策	5	0	5
悩み	5	0	5
友人	5	0	5
接種	2	3	5
人間関係	4	0	4
対応	4	0	4
職場	4	0	4
体調	4	0	4
親	3	1	4
制限	2	2	4

	女性	男性	全体
健康	1	3	4
コミュニケーション	3	0	3
発散	3	0	3
授業	3	0	3
音	3	0	3
減る	3	0	3
行けない	3	0	3
行く	2	1	3
介護	1	2	3
活動	1	2	3
状況	1	2	3
コロナ禍	2	0	2
コロナ感染	2	0	2
対策	2	0	2
育児	2	0	2
保育園	2	0	2
子どもたち	2	0	2
習い事	2	0	2
収入	2	0	2
日々	2	0	2
利用	2	0	2
自由	2	0	2

	女性	男性	全体
行動	2	0	2
旅行	2	0	2
時期	2	0	2
不満	2	0	2
迷惑	2	0	2
帰省	2	0	2
結婚式	2	0	2
変換	2	0	2
仕方	2	0	2
気持ち	2	0	2
希薄	2	0	2
楽しみ	2	0	2
話し合う	2	0	2
とれない	2	0	2
とりにくい	2	0	2
離れる	2	0	2
会えない	2	0	2
会う	2	0	2
さみしい	2	0	2
怖い	2	0	2
家庭	1	1	2
マスク	1	1	2
交流	1	1	2
影響	1	1	2
人生	1	1	2
必要	1	1	2
方法	1	1	2
進める	1	1	2
連れる	1	1	2
増える	1	1	2
減少	0	2	2
日常生活	0	2	2
1日	0	2	2
副反応	0	2	2
継続	0	2	2
注意	0	2	2
結果	0	2	2
困る	0	2	2
職場の人	1	0	1
コロナ感染者	1	0	1
体調管理	1	0	1
通院	1	0	1
精神面	1	0	1
カウンセリング	1	0	1
疾患	1	0	1
ケアマネージャー	1	0	1
デイサービス	1	0	1
行事	1	0	1
かかわり	1	0	1
働きかけ	1	0	1
助成金	1	0	1
借り入れ	1	0	1
貸付	1	0	1

	女性	男性	全体
貼り紙	1	0	1
別居	1	0	1
世間話	1	0	1
在り方	1	0	1
チラシ	1	0	1
ポスト	1	0	1
投函	1	0	1
窮屈	1	0	1
人員	1	0	1
大変さ	1	0	1
交通機関	1	0	1
都度	1	0	1
行き来	1	0	1
生活費	1	0	1
買い物	1	0	1
同年代	1	0	1
長い間	1	0	1
アンテナ	1	0	1
他者	1	0	1
減り	1	0	1
作り方	1	0	1
具体的	1	0	1
アパート	1	0	1
自分自身	1	0	1
彼氏	1	0	1
基礎	1	0	1
延期	1	0	1
特有	1	0	1
個別	1	0	1
長さ	1	0	1
肌荒れ	1	0	1
活用	1	0	1
不調	1	0	1
生まれ	1	0	1
マンション	1	0	1
トラブル	1	0	1
規制	1	0	1
悪さ	1	0	1
モチベーション	1	0	1
生きがい	1	0	1
プライベート	1	0	1
アドバイス	1	0	1
バランス	1	0	1
メンタル	1	0	1
全体	1	0	1
調整	1	0	1
入院	1	0	1
ライフプラン	1	0	1
婚活	1	0	1
結婚	1	0	1
妊娠	1	0	1
出産	1	0	1
新婚旅行	1	0	1

	女性	男性	全体
夫	1	0	1
離婚	1	0	1
実家	1	0	1
年末年始	1	0	1
お盆	1	0	1
親戚	1	0	1
付き合い	1	0	1
変化	1	0	1
同棲	1	0	1
面談	1	0	1
入学式	1	0	1
実習	1	0	1
大学	1	0	1
大学１年	1	0	1
学校	1	0	1
先生	1	0	1
学校生活	1	0	1
テスト	1	0	1
休校	1	0	1
就職	1	0	1
同世代	1	0	1
子ども連れ	1	0	1
一時保育	1	0	1
協力	1	0	1
年齢	1	0	1
成長	1	0	1
計画	1	0	1
趣味	1	0	1
映像	1	0	1
展覧会	1	0	1
海外旅行	1	0	1
海外	1	0	1
外出	1	0	1
外遊び	1	0	1
検討	1	0	1
転職	1	0	1
その後	1	0	1
部分	1	0	1
最悪	1	0	1
タイミング	1	0	1
涙	1	0	1
薬	1	0	1
可能	1	0	1
電話	1	0	1
帰宅	1	0	1
心配	1	0	1
連絡	1	0	1
参加	1	0	1
一緒	1	0	1
心	1	0	1
まとも	1	0	1
いつ	1	0	1
大丈夫	1	0	1

	女性	男性	全体
めぐらせる	1	0	1
こみあげる	1	0	1
ひかえる	1	0	1
うごく	1	0	1
めぐり	1	0	1
保つ	1	0	1
収まる	1	0	1
暮らす	1	0	1
減らす	1	0	1
崩す	1	0	1
遊べない	1	0	1
狂う	1	0	1
出かける	1	0	1
たまる	1	0	1
助ける	1	0	1
伝える	1	0	1
過ごし方	1	0	1
住む	1	0	1
落ち着く	1	0	1
見つけ方	1	0	1
なくなる	1	0	1
受ける	1	0	1
続く	1	0	1
気を付ける	1	0	1
続ける	1	0	1
止まる	1	0	1
居る	1	0	1
生き辛さ	1	0	1
感じる	1	0	1
変わらない	1	0	1
わからず	1	0	1
挙げづらい	1	0	1
激しい	1	0	1
少ない	1	0	1
難しい	1	0	1
悪い	1	0	1
ほしい	1	0	1
しない	1	0	1
会話	0	1	1
関係	0	1	1
意見交換	0	1	1
注意点	0	1	1
営業活動	0	1	1
社内	0	1	1
取引先	0	1	1
業務	0	1	1
自営	0	1	1
就職活動	0	1	1
協議	0	1	1
ミーティング	0	1	1
方向性	0	1	1
方針	0	1	1
生き方	0	1	1

	女性	男性	全体
妻	0	1	1
報道	0	1	1
メディア	0	1	1
会計	0	1	1
手続き	0	1	1
お金	0	1	1
投資	0	1	1
管理	0	1	1
改善	0	1	1
人数	0	1	1
解決	0	1	1
不便	0	1	1
乗り物	0	1	1
遊び方	0	1	1
健康上	0	1	1
コロナ対応	0	1	1
感染症	0	1	1
治療	0	1	1
病気	0	1	1
症状	0	1	1

	女性	男性	全体
受診	0	1	1
病院	0	1	1
がん	0	1	1
前立腺	0	1	1
肥大	0	1	1
関連	0	1	1
動き	0	1	1
バカ	0	1	1
心底	0	1	1
つまらない	0	1	1
しんどさ	0	1	1
多い	0	1	1
受診	0	1	1
病院	0	1	1
がん	0	1	1
前立腺	0	1	1
肥大	0	1	1
関連	0	1	1
動き	0	1	1

問 11　今後、誰か(どこか)に相談したいですか。あてはまるものを１つ選んで〇をつけてください。

	女性	男性	全体
１．相談したい	32(9.9%)	17(7.8%)	50(8.8%)
２．相談したくない	53(16.4%)	46(21.1%)	105(18.5%)
３．わからない	191(59.0%)	132(60.6%)	339(59.7%)
不明	48(14.8%)	23(10.6%)	74(13.0%)

問 12　どのような内容を誰(どこ)に相談したいですか。

	女性	男性	全体
回答あり	30(93.8%)	16(94.1%)	47(94.0%)
不明	2(6.3%)	1(5.9%)	3(6.0%)

【問 12「誰に相談しましたか」※単語の出現数（全体の多い順)】

	女性	男性	全体
仕事	3	2	5
コロナ	4	0	4
今後のこと	3	0	3
不安	2	1	3
生活	3	0	3
変化	1	1	2
就活	1	1	2
体調	1	1	2
自粛期間	1	0	1
対応策	1	0	1
家庭生活	1	0	1
客観視	1	0	1
借り入れ	1	0	1
ライフプラン	1	0	1
精神障害者	1	0	1
助成金	1	0	1

	女性	男性	全体
促進	1	0	1
日常生活	1	0	1
体調管理	1	0	1
金銭	1	0	1
作り方	1	0	1
自分自身	1	0	1
感染	1	0	1
延期	1	0	1
活用	1	0	1
育児	1	0	1
マンション	1	0	1
身内	1	0	1
自己	1	0	1
挨拶	1	0	1
一般	1	0	1
協力金	1	0	1

	女性	男性	全体
関連	1	0	1
結婚式	1	0	1
日々	1	0	1
原因	1	0	1
今後	1	0	1
大学	1	0	1
理解	1	0	1
家族	1	0	1
結婚	1	0	1
情報	1	0	1
一人	1	0	1
音	1	0	1
勉強	1	0	1
交換	1	0	1
ストレス	1	0	1
相談	1	0	1
学校	1	0	1
楽しみ	1	0	1
考える	1	0	1
教わる	1	0	1
成り立たない	1	0	1
鳴る	1	0	1
関わり	1	0	1

	女性	男性	全体
関わり	1	0	1
行う	1	0	1
聞く	1	0	1
悪く	1	0	1
良い	1	0	1
減便	0	1	1
パニック障害	0	1	1
行事	0	1	1
乗り物	0	1	1
人生	0	1	1
様々	0	1	1
両親	0	1	1
介護	0	1	1
幼稚園	0	1	1
子ども	0	1	1
マスク	0	1	1
旅	0	1	1
内容	0	1	1
増えた	0	1	1
わからない	0	1	1
つまらない	0	1	1
苦しい	0	1	1

【問 12「何を相談しましたか」※単語の出現数（全体の多い順)】

	女性	男性	全体
友人	6	0	6
家族	5	1	6
職場の人	2	2	4
夫	3	0	3
上司	1	1	2
ハローワーク	1	1	2
心療内科	1	1	2
親	2	0	2
詳しい人	1	0	1
親しい人	1	0	1
知人	1	0	1
子ども	1	0	1
母	1	0	1
先輩	1	0	1

	女性	男性	全体
先生	1	0	1
税理士	1	0	1
専門家	1	0	1
建物の音の専門家	1	0	1
個人的なカウンセラー	1	0	1
銀行	1	0	1
身近な人	0	1	1
親友	0	1	1
相談できる公共機関	0	1	1
心と体の健康センター	0	1	1
市	0	1	1
病院	0	1	1
医療関係者	0	1	1
関係先	0	1	1

問 13　あなたの職業（勤務形態）は、次のうちのどれにあてはまりますか。（○は１つだけ）

	女性	男性	全体
１．正社員・正職員	182(24.8%)	269(47.6%)	464(34.3%)
２．非正社員・非正職員 （パート、派遣、契約社員、アルバイトなど）	216(29.4%)	60(10.6%)	290(21.4%)
３．経営者、会社・団体役員	9(1.2%)	21(3.7%)	31(2.3%)
４．自営業者（家族従業者や内職を含む）	57(7.8%)	48(8.5%)	109(8.1%)
５．学生	12(1.6%)	10(1.8%)	22(1.6%)
６．専業主婦・専業主夫	137(18.7%)	6(1.1%)	151(11.2%)
７．無職	82(11.2%)	121(21.4%)	211(15.6%)
８．その他（具体的に　　）	8(1.1%)	7(1.2%)	17(1.3%)
不明	31(4.2%)	23(4.1%)	58(4.3%)

【 問 13 で「１.正社員・正職員」「２．非正社員・非正職員（パート、派遣、契約社員、アルバイトなど)」と回答した方にお尋ねします。】

問 14　あなたは、現在の職場で昇進したいと思いますか。(「昇進」とは、現在より権限や責任が大きい仕事につくことをいい、非正社員の方が正社員に登用されることも含みます）最もあてはまるものを１つ選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．昇進したい	37(9.3%)	57(17.3%)	97(12.9%)
２．どちらかといえば昇進したい	84(21.1%)	94(28.6%)	185(24.5%)
３．どちらかといえば昇進したくない	126(31.7%)	73(22.2%)	208(27.6%)
４．昇進したくない	143(35.9%)	100(30.4%)	248(32.9%)
不明	8(2.0%)	5(1.5%)	16(2.1%)

【問 14 で「１．昇進したい」「２．どちらかといえば昇進したい」と回答した方にお尋ねします。】

問 15　あなたはどのような条件が整うと、昇進したいですか。
次の中からあてはまるものを全て選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．給与・報酬の額	116(95.9%)	125(82.8%)	249(88.3%)
２．勤務場所	30(24.8%)	34(22.5%)	66(23.4%)
３．職務の内容・範囲	48(39.7%)	68(45.0%)	122(43.3%)
４．労働時間（残業を含む）	50(41.3%)	37(24.5%)	91(32.3%)
５．休業・休暇（有給休暇、育児休業、介護休業等）の取りやすさ	49(40.5%)	35(23.2%)	87(30.9%)
６．昇進に必要な要件（例：勤続年数や経験など）の緩和	22(18.2%)	14(9.3%)	36(12.8%)
７．その他（具体的に　　）	0(0.0%)	8(5.3%)	8(2.8%)
８．特に希望する条件を考えているわけではない	5(4.1%)	5(3.3%)	11(3.9%)
不明	1(0.8%)	0(0.0%)	1(0.4%)

【問 14 で「３．どちらかといえば昇進したくない」「４．昇進したくない」と回答した方にお尋ねします。】

問 16　あなたが昇進したくないと思う理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．体力面、健康上の理由から	104(38.7%)	50(28.9%)	162(35.5%)
２．家庭の事情から（家庭的責任との両立ができない、など）	89(33.1%)	25(14.5%)	116(25.4%)
３．能力的に向いていないと思うから	71(26.4%)	49(28.3%)	123(27.0%)
４．勤務時間や仕事量が増えるから	109(40.5%)	61(35.3%)	173(37.9%)
５．職場での責任が重くなるから	108(40.1%)	64(37.0%)	174(38.2%)
６．現在の仕事の内容に満足しているから	78(29.0%)	40(23.1%)	122(26.8%)
７．(定年、その他により）退職を予定しているから	29(10.8%)	27(15.6%)	61(13.4%)
８．その他（具体的に　　）	24(8.9%)	17(9.8%)	41(9.0%)
９．特に理由はない	5(1.9%)	8(4.6%)	14(3.1%)
不明	3(1.1%)	2(1.2%)	5(1.1%)

問 17　あなたは、職場で女性の管理職が増えることは必要だと思いますか。
あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．そう思う	242(33.0%)	160(28.3%)	417(30.8%)
２．どちらかといえばそう思う	325(44.3%)	260(46.0%)	604(44.6%)
３．どちらかといえばそう思わない	78(10.6%)	76(13.5%)	164(12.1%)
４．そう思わない	25(3.4%)	29(5.1%)	59(4.4%)
不明	64(8.7%)	40(7.1%)	109(8.1%)

問 18　あなたは、職場で女性の管理職が増えるにはどのようなことが必要だと思いますか。
次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．女性自身が、必要な知識や経験などを持つ	399(54.4%)	284(50.3%)	707(52.3%)
２．女性自身が、リーダーになることを希望する	229(31.2%)	197(34.9%)	438(32.4%)
３．企業が、女性が管理職として活躍しやすい職場風土をつくる	483(65.8%)	334(59.1%)	846(62.5%)
４．企業が、長時間労働を是正する	218(29.7%)	118(20.9%)	347(25.6%)
５．企業が、広域異動しなくても管理職になることができる制度にする	211(28.7%)	126(22.3%)	348(25.7%)
６．行政が、保育・介護の公的サービスを整備する	384(52.3%)	235(41.6%)	642(47.5%)
７．配偶者やパートナーが、家事・育児・介護などを行う	364(49.6%)	205(36.3%)	587(43.4%)
８．その他（具体的に　　）	18(2.5%)	23(4.1%)	43(3.2%)
９．女性の管理職が増える必要はないと思う	14(1.9%)	22(3.9%)	37(2.7%)
不明	60(8.2%)	42(7.4%)	110(8.1%)

問 19　あなたは次の言葉についてどのくらい知っていますか。また、次のようなことを体験したり、あるいは身近で見聞きしたりしたことがありますか。①～③のそれぞれについて、あてはまるものを選んで○をつけてください。※各用語の意味・例は、用語集を参照。

①セクシュアル・ハラスメント
【言葉について】（○は１つ）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	189(25.7%)	163(28.8%)	364(26.9%)
２．だいたい知っている	464(63.2%)	340(60.2%)	832(61.5%)
３．聞いたことはある	65(8.9%)	51(9.0%)	128(9.5%)
４．聞いたことがない	6(0.8%)	5(0.9%)	12(0.9%)
不明	10(1.4%)	6(1.1%)	17(1.3%)

【経験について】（あてはまるもの全てに○）

	女性	男性	全体
１．自分が受けたことがある	156(21.3%)	27(4.8%)	189(14.0%)
２．身近な人が被害にあったことがある	99(13.5%)	68(12.0%)	175(12.9%)
３．自分がこの行為をしたことがある	2(0.3%)	16(2.8%)	18(1.3%)
４．その他（　　）	9(1.2%)	12(2.1%)	21(1.6%)
５．いずれの経験もない	475(64.7%)	429(75.9%)	940(69.5%)
不明	22(3.0%)	24(4.2%)	51(3.8%)

②マタニティ・ハラスメント
【言葉について】（○は１つ）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	164(22.3%)	122(21.6%)	298(22.0%)
２．だいたい知っている	393(53.5%)	281(49.7%)	694(51.3%)
３．聞いたことはある	142(19.3%)	122(21.6%)	278(20.5%)
４．聞いたことがない	26(3.5%)	31(5.5%)	63(4.7%)
不明	9(1.2%)	9(1.6%)	20(1.5%)

【経験について】（あてはまるもの全てに○）

	女性	男性	全体
１．自分が受けたことがある	24(3.3%)	0(0.0%)	27(2.0%)
２．身近な人が被害にあったことがある	53(7.2%)	25(4.4%)	80(5.9%)
３．自分がこの行為をしたことがある	1(0.1%)	0(0.0%)	1(0.1%)
４．その他（　　）	3(0.4%)	6(1.1%)	9(0.7%)
５．いずれの経験もない	624(85.0%)	497(88.0%)	1162(85.9%)
不明	30(4.1%)	38(6.7%)	76(5.6%)

③ストーカー行為

【言葉について】（○は１つ）

	女性	男性	全体
１．内容を含めて詳しく知っている	266(36.2%)	211(37.3%)	491(36.3%)
２．だいたい知っている	415(56.5%)	313(55.4%)	757(55.9%)
３．聞いたことはある	40(5.4%)	34(6.0%)	84(6.2%)
４．聞いたことがない	4(0.5%)	2(0.4%)	6(0.4%)
不明	9(1.2%)	5(0.9%)	15(1.1%)

【経験について】（あてはまるもの全てに○）

	女性	男性	全体
１．自分が受けたことがある	75(10.2%)	10(1.8%)	89(6.6%)
２．身近な人が被害にあったことがある	72(9.8%)	42(7.4%)	119(8.8%)
３．自分がこの行為をしたことがある	0(0.0%)	2(0.4%)	2(0.1%)
４．その他（　　）	5(0.7%)	7(1.2%)	13(1.0%)
５．いずれの経験もない	565(77.0%)	480(85.0%)	1087(80.3%)
不明	22(3.0%)	22(3.9%)	46(3.4%)

問 20　あなたは、現在、結婚していますか。あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。
なお、ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含みます。

	女性	男性	全体
１．結婚の経験はなく、交際の経験もない	55(7.5%)	39(6.9%)	97(7.2%)
２．結婚の経験はないが、交際相手はいる（いた）	95(12.9%)	69(12.2%)	168(12.4%)
３．既婚（現在、夫又は妻がいる）	435(59.3%)	399(70.6%)	870(64.3%)
４．離別（結婚していたが、離婚した）	81(11.0%)	27(4.8%)	111(8.2%)
５．死別（結婚していたが、死別した）	46(6.3%)	15(2.7%)	62(4.6%)
不明	22(3.0%)	16(2.8%)	45(3.3%)

問 21　あなたは、これまでに配偶者または交際相手から、なんらかの形でＤＶを受けたことがありますか。
あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。
※ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚の相手や別居中の配偶者も含みます。

	女性	男性	全体
１．現在受けている	8(1.2%)	2(0.4%)	10(0.8%)
２．現在は受けていないが、これまでに受けたことがある	87(13.2%)	27(5.3%)	121(10.0%)
３．受けたことはない	555(84.5%)	477(93.5%)	1069(88.3%)
不明	7(1.1%)	4(0.8%)	11(0.9%)

問 22　受けたことがあるＤＶは、どのようなものですか。相手が配偶者、交際相手それぞれの場合について、あてはまるもの全てに○をつけてください。※各選択肢の用語の意味・例は、用語集を参照。

【相手が配偶者の場合】

	女性	男性	全体
１．配偶者からの暴力はない	6(6.3%)	1(3.4%)	7(5.3%)
２．身体的暴行	33(34.7%)	7(24.1%)	45(34.4%)
３．精神的攻撃	46(48.4%)	17(58.6%)	66(50.4%)
４．経済的圧迫	24(25.3%)	9(31.0%)	36(27.5%)
５．性的強要	13(13.7%)	1(3.4%)	14(10.7%)
６．その他（具体的に　　）	9(9.5%)	1(3.4%)	10(7.6%)
不明	16(16.8%)	6(20.7%)	23(17.6%)

【相手が交際相手の場合】

	女性	男性	全体
１．交際相手からの暴力はない	2(2.1%)	1(3.4%)	4(3.1%)
２．身体的暴行	14(14.7%)	2(6.9%)	16(12.2%)
３．精神的攻撃	8(8.4%)	5(17.2%)	13(9.9%)
４．経済的圧迫	2(2.1%)	3(10.3%)	5(3.8%)
５．性的強要	6(6.3%)	0(0.0%)	6(4.6%)
６．その他（具体的に　　）	3(3.2%)	1(3.4%)	4(3.1%)
不明	73(76.8%)	22(75.9%)	101(77.1%)

【問 22 で、選択肢２～６に、１つでも〇をつけた方にお尋ねします。】

問 23　あなたはこれまでに、配偶者や交際相手から受けたそのような行為について、誰か(どこか)に打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号全てに〇をつけてください。

	女性	男性	全体
１．家族・親戚	53(58.2%)	8(29.6%)	62(50.0%)
２．友人・知人	49(53.8%)	7(25.9%)	59(47.6%)
３．職場（上司、同僚、部下、取引先など）	7(7.7%)	6(22.2%)	13(10.5%)
４．学校（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
５．警察	8(8.8%)	1(3.7%)	9(7.3%)
６．医療関係者（医師、看護師など）	5(5.5%)	1(3.7%)	6(4.8%)
７．国の相談機関 （民生委員・児童委員、法務局・地方法務局、人権擁護委員）	3(3.3%)	1(3.7%)	4(3.2%)
８．愛媛県 相談機関 (愛媛県男女共同参画センター、愛媛県福祉総合支援センター、配偶者暴力相談支援センター、えひめ性暴力被害者支援センター〔ひめここ〕)	3(3.3%)	0(0.0%)	3(2.4%)
９．松山市 相談機関 （市役所〔婦人・家庭児童相談など〕、松山市男女共同参画推進センター・コムズ）	6(6.6%)	0(0.0%)	7(5.6%)
10．民間 相談機関 （弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルター、ＮＰＯ法人など）	6(6.6%)	3(11.1%)	9(7.3%)
11．その他（具体的に　　）	1(1.1%)	0(0.0%)	2(1.6%)
12．誰（どこ）にも相談しなかった ➡ 問 24 へ	15(16.5%)	12(44.4%)	28(22.6%)
不明	2(2.2%)	1(3.7%)	3(2.4%)

【問 23 で、「12. 誰(どこ)にも相談しなかった」を選んだ方にお尋ねします。】
問 24　誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
２．相談してもむだだと思ったから	5(33.3%)	6(50.0%)	12(42.9%)
３．自分が受けている行為がＤＶだとは思わなかったから	4(26.7%)	2(16.7%)	6(21.4%)
４．相談するほどではなく、がまんできると思ったから	7(46.7%)	7(58.3%)	14(50.0%)
５．自分にも悪いところがあると思ったから	3(20.0%)	7(58.3%)	10(35.7%)
６．そのことについて思い出したくなかったから	3(20.0%)	1(8.3%)	4(14.3%)
７．仕返しが怖かったから （もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）	0(0.0%)	1(8.3%)	1(3.6%)
８．他の人に知られたら恥ずかしいと思ったから	3(20.0%)	5(41.7%)	8(28.6%)
９．相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	0(0.0%)	1(8.3%)	1(3.6%)
10．他人を巻き込みたくなかったから	4(26.7%)	4(33.3%)	8(28.6%)
11．他人に知られると、これまでどおりのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから	1(6.7%)	1(8.3%)	2(7.1%)
12．別れるつもりがなかったから	3(20.0%)	1(8.3%)	4(14.3%)
13．その他（具体的に　　）	1(6.7%)	1(8.3%)	2(7.1%)
不明	0(0.0%)	1(8.3%)	1(3.6%)

問 25　次にあげる分野で男性、女性、どちらが優遇されていると思いますか。①～⑦のそれぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。（①～⑦のそれぞれに、○は１つだけ）

①家庭の中で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	105(14.3%)	19(3.4%)	131(9.7%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	330(45.0%)	180(31.9%)	529(39.1%)
３．男女平等である	189(25.7%)	262(46.4%)	466(34.4%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	66(9.0%)	58(10.3%)	129(9.5%)
５．女性の方が非常に優遇されている	6(0.8%)	14(2.5%)	20(1.5%)
不明	38(5.2%)	32(5.7%)	78(5.8%)

②職場の中で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	126(17.2%)	43(7.6%)	176(13.0%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	342(46.6%)	253(44.8%)	611(45.2%)
３．男女平等である	169(23.0%)	173(30.6%)	358(26.5%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	43(5.9%)	51(9.0%)	98(7.2%)
５．女性の方が非常に優遇されている	3(0.4%)	11(1.9%)	14(1.0%)
不明	51(6.9%)	34(6.0%)	96(7.1%)

③学校教育の場で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	34(4.6%)	13(2.3%)	50(3.7%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	173(23.6%)	95(16.8%)	273(20.2%)
３．男女平等である	418(56.9%)	348(61.6%)	793(58.6%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	21(2.9%)	36(6.4%)	61(4.5%)
５．女性の方が非常に優遇されている	2(0.3%)	4(0.7%)	6(0.4%)
不明	86(11.7%)	69(12.2%)	170(12.6%)

④地域社会で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	86(11.7%)	30(5.3%)	121(8.9%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	370(50.4%)	229(40.5%)	621(45.9%)
３．男女平等である	205(27.9%)	224(39.6%)	440(32.5%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	26(3.5%)	43(7.6%)	75(5.5%)
５．女性の方が非常に優遇されている	0(0.0%)	8(1.4%)	8(0.6%)
不明	47(6.4%)	31(5.5%)	88(6.5%)

⑤法律や制度上で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	101(13.8%)	27(4.8%)	135(10.0%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	340(46.3%)	195(34.5%)	550(40.7%)
３．男女平等である	209(28.5%)	250(44.2%)	479(35.4%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	32(4.4%)	52(9.2%)	87(6.4%)
５．女性の方が非常に優遇されている	3(0.4%)	12(2.1%)	15(1.1%)
不明	49(6.7%)	29(5.1%)	87(6.4%)

⑥政治の場で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	259(35.3%)	136(24.1%)	412(30.5%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	356(48.5%)	252(44.6%)	624(46.1%)
３．男女平等である	75(10.2%)	129(22.8%)	216(16.0%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	1(0.1%)	14(2.5%)	15(1.1%)
５．女性の方が非常に優遇されている	0(0.0%)	3(0.5%)	3(0.2%)
不明	43(5.9%)	31(5.5%)	83(6.1%)

⑦社会全体で

	女性	男性	全体
１．男性の方が非常に優遇されている	130(17.7%)	57(10.1%)	199(14.7%)
２．どちらかといえば、男性の方が優遇されている	461(62.8%)	314(55.6%)	793(58.6%)
３．男女平等である	91(12.4%)	126(22.3%)	232(17.1%)
４．どちらかといえば、女性の方が優遇されている	15(2.0%)	36(6.4%)	52(3.8%)
５．女性の方が非常に優遇されている	1(0.1%)	6(1.1%)	7(0.5%)
不明	36(4.9%)	26(4.6%)	70(5.2%)

問 26　「男性だから」「女性だから」という、性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方（性別役割分担意識も含む）をしたり、他人からされたりしたことはありますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。※「性別に基づく無意識の思い込みや偏った考え方」の例は、用語集を参照。

	女性	男性	全体
１．したことがある	138(18.8%)	156(27.6%)	302(22.3%)
２．されたことがある	283(38.6%)	99(17.5%)	395(29.2%)
３．身近な人がしているのを見たことがある	125(17.0%)	95(16.8%)	230(17.0%)
４．身近な人がされているのを見たことがある	127(17.3%)	85(15.0%)	215(15.9%)
５．いずれもない	274(37.3%)	295(52.2%)	596(44.1%)
不明	30(4.1%)	9(1.6%)	44(3.3%)

問 27　これまでの人生で、性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりしたことはありますか。

	女性	男性	全体
１．ある	119(16.2%)	24(4.2%)	151(11.2%)
２．ない	532(72.5%)	495(87.6%)	1064(78.6%)
不明	83(11.3%)	46(8.1%)	138(10.2%)

問 28　安心して、子どもを生み育て、仕事と家事・育児の両立ができる社会になるために特に必要なことは何だと思いますか。①～③のそれぞれについて、あてはまるものを全て選んで○をつけてください。

①職場で

	女性	男性	全体
１．男女の賃金格差がなくなる	400(54.5%)	269(47.6%)	686(50.7%)
２．昇進・教育訓練などが男女平等になされる	305(41.6%)	226(40.0%)	553(40.9%)
３．柔軟な勤務制度が導入される	533(72.6%)	386(68.3%)	947(70.0%)
４．長時間労働が是正される	329(44.8%)	223(39.5%)	576(42.6%)
５．結婚・出産退職の慣行がなくなる	351(47.8%)	228(40.4%)	598(44.2%)
６．育児を理由とした不利益な取扱いがなくなる	450(61.3%)	301(53.3%)	778(57.5%)
７．男性が家事・育児を担うことに理解が進む	553(75.3%)	339(60.0%)	921(68.1%)
８．その他（具体的に　　）	23(3.1%)	19(3.4%)	44(3.3%)
９．あてはまるものはない	16(2.2%)	17(3.0%)	36(2.7%)
不明	17(2.3%)	12(2.1%)	35(2.6%)

②行政・地域社会での取り組みとして

	女性	男性	全体
１．保育所や児童クラブなど、子どもを預けられる環境を整備する	584(79.6%)	398(70.4%)	1013(74.9%)
２．児童手当・医療費補助など、経済的な支援を行う	391(53.3%)	315(55.8%)	732(54.1%)
３．地域ぐるみで育児を支援できる仕組みをつくる	293(39.9%)	212(37.5%)	521(38.5%)
４．家事や育児などの支援サービスを利用しやすくする	393(53.5%)	275(48.7%)	689(50.9%)
５．ひとり親家庭に対する支援を充実する	316(43.1%)	253(44.8%)	589(43.5%)
６．企業などに働きかけ、男性が育児休業をとりやすくする	408(55.6%)	274(48.5%)	705(52.1%)
７．相談機関を充実させる	212(28.9%)	138(24.4%)	362(26.8%)
８．その他（具体的に　　）	19(2.6%)	13(2.3%)	34(2.5%)
９．あてはまるものはない	20(2.7%)	20(3.5%)	43(3.2%)
不明	16(2.2%)	13(2.3%)	35(2.6%)

③家庭など、子育ての環境で

	女性	男性	全体
１．配偶者・パートナーが子育てに時間を取り、積極的に関わる	523(71.3%)	358(63.4%)	908(67.1%)
２．配偶者・パートナーと分担して家事を行う	533(72.6%)	368(65.1%)	930(68.7%)
３．自分や配偶者・パートナーの親が近くに住んでいる	236(32.2%)	182(32.2%)	430(31.8%)
４．悩みが生じた場合に、家族に相談できる	412(56.1%)	248(43.9%)	678(50.1%)
５．頼み事や、悩み事相談などができる友人や知人がいる	424(57.8%)	240(42.5%)	683(50.5%)
６．その他（具体的に　　）	7(1.0%)	18(3.2%)	27(2.0%)
７．あてはまるものはない	26(3.5%)	36(6.4%)	68(5.0%)
不明	22(3.0%)	18(3.2%)	45(3.3%)

問 29　あなたは、育児休業を今後取得しようと思いますか。あてはまるものを１つ選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．取得しようと思っている	106(14.4%)	58(10.3%)	171(12.6%)
２．取得したいが、できない	24(3.3%)	66(11.7%)	95(7.0%)
３．取得しようとは思わない	44(6.0%)	104(18.4%)	155(11.5%)
４．今後、取得の必要はない / すでに取得済みである	404(55.0%)	231(40.9%)	654(48.3%)
不明	156(21.3%)	106(18.8%)	278(20.5%)

問 30　「２．取得したいが、できない」または「３．取得しようとは思わない」のはなぜですか。
あてはまるものを全て選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．自分が休むと、仕事が回らなくなったり、周りに迷惑がかかったりすると思うから	19(27.9%)	82(48.2%)	104(41.6%)
２．昇給や昇格など今後のキャリア形成に悪影響がありそうだから	6(8.8%)	26(15.3%)	32(12.8%)
３．収入が下がると思うから	16(23.5%)	56(32.9%)	74(29.6%)
４．上司や同僚からの理解を得られないから	6(8.8%)	34(20.0%)	42(16.8%)
５．育児休業を取得しづらい雰囲気が職場全体にあるから	10(14.7%)	46(27.1%)	58(23.2%)
６．取得手続きが複雑だから	1(1.5%)	6(3.5%)	7(2.8%)
７．会社に育児休業の制度がないから	7(10.3%)	29(17.1%)	36(14.4%)
８．家族が反対するから	0(0.0%)	2(1.2%)	3(1.2%)
９．取得せずとも、家族の協力があったり、育児サービスを利用したりすることができるから	4(5.9%)	27(15.9%)	32(12.8%)
10.その他（具体的に　　）	30(44.1%)	27(15.9%)	62(24.8%)
不明	6(8.8%)	3(1.8%)	10(4.0%)

問 31　愛媛県や松山市、コムズには、相談内容に応じた窓口が設けられています。
現在、あなたが相談したい内容はありますか。あてはまるものを全て選んで○をつけてください。

	女性	男性	全体
１．心の問題	57(7.8%)	45(8.0%)	108(8.0%)
２．健康上の悩みや問題	66(9.0%)	62(11.0%)	133(9.8%)
３．仕事上の悩みや問題	57(7.8%)	45(8.0%)	105(7.8%)
４．経済上の悩みや問題	61(8.3%)	72(12.7%)	140(10.3%)
５．育児・子育て上の悩みや問題	42(5.7%)	19(3.4%)	63(4.7%)
６．介護上の悩みや問題	93(12.7%)	42(7.4%)	138(10.2%)
７．パートナー（夫婦・恋人）間の悩みや問題	18(2.5%)	14(2.5%)	34(2.5%)
８．それ以外の家族関係上の悩みや問題（具体的に　　）	21(2.9%)	13(2.3%)	34(2.5%)
９．その他（具体的に　　）	42(5.7%)	18(3.2%)	63(4.7%)
10. 相談窓口を利用したいと思わない	376(51.2%)	320(56.6%)	722(53.4%)
不明	76(10.4%)	58(10.3%)	146(10.8%)

問 32　相談の料金や時間帯、相談方法は、どのようなものであれば利用しやすいですか。
ご自分が利用しやすいと思うもの全てに○をつけ、（　　）に記入してください。

【料金】

	女性	男性	全体
１．無料	581(79.2%)	424(75.0%)	1038(76.7%)
２．有料	61(8.3%)	45(8.0%)	114(8.4%)
不明	117(15.9%)	106(18.8%)	239(17.7%)

【時間帯】

	女性	男性	全体
１．平　　日	447(60.9%)	296(52.4%)	771(57.0%)
２．土日祝日	394(53.7%)	323(57.2%)	741(54.8%)
不明	197(26.8%)	156(27.6%)	375(27.7%)

【相談方法】

	女性	男性	全体
１．対　面	353(48.1%)	314(55.6%)	692(51.1%)
２．電　話	355(48.4%)	240(42.5%)	617(45.6%)
３．メール または 手紙	205(27.9%)	125(22.1%)	340(25.1%)
４．ＳＮＳ（ＬＩＮＥ 、Ｔｗｉｔｔｅｒなど）	239(32.6%)	123(21.8%)	374(27.6%)
５．その他（具体的に	7(1.0%)	21(3.7%)	29(2.1%)
不明	123(16.8%)	107(18.9%)	246(18.2%)

問 33　あなたは、「松山市男女共同参画推進センター・コムズ」をご存知ですか。
また、利用したことがありますか。あてはまるものを１つ選んで〇をつけてください。

	女性	男性	全体
１．利用したことがある	120(16.3%)	50(8.8%)	174(12.9%)
２．利用したことはないが、知っている	273(37.2%)	165(29.2%)	441(32.6%)
３．知らなかった	333(45.4%)	344(60.9%)	693(51.2%)
不明	8(1.1%)	6(1.1%)	45(3.3%)

問 34　あなたはどのような講座やセミナーであれば参加したいと思いますか。
テーマ・内容・開講形式のそれぞれについて、あてはまる全てに〇をつけてください。

①テーマ

	女性	男性	全体
１．生き方	225(30.7%)	136(24.1%)	367(27.1%)
２．育児・子育て	126(17.2%)	59(10.4%)	188(13.9%)
３．親子関係	68(9.3%)	44(7.8%)	114(8.4%)
４．介護	217(29.6%)	136(24.1%)	358(26.5%)
５．健康増進	241(32.8%)	177(31.3%)	423(31.3%)
６．防災	161(21.9%)	134(23.7%)	300(22.2%)
７．ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）	19(2.6%)	18(3.2%)	37(2.7%)
８．その他（具体的に　　）	17(2.3%)	19(3.4%)	36(2.7%)
９．参加したいテーマはない	153(20.8%)	157(27.8%)	317(23.4%)
不明	28(3.8%)	23(4.1%)	84(6.2%)

②内　容

	女性	男性	全体
１．コミュニケーション力の向上に役立つこと	149(20.3%)	106(18.8%)	257(19.0%)
２．仲間をつくれること	123(16.8%)	93(16.5%)	220(16.3%)
３．自分の生活や家庭生活に役立つこと	404(55.0%)	227(40.2%)	641(47.4%)
４．仕事に役立つこと	110(15.0%)	87(15.4%)	200(14.8%)
５．地域で役立つこと	66(9.0%)	92(16.3%)	161(11.9%)
６．からだを動かすこと	189(25.7%)	105(18.6%)	297(22.0%)
７．子どもと参加できること	96(13.1%)	54(9.6%)	152(11.2%)
８．パートナーと参加できること	65(8.9%)	75(13.3%)	141(10.4%)
９．映画などの鑑賞	100(13.6%)	52(9.2%)	152(11.2%)
10．ＩＣＴ、インターネット、オンラインツールの使い方	88(12.6%)	54(9.6%)	143(10.6%)
11．その他（具体的に　　）	1(0.1%)	8(1.4%)	9(0.7%)
12．参加したいテーマはない	114(15.5%)	125(22.1%)	244(18.0%)
不明	32(4.4%)	27(4.8%)	93(6.9%)

③講座形式

	女性	男性	全体
１．対　面　形　式 （松山市男女共同参画推進センター・コムズで開催）	319(43.5%)	245(43.4%)	569(42.1%)
２．オンライン講座形式 （自宅や職場等、好きな場所で参加できる）	241(32.8%)	180(31.9%)	428(31.6%)
３．出 張 講 座 形 式 （希望する場所に、コムズが講師を派遣し、開催）	150(20.4%)	76(13.5%)	229(16.9%)
４．その他（具体的に　　）	4(0.5%)	7(1.2%)	11(0.8%)
５．参加したい講座形式はない	138(18.8%)	123(21.8%)	270(20.0%)
不明	55(7.5%)	38(6.7%)	125(9.2%)

最後に、回答を統計的に分析するために、失礼ですが、あなたご自身のことについてお伺いします。
あてはまるものを選んで○をつけてください。

問 35　あなたの性別は

１．女性	734(54.2%)
２．男性	565(41.8%)
３．自由に記述	0(0.0%)
４．答えたくない	20(1.5%)
不明	34(2.5%)

問 36　あなたの年齢は

	女性	男性	自由に記述 （　　）	答え たくない	不明	全体
１．20 歳代	89(12.1%)	44(7.8%)	0(0.0%)	3(15.0%)	0(0.0%)	136(10.1%)
２．30 歳代	110(15.0%)	80(14.2%)	0(0.0%)	6(30.0%)	0(0.0%)	196(14.5%)
３．40 歳代	123(16.8%)	98(17.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(2.9%)	222(16.4%)
４．50 歳代	132(18.0%)	84(14.9%)	0(0.0%)	4(20.0%)	0(0.0%)	220(16.3%)
５．60 歳代	156(21.3%)	137(24.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	293(21.7%)
６．70 歳以上	123(16.8%)	119(21.1%)	0(0.0%)	5(25.0%)	1(2.9%)	248(18.3%)
不明	1(0.1%)	3(0.5%)	0(0.0%)	2(10.0%)	32(94.1%)	38(2.8%)

問 37　あなたの世帯は

	女性	男性	全体
１．一人世帯	157(21.4%)	91(16.1%)	251(18.6%)
２．一世代世帯 （夫婦だけ、または、あなたとパートナーだけ）	206(28.1%)	201(35.6%)	412(30.5%)
３．二世代世帯（親と子）	320(43.6%)	246(43.5%)	579(42.8%)
４．三世代世帯（親と子と孫）	44(6.0%)	22(3.9%)	66(4.9%)
５．その他の世帯（具体的に　　）	7(1.0%)	3(0.5%)	10(0.7%)
不明	0(0.0%)	2(0.4%)	35(2.6%)

問 38　あなたには、子どもがいますか。（○はいくつでも）

	女性	男性	全体
１．子どもはいない	232(31.6%)	180(31.9%)	420(31.0%)
２．就学前の子どもがいる	68(9.3%)	65(11.5%)	135(10.0%)
３．小学生の子どもがいる	80(10.9%)	62(11.0%)	145(10.7%)
４．中学生の子どもがいる	44(6.0%)	41(7.3%)	86(6.4%)
５．高校生以上の子どもがいる	368(50.1%)	259(45.8%)	635(46.9%)
不明	17(2.3%)	15(2.7%)	66(4.9%)

【自由記述】
このアンケート及び男女共同参画に関してのご意見、ご感想があれば、ご自由にお書きください。

社会全体の変化と現状

◎男性優位の社会

- まだまだ圧倒的に男性優位の社会です。女性が挑戦する前にあきらめなければいけないことが多く、生きやすい社会かどうか疑問です。ぜひ、現実の問題点がこの調査で明らかになり、改善されますことを祈っています。【40 歳代女性】

- ニュースとかで見聞きするテーマですが、いざ自分に置き換えると男女の平等感が日本社会ではまだまだない中で難しい問題だと思います。でも今後のことを考えると早く改善する必要があります。自分も少しでも知識を広げていきたいと思います。【40 歳代男性】

◎諦め

- あきらかに理不尽なハラスメントや、ＤＶは論外だけれど、男女が共同で参画意識を持つのは難しいと思う。ウエディングケーキ入刀くらいが関の山。【50 歳代女性】

◎子育てと仕事の両立

- 私は自分の親が健康で近所に住んでいるため、産休・育休を取得し、会社を辞めることなく続けることができました。10 年近く前のことですが、地域も政治もまだまだ変わっていないと思います。自分の親のフォローがあって成り立つ女性の社会進出が現状では？【40 歳代女性】

◎ハラスメント

- 最近は、セクハラ、マタハラ、パワハラなど「議論される」「声があげられる」ようになったことだけでも、時代が進んで、女性としては、良かったと思います。これらのハラスメントは、犯罪の入口だと思います。個人が、自分のまわりの人たちを、大事に思う、いたわるという態度を示し、若い世代に伝えていかなければいけないと思います。【60 歳代女性】

◎女性活躍

- 私の若い時代とは違って女性もいろいろな分野で活躍されていることはとても良い事だと思います。私事ですが県外にいる息子たち家族を見ていても夫婦共に協力し合っている姿を見るにつけ、こういう普通の事ができると言う事がとても大切だと常日頃感じております。【70 歳代女性】

◎格差

- 自分が社会人としてスタートしたときには男女平等、男女共同参画などという事はほとんどなかったが、この 30 年くらいでハラスメント、性的マイノリティ、SGD s など世の中の考え方も少しずつ変わってきているように思えるが、このコロナ禍により差別や分断など格差も大きくなってきているように感じる。【50 歳代女性】

◎法律や制度

- 制度はできても利用が難しいのは、人々の意識が変わっていないからではないかと思う。それと企業などの雇用者側に余裕がない（経済的な）から？イクメンプロジェクトで少しでも変化がある事をのぞんでいます。【50 歳代女性】

- 男女共同参画に関して、働いている会社によって状況が異なると思います。本当の意味で平等にするのであればしっかり法律を作り行政がきちんと管理するシステムができれば良いのかなと思います。今回この様なアンケートを頂き、初めてこういったものが実施されていると知った次第ですが、もっと盛り上げていけば、男女平等に向けていきいきと暮らす社会にできると思います。【40 歳代男性】

◎男性の変化を求める声

- 男性の方の考え方が変わらない限り男女平等は難しいと思う。【40 歳代女性】

- 男性の考え方が古いとなかなか変化ない。男女平等に家事、育児、仕事がやれるようになれば、男女差もなくなる。【60 歳代男性】

◎女性の意識を求める声

- 女性が本当にやりたいのであれば土壌を整える事は必要であると考えます。【40 歳代男性】

- 女性の自覚が必要と思います。【70 歳代女性】

◎今後への期待

- 男女の平等はこれから求められる事だと思うから、自然と平等になれる社会になってほしい。【20 歳代男性】

- 男性、女性がお互いを認めあいながら暮らしていける世の中になって欲しい【60 歳代女性】

仕　事

◎職場環境

- 今は働き方改革が進み休暇が取得しやすくなっています。これからも子どもたちが成長するにつれて自分がされてきた言われのない非難を言う人が減り働きやすい社会になりますように。【40 歳代女性】

- 男女比が大きい職場では、なかなか平等は難しいと思う。【40 歳代男性】

- 私の職場では、定期的なハラスメント講習の実施、男性育児休業取得の推進を行っており、女性役員も活躍されています。男女共同参画の実現に向けては企業の社会的責任（ＣＳＲ）によるところが大きいと思う。【40 歳代男性】

◎結婚・出産退職の慣行

- 私の時代は結婚すれば退職するのが当たり前でしたが、今は結婚後も働ける職場が多くなっているので、男女なく働けていいと思います。【70 歳代女性】

◎子育てとの両立

- 子どもの熱などで休みやすい環境である職場が増えれば正社員で働きやすい。【30 歳代女性】

◎昇進

- 企業も男女平等であると表現しているが、女性の役職率は全体的に低いと思います。女性が社会に出て働く人は増えているが、まだまだキャリアに対する考えは受け入れてもらえない所も多いと思います。【30 歳代女性】

◎女性のキャリアと出産

- 出産は女性にしかできない事、喜びの反面、諦めることも多い。有能な方は、キャリアを失いたくない、仕事の方を選び、子どもを産まないことを選んだ方もいる。（パートナーと相談して）もったいないけれど、男女平等なら仕事を選ぶことも価値のある事、昭和生まれにとっては男は仕事、女は家庭をインプットされ、今に至り、子どもにも求めているけれど、自分たちが出来なかった新しい道筋の通った考え方で、若者たちに頑張ってほしいと思う。【60 歳代女性】

地　域

- 昔と比べて先頃は男女の差はなくなっている　男性も女性も互いにそう思われていると思います。女性の方もしっかりとした意見や行動力も十分持ち合わせており、地域行事に女性も男性もない。【70 歳代男性】

家　庭

◎家庭の中の男女平等

- 子育て時は、朝６時前～夜 10 時頃まで本当に自分の時間がない生活でした。パートももちろんある程度の協力はありますが、家事は女性がするもの、男性は、その手伝いの意識がある以上「女性が座ってゆっくり」「夫がお皿洗い」は実際は無理。【50 歳代女性】

子育て

◎情報

- 松山市で出産、子育てし生活しています。思い出されるのは、子育て中にいろいろ自分から動いて情報を集められず（SNS も少なかった）苦労した事です。子どもたちが近い将来、親になる時もっとすごしやすくサポートを利用しやすい町になってほしいと期待します。【50 歳代女性】

◎保育園

- 入園希望の保育園に人数オーバーなどの理由から入れませんでした。今後保育士さんの待遇の改善をしていただき、全ての保育園で保育士さんが安心して保育できるよう、そして保育が必要な子どもが希望する園に入園できるようサポートしてもらえる環境になれば良いなと思いました。そうすれば私を含めた 20～30 代女性が安心して社会で働くことができるようになると思います。【20 歳代女性】

教　育

◎学校教育

- 「この社会には性差があります」と小中高の授業で教えられ子どもの頃実体験のないまま大人になりました。この教え方が男女の性差を潜在的に植えつけ実際の差別を生んでしまっているように感じます（寝た子を起こすな論のように）。教育に改善があれば差別をしたりそのような行為を軽視する大人と社会は存在しないのでは？【20 歳代女性】

◎幼少期からの教育

- 小さい頃からの教育が大切であると考える。差別は絶対にダメであるが、区別は大事、そういった事の様々な考え方への教育も同時に行っていけたら理解も増えてくるのではないだろうか【40 歳代男性】

子どもの有無

- 子育て世帯の支援も重要だが、子どものいない世帯が不平等と不公平を感じることのないよう、配慮してもらいたい。【30 歳代女性】

広　報

◎松山で活動している人の情報

- 男女共同参画っていまいち身近に感じないというか、ピンとくるものがありませんでしたが、SDGs とか LGBTQ など最近テレビでもよく見かけるようになり、私も意識して見るようにしています。具体的な活動をされている方が、松山にこういう人がいるよ、というのをもっと知る機会があればいいな、と思います。自分も参加できるものがあれば興味も湧くかと思います。【40 歳代女性】

◎(公財)松山市男女共同参画推進財団／松山市男女共同参画推進センター・コムズについて

- 男女共同参画推進財団の事業についてあまり知る機会がありませんでした。もっと広報活動を積極的にされれば市民の理解を得て活動への参加や協力が得やすいと思いました【70 歳代女性】

◎「男女共同参画」という言葉について

- 男女共同参画という用語だけが走りすぎている様に感じる。もっと内容を深く、わかりやすく幅広く進めなければならないのではと強く思います。【70 歳代男性】

相談機関

◎各種相談窓口

- このアンケートを通じて松山市が各種相談窓口があるのを知り、今後必要な時は利用させていただこうと思いました。今回、用語集とかも入っており、勉強不足の自分はとても参考になりました。ありがとうございます。【年代・性別不明】

◎ＤＶ相談

- ＤＶなど警察以外の所に相談できることを知りました。もっと広く伝えたらよいと思います【60 歳代女性】

各種支援

◎非正規労働者の支援

- 契約社員なのでもっと契約や非正規の人も長年働いていても正社員になれない人がほとんどなので積極的に給料や正社員になれたりするよう優遇できるようにしてほしい。【30 歳代男性】

◎若者の支援

- 働きたくても働けない、どうやって一歩をふみだせばよいかわからない若者が労働力になってくれたら、社会がうるおうのではと思います。そういう若者を支援する場所があればよいと思います。また、ヤングケアラーと呼ばれる子どもたちも少なくなるように地域で考えるシステムを作ってほしいと思います。【50 歳代女性】

◎ひとり親の支援

- 周囲の知人を見ると、中年期以降ひとり親家庭や別居状態の女性が複数います。特に女性がひとり親になると経済的に苦しいし、児扶手当があるせいかある程度年齢がいってから、子どもが 18 才以上になると仕事がみつかりにくく大変そうです。参加したいと思う人がいるかわからないですが、定期的にひとり親家庭のマネープラン／職業のような講座があるといいなと思います。【50 歳代女性】

◎障害者支援

- 障害者の休日の預かりがあれば活動の幅も広がると思います。【50 歳代女性】

アンケートについて

◎結果の公表と活用

- 少しでもアンケート結果が世の中に活用されると良いな…と思います。【20 歳代女性】

- どのようにこのアンケートが生かされるかがよく見えないので、できればメディアや議会などで取り上げてもらいより良い社会の構築に役立当ててほしいです。【40 歳代男性】

当アンケートの結果は、当冊子、ダイジェスト版、松山市男女共同参画推進センター・コムズのホームページで公表しており、当アンケート結果は、『第４次 松山市男女共同参画基本計画』策定時にも参考資料として活用されています。

その他、アンケートの回答方法や内容について、「web での回答ができると楽だと思います。【30 歳代女性】」をはじめ、様々なご意見をいただいた。次回実施の際には、今回頂いたご意見を踏まえ、アンケートを作成してまいります。

◎アンケートに回答して

- 初めてこのようなアンケートに参加しましたが、良いと思います。自分の過去、現在、今後の心配など不安をこうして文で伝えて耳を傾けて頂けると少しでも変わるのではないでしょうか【20 歳代女性】

- このようなアンケートがあると、家庭で話し合うきっかけになるので、ありがたかった。なにげなく過ごしてしまっていたので、意識して、考えていきたいと思った。【60 歳代男性】

【自由記述】
男女共同参画社会の実現に向けて、何か実践されていることがあれば、ご自由にお書きください。

情報収集・学習

- 義務教育程度の保健体育を振り返ったり、フェミニズムや女性解放の歴史、ジェンダーバイアスについて自分なりに学んでいる。【30 歳代男性】

家　庭

- 夫が休みの日には家事を手伝ってもらうよう家事分担を徹底している【20 歳代女性】
- 実生活に於いて、パートナーとの間でお互いに出来る事柄を増やし、気付いた時、出来る時に積極的に家事を負担する。【60 歳代男性】

子育て

- 子どもと接する時に“男の子だから”“女の子だから”という性別の決めつけはしないように気を付けています。【30 歳代女性】

地　域

- 地域活動の場で、性別にかかわらず、自分の考えを述べることができるようにしている。【60 歳代女性】

個人の尊重

- 個人の事情・人格を尊重する。【30 歳代男性】
- 固定概念を持ち続けないように（残りの人生）色々な人と接して素直に意見を聞きたいと思う。【60 歳代女性】

仕　事

- 会社では女性の立場の向上を進言しています。（特に地位面）【40 歳代男性】
- 当社では産休や育休には協力し、子どもの病気や参観日などは休みやすいよう相談しあうことができる社内のムードを大切にしている。男性の多い職場ですが、みな協力的であると思う。【40 歳代女性】
- 昔よりも「男だから」「女だから」という考えはなくなってきました。現在職場でチームリーダー的役割をしていますが、女性の次期リーダー育成を進めています。【30 歳代女性】

自分の周りで

- 知人の会話の中で、ジェンダー差別を感じることがあればそれとなく指摘するようにしています。身近なところからの意識改革だと思っています。【50 歳代女性】

難しさ

- 男女共同参画の社会実現に向けて、何かできることがあれば良いなという気持ちはありますが、現状は個人的なことで精一杯な気がしています。【40 歳代女性】
- 男性の労働時間が長すぎる。男性も家のことに従事する時間が必要。現状では仕事時間を短縮しないかぎり難しい。会社や社会環境が変わらない限り不可欠である。【70 歳代男性】

３　参考資料（自由記述から抜粋）

問 27「これまでの人生で、性差による制約を受けたり、生きづらさを感じたりしたことはありますか。」における回答（自由記述から抜粋）

(1) p.31 図表 34（女性）

1) 仕事関係

- アルバイトの仕事で子どもを産むな、子宮を取れなどと言われた事があります。【20 歳代女性】
- 愛媛県行政で働いている際、男性上司が女性上司に「女性が偉そうに言うな」と言っていた。男尊女卑があり、生きづらさを感じました。【20 歳代女性】
- 職場で仕事を続けるよりも早く結婚した方がよいと上司から言われた。【20 歳代女性】
- 以前働いていた職場で男性社員の方が店長候補として経験させてもらえる仕事や集まりがあり勤続年数ではなく男女での差別があったように感じた。【20 歳代女性】
- 転職の際、面接で必ず結婚について質問を受ける。【30 歳代女性】
- 女だから結婚して仕事辞めるんだろう、妊娠して休職するんだろうと決めつけられ職務上の不利益を受けた。【30 歳代女性】
- 職場でのお茶出し、食事の準備【30 歳代女性　他】
- 給料が低い、役職をもらえない、飲み会の場で男性上司の隣に座らされる。【30 歳代女性】
- 医師ですが、妊娠・出産するなと上司に言われたり、女性は〇〇科は無理と言われる事が多い。【40 歳代女性】
- 事情により正社員をやめ、育児・介護しながら改めて正社員に応募したが「保育園が決まらないと雇えない」「残業の時、子どもは誰が見るのか」と面接で言われた。なかなか正規で職場を見つけることができなかった。再就職の相談をする場でも、仕事の相談をしたら（当時２歳の子を連れて）パートの仕事ばかり紹介され、「お子さんが幼稚園に入ってからですよね」とさらに聞かれ驚いたと同時に、相談しても仕方ないと思った。どうして男性と同じような仕事に母親は就くことをすすめられないのか。就業と保育・託児サービスをあわせたアドバイスは何もない。【40 歳代女性】
- 松山市に転居してきてから高学歴（と言われる）女性が能力を生かしてフルタイムで働ける仕事がないことに驚いた。【50 歳代女性】
- 結婚する予定があると伝えると、採用を取りやめられたことがある。【50 歳代女性】

2) 家庭

- 女の子はどうせ結婚したら働かなくなるんだから、そんなことにお金は使えないのよ、と入学金を払ってもらえず、進学を断念したことがある。【30 歳代女性】
- 女性だから家事、育児はしてあたりまえ、子どもが体調を崩したら母親が休む、という考え方。【30 歳代女性】
- 共働きでも、女性が家事・育児をメインでするのが当然という風潮。【30 歳代女性】
- 子育てに関する事は手続等を含め母親がするものだと言い、子どもの体調不良の時なども仕事を休む、看病など全て母親。【40 歳代女性】
- 父親が女性蔑視の人で、女は勉強できなくてもいいから、家事ができるようにしとけ、などという教育方針だった。なので大学も地元のしかだめだったし、浪人とかは絶対 NG。【40 歳代女性】
- 結婚後にいい嫁になる様にと、家事がおろそかになるとして働きに出る事を否定された。【50 歳代女性】
- 義母、義父から、男性には意見を言うことは許されないと教えられた。【50 歳代女性】
- 結婚の際に姓を変更したくないと言えなかった。変更した姓になじんでいるが、今でも理不尽さを感じる。【50 歳代女性】

- 大学進学する際、「女は結婚すると離職するのだから、進学する必要はない」と言われた。【60 歳代女性】
- 結婚当初より専業主婦なので、無収入である事から発言権が全くなく、夫から服従する事を強要されていた。【60 歳代女性】
- 専業主婦だったので、常に夫から言葉では表せないくらい辛い経験をしました。【70 歳代女性】

3) その他

- ＰＴＡ活動もどうして妻（母）だけが参加するのが当然なのか？【30 歳代女性】
- もう十年ほど前のことだがＰＴＡ活動に参加している時に公的な立場の人から「母親が外で働く必要はない」と言われたり町内会の手伝いを母親がするのは当然といった雰囲気が全体的に感じられたことにもおどろいた。【50 歳代女性】
- 地域の寄り合いの場で発言をすると、年配の女性から「女だてらに…」と言われた。学校の役員会で今までと違う内容の提案をすると、送別会の席で男性の教頭から、男性と決まっている会長の指示に従うように、お酒をついで回るように言われた。【50 歳代女性】
- 妊娠中に外交の仕事をしているとき、「そんなに大きなお腹をしてまで働かなくてはいけないの？」と言われた。それも、女性の方からの言葉でした。【70 歳代女性】

(2) p.32 図表 35 （女性）

1) 女のくせに

- 仕事場で 60 代男性のログセが女のくせに！！でいちいち、ハラがたって仕方なかった。女をひとくくりにして、女性を下に見て不満を口に出してくる。毎回気分が悪かった。【50 歳代女性】
- 意見を言うと「女のくせにえらそうに…」と言われ、言いたいことも言わせてもらえなかった。【50 歳代女性】
- 女のくせにできないのか！といわれた。【60 歳代女性】

2) 育児休業

- 育児休業を取得した女性に対し職場の人が「せっかくあんなに良いポストを与えられたのに無駄にした」等と言っているのを聞いて強い憤りを感じた。バリバリ仕事をしたいと思っていた時期に「女性は家庭を守っていればよい」と面と向かって言われ落胆した。【30 歳代女性】
- 育児休業明け復帰直後、フルタイムで働いていた時、男性上司に「そんなに頑張らなくてよい」と言われショックだった。【40 歳代女性】
- 学校を卒業し就職した会社で結婚し、妊娠し退職したけれど、産前休業、育児休業の前例がなく辞めるしかなかった。【60 歳代女性】

3) 決めつける

- 結婚をしろと言われ続ける。女性一人で生きていけないと決めつけられる。【30 歳代女性】
- 女性だから転勤したくないんだろうと勝手に決めつけられ昇進がない。【30 歳代女性】
- 女性だから結婚して、仕事辞めるんだろう、妊娠して休職するんだろうと決めつけられ職務上の不利益を受けた。【30 歳代女性】
- 私の年齢では結婚退職は当たり前だった。夫は、家庭のことは一切しない女性がするものと決めつけた言動をする。【60 歳代女性】

- 親の介護を娘だから当然しなくてはいけないと、決めつけられた。【70 歳代女性】

(3) p.32 図表 36 （男性）

1) 仕事関係

- 力仕事は男がやらなければならない。同等であれば、力があるかないかは関係なく、仕事は仕事である。また危険な仕事も同じである。【40 歳代男性】
- 同じ立場で仕事をしていても、同じミスをしても女性の方が処罰があまい。【40 歳代男性】
- 男性だから遠方に仕事に行かされた。【40 歳代男性】

2) 家庭

- 長男だから家を守れと県外に出してくれない傾向があった。【30 歳代男性】
- 息子に「男の子だから泣いてはだめ」「男の子だから女の子に優しくしないとだめ」等の言葉を言っています。【40 歳代男性】

3) その他

- 男らしさという考えがしんどい時がある。【40 歳代男性】
- トイレ　急を要していても男性が女性用に入れない。女性が男性用に入ってもことが大きくならないが、逆だと大変なことになる。【40 歳代男性】
- 女性しか入れない飲食店がある。男性のみのグループでは入れないお店がある。【50 歳代男性】
- 私がたどった道は常に男性が優位な立場にあった。【60 歳代男性】

(4) p.33 図表 37 （男性）

1) ＤＶ

- ＤＶ支援で女性を優先されて、男性は放っておかれた。【50 歳代男性】

2) レディースデー

- レディースデーはあるが、男性にはない。【40 歳代男性】
- 大したことではないが、「女性は無料」や「レディースデー」など、何らかの差はある。【30 歳代男性】

3) 育児

- 育児休業の取りにくさ。【30 歳代男性】

４　参考文献

p.5 他

内閣府「令和元年度　世論調査」『男女共同参画社会に関する世論調査』

https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/index.html

（公財）松山市男女共同参画推進財団・松山市

「男女共同参画に関する市民意識調査報告書～2015（平成 27）年調査～」

https://www.coms.or.jp/katudou/ayumi/pdf/H28tyousa_houkokusyo.pdf

p.44

（公財）松山市男女共同参画推進財団「中学生の男女共同参画に関する意識調査」

https://www.coms.or.jp/katudou/ayumi/pdf/survey_middle.pdf

p.45

内閣府「内閣府年齢階級別非正規雇用労働者の割合の推移」『男女共同参画白書（令和３年度版）』

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-02-07.html

p.66、69、70

総務省統計局「令和３年社会生活基本調査結果」

https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/kekka.html

p.76

（公財）松山市男女共同参画推進財団・松山市

「男女共同参画に関する市民意識調査報告書～2007（平成 19）年調査～」

https://www.coms.or.jp/katudou/ayumi/pdf/H20tyousa_houkokusyo.pdf

p.84

厚生労働省「令和３年度雇用均等基本調査」

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/71-r03.html

p.102

内閣府男女共同参画局「【公表資料】配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数等（令和２年度分）」

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/data/pdf/2020soudan.pdf

男女共同参画に関する市民意識調査報告書
～2022（令和4）年調査～

編集・発行　（公財)松山市男女共同参画推進財団
〒790-0003　松山市三番町6丁目 4-20
TEL（089）943-5777

発　行　年　令和5年3月